

敦賀市男女共同参画に関する

アンケート調査報告書

令和元年度実施

敦 賀 市

目 次

I	アンケート調査結果の概要	1
1.	調査概要	1
(1)	調査の目的	1
(2)	調査対象および調査方法	1
(3)	回収の結果	1
(4)	本報告書の読み方	1
2.	調査結果の考察	2
(1)	「男は仕事、女は家庭」という考え方	2
(2)	男女の立場	2
(3)	出産・育児等の環境	2
(4)	家庭生活での夫婦の分担	2
(5)	女性の仕事	3
(6)	男女間の暴力的行為	4
(7)	介護休業制度の実施状況	4
(8)	男女共同参画社会の推進	4
II	市民調査の結果	5
1.	あなた自身のこと	5
(1)	性別	5
(2)	年代	6
(3)	職業	7
(4)	世帯構成	8
(5)	結婚歴	9
(6)	夫婦の就労状況	10
2.	家庭と仕事の両立に関する考え	11
◆	家庭生活について	11
(1)	夫婦の役割分担（実情）	11
(2)	夫婦の理想的な役割分担	22
(3)	家事や育児をすることについて	35
(4)	家事や育児の悩みについて	36
◆	職業・仕事について	37
(1)	職業・仕事	37
(2)	働きやすい職場	38
(3)	女性の仕事・職場	40
(4)	女性の職業	43
(5)	女性の働き方	44
◆	出産・子育てについて	47
(1)	出産・子育て	47
3.	人権と健康に関する考え	49
◆	人権と健康について	49
(1)	暴力的行為	49
(2)	被害を受けた場合の対応	56
(3)	暴力について	59
(4)	男女間の暴力等の防止で市が取り組むべきこと	75
4.	男女共同参画社会について	77
(1)	男女共同参画社会の関連用語の認知	77
(2)	LGBTへの対応	87
(3)	男女の役割分担	88
(4)	女性意見の反映度合	89
(5)	男女の立場	90

(6) 男女の立場を同程度にするために重要なこと	99
(7) 男女共同参画社会の推進	100
(8) 男女共同参画に必要なこと	101
(9) 男女共同参画社会をめざすために、市が対応すべきこと	103
5. 自由意見	105
III 事業所調査の結果	112
1. 事業所の概要等	112
(1) 業種	112
(2) 従業員規模	112
2. 女性の登用	113
(1) 女性従業員の割合	113
(2) 女性管理職の割合	114
(3) 従業員が活躍するための取り組み	116
(4) 女性従業員の働き方	119
3. 休業制度など	121
◆育児休業と育児支援の取り組みについて	121
(1) 子育てを応援する取り組み	121
(2) 育児休業制度の取得状況	122
◆介護休業と介護支援の取り組みについて	123
(1) 介護支援の取り組み	123
(2) 介護休業制度の取得状況	124
4. 職場環境	125
(1) ワーク・ライフ・バランス	125
(2) 男性従業員の不測事情における早退時の捉え方	126
(3) 一般事業主行動計画の策定	126
5. 男女共同参画社会の実現	127
(1) 男女共同参画が浸透しない要因	127
(2) 男女共同参画の実現に向けて、市が対応すべきこと	128
(3) L G B Tの従業員への対応	129
(4) 男女共同参画の改善動向	129
(5) 男女共同参画におけるアピールポイント	130
IV これまでの調査結果等との比較	131
1. 調査概要	131
2. 調査結果の経年的考察	131
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方	131
(2) 男女の立場	131
(3) 出産・育児等の環境	131
(4) 家庭生活での夫婦の分担	132
(5) 女性の仕事	132
(6) 男女間の暴力的行為	132
(7) 男女共同参画に関する用語の周知度	132
(8) 男女共同参画社会の推進	132
3. 比較分析	133
(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方	133
(2) 男女平等の実現度	135
(3) 出産・育児がしやすい環境づくりに必要なこと	144
(4) 家庭生活での夫婦の分担（既婚者・実情）	145
(5) 女性の仕事	154
(6) 男女間の暴力的行為	159
(7) 男女共同参画に関する用語の周知度	160
(8) 男女共同参画社会の推進	163

I アンケート調査結果の概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、男女共同参画社会の実現に向けて、「つるが男女共同参画プラン」の見直しにあたり、市民と市内事業所における男女共同参画社会に関する意識を把握し、プラン見直しの基礎資料とするために実施した。

(2) 調査対象および調査方法

調査対象	市民調査：敦賀市に居住する満 18 歳以上の男女 1,200 名を無作為抽出 事業所調査：敦賀市内に所在する事業所 100 社を無作為抽出
調査方法	調査票を郵送の上、記入後に回収（郵送法）
調査期間	令和元年 11 月 1 日～11 月 30 日

(3) 回収の結果

	市民		事業所	
	票数	回収率	票数	回収率
配布票数	1,200 件	—	100 件	—
回収票数	454 件	37.8%	58 件	58.0%

(4) 本報告書の読み方

- ① 比率はすべて百分率(%)で表し、小数点以下 2 位を四捨五入して表記しており、合計が 100%を上下する場合がある。
- ② 基数となるべき実数（母数）は、“件数”としている。
- ③ 複数回答の設問は、各回答の比率の合計が 100%を超える場合がある。
- ④ 本文中の“ポイント”とは、“%”の差を表している。
- ⑤ 考察の中では選択肢を「○○○○」と記載している。同類の選択肢を示す場合、『○○○○』と記載する場合がある。
EX. 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 ⇒ 『そう思う』
「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」 ⇒ 『そう思わない』

2. 調査結果の考察

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

今回調査では、『そうは思わない(62.5%)』（「どちらかといえば、そう思わない(24.2%)」と「そうは思わない(38.3%)」の合計)の回答割合は大きく上昇している。

これは、家庭状況や価値観等の多様化が影響しているものと考えられる。

第3次つるが男女共同参画プランの数値目標

■「男は仕事、女は家庭」に対して「そうは思わない」と思う市民の割合

前回調査より増加していることから、「男は仕事、女は家庭」という既成概念の解消や意識の変化はかなり進んでいるものと考えられる(88頁参照)。

前回調査時(平成26年度)	目標(令和2年度)	今回調査結果(令和元年度)
40.5%	45.0%	62.5%

(2) 男女の立場

「家庭生活の場」や「職場」については、その他の項目に比べ「同程度」の上昇幅が大きくなっている。一方で、前回調査時同様に「政治の場」や「社会通念、風潮」については、特に男性が優遇されているとの回答が多い。

これらのことから、男女平等に向けた取組みは進んでいるが、今後も引き続き改善の取組みが必要だと考えられる。

第3次つるが男女共同参画プランの数値目標

■「現在の社会は全体として男女平等である」と思う市民の割合

前回調査とほぼ同程度となっており、社会全体において男女が平等だと感じる市民の割合はほとんど変化していない(97頁参照)。

前回調査時(平成26年度)	目標(令和2年度)	今回調査結果(令和元年度)
17.9%	20.0%	17.8%

(3) 出産・育児等の環境

前回調査では「子どもを一時的に保育してくれる施設の拡大・充実」が最も多かったが、今回の調査では「子どもの病気などのために性別に関係なく取りやすい休暇制度」が最も多くなっている。

このことから、育児に関して両親とも積極的に参加するための休暇制度の充実が求められていることがうかがえる。

(4) 家庭生活での夫婦の分担

理想とする回答として「子どものしつけや教育」や「子どもの学校行事への参加」など子育てに関することや「親や家族の介護・看護」については、過半数が「夫と妻が同程度」に行いたいとする意見が多い。しかし、実情としては「主に妻」となっている傾向が見受けられる。

現在の社会は家庭と両立しながら働きやすい状況にあるかについては、「そう思わない」が24%、「どちらかといえば、そう思わない」が33%と、回答者数の過半数が『そう思わない』と回答している。

これらのことから、子育て・介護等について個人レベルの意識上では男女共同参画が進んでおり、実現のために労働者を取り巻く環境の改善が必要だと考えられる。

また、理想とする回答として「生活費を得る」については「主に夫」が、「炊事・掃除・洗濯」については「主に妻」の割合が、「夫と妻が同程度」の割合を上回っていることから、女性の就労や、男性の家事への参加については引き続き推進が必要と考えられる。

第3次つるが男女共同参画プランの数値目標

■「介護を要する老人や病人の世話を夫と妻の同程度で行いたい」と思う市民の割合

前回調査よりも回答割合が大きく改善している。介護等に関して男女共同で行いたいとする意識が市民に浸透していると思われる（30頁参照）。

前回調査時（平成26年度）	目標（令和2年度）	今回調査結果（令和元年度）
31.9%	40.0%	75.8%

（5）女性の仕事

前回調査に比べ、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」の回答割合が30%と半分程度に減少した。一方、「結婚して子供が生まれた後も職業を持ち続ける」の回答割合が37%と最も多くなっている。

国調査結果（R1）と比べても、「子どもが出来ても、ずっと職業を続ける方がよい（61%）」が最も多く、同様な傾向がうかがえる。

これらのことから、敦賀市においても女性が社会で活躍することを望む意識が高まっているものと考えられる。

第3次つるが男女共同参画プランの数値目標

■「現在の女性は働きやすい状況にある」と思う市民の割合

前回調査より大きく増加していることから、女性が働きやすい環境の形成は進んでいるものと考えられる（40頁参照）。

前回調査時（平成26年度）	目標（令和2年度）	今回調査結果（令和元年度）
14.0%	20.0%	37.5%*

※「そう思う（4.2%）」と「どちらかといえば、そう思う（33.3%）」の合計。

(6) 男女間の暴力的行為

「DV（ドメスティック・バイオレンス）」の認知度は前回調査から増加しており、敦賀市においても一般的に認知されているものと考えられる。

男女間の暴力的行為の対応策については、前回調査時と同様、市に「相談窓口等の情報提供」や「女性相談事業の拡大」、「一時保護所（シェルター）との連携」を求める声が多い。

第3次つるが男女共同参画プランの数値目標

■DV(ドメスティック・バイオレンス)を一般常識として知っている人の割合

前回調査より増加していることから、認知度は徐々に高まっており、目標も達成している（77頁参照）。

前回調査時（平成26年度）	目標（令和2年度）	今回調査結果（令和元年度）
64.9%	70.0%	78.6%

(7) 介護休業制度の実施状況

前回調査に比べ、「介護休業制度」を実施している事業所は3ポイント程度減少している。

一方、「介護サービス利用料の援助」については「実施している」と「検討中」を合わせて12ポイント程度増加している。

第3次つるが男女共同参画プランの数値目標

■介護休業制度を実施している事業所の割合

前回調査から減少した。今後、更に実施割合を高めていくことが望まれる（123頁参照）。

前回調査時（平成26年度）	目標（令和2年度）	今回調査結果（令和元年度）
77.6%	80.0%	74.1%

(8) 男女共同参画社会の推進

前回調査に比べ、「わからない」が6ポイント、「もっと力を入れるべき」が3ポイント増加した一方、「これまでも成果を収めており、今後は自然と男女共同参画が進むと思う」は3ポイント減少しているものの、全体的に見て大きな変動はなかった。

一方、第3次つるが男女共同参画プラン時の数値目標については、前回調査時よりも改善できているものが多い。

状況としては改善されているが、その一方で男女共同参画について求められるものがより高度化しているものと考えられる。

また、男女共同参画社会の推進については「今後も積極的に進めるべき」と「もっと力を入れるべき」の回答が「自然と進むと思う」と「これからは難しくなると思う」、「現状のままでよい」とする回答の合計を大きく上回っており、今後もより一層男女共同参画社会の推進が必要であると考えられる。

Ⅱ 市民調査の結果

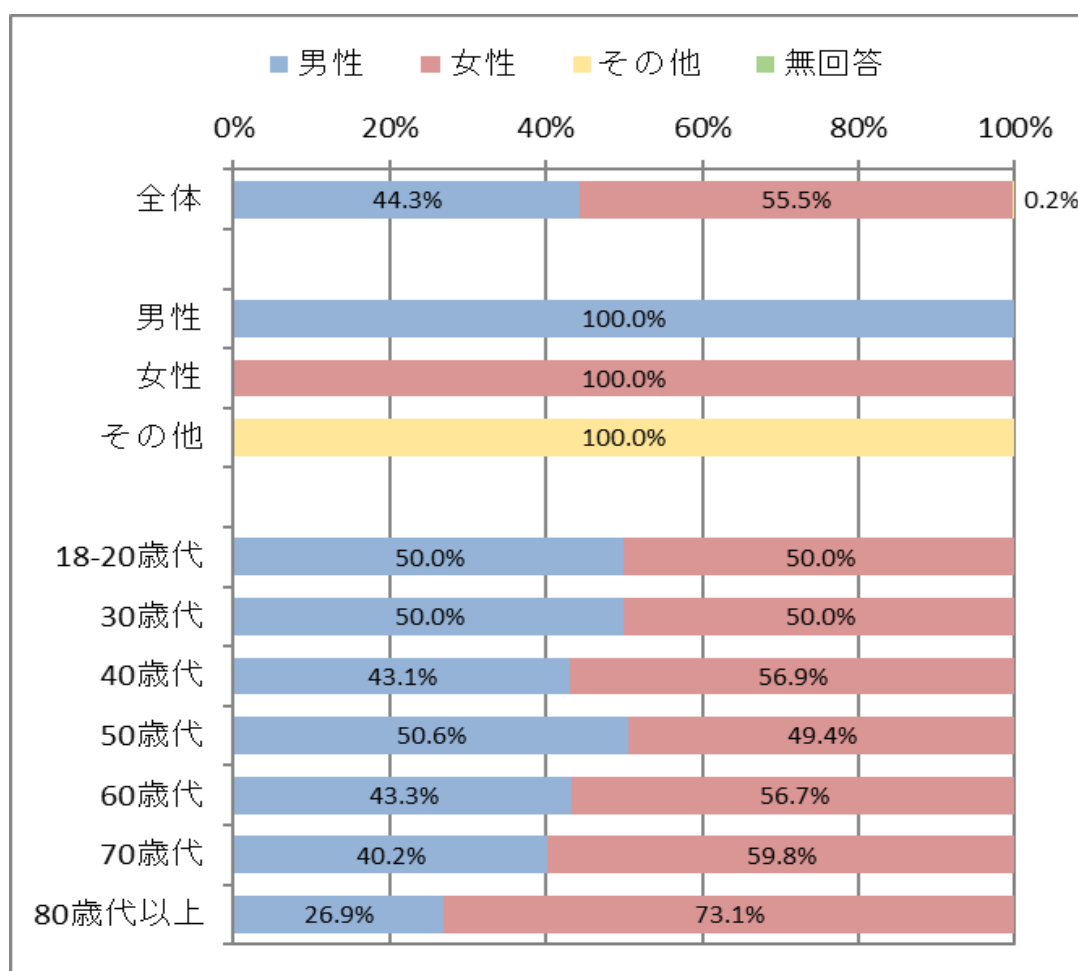
1. あなた自身のこと

(1) 性別

問1 あなたの性別は、次のどちらですか。

全体では、「女性」が55%と比較的多く、「男性」は44%となっている。

年代別に見ると、18-20歳代と30歳代、50歳代は半数ずつであるが、それ以外は「女性」が高くなっている。特に80歳代以上は7割を超えている。



性別「その他」の回答は1件のみであるため、問1の年代別性別割合、および問2～問5までの性別「その他」の回答については掲載しておりません。

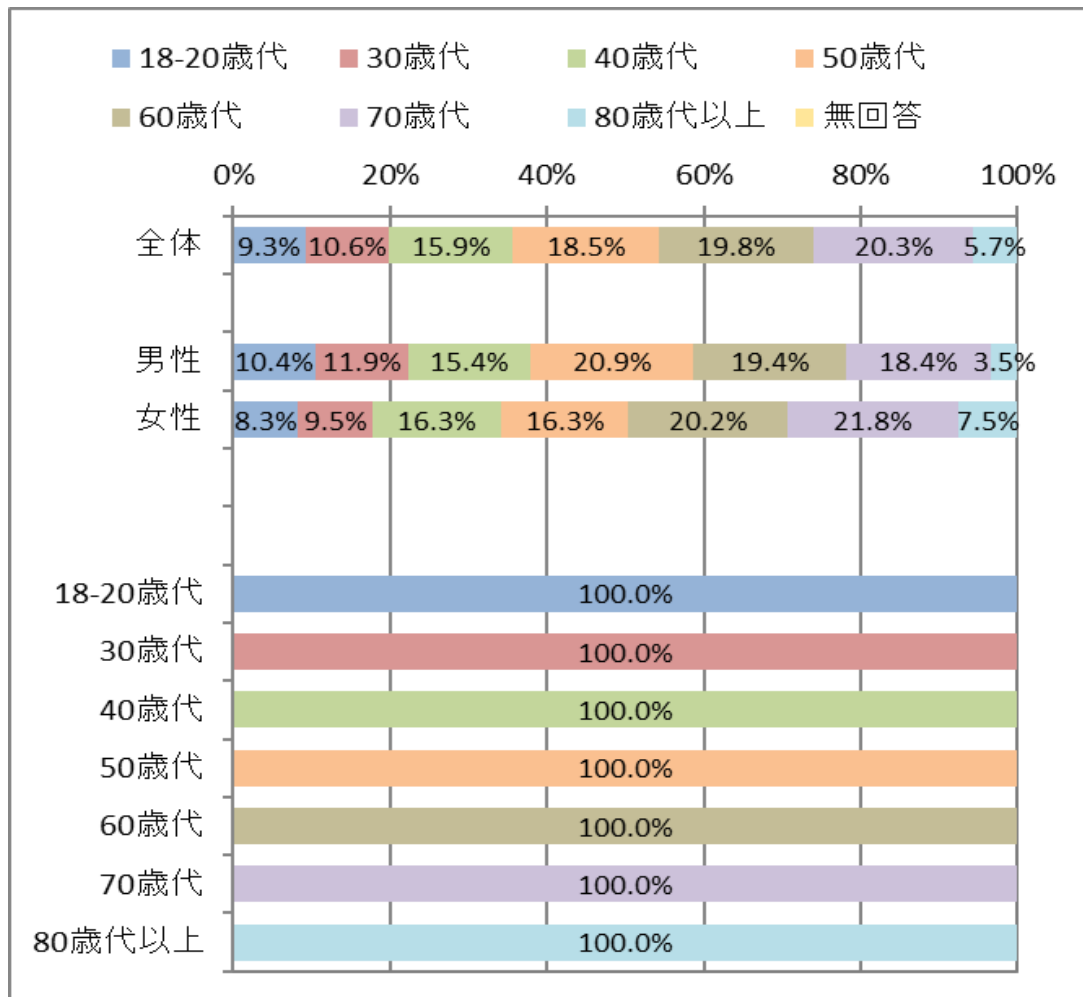
ただし、「全体」の回答の中には、性別「その他」の回答も含まれています。

(2) 年代

問2 あなたの年齢は、次のどの区分になりますか。

全体では、「18歳～20歳代」と「80歳代以上」は1割に満たないが、他の年代は1～2割台で比較的均等に分布しており、「70歳代」がやや割合が高い。

男女別に見ると、男性では「50歳代」、女性では「70歳代」の割合が高い。

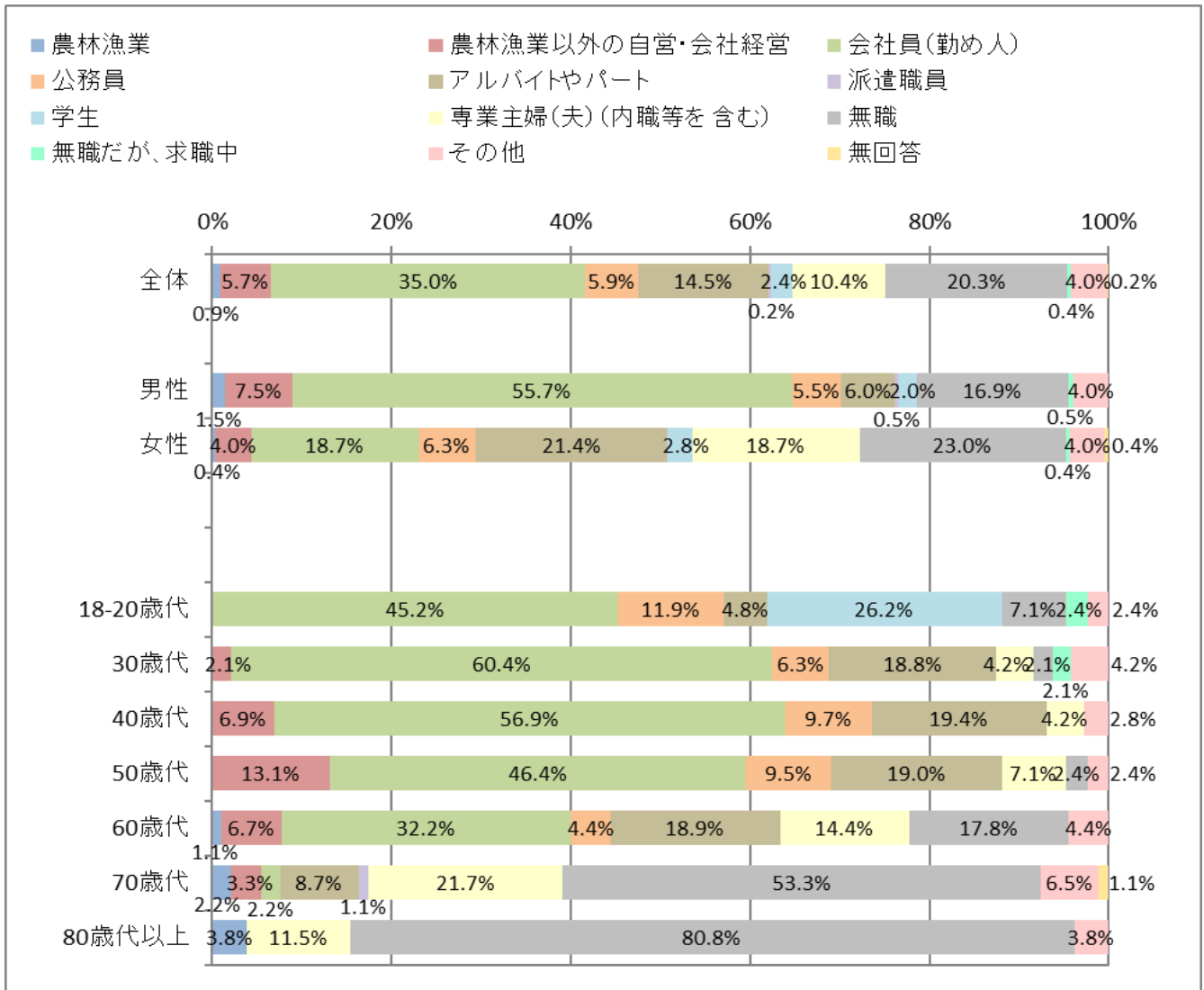


(3) 職業

問3 あなたのご職業は、次のどれですか。

職業については、男性は「会社員（勤め人）」が55%と半数近くを占め、女性は「アルバイト・パート」が21%、次いで「会社員（勤め人）」と「専業主婦」がそれぞれ18%と多くなっている。

50歳代までは「会社員（勤め人）」が4割～6割程度を占めるが、70歳代と80歳代以上は「無職」が5割～8割近くを占める。

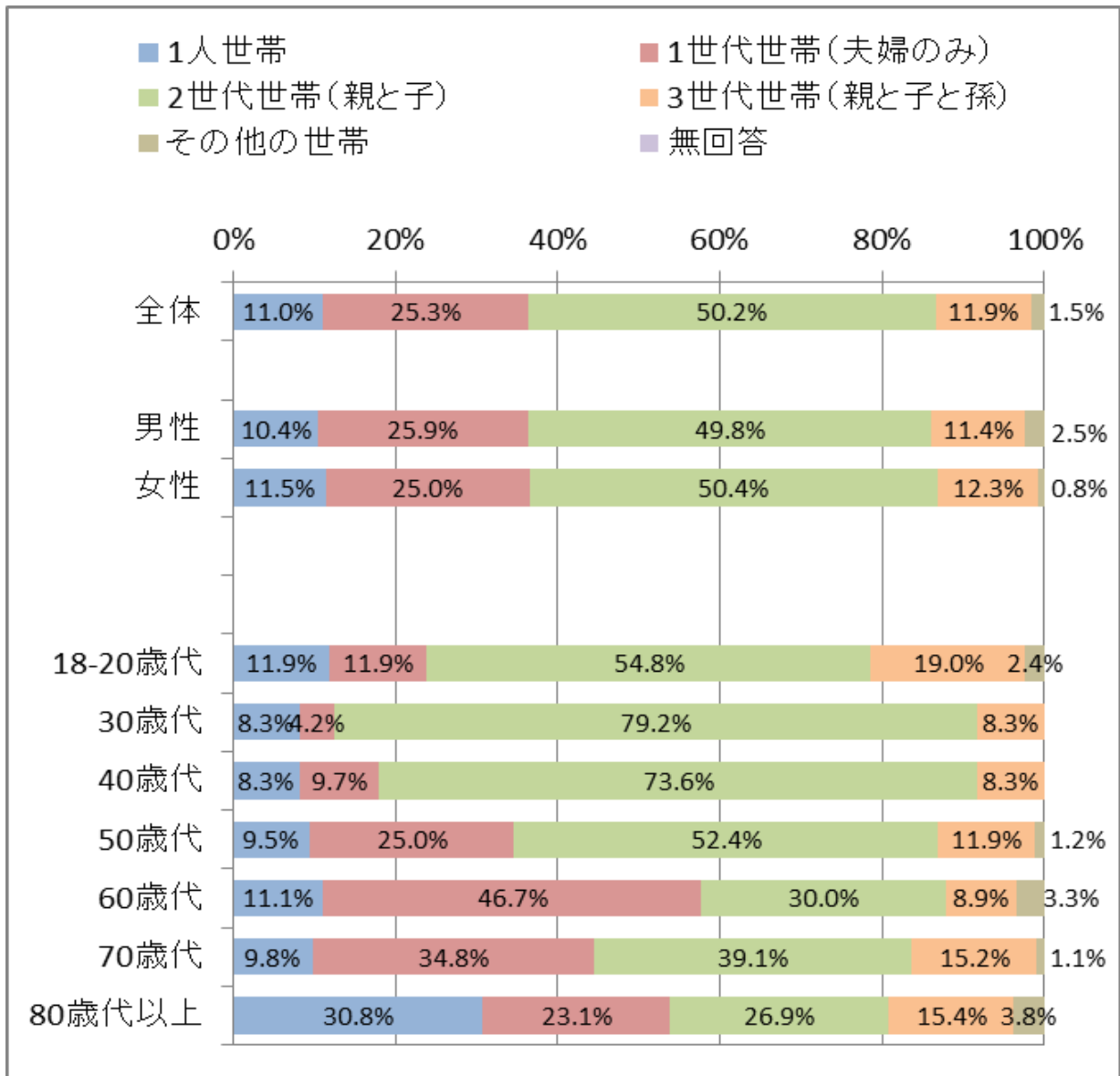


(4) 世帯構成

問4 あなたの家族構成は、次のどれですか。

全体では「2世代世帯（親と子）」が50%を占め、次いで「1世代世帯（夫婦のみ）」が25%と多い。

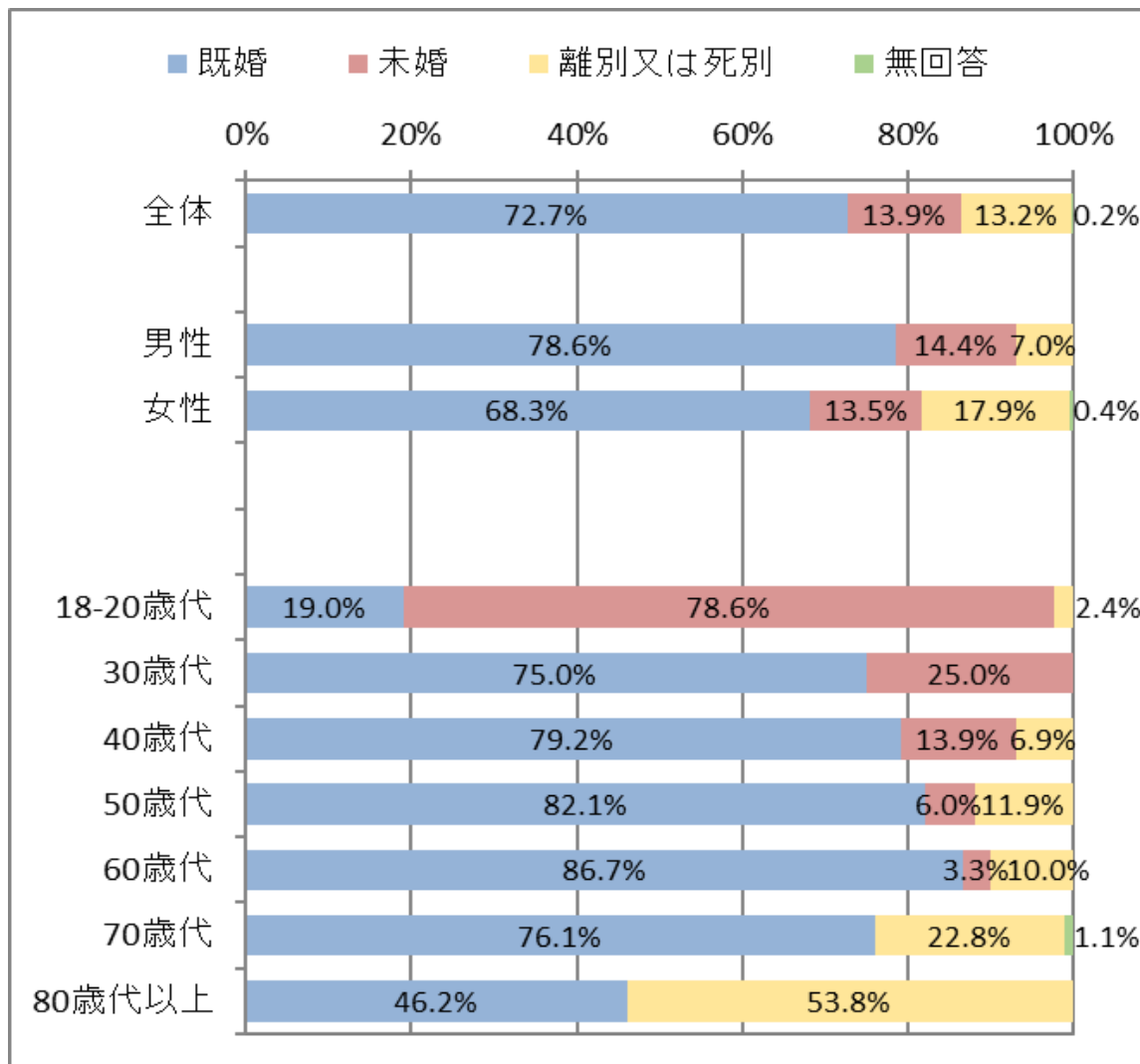
60歳代以上は「1人世帯」と「1世代世帯（夫婦のみ）」を合わせ4割～6割近くを占めている一方、「3世代世帯（親と子と孫）」も徐々に高くなっている。



(5) 結婚歴

問5 あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。

全体では「既婚」が72%と多数を占め、「未婚」と「離別又は死別」はともに13%となっている。女性よりも男性の方が既婚率はやや高く、年代別では18歳～20歳代の「未婚」が7割を占めている。年代が上がると既婚率は高まり、70歳代以降は「離別又は死別」の回答が高まっている。



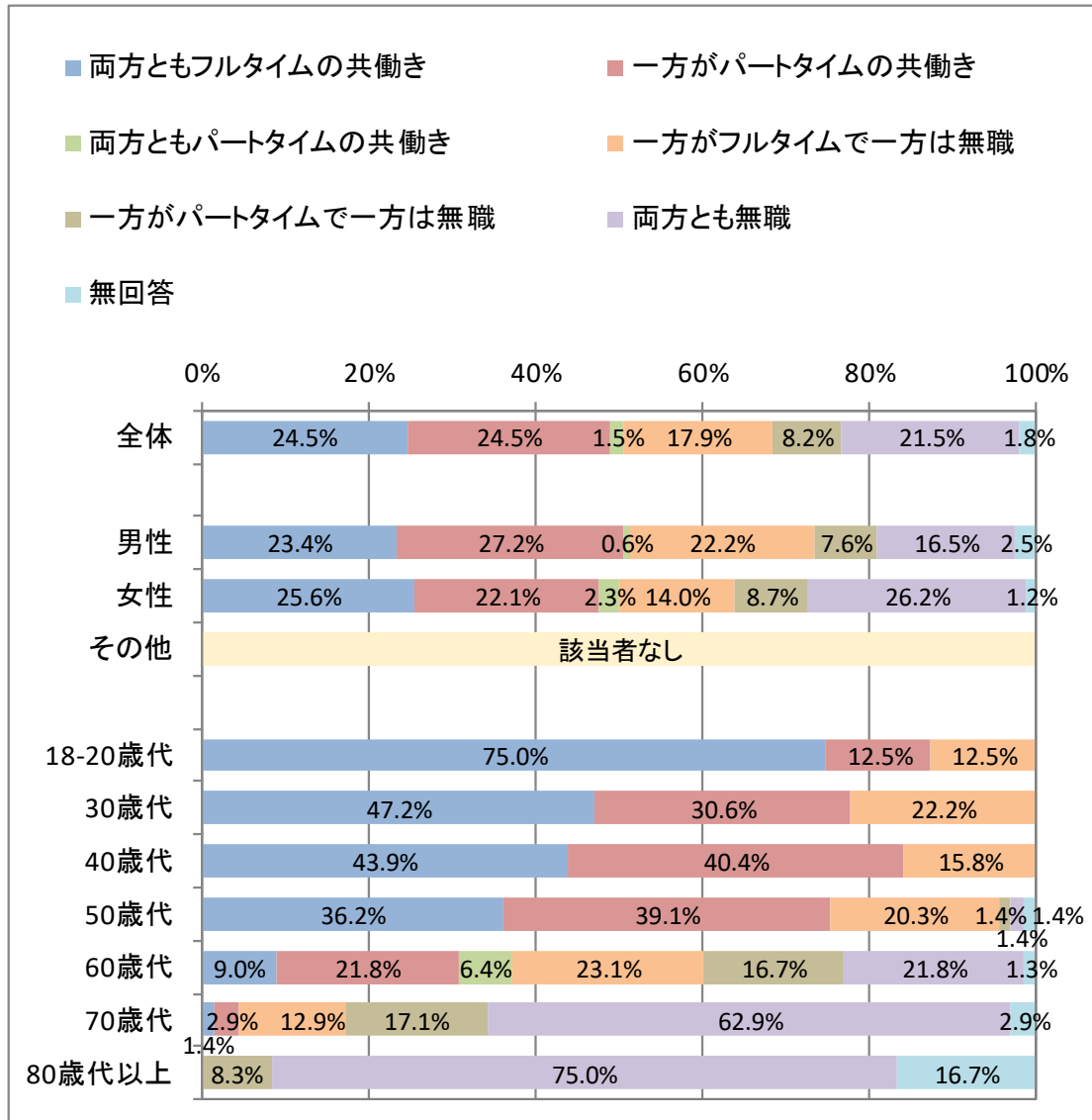
(6) 夫婦の就労状況

※ (5) で既婚と回答された方

問6 あなたのご夫婦の就労状況は次のどれにあてはまりますか（派遣職員の場合は、勤務時間の長さによる）。

男性では「一方がパートタイムの共働き」が27%、女性では「両方ともフルタイムの共働き」が25%を占めている。

年代別に見ると、50歳代までは7割～8割が『共働き』であるが、60歳代以上では「両方とも無職」が最も多くなっている。



2. 家庭と仕事の両立に関する考え

◆家庭生活について

(1) 夫婦の役割分担（実情）

※（5）で既婚と回答された方

問7 あなたの家庭では、以下のことについて、現在、どのような分担となっていますか。

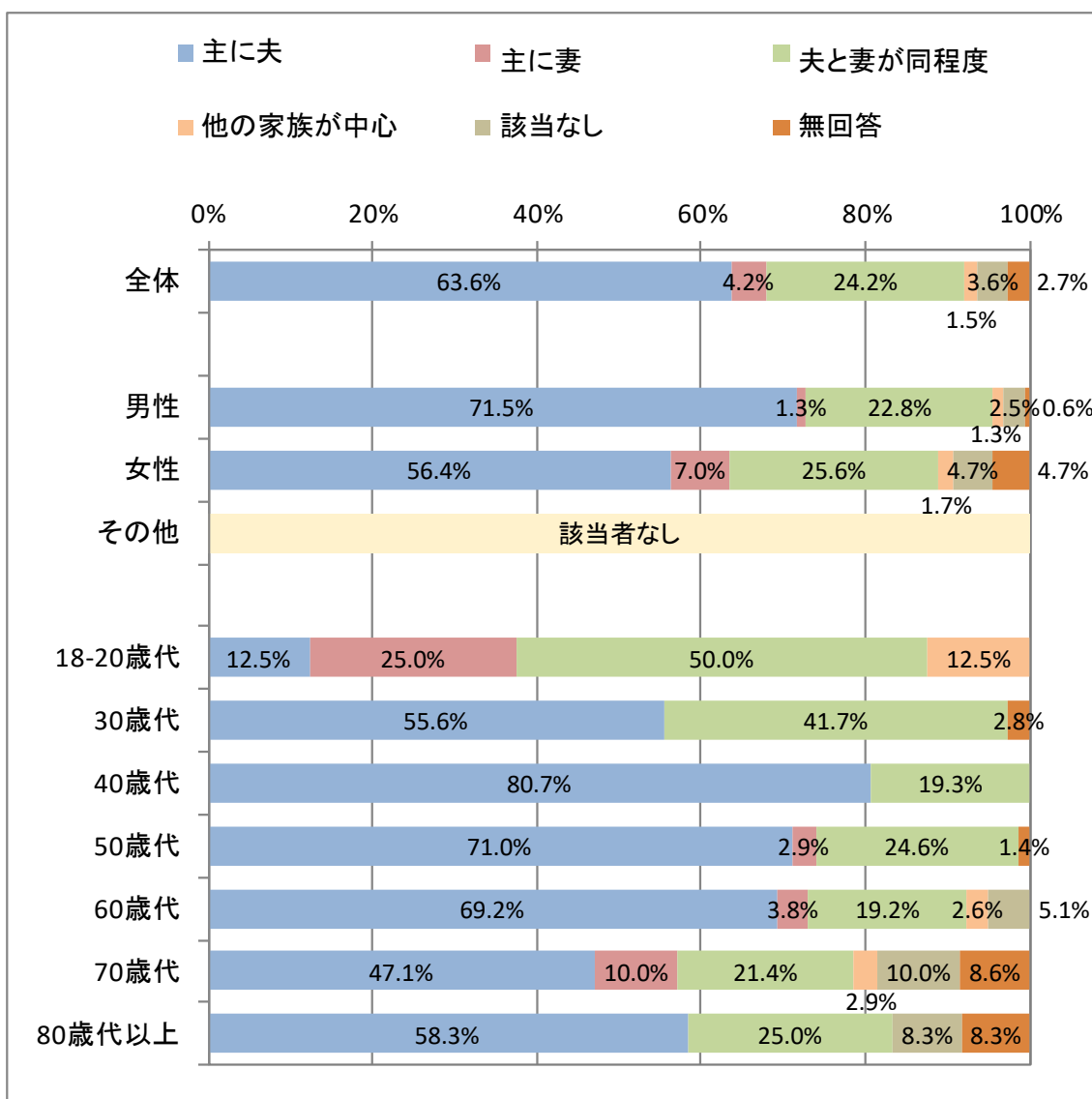
（前回調査と比較するため、「主に自分」を「主に夫」に、「主に配偶者」を「主に妻」に置き換え集計する。これにあたっては、(1)の性別回答を踏まえて、それぞれ「夫」と「妻」を判断している。）

（前回調査では「該当なし」の選択肢がなかったため、回答の割合に大きく差がでる設問(⑥、⑦、⑧、⑨)が見受けられる。）

①生活費を得る

全体では、「主に夫」と回答している割合が63%と多くなっている。

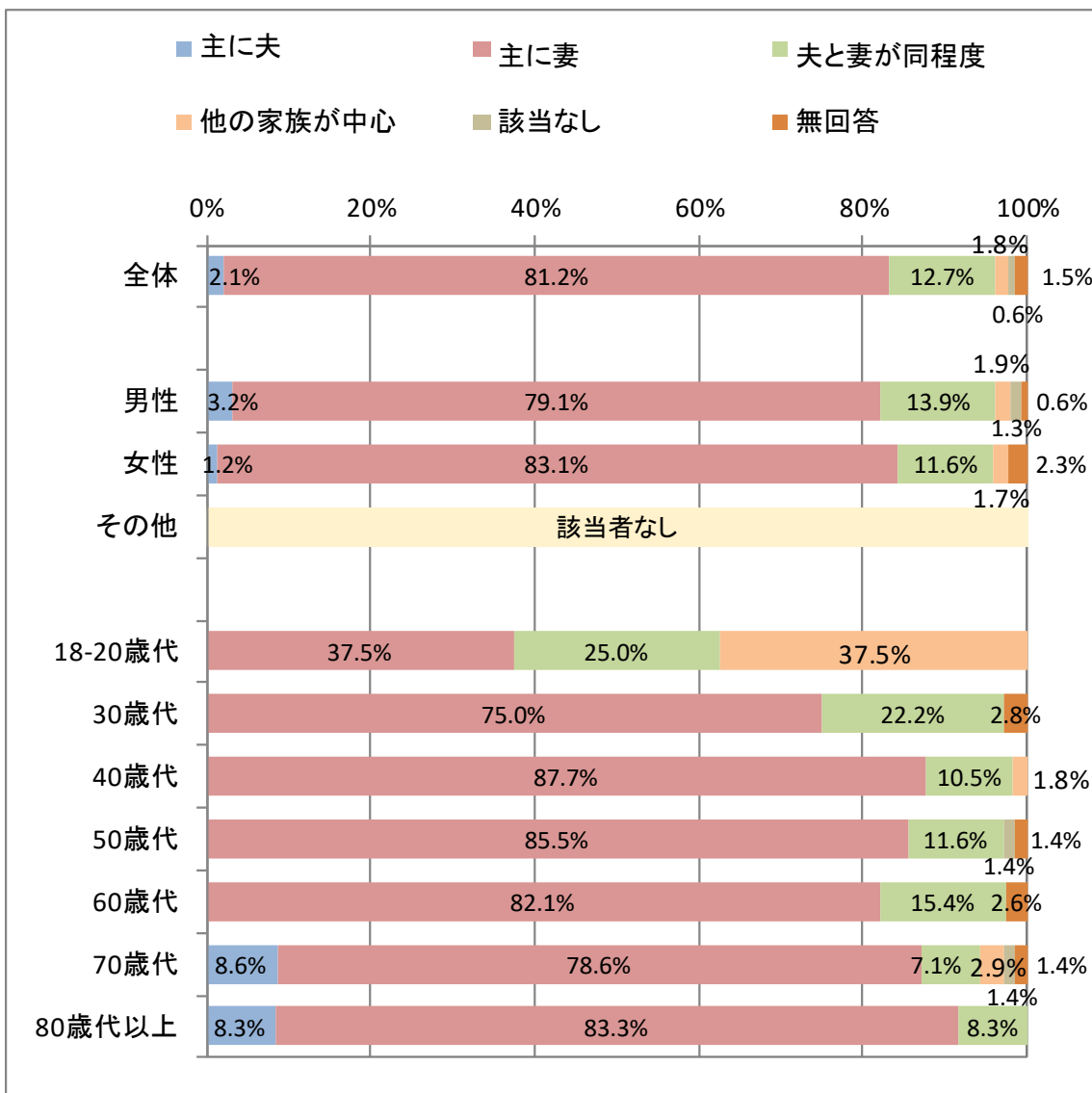
年代別に見ると、「主に夫」が40歳代で最も多く8割、「夫と妻が同程度」が18-20歳代と30歳代で多く4割～5割となっている。



②炊事・掃除・洗濯

全体では、「主に妻」と回答している割合が81%と多くなっている。

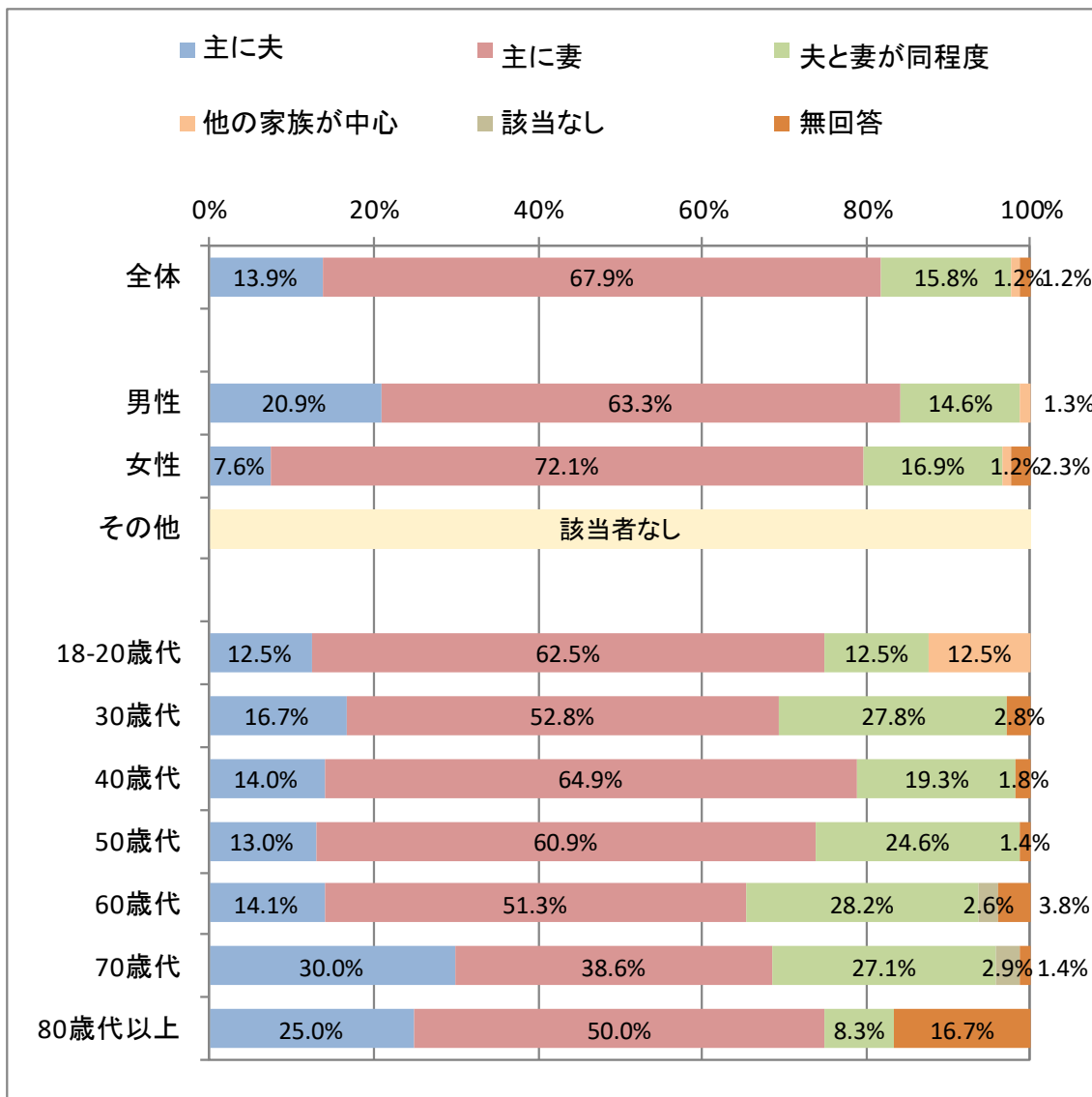
どの年代でも「主に妻」の割合が「主に夫」の割合を大きく上回っている。18-20歳代と30歳代では他の年代と比べ「夫と妻が同程度」の割合が高い。



③家計のやりくり（生活費の管理）

全体では、「主に妻」と回答している割合が67%と多くなっている。

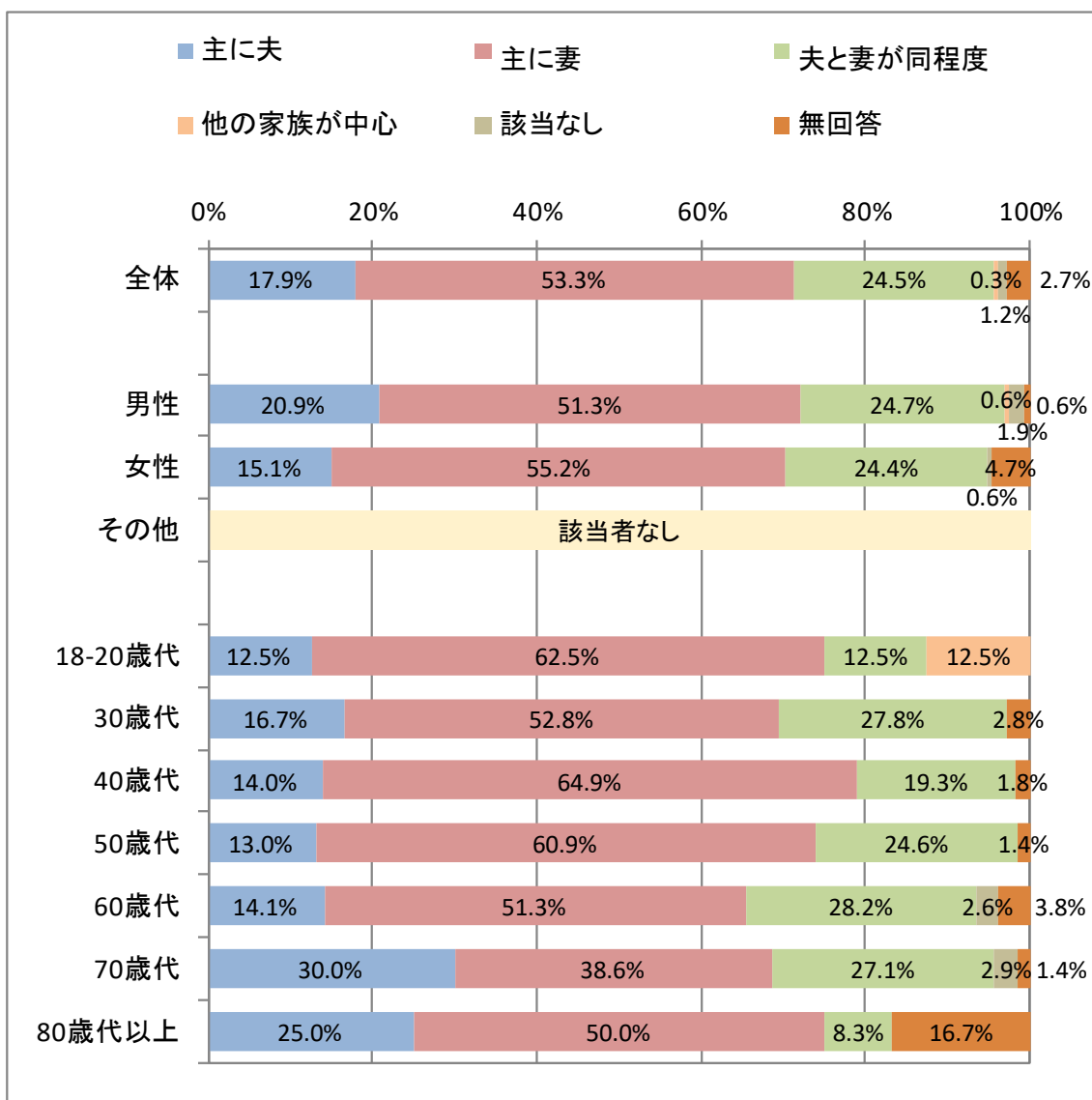
また、70歳代以上では他の年代と比較し、「主に夫」の割合が多くなっている。



④預貯金の管理

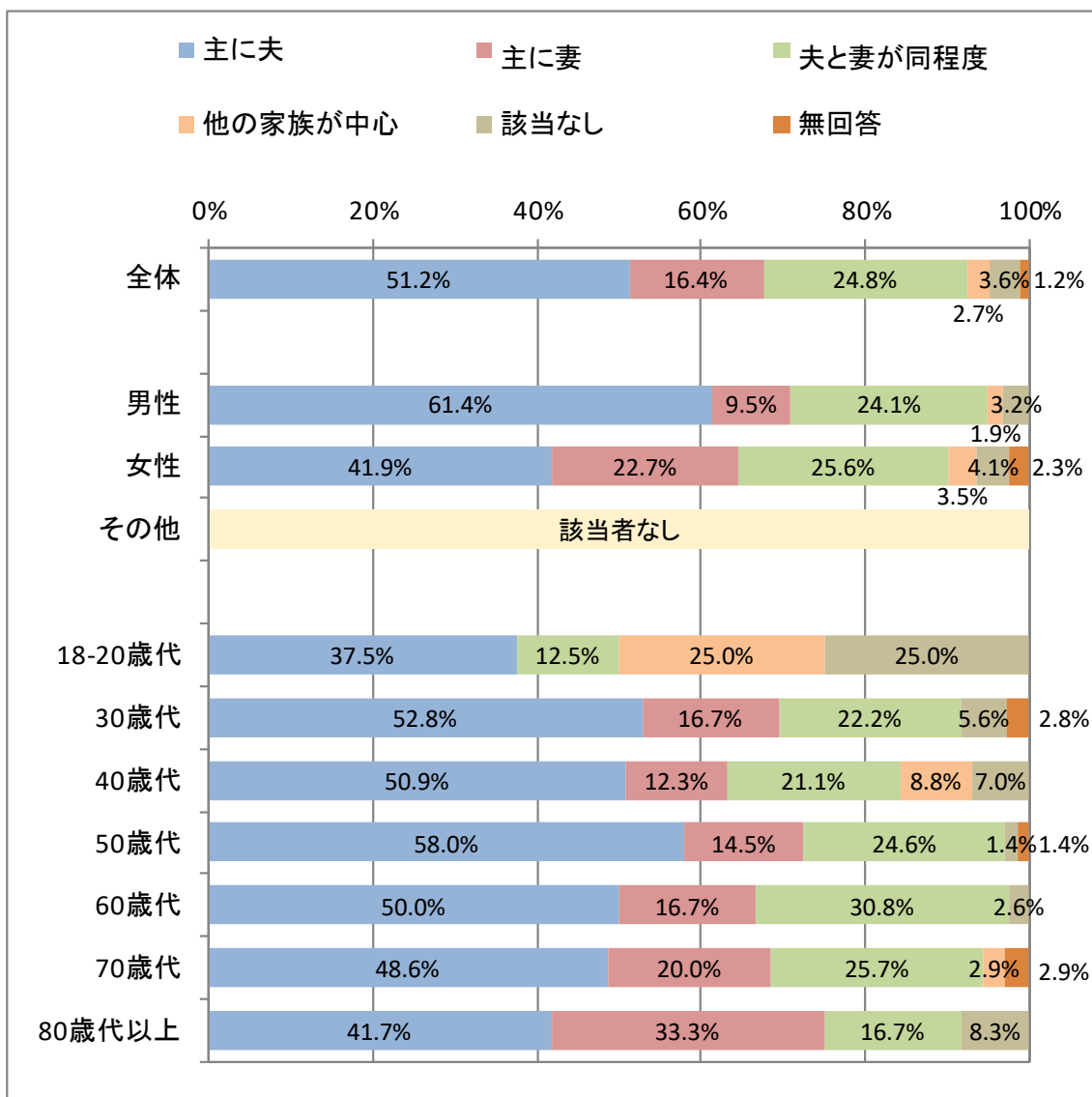
全体では、「主に妻」と回答している割合が53%と多くなっている。

また、70歳代以上では他の年代と比較し、「主に夫」の割合が多くなっている。



⑤家の軽微な修繕、庭の手入れ

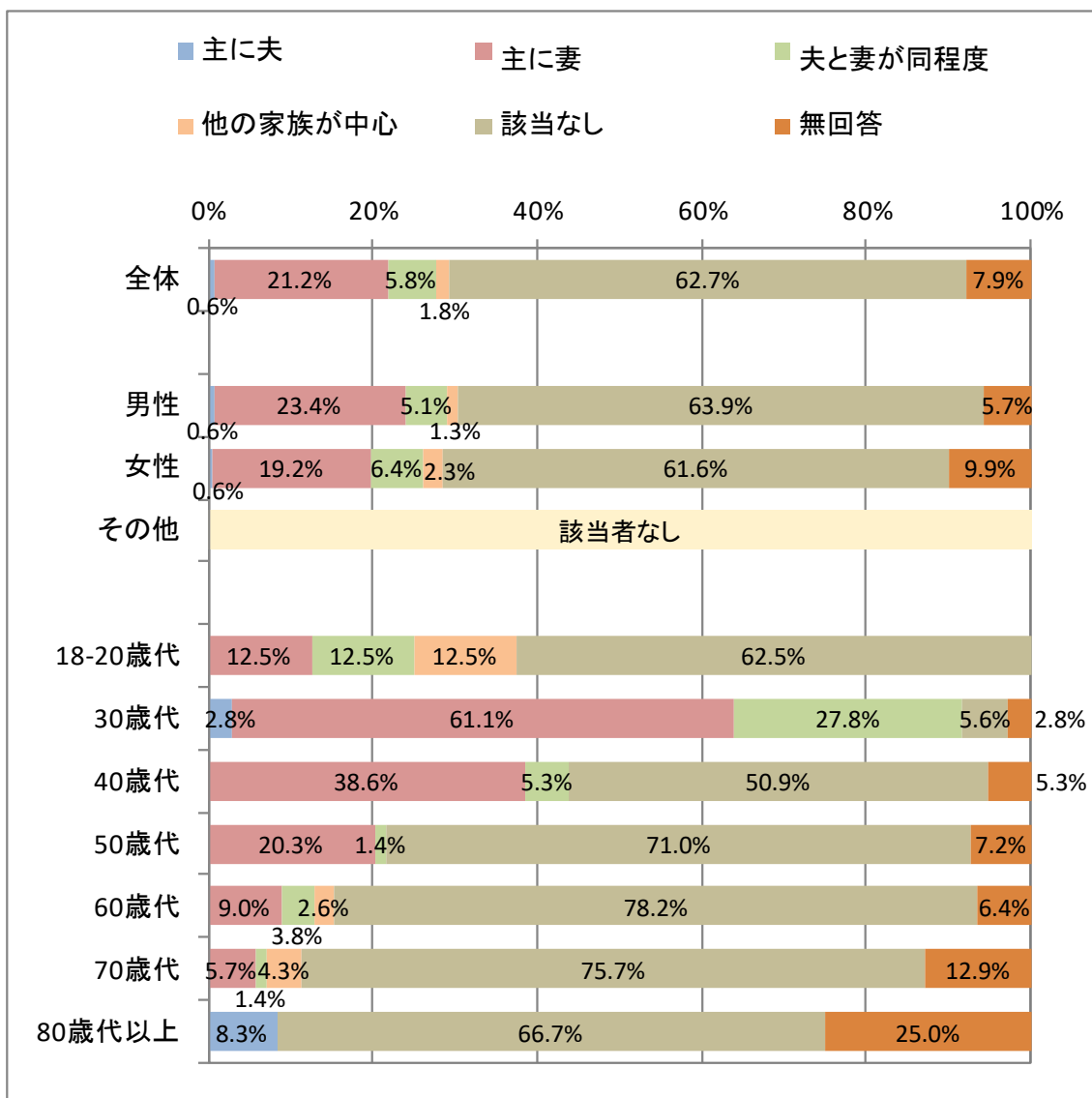
全体では、「主に夫」と回答している割合が51%と多くなっている。
 年代別に見ると、「主に夫」が30歳代～60歳代で5割を超えている。
 70歳代以上は「主に妻」の割合が増加する傾向にある。



⑥乳幼児の世話

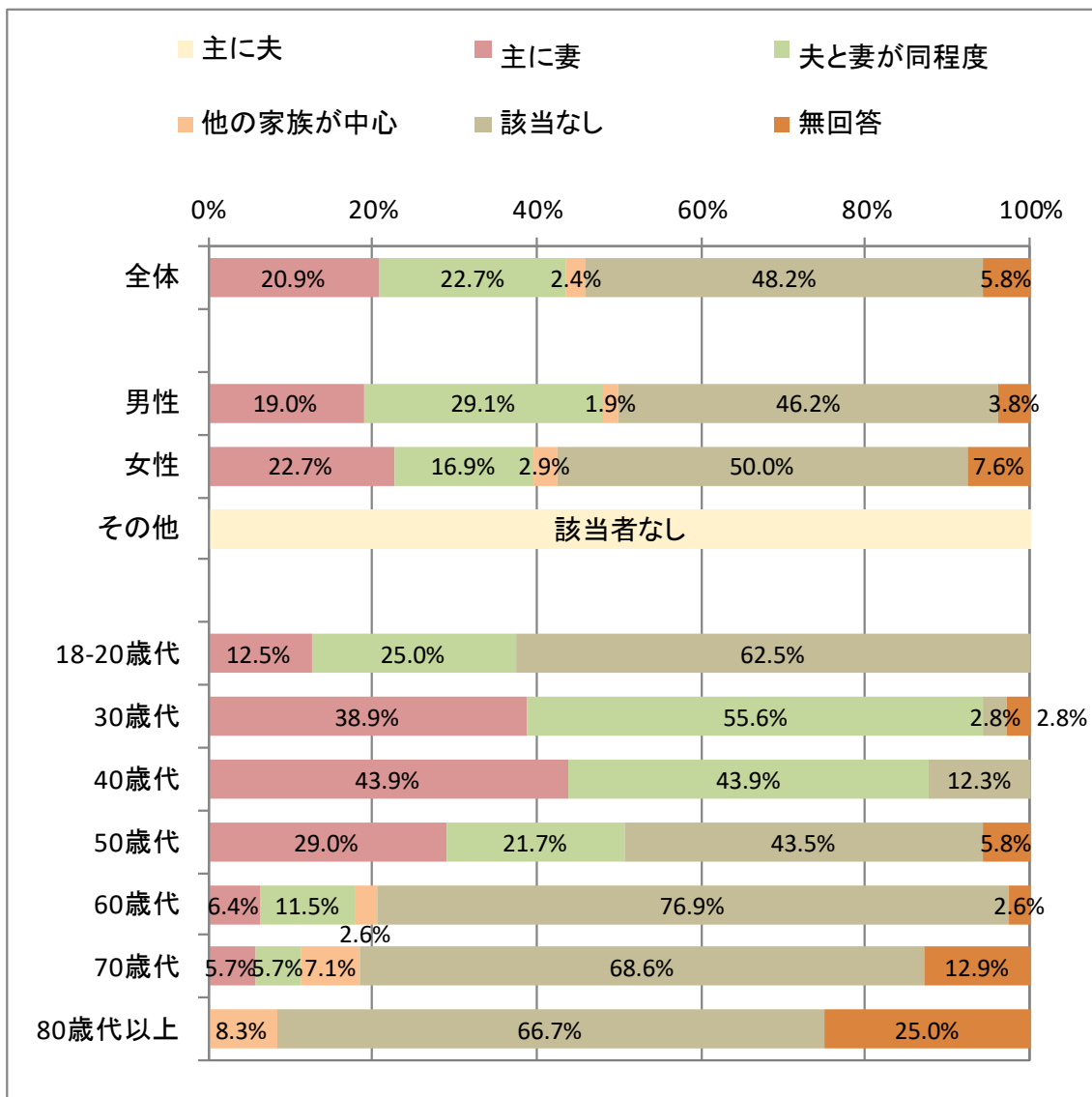
全体的に「主に夫」の割合を「主に妻」が大きく上回っている。

また、18-20歳代では「主に妻」と「夫と妻が同程度」の割合が同数になっており、30歳代では「主に妻」の半数程度の割合が「夫と妻が同程度」の回答となっている。



⑦子どものしつけや教育

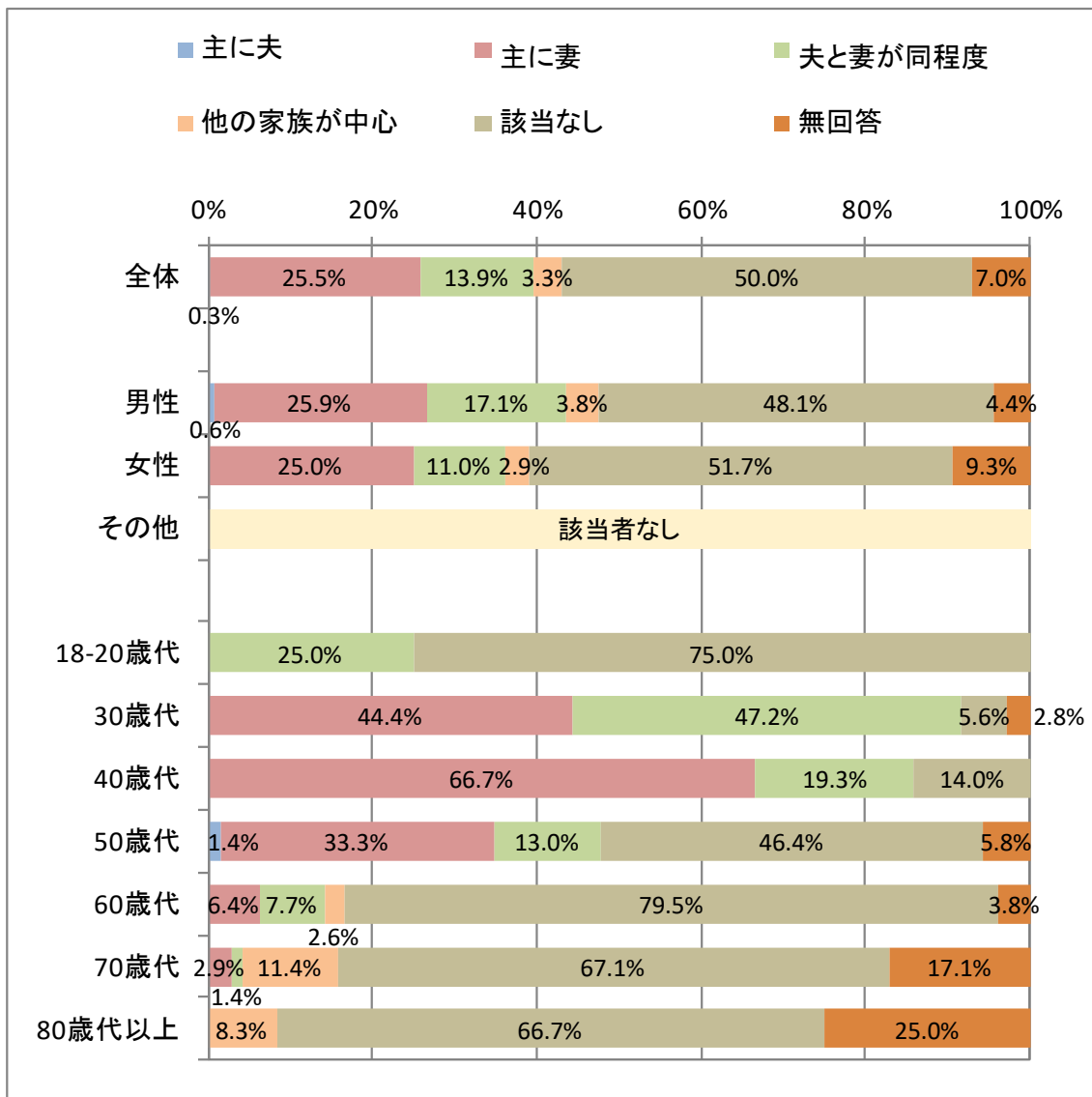
全体的に「主に夫」の割合を「主に妻」が大きく上回っている。
 また、多くの世代で「主に妻」の割合よりも「夫と妻が同程度」の割合が高い。



⑧子どもの学校行事への参加

全体的に「主に夫」の割合を「主に妻」が大きく上回っている。

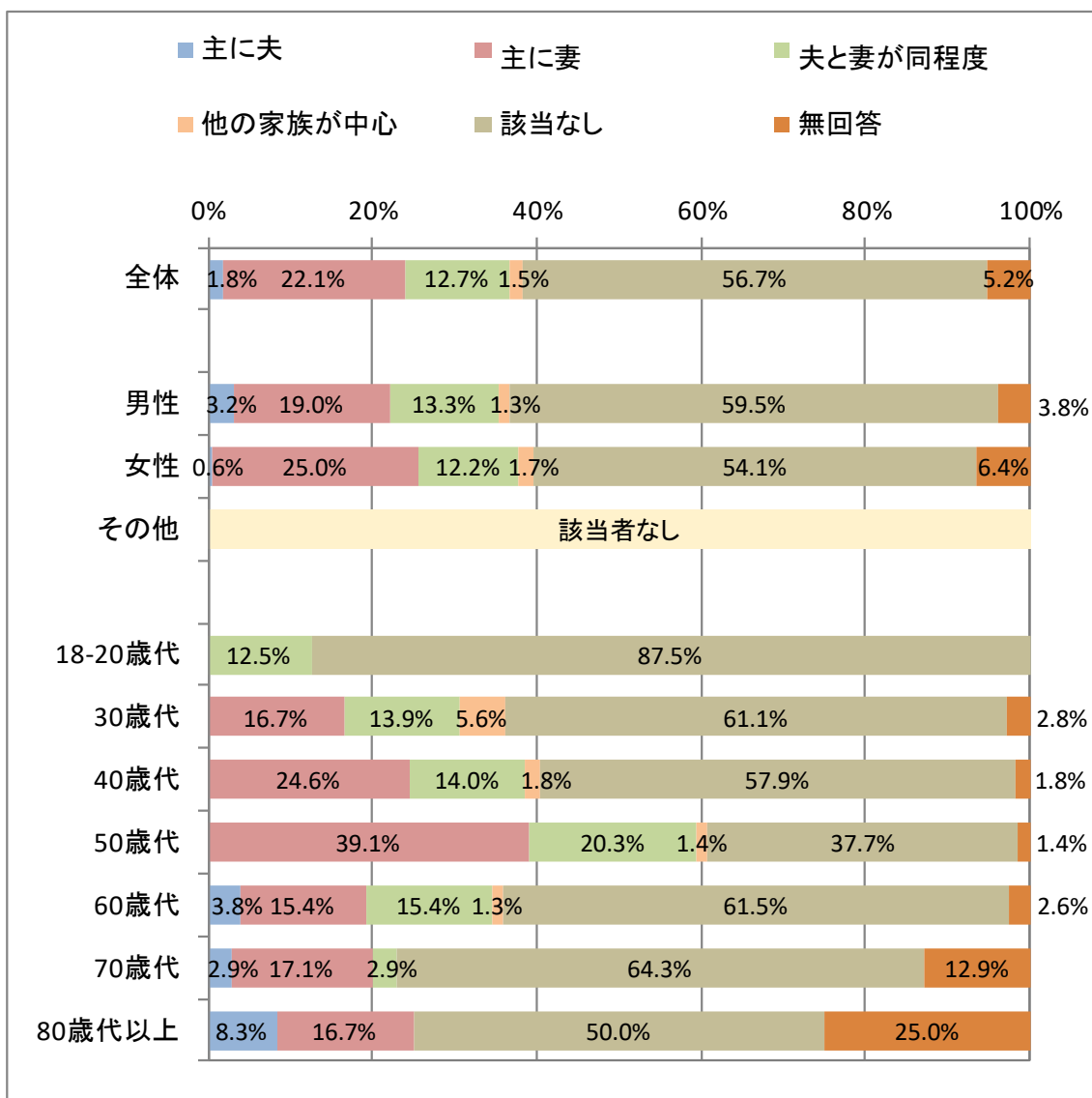
また、40歳代以下の世代では若い世代ほど、「主に妻」の回答数に対して、「夫と妻が同程度」の回答割合が高くなる傾向がある。



⑨親や家族の介護・看護

全体的に「主に夫」の割合を「主に妻」が大きく上回っている。

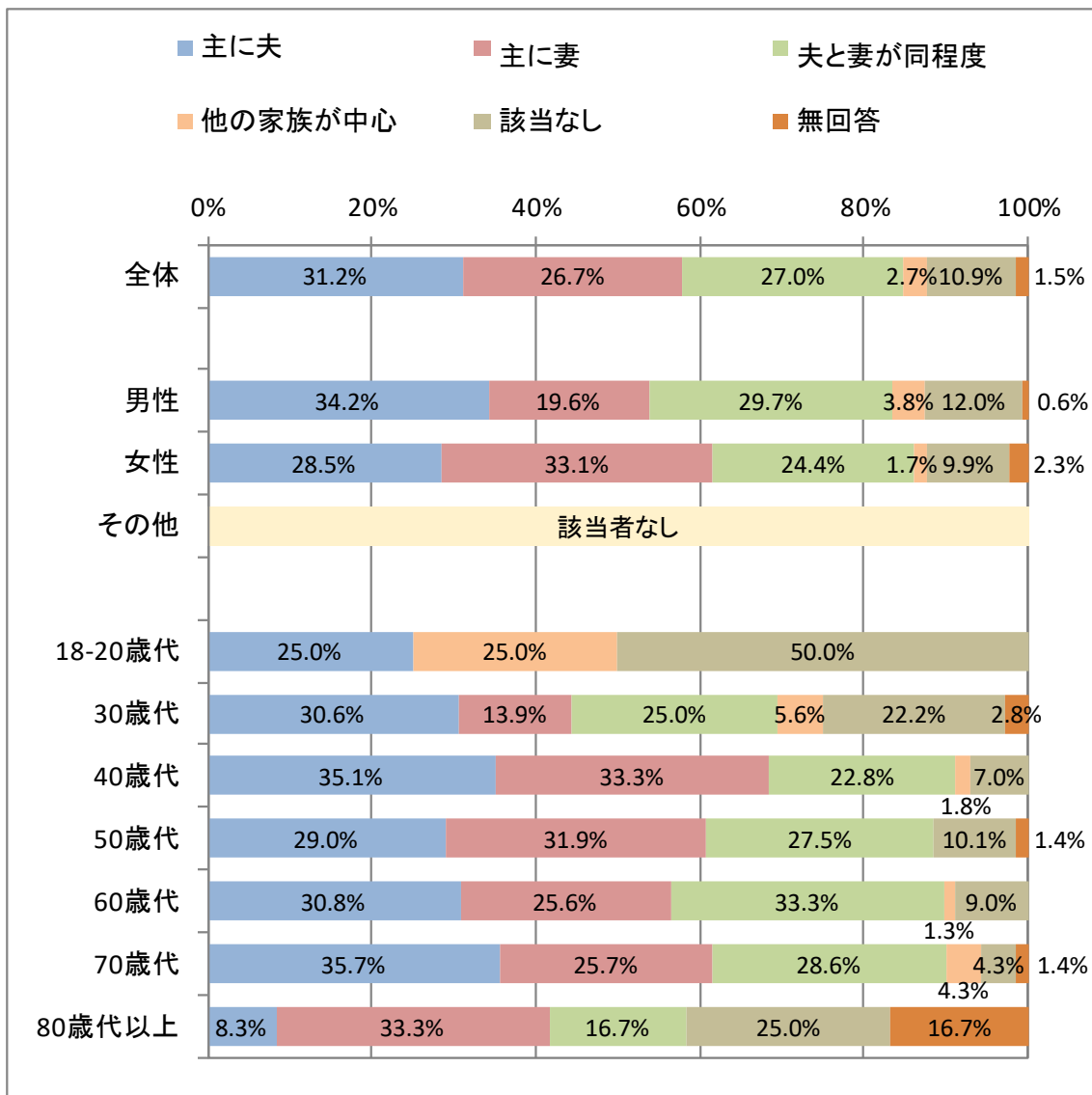
また、50歳以下では若い世代ほど「主に妻」の回答数に対する、「夫と妻が同程度」の回答割合が高くなる傾向がある。



⑩町内会・自治会への参加

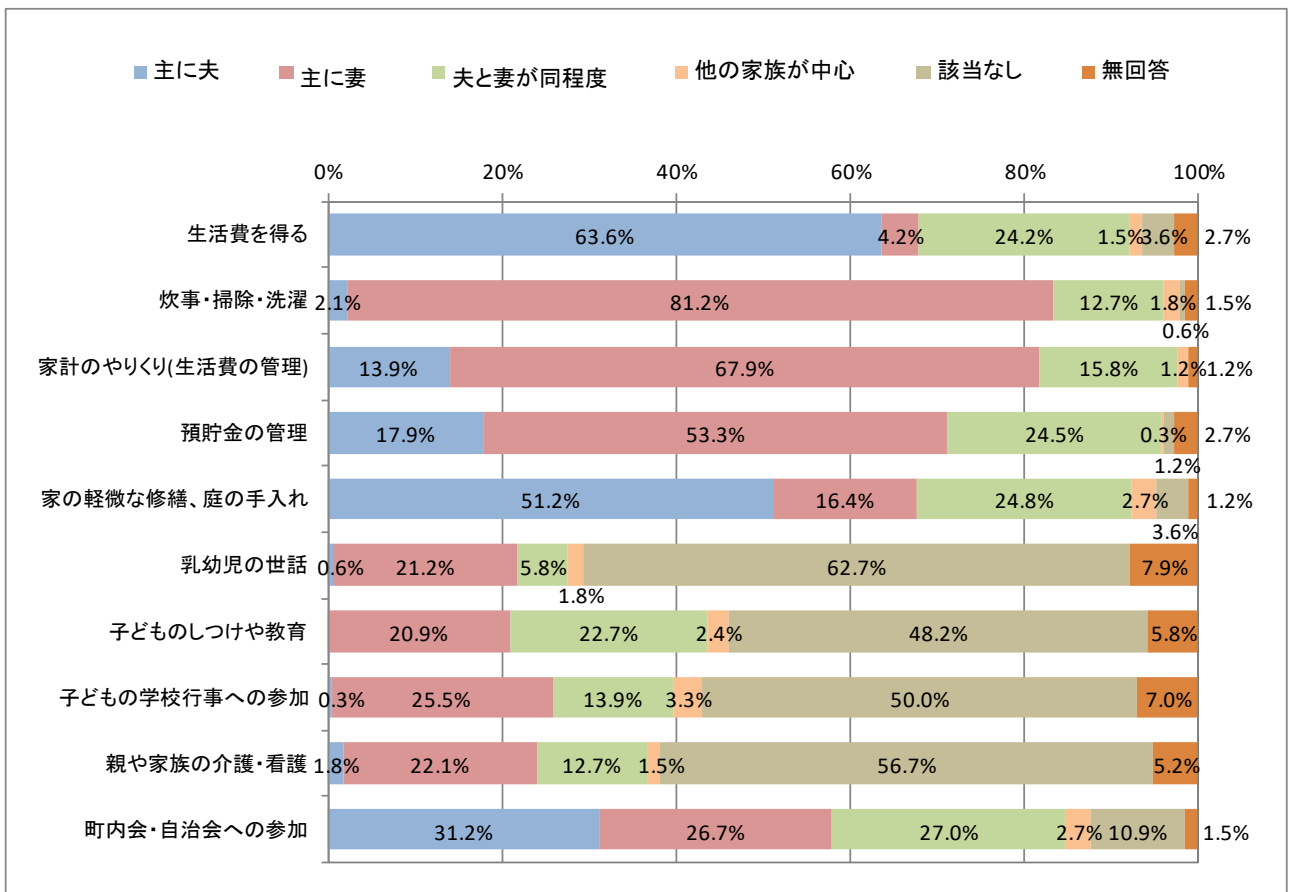
全体的には「主に夫」の回答が「主に妻」の割合を5ポイント程度上回っており、「夫と妻が同程度」の回答は「主に妻」の回答と同程度である。

また、18-20歳代と30歳代は、他の世代と比較して「主に妻」の回答割合が低くなっている。



■①～⑩での回答結果一覧

	主に夫	主に妻	夫と妻が 同程度	他の家族 が中心	該当なし	無回答
①生活費を得る	63.6%	4.2%	24.2%	1.5%	3.6%	2.7%
②炊事・掃除・洗濯	2.1%	81.2%	12.7%	1.8%	0.6%	1.5%
③家計のやりくり (生活費の管理)	13.9%	67.9%	15.8%	1.2%	0.0%	1.2%
④預貯金の管理	17.9%	53.3%	24.5%	0.3%	1.2%	2.7%
⑤家の軽微な修繕、 庭の手入れ	51.2%	16.4%	24.8%	2.7%	3.6%	1.2%
⑥乳幼児の世話	0.6%	21.2%	5.8%	1.8%	62.7%	7.9%
⑦子どものしつけ や教育	0.0%	20.9%	22.7%	2.4%	48.2%	5.8%
⑧子どもの学校行事 への参加	0.3%	25.5%	13.9%	3.3%	50.0%	7.0%
⑨親や家族の介護・ 看護	1.8%	22.1%	12.7%	1.5%	56.7%	5.2%
⑩町内会・自治会へ の参加	31.2%	26.7%	27.0%	2.7%	10.9%	1.5%



(2) 夫婦の理想的な役割分担

問8 全ての方におたずねします。あなたは次のことについて、配偶者とどのような分担で行うのが理想だと思いますか。(配偶者がいない方はいると想定してお答えください。)

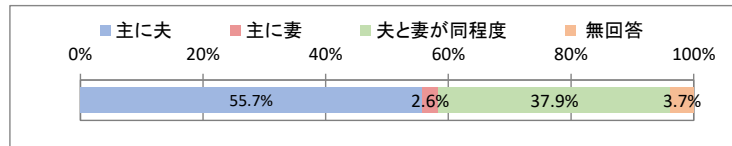
(前回調査と比較するため、「主に自分」を「主に夫」に、「主に配偶者」を「主に妻」に置き換え集計する。これにあたっては、(1)の性別回答を踏まえて、それぞれ「夫」と「妻」を判断している。)

①生活費を得る

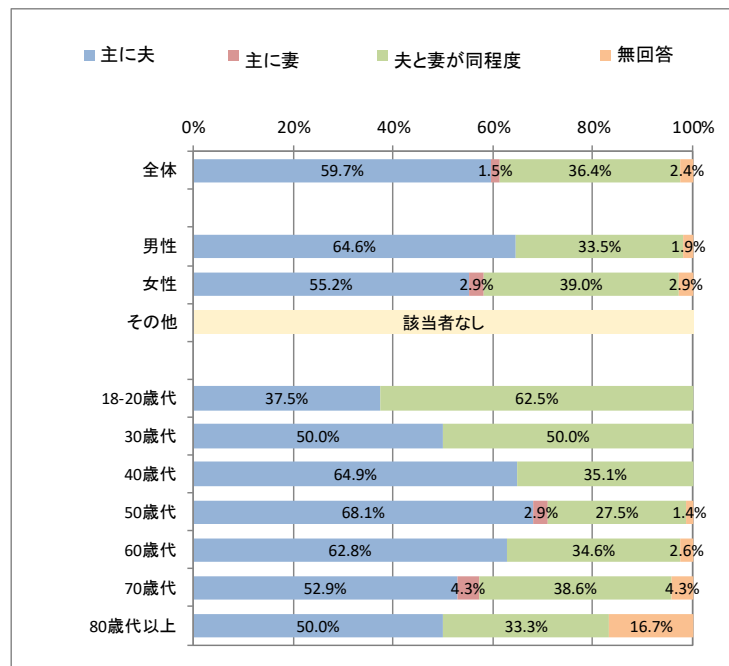
既婚者の半数以上が「主に夫」と回答している。一方、未婚・離別・死別者が望ましいと思う分担は「主に夫」が45%、次いで「夫と妻が同程度」が42%となっている。

また、いずれの年代も「主に妻」の回答を「主に夫」の回答が大きく上回っている。

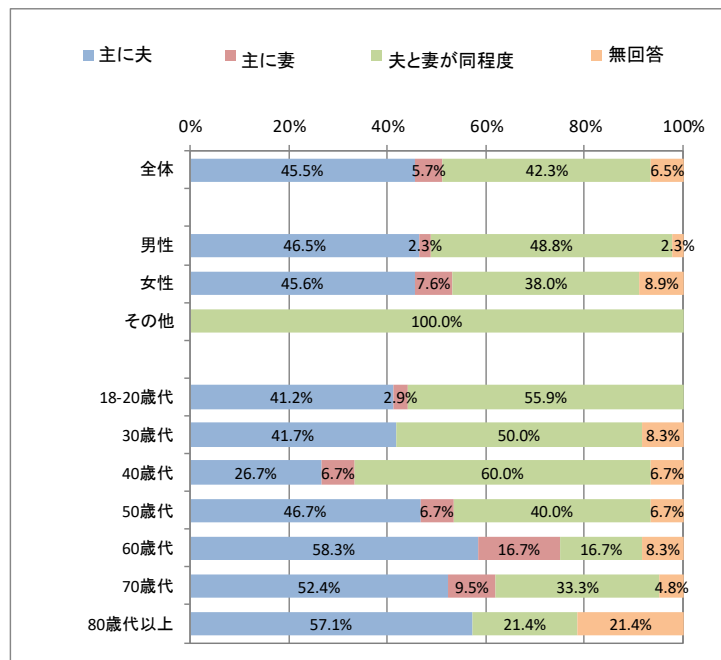
【全体】



【既婚者】



【未婚・離別・死別者】

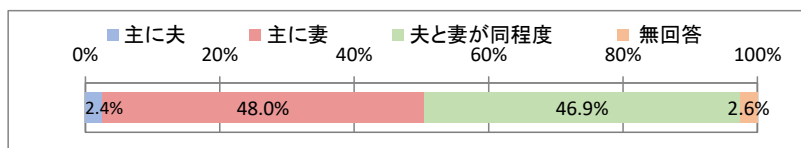


②炊事・掃除・洗濯

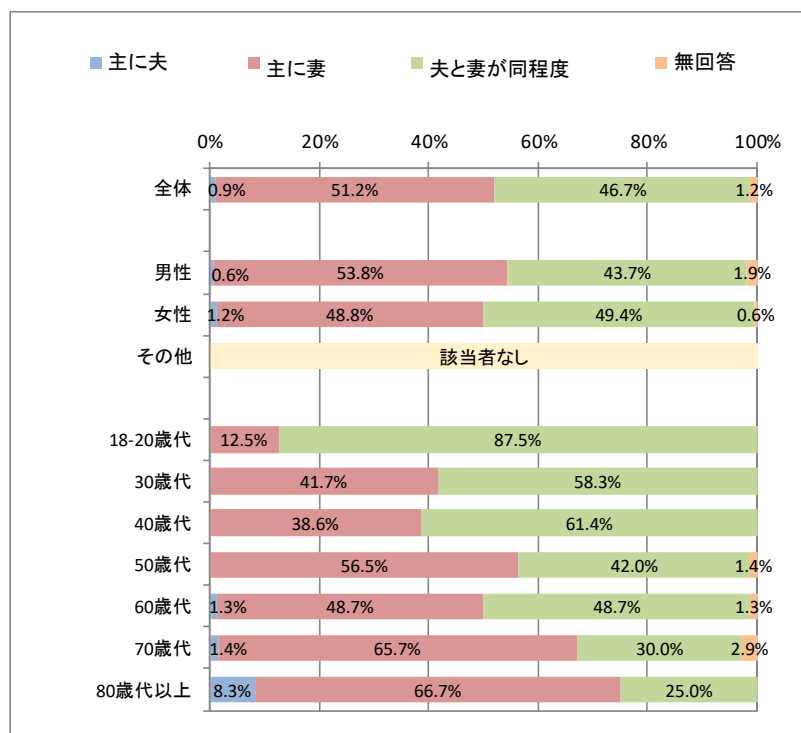
既婚者は51%が「主に妻」と回答しているが、未婚・離別・死別者は「夫と妻が同程度」が48%と最も多く、「主に妻」は39%となっている。

また、40歳代以下ではいずれも「夫と妻が同程度」の回答割合が最も多い。

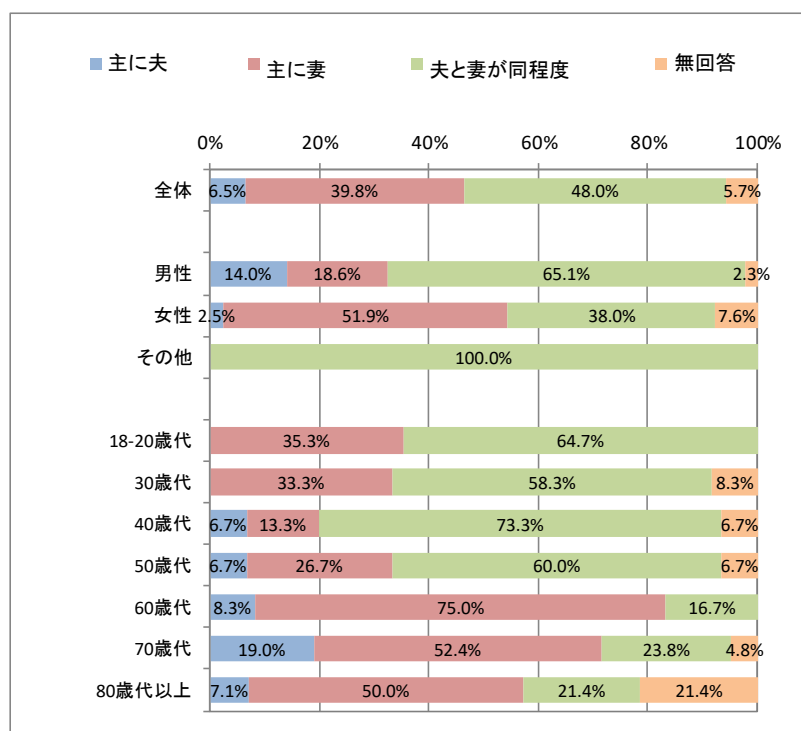
【全体】



【既婚者】



【未婚・離別・死別者】

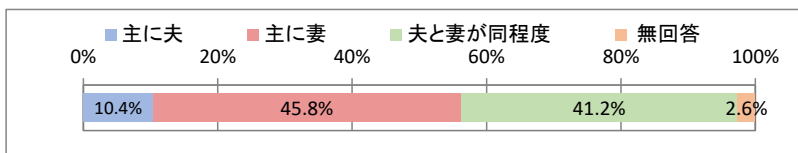


③家計のやりくり（生活費の管理）

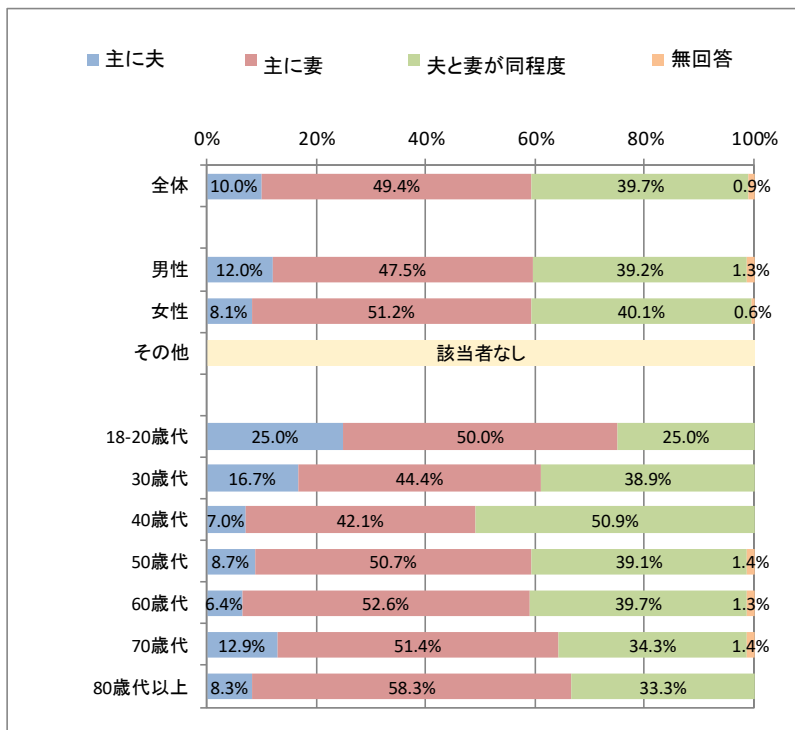
既婚者は49%が「主に妻」と回答しているのに対し、未婚・離別・死別者は「夫と妻が同程度」が45%、「主に妻」が36%となっている。

また、未婚・離別・死別者の40歳代以下では、「夫と妻が同程度」が最も多く半数以上を占めている。

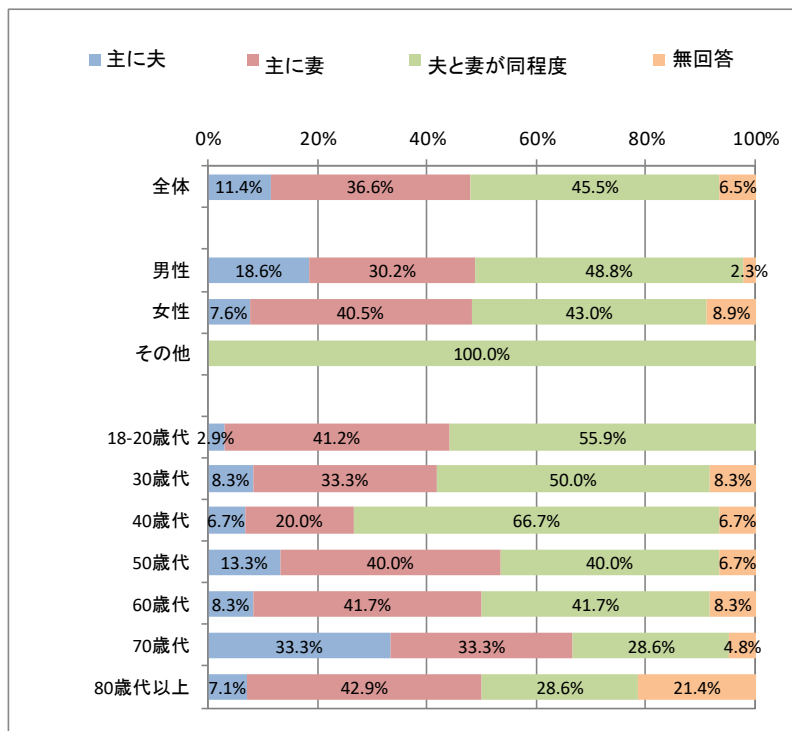
【全体】



【既婚者】



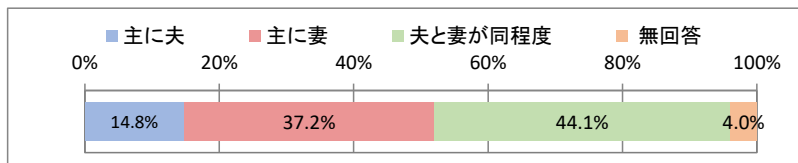
【未婚・離別・死別者】



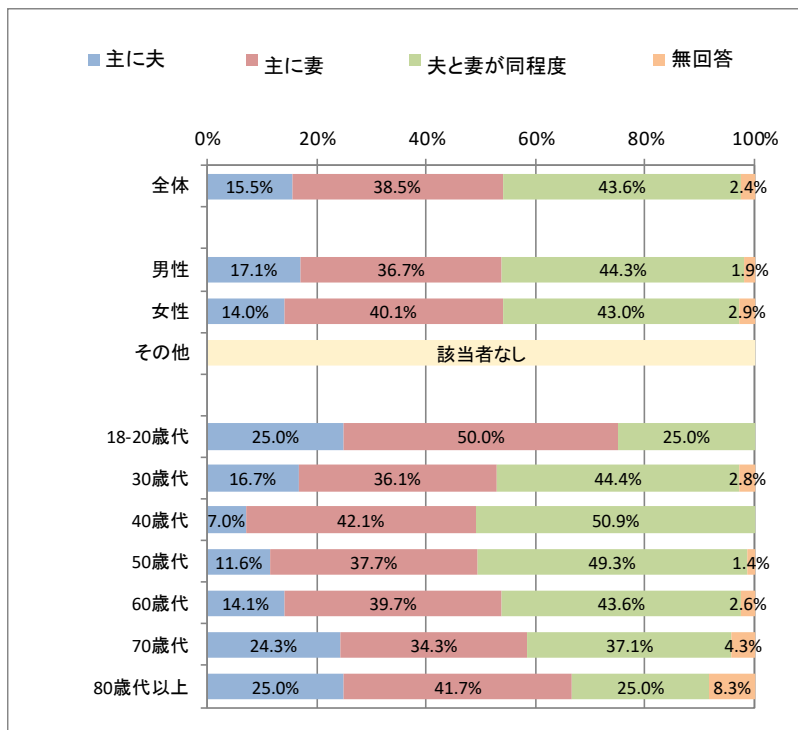
④預貯金の管理

既婚者は「夫と妻が同程度」と43%が回答しており、次いで「主に妻」が38%となっている。未婚・離別・死別者は、既婚者と同様「夫と妻が同程度」が最も多く45%となっている。また、いずれの年代も「主に夫」の回答を「主に妻」の回答が上回っている。

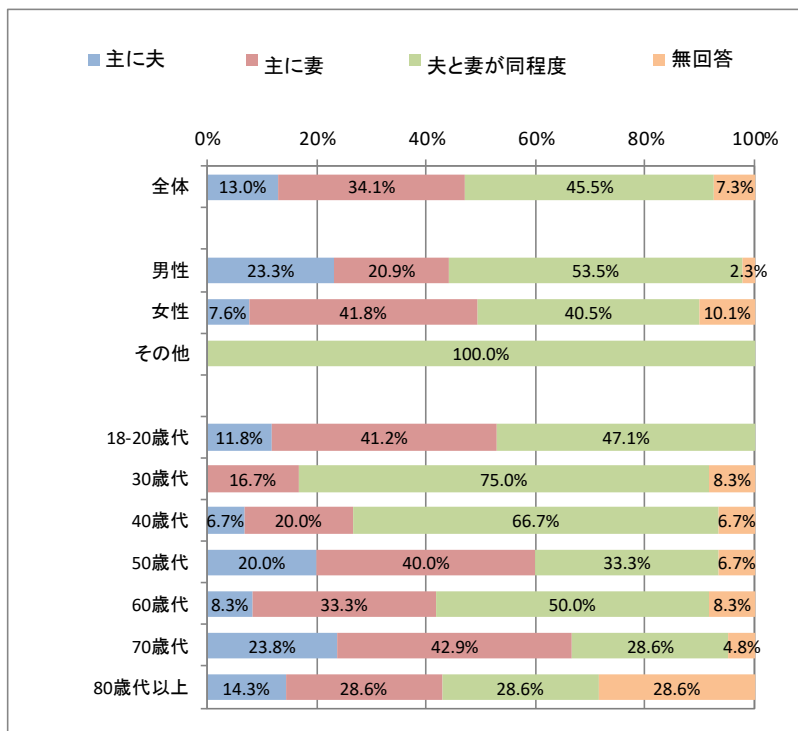
【全体】



【既婚者】



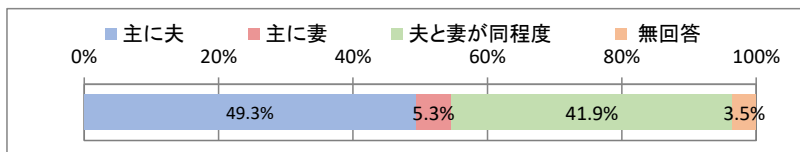
【未婚・離別・死別者】



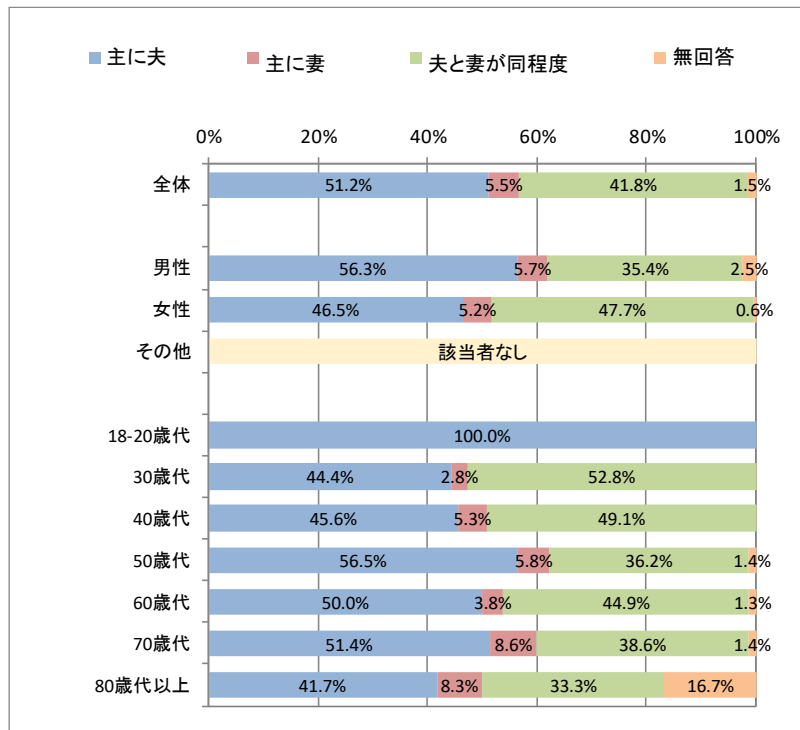
⑤家の軽微な修繕、庭の手入れ

既婚者の51%が「主に夫」となっているのに対し、未婚・離別・死別者は44%となっている。また、いずれの年代も「主に妻」の回答を「主に夫」の回答が大きく上回っている。

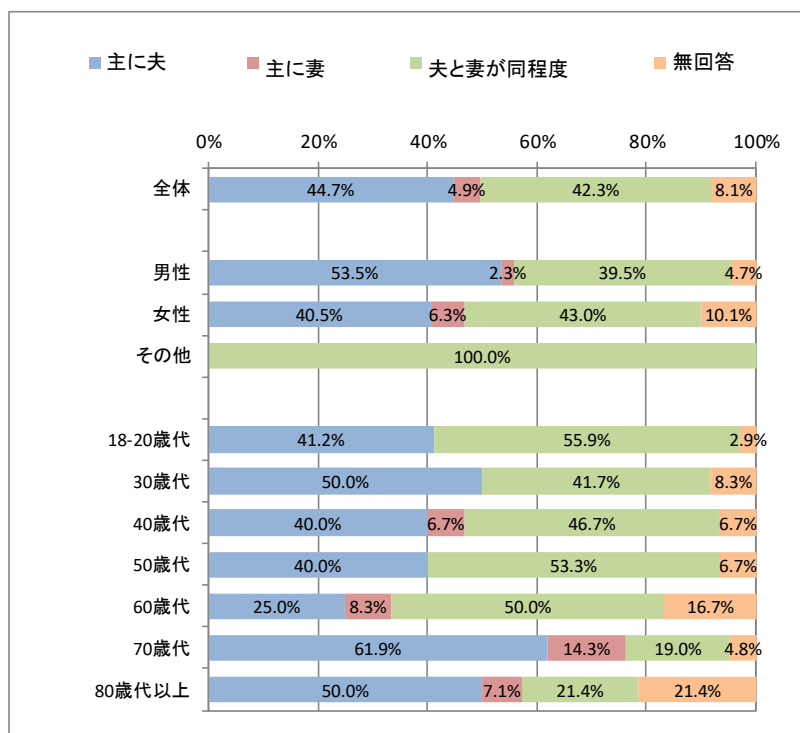
【全体】



【既婚者】



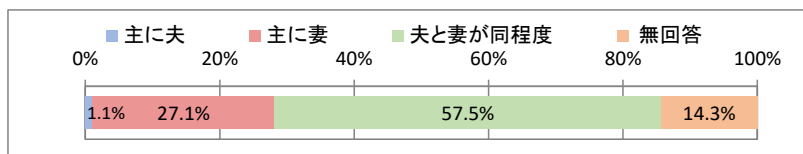
【未婚・離別・死別者】



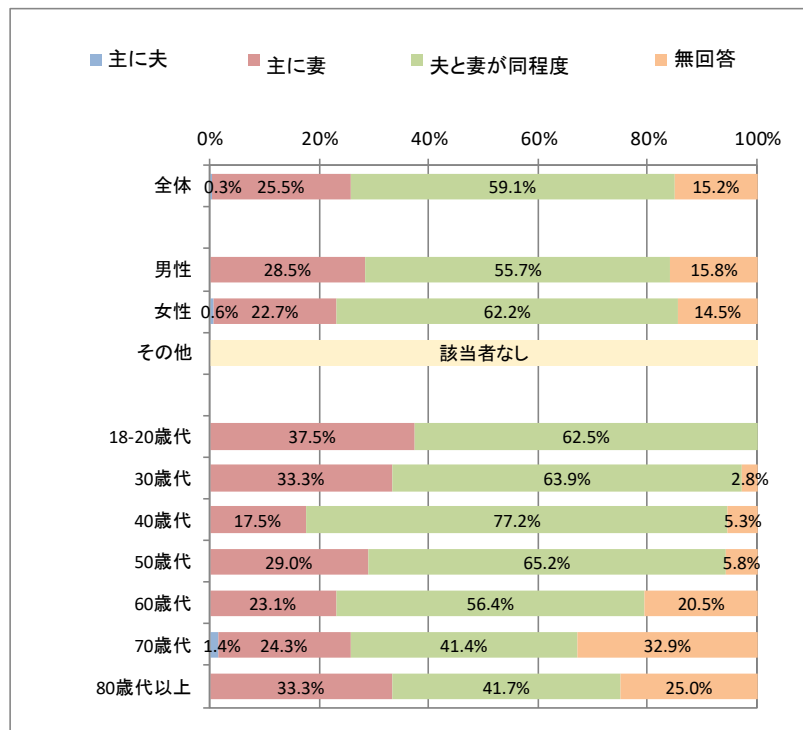
⑥乳幼児の世話

既婚者、未婚・離別・死別者とも「夫と妻が同程度」の回答が半数以上を占めている。
また、いずれの年代も「主に夫」の回答を「主に妻」の回答が大きく上回っている。

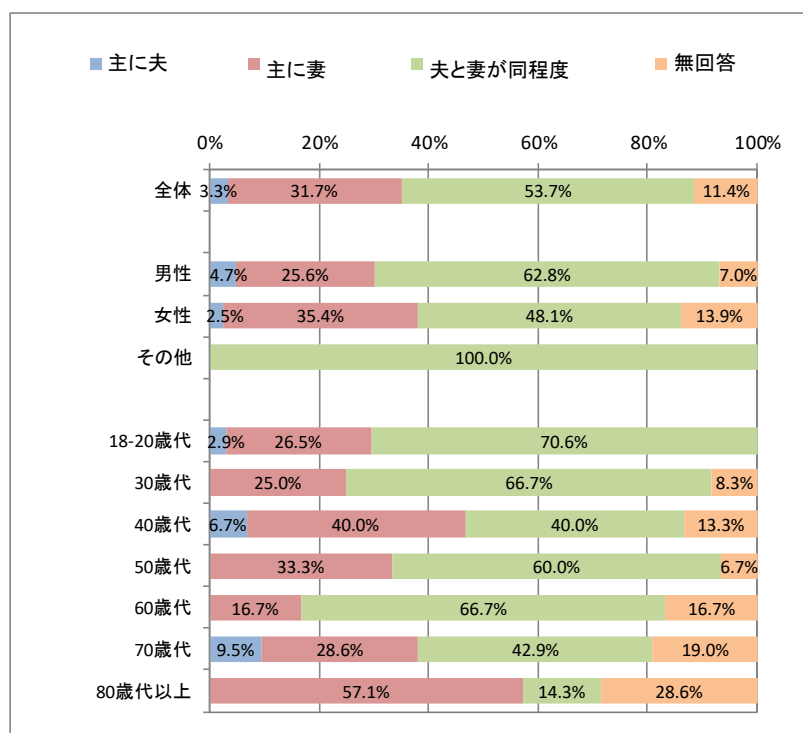
【全体】



【既婚者】



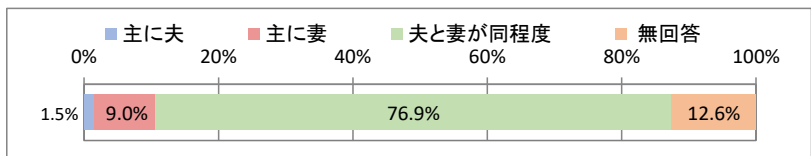
【未婚・離別・死別者】



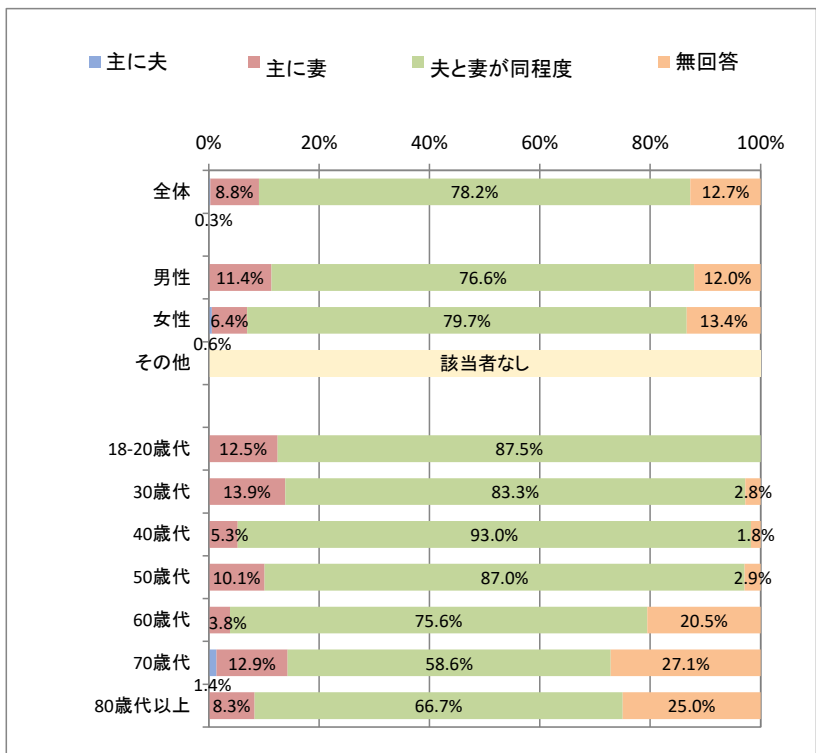
⑦子どものしつけや教育

既婚者、未婚・離別・死別者とも「夫と妻が同程度」の回答が7割以上を占めている。
 「主に夫」の回答は既婚者では70歳代でわずかにある以外、見られない。

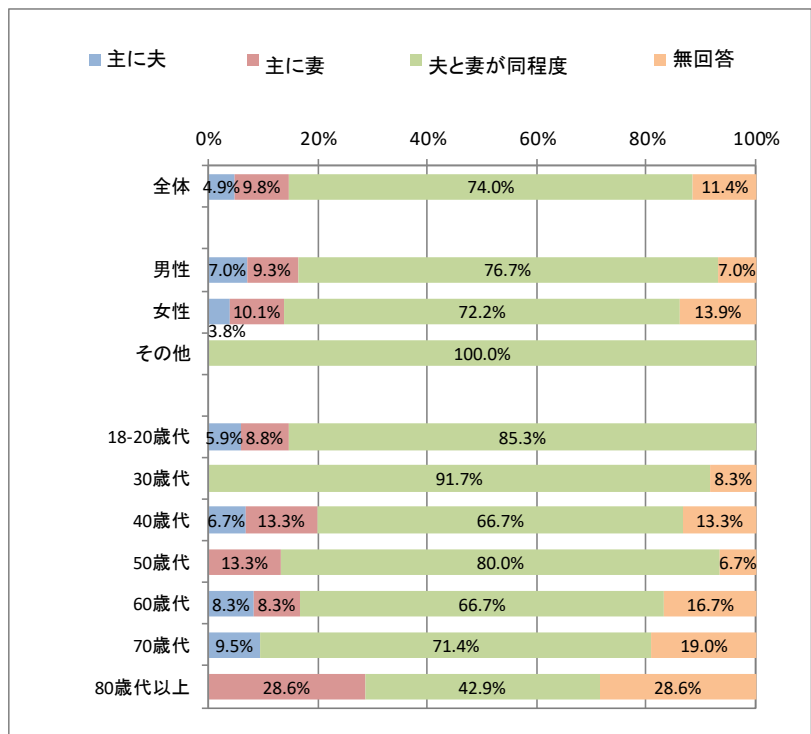
【全体】



【既婚者】



【未婚・離別・死別者】

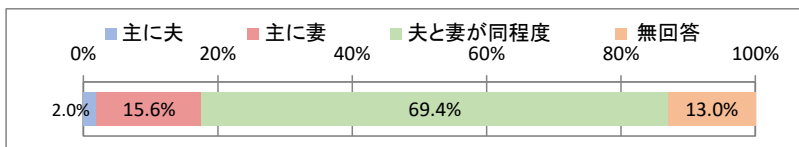


⑧子どもの学校行事への参加

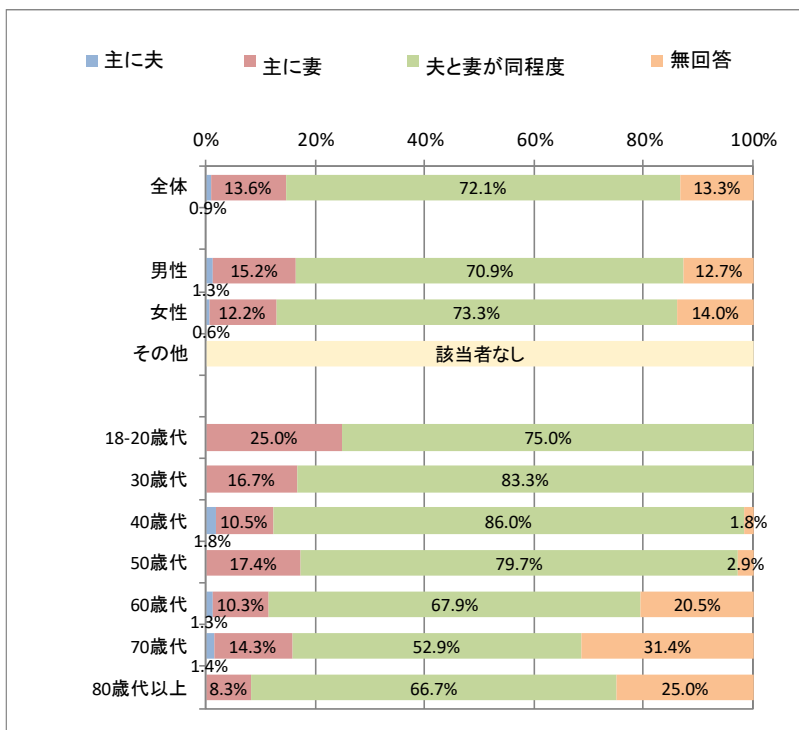
既婚者、未婚・離別・死別者とも「夫と妻が同程度」の回答が6割以上を占めている。

年代別に見ると、既婚者は年代が高くなるに従い「主に妻」の割合が少なくなるのに対して、未婚・離別・死別者では多くなる傾向がうかがえる。

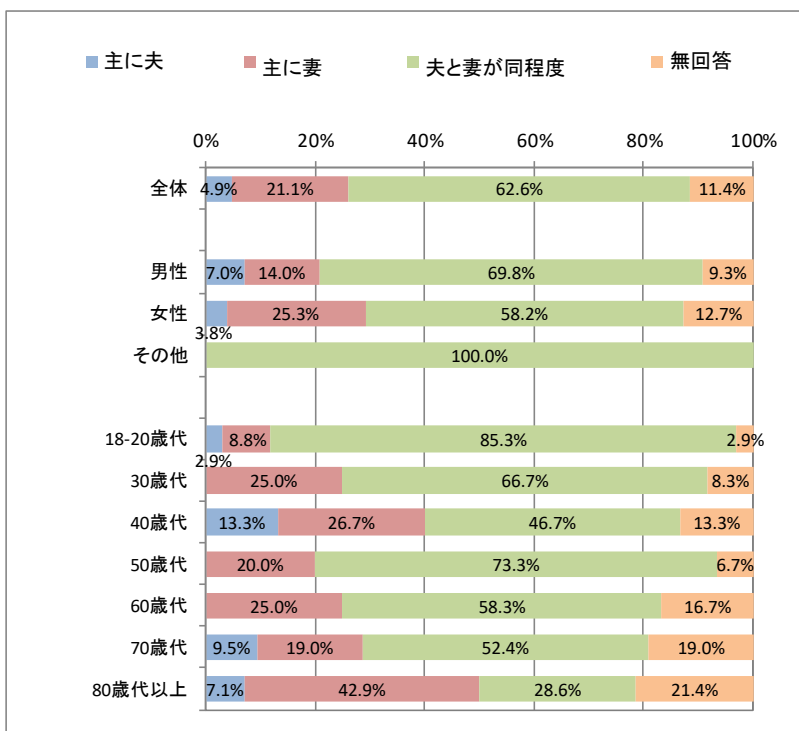
【全体】



【既婚者】



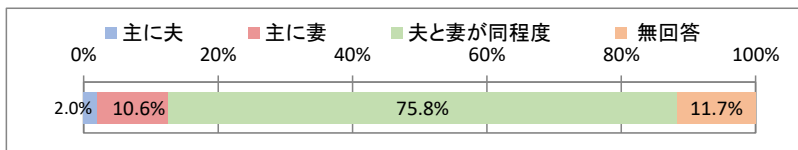
【未婚・離別・死別者】



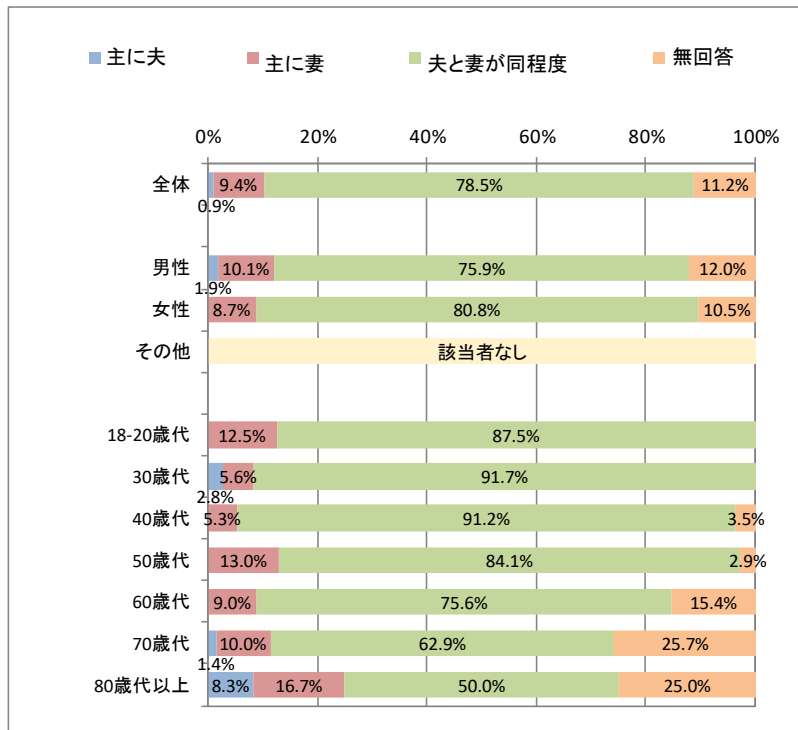
⑨親や家族の介護・看護

既婚者、未婚・離別・死別者とも「夫と妻が同程度」の回答が6割以上を占めている。
また、ほとんどの年代で「主に夫」の回答を「主に妻」の回答が上回っている。

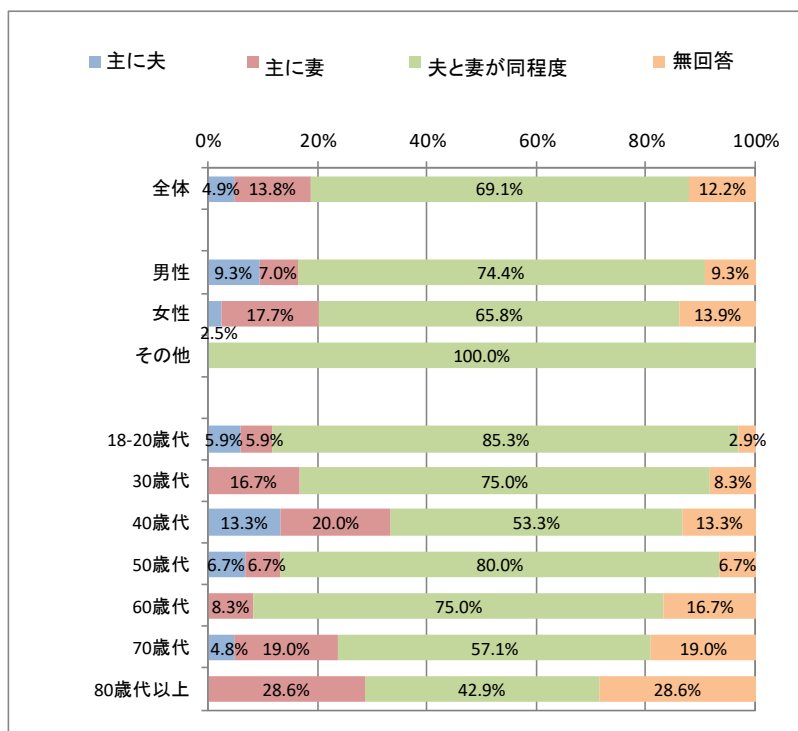
【全体】



【既婚者】



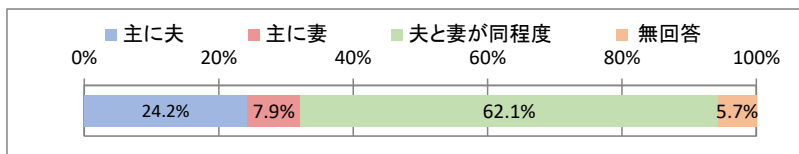
【未婚・離別・死別者】



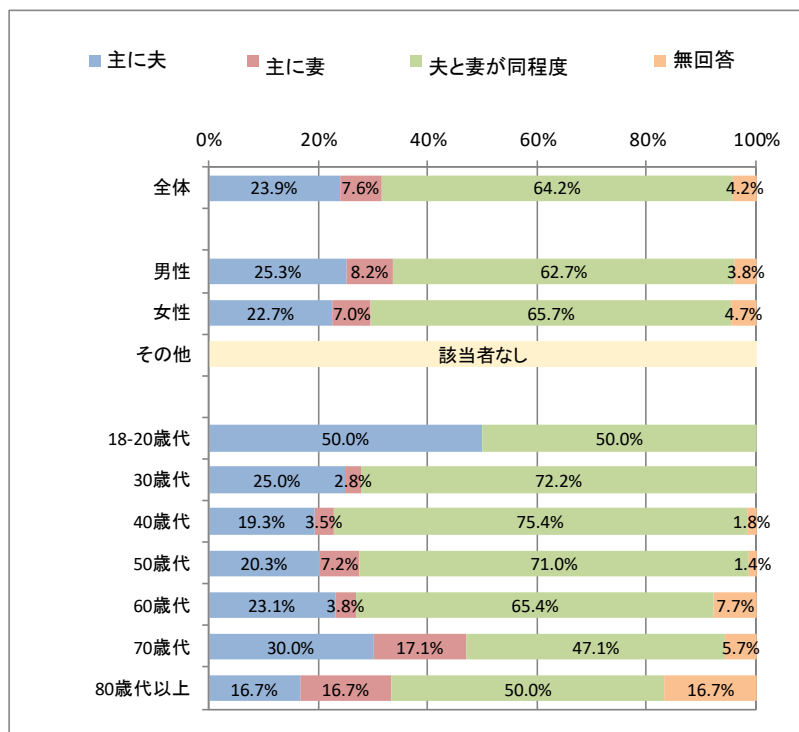
⑩町内会・自治会への参加

既婚者、未婚・離別・死別者とも「夫と妻が同程度」の回答が5割以上を占めている。
また、いずれの年代も「主に妻」の回答を「主に夫」の回答が上回っている。

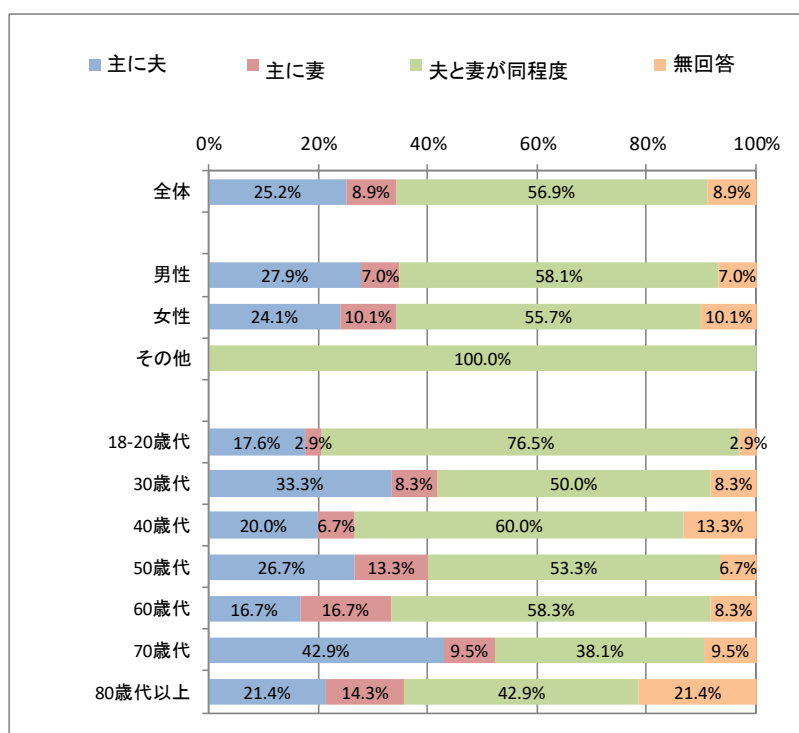
【全体】



【既婚者】

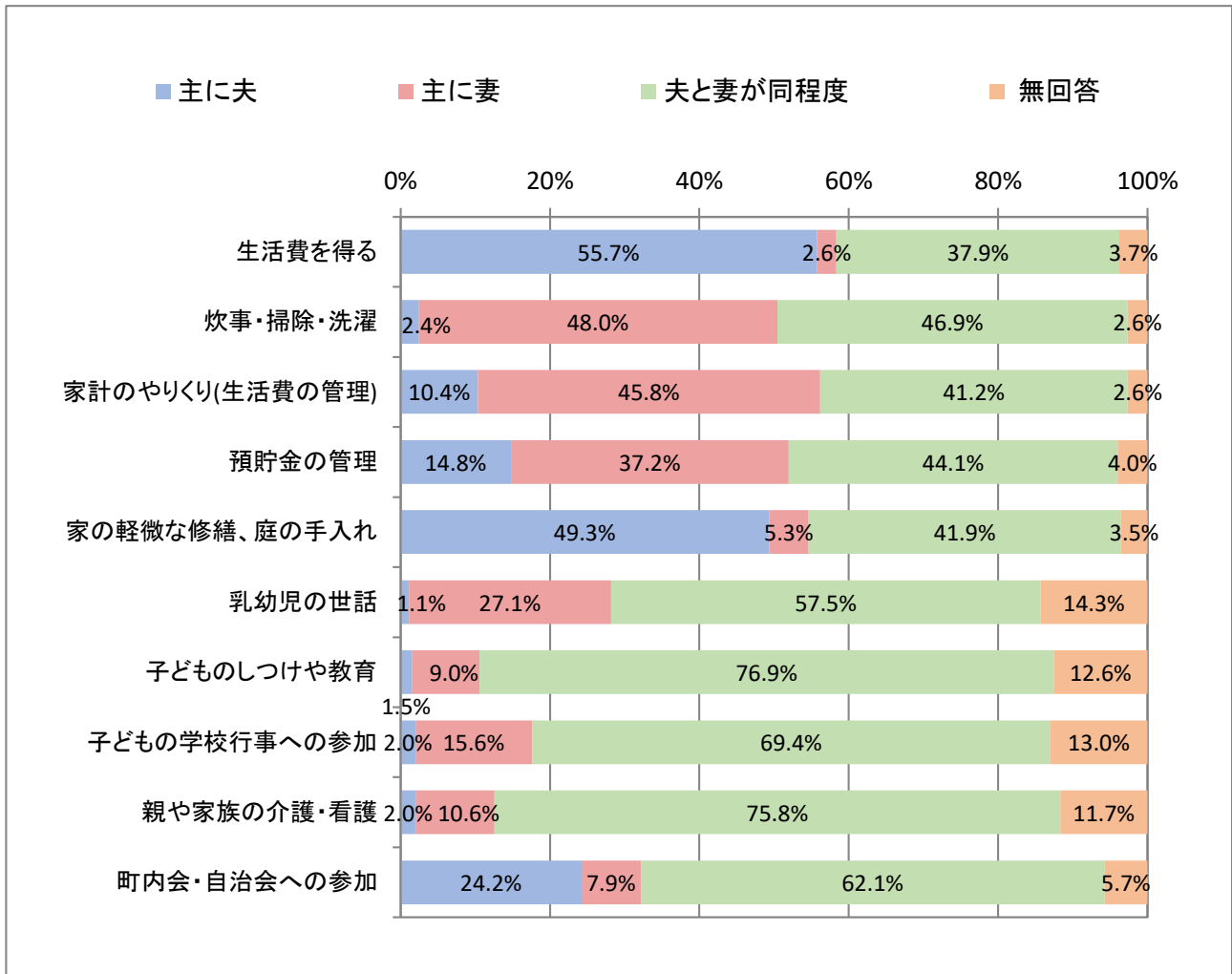


【未婚・離別・死別者】



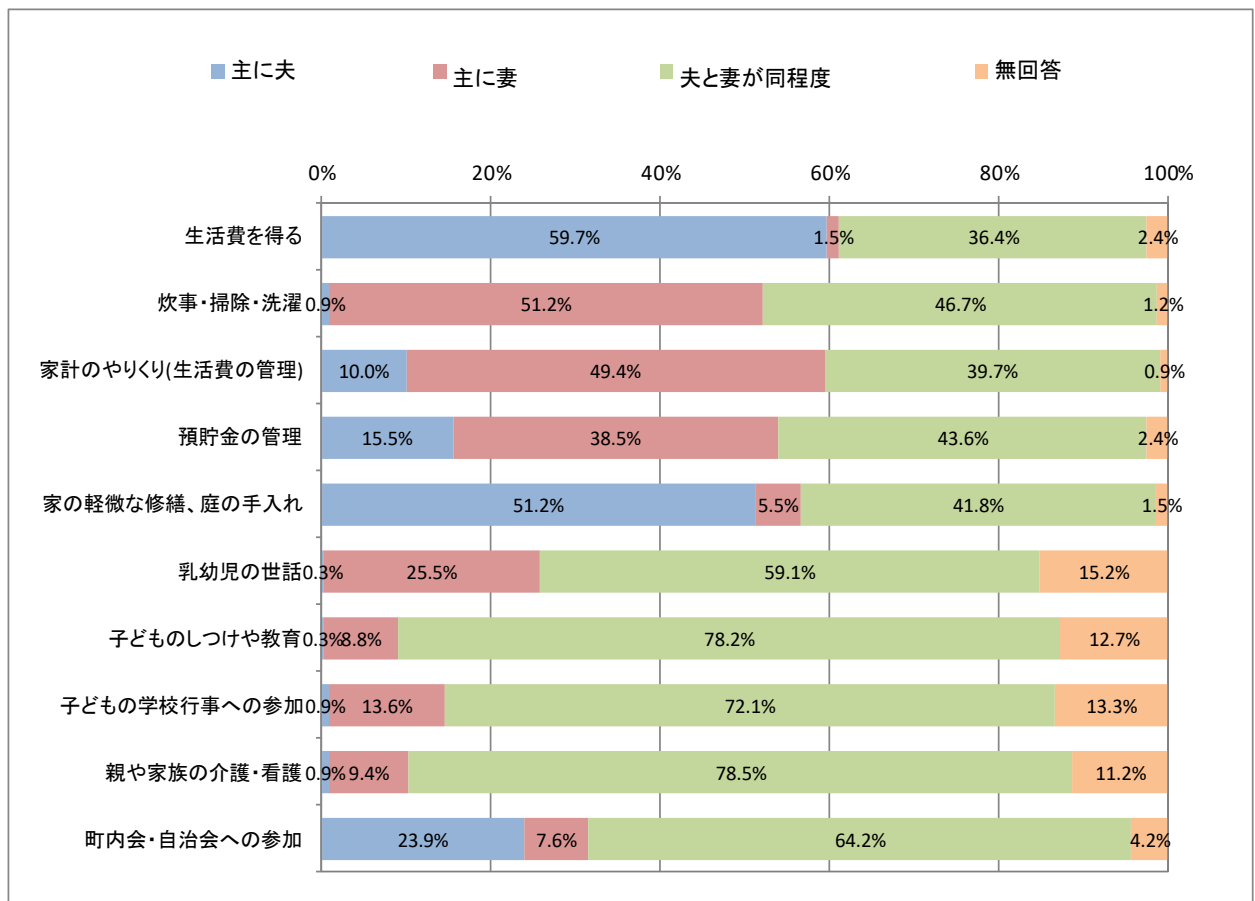
■①～⑩における「全体」の回答結果一覧

	主に夫	主に妻	夫と妻が同程度	無回答
①生活費を得る	55.7%	2.6%	37.9%	3.7%
②炊事・掃除・洗濯	2.4%	48.0%	46.9%	2.6%
③家計のやりくり(生活費の管理)	10.4%	45.8%	41.2%	2.6%
④預貯金の管理	14.8%	37.2%	44.1%	4.0%
⑤家の軽微な修繕、庭の手入れ	49.3%	5.3%	41.9%	3.5%
⑥乳幼児の世話	1.1%	27.1%	57.5%	14.3%
⑦子どものしつけや教育	1.5%	9.0%	76.9%	12.6%
⑧子どもの学校行事への参加	2.0%	15.6%	69.4%	13.0%
⑨親や家族の介護・看護	2.0%	10.6%	75.8%	11.7%
⑩町内会・自治会への参加	24.2%	7.9%	62.1%	5.7%



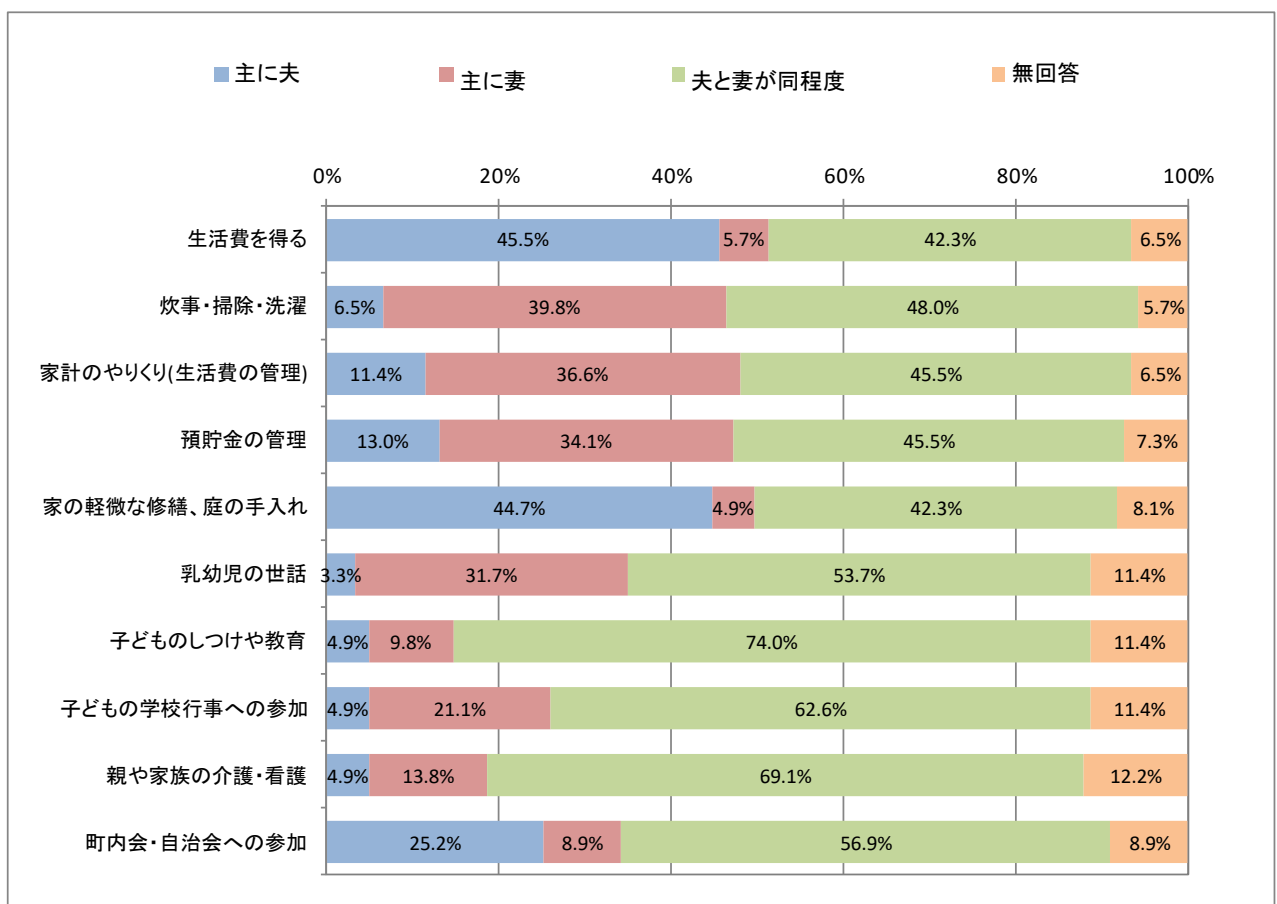
■ ①～⑩における「既婚者」の回答結果一覧

	主に夫	主に妻	夫と妻が同程度	無回答
①生活費を得る	59.7%	1.5%	36.4%	2.4%
②炊事・掃除・洗濯	0.9%	51.2%	46.7%	1.2%
③家計のやりくり(生活費の管理)	10.0%	49.4%	39.7%	0.9%
④預貯金の管理	15.5%	38.5%	43.6%	2.4%
⑤家の軽微な修繕、庭の手入れ	51.2%	5.5%	41.8%	1.5%
⑥乳幼児の世話	0.3%	25.5%	59.1%	15.2%
⑦子どものしつけや教育	0.3%	8.8%	78.2%	12.7%
⑧子どもの学校行事への参加	0.9%	13.6%	72.1%	13.3%
⑨親や家族の介護・看護	0.9%	9.4%	78.5%	11.2%
⑩町内会・自治会への参加	23.9%	7.6%	64.2%	4.2%



■ ①～⑩における「未婚・離別・死別者」の回答結果一覧

	主に夫	主に妻	夫と妻が同程度	無回答
①生活費を得る	45.5%	5.7%	42.3%	6.5%
②炊事・掃除・洗濯	6.5%	39.8%	48.0%	5.7%
③家計のやりくり(生活費の管理)	11.4%	36.6%	45.5%	6.5%
④預貯金の管理	13.0%	34.1%	45.5%	7.3%
⑤家の軽微な修繕、庭の手入れ	44.7%	4.9%	42.3%	8.1%
⑥乳幼児の世話	3.3%	31.7%	53.7%	11.4%
⑦子どものしつけや教育	4.9%	9.8%	74.0%	11.4%
⑧子どもの学校行事への参加	4.9%	21.1%	62.6%	11.4%
⑨親や家族の介護・看護	4.9%	13.8%	69.1%	12.2%
⑩町内会・自治会への参加	25.2%	8.9%	56.9%	8.9%



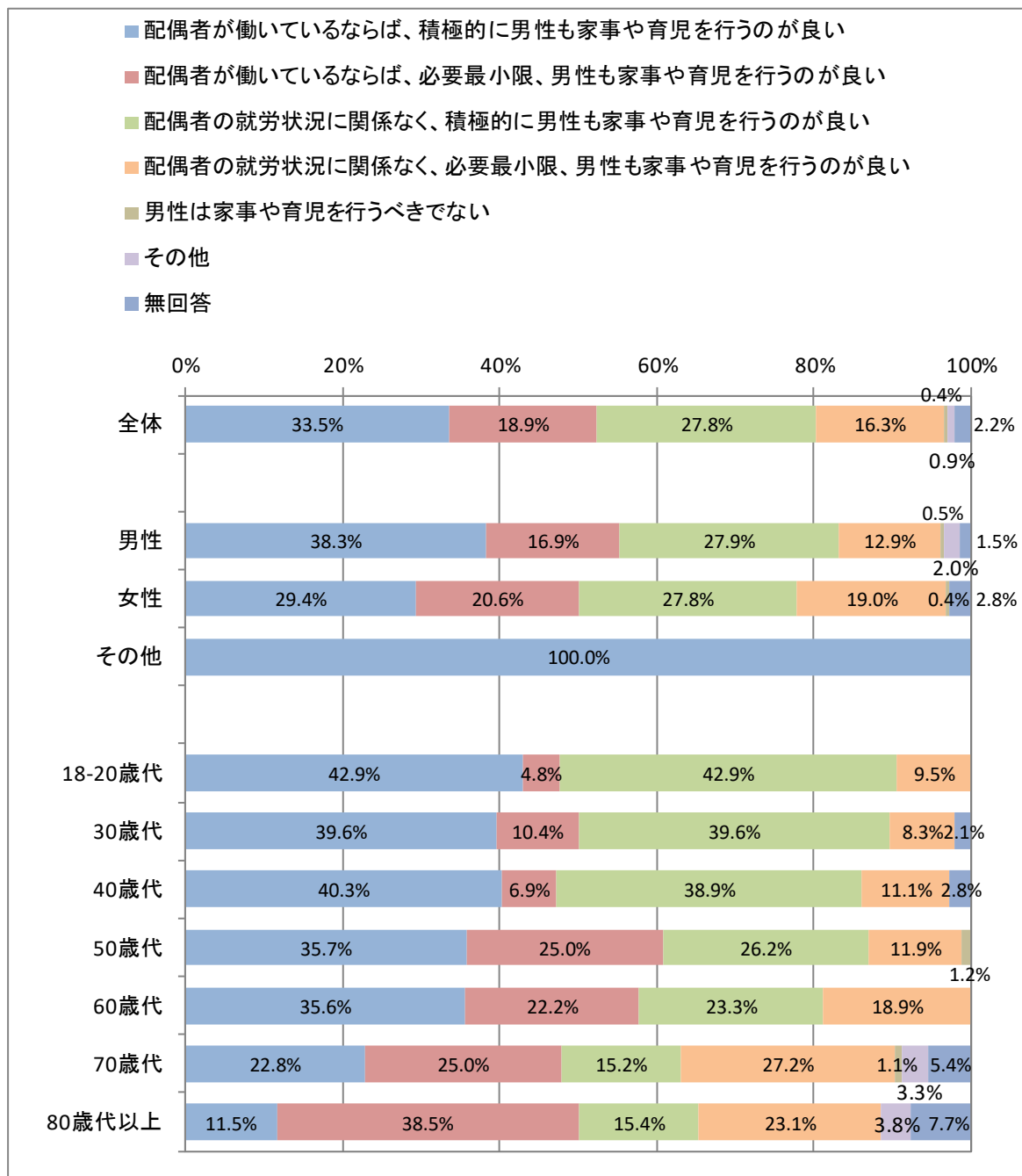
(3) 家事や育児をすることについて

問9 あなたは、男性が家事や育児をすることについて、どうお考えですか。

全体では、「配偶者が働いているならば、積極的に男性も家事や育児を行うのが良い」が33%、次いで「配偶者の就労状況に関係なく、積極的に男性も家事や育児を行うのが良い」が27%となっているなど、『積極的に男性も家事や育児を行うのが良い』との回答が多くなっている。

男女別に見ると、「配偶者が働いているならば、積極的に男性も家事や育児を行うのが良い」は男性で約4割と多くなっている。

年代別に見ると、年代が高まるに従い「積極的」が少なくなる一方、「必要最低限」が多くなる傾向が見受けられる。

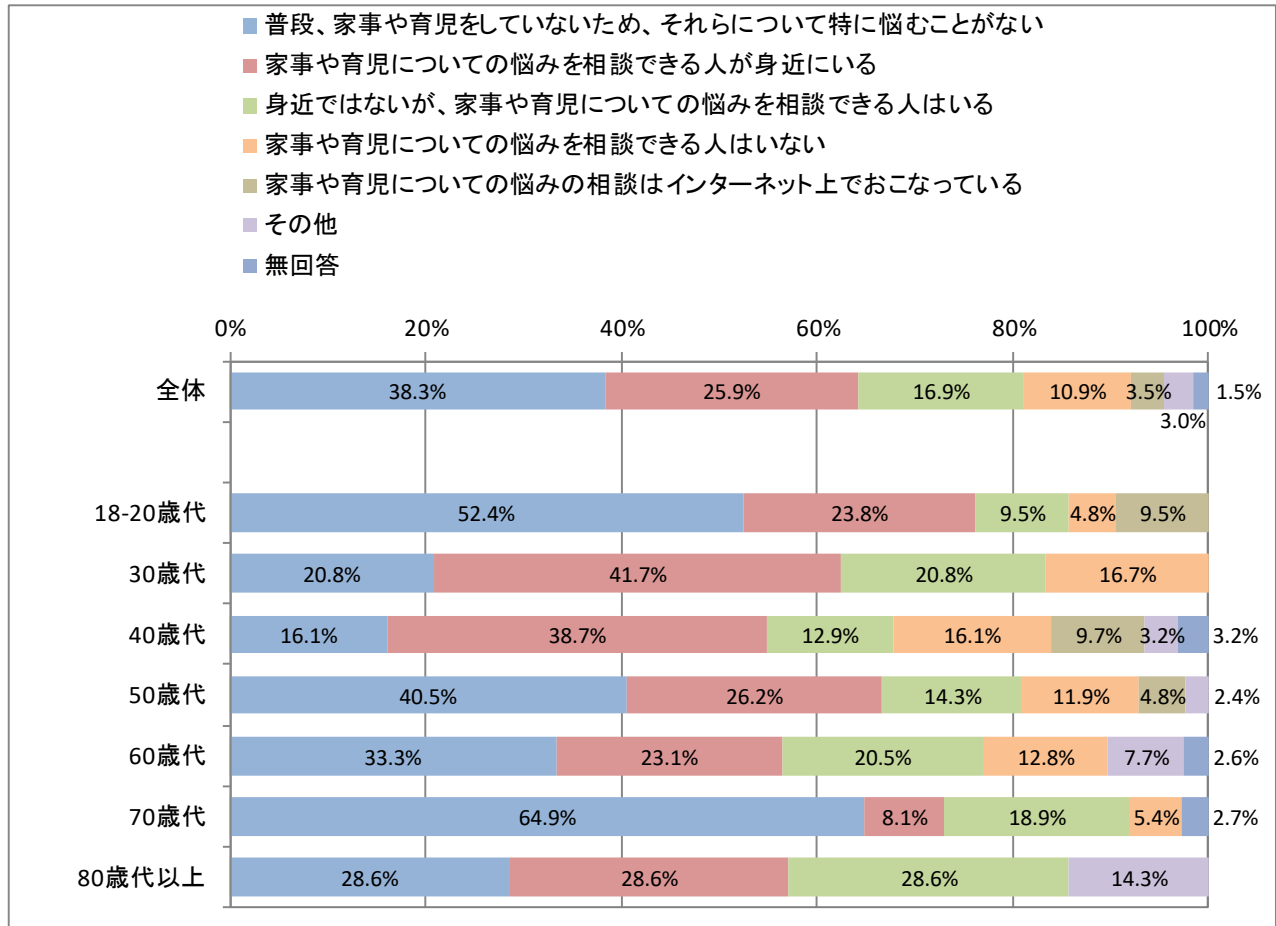


(4) 家事や育児の悩みについて

問 10 男性の方におたずねします。あなたは家事や育児の悩みを相談できる人は身近にいますか。

全体では、「普段、家事や育児をしていないため、それらについて特に悩むことがない」が 38%、次いで「家事や育児についての悩みを相談できる人が身近にいる」が 25%、「身近ではないが、家事や育児についての悩みを相談できる人はいる」が 16%となっている。

年代別に見ると、「家事や育児についての悩みを相談できる人が身近にいる」は 30 歳代と 40 歳代で多くなっている。



◆職業・仕事について

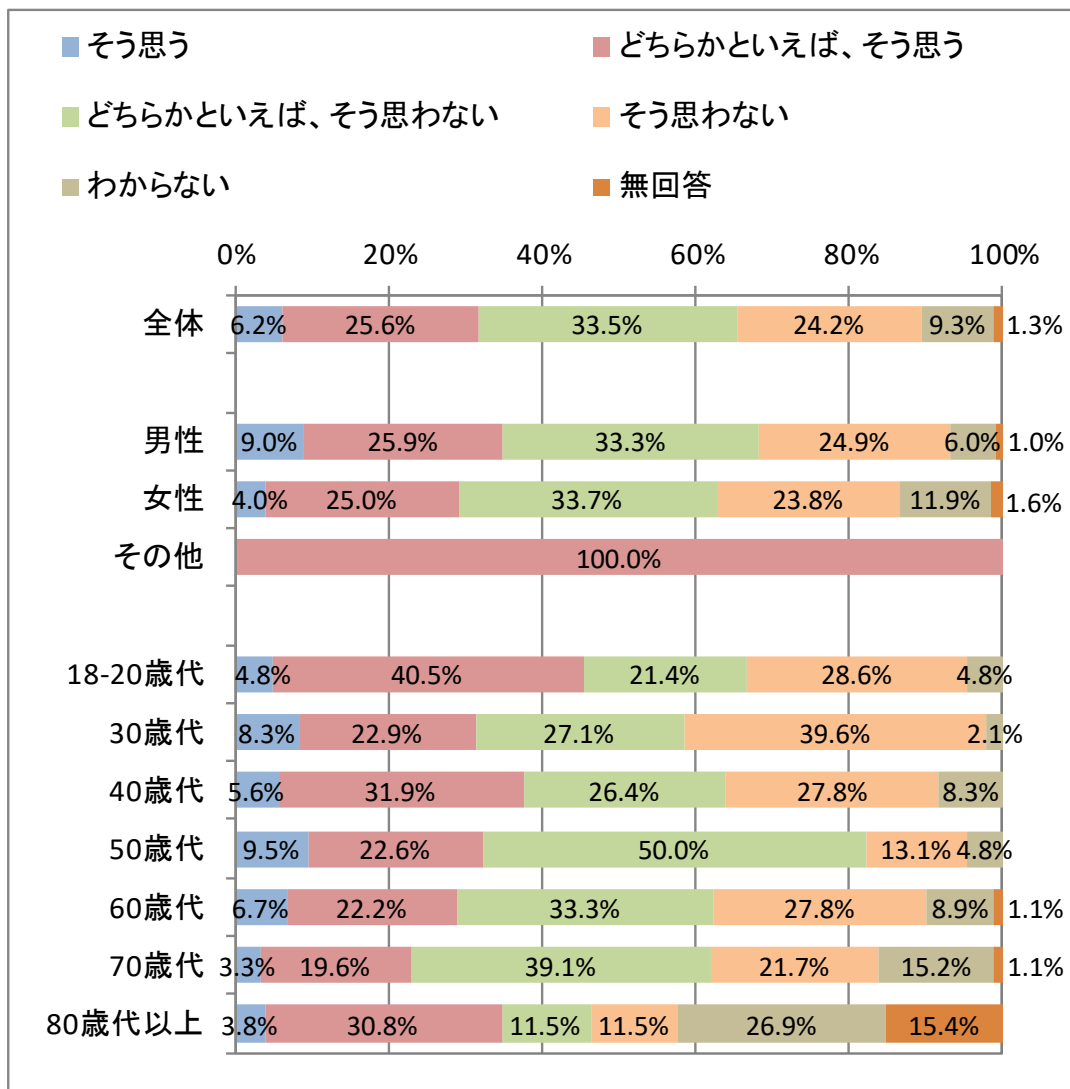
(1) 職業・仕事

問 11 現在の社会は家庭と両立しながら働きやすい状況にあると思いますか。

全体では、「どちらかといえば、そう思わない」の回答が33%と最も多く、「そうは思わない」の24%と合わせた『そう思わない』が半数以上を占めている。

男女別に見ても、ほぼ同様な傾向が見受けられる。

また80歳代以上を除くすべての年代で、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」をあわせた『そう思う』よりも、「そう思わない」と「どちらかといえば、そう思わない」をあわせた『そう思わない』が上回っている。



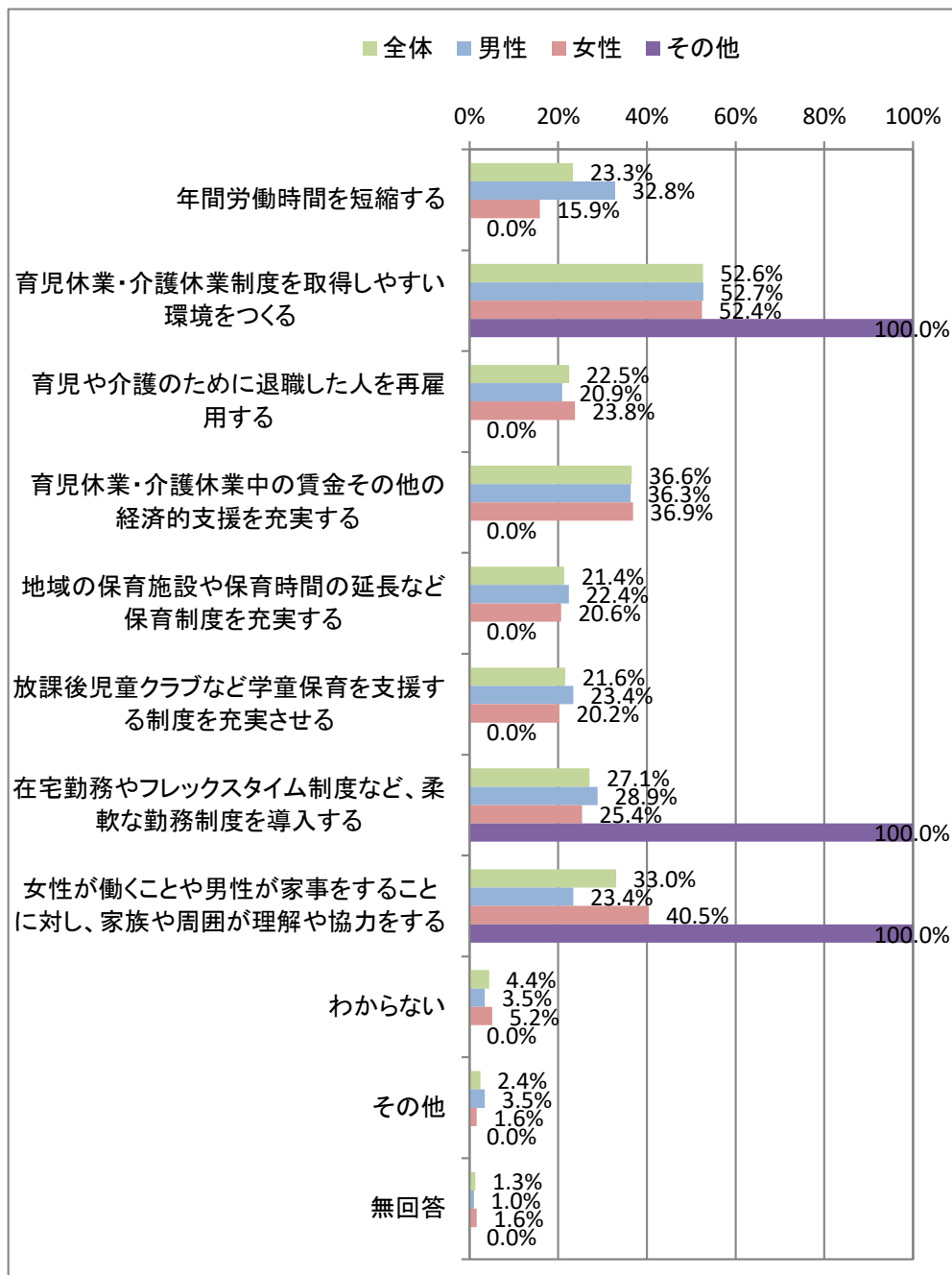
(2) 働きやすい職場

問 12 一般的に家庭と両立しながら働きやすい職場を実現するために、どのような条件整備が必要だと思いますか。

全体では、「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が 52%と最も多く回答されており、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する」が 36%となっている。

男女別に見ると、男性・女性ともに「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が最も多くなっている。

年代別に見ても、30歳代以外のすべての年代で「育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる」が多くなっている。



区分	働きやすい職場(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合											
	全体	年間労働時間を短縮する	育児休業・介護休業制度を取得しやすい環境をつくる	育児や介護のために退職した人を再雇用する	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実する	地域の保育施設や保育時間の延長など保育制度を充実する	放課後児童クラブなど児童保育を支援する制度を充実させる	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入する	女性が働くことや男性が家事をするこ とに対し、家族や周囲が理解や協力を する	わからない	その他	無回答
全体	454 100.0%	106 23.3%	239 52.6%	102 22.5%	166 36.6%	97 21.4%	98 21.6%	123 27.1%	150 33.0%	20 4.4%	11 2.4%	6 1.3%
男女別	男性	201 100.0%	66 32.8%	106 52.7%	42 20.9%	73 36.3%	45 22.4%	47 23.4%	58 28.9%	47 23.4%	7 3.5%	2 1.0%
	女性	252 100.0%	40 15.9%	132 52.4%	60 23.8%	93 36.9%	52 20.6%	51 20.2%	64 25.4%	102 40.5%	13 5.2%	4 1.6%
	その他	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
年代別	18-20歳代	42 100.0%	12 28.6%	23 54.8%	10 23.8%	14 33.3%	11 26.2%	6 14.3%	17 40.5%	12 28.6%	1 2.4%	0 0.0%
	30歳代	48 100.0%	17 35.4%	16 33.3%	11 22.9%	17 35.4%	12 25.0%	10 20.8%	16 33.3%	14 29.2%	1 2.1%	0 0.0%
	40歳代	72 100.0%	23 31.9%	30 41.7%	16 22.2%	20 27.8%	17 23.6%	19 26.4%	23 31.9%	21 29.2%	2 2.8%	0 0.0%
	50歳代	84 100.0%	28 33.3%	47 56.0%	17 20.2%	27 32.1%	20 23.8%	15 17.9%	26 31.0%	26 31.0%	2 2.4%	1 1.2%
	60歳代	90 100.0%	11 12.2%	59 65.6%	11 12.2%	41 45.6%	19 21.1%	26 28.9%	26 28.9%	25 27.8%	3 3.3%	1 1.1%
	70歳代	92 100.0%	15 16.3%	52 56.5%	27 29.3%	37 40.2%	13 14.1%	18 19.6%	14 15.2%	40 43.5%	9 9.8%	0 0.0%
	80歳代以上	26 100.0%	0 0.0%	12 46.2%	10 38.5%	10 38.5%	5 19.2%	4 15.4%	1 3.8%	12 46.2%	2 7.7%	1 3.8%

(3) 女性の仕事・職場

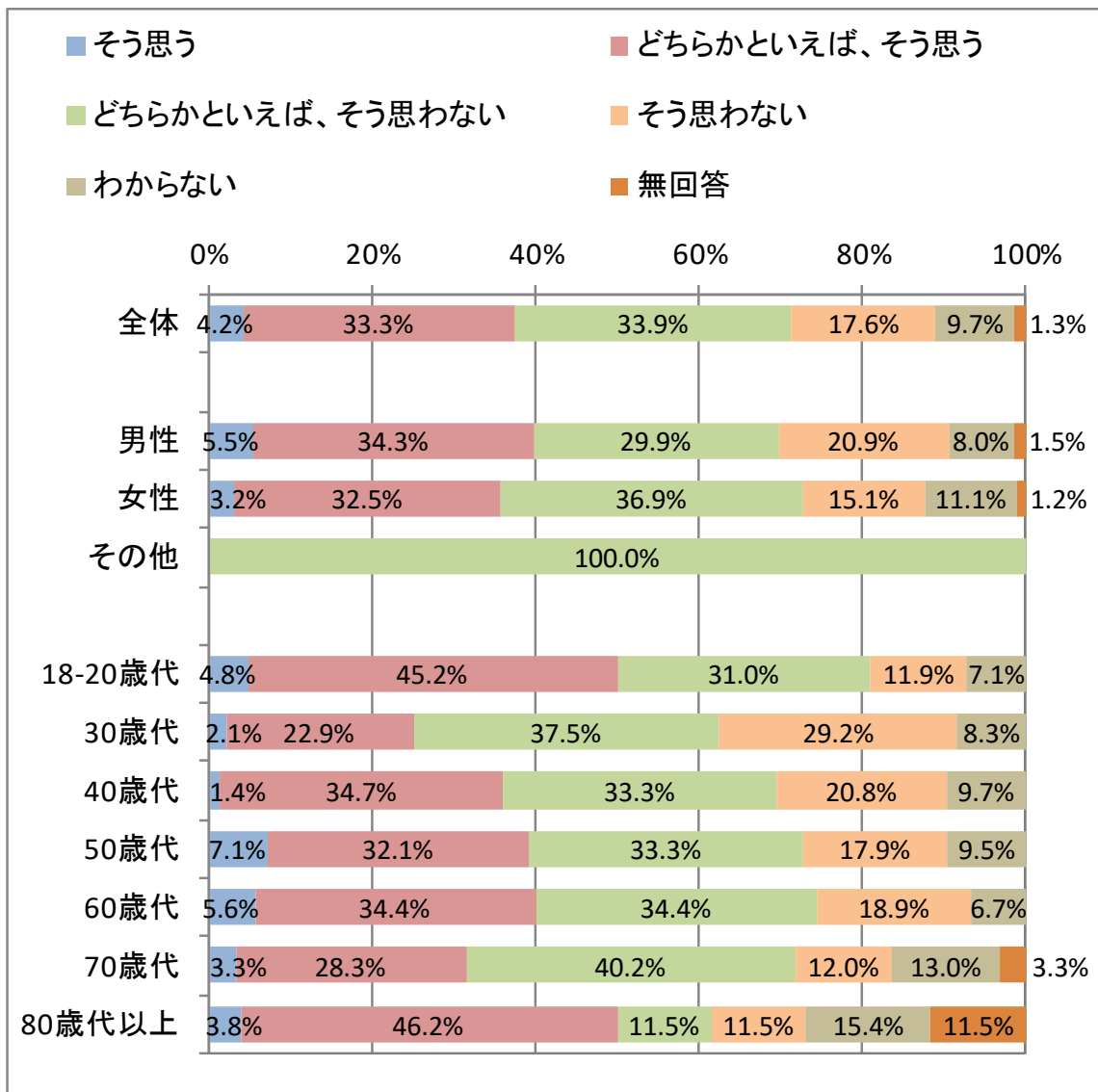
①女性が働きやすい状況

問 13 一般的に現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。

全体では、「どちらかといえば、そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」の割合が高いものの、「どちらかといえば、そう思う」と「そう思う」を合わせた『そう思う』が半数以上を占めている。

男女別に見ると、『そう思う』は約半数となっている。

年代別に見ると、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『そう思う』が、18-20歳代と80歳代以上の『そう思う』を上回っている。



②働きやすいと思わない理由（「どちらかといえばそう思わない」・「そう思わない」と回答した方）

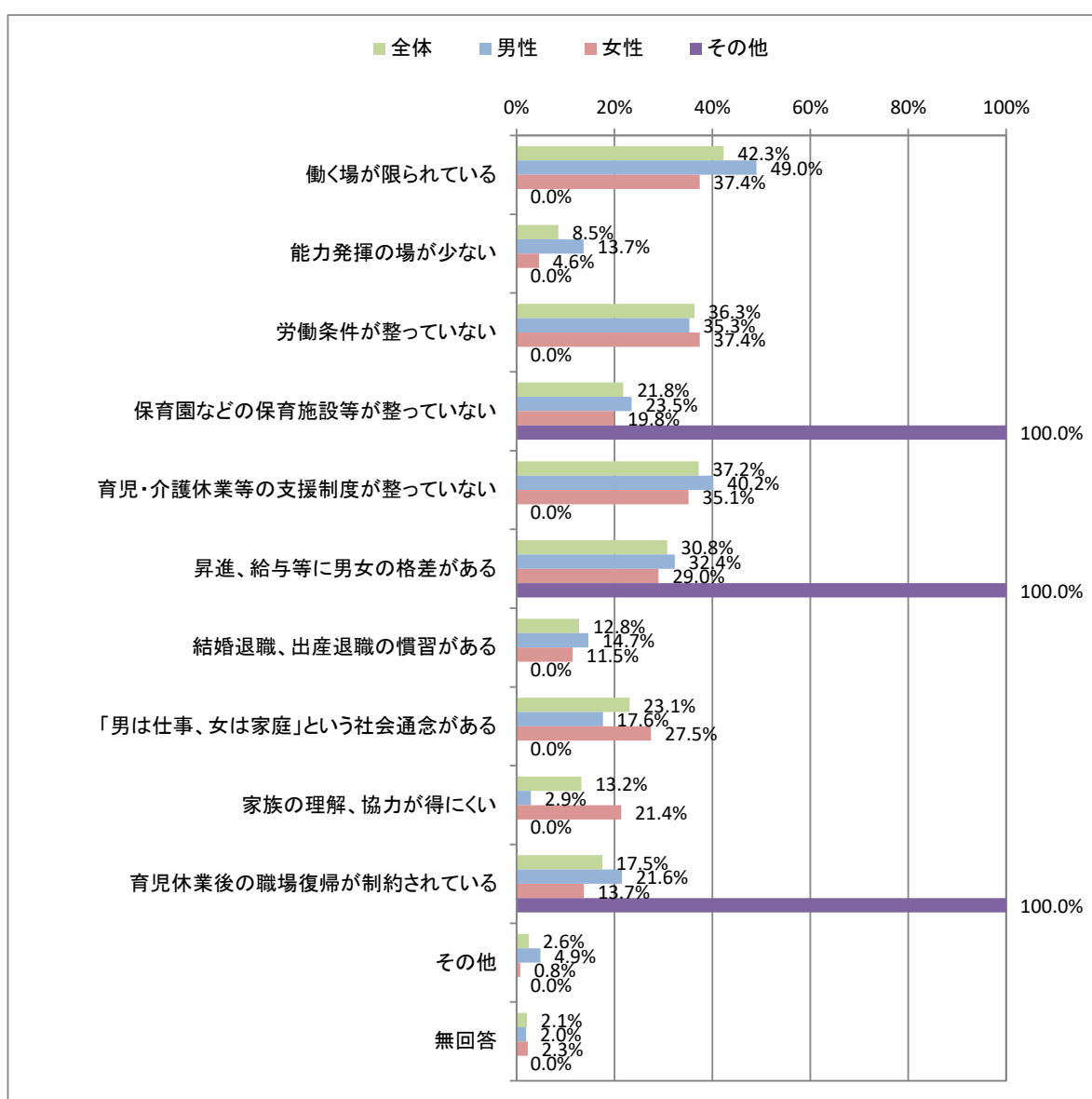
問 14 女性が働きやすいと思わない理由は何ですか。

全体では、「働く場が限られている」が 42%、次いで「育児・介護休業等の支援制度が整っていない」が 37%となっている。

男女別に見ると、男性は「働く場が限られている」が多く、次いで「育児・介護休業等の支援制度が整っていない」の順となり、女性は「働く場が限られている」と「労働条件が整っていない」が多く、次いで「育児・介護休業等の支援制度が整っていない」の順となっている。

また、男女差がもっとも大きかったのは「家族の理解、協力が得にくい」で、男性が 2%であるのに対して女性は 21%となっている。

年代別に見ると、「働く場が限られている」は 60 歳代と 70 歳代で半数以上を占めている。次いで、30 歳代と 40 歳代で 3 割から 4 割と多くなっている。



区分	女性が働きやすいと思わない理由(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合													
	全体	働く場が限られている	能力発揮の場が少ない	労働条件が整っていない	保育園などの保育施設等が整っていない	育児・介護休業等の支援制度が整っていない	昇進、給与等に男女の格差がある	結婚退職、出産退職の慣習がある	「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある	家族の理解、協力が得にくい	育児休業後の職場復帰が制約されている	その他	無回答	
全体	234 100.0%	99 42.3%	20 8.5%	85 36.3%	51 21.8%	87 37.2%	72 30.8%	30 12.8%	54 23.1%	31 13.2%	41 17.5%	6 2.6%	5 2.1%	
男女別	男性	102 100.0%	50 49.0%	14 13.7%	36 35.3%	24 23.5%	41 40.2%	33 32.4%	15 14.7%	18 17.6%	3 2.9%	22 21.6%	5 4.9%	2 2.0%
	女性	131 100.0%	49 37.4%	6 4.6%	49 37.4%	26 19.8%	46 35.1%	38 29.0%	15 11.5%	36 27.5%	28 21.4%	18 13.7%	1 0.8%	3 2.3%
	その他	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	18-20歳代	18 100.0%	5 27.8%	1 5.6%	2 11.1%	5 27.8%	4 22.2%	7 38.9%	4 22.2%	4 22.2%	1 5.6%	6 33.3%	2 11.1%	0 0.0%
年代別	30歳代	32 100.0%	11 34.4%	2 6.3%	11 34.4%	8 25.0%	10 31.3%	10 31.3%	4 12.5%	7 21.9%	5 15.6%	9 28.1%	0 0.0%	0 0.0%
	40歳代	39 100.0%	18 46.2%	3 7.7%	15 38.5%	5 12.8%	16 41.0%	12 30.8%	4 10.3%	12 30.8%	8 20.5%	4 10.3%	1 2.6%	0 0.0%
	50歳代	43 100.0%	15 34.9%	4 9.3%	18 41.9%	14 32.6%	16 37.2%	8 18.6%	2 4.7%	11 25.6%	8 18.6%	7 16.3%	2 4.7%	1 2.3%
	60歳代	48 100.0%	25 52.1%	4 8.3%	18 37.5%	15 31.3%	23 47.9%	13 27.1%	6 12.5%	7 14.6%	5 10.4%	8 16.7%	1 2.1%	1 2.1%
	70歳代	48 100.0%	25 52.1%	5 10.4%	19 39.6%	3 6.3%	16 33.3%	20 41.7%	9 18.8%	12 25.0%	4 8.3%	5 10.4%	0 0.0%	2 4.2%
	80歳代以上	6 100.0%	0 0.0%	1 16.7%	2 33.3%	1 16.7%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	2 33.3%	0 0.0%	1 16.7%

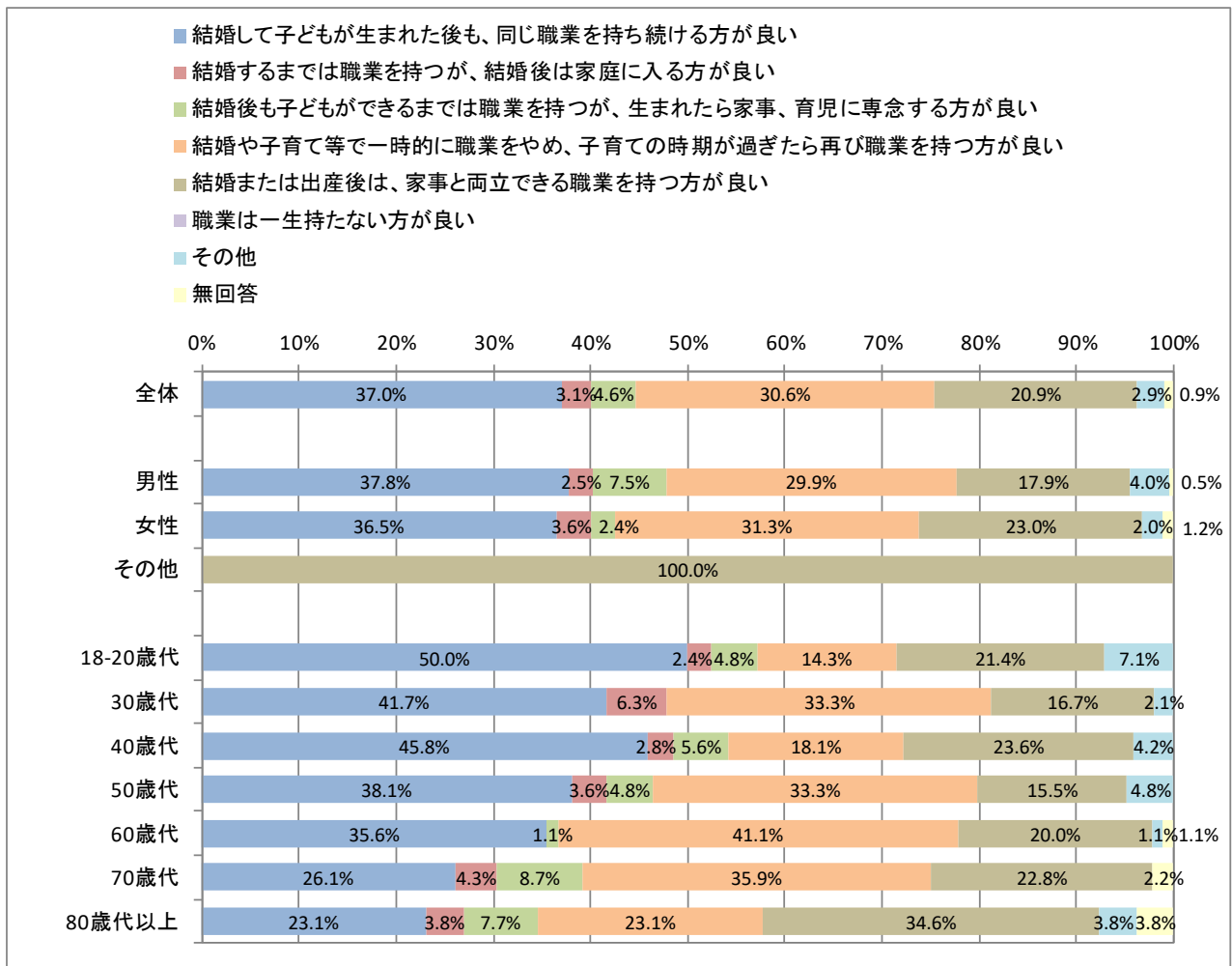
(4) 女性の職業

問 15 あなたは女性が職業を持つことについて、どうお考えですか。

全体では、「結婚して子どもが生まれた後も、同じ職業を持ち続ける方が良い」が 37%と最も多く回答されており、次いで「結婚や子育て等で一時的に職業をやめ、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ方が良い」が 30%となっている。対して「職業は一生持たない方が良い」の回答はなかった。

男女別とも、全体とほぼ同様な傾向が伺える。

年代別に見ると、「結婚して子どもが生まれた後も、同じ職業を持ち続ける方が良い」は 18-20 歳代で半数を占めている一方、年齢が高くなるに従って少なくなっている。



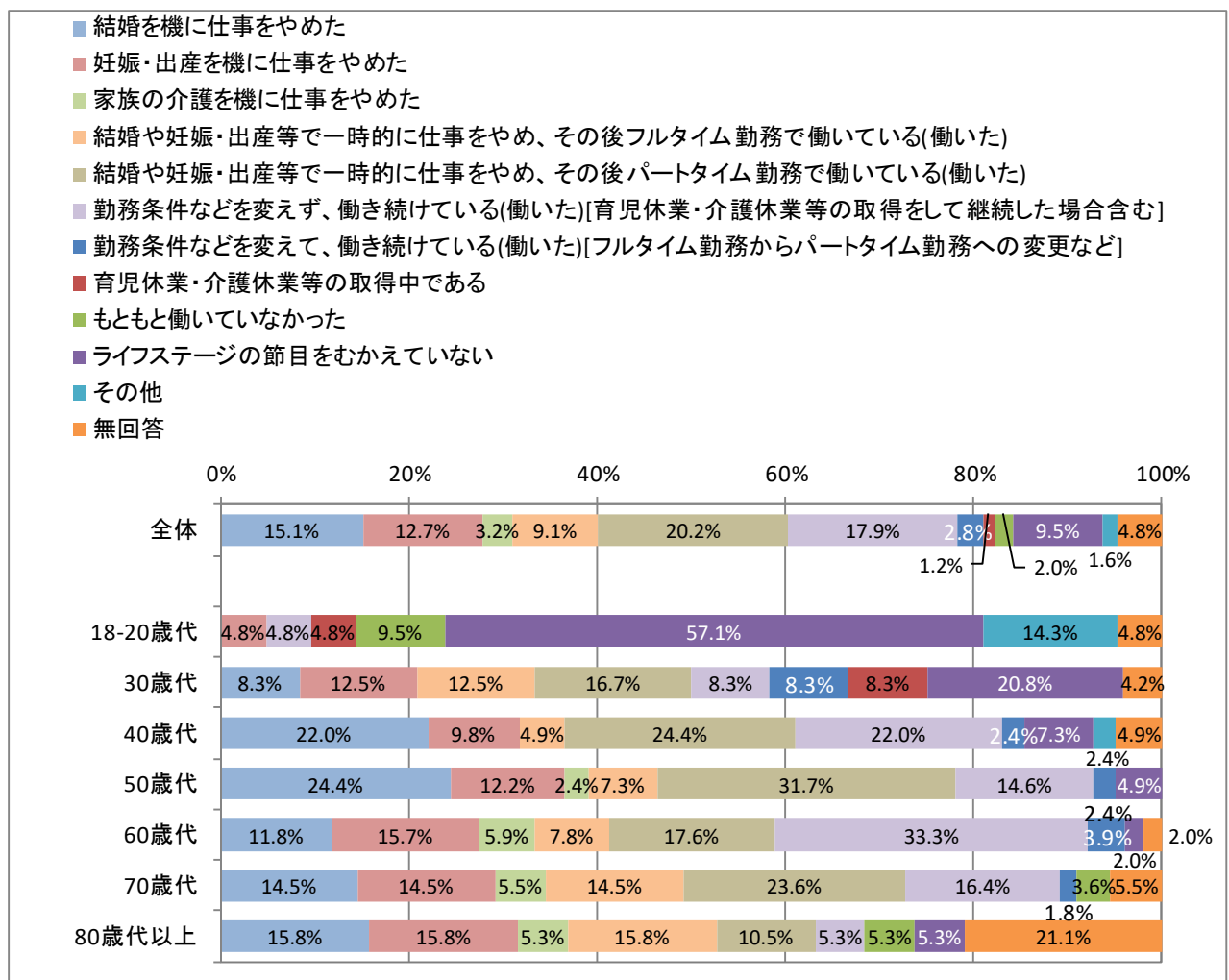
(5) 女性の働き方

①女性の働き方の選択

問 16 女性の方におたずねします。あなたは、結婚や妊娠・出産、介護などのライフステージの節目に、どのような働き方を選びましたか。

全体では、「結婚や妊娠・出産等で一時的に仕事をやめ、その後パートタイム勤務で働いている(働いた)」が20%と最も多く回答されており、次いで「勤務条件などを変えず、働き続けている(働いた)[育児休業・介護休業等の取得をして継続した場合含む]」が17%となっている。

年代別に見ると、「結婚や妊娠・出産等で一時的に仕事をやめ、その後パートタイム勤務で働いている(働いた)」は40歳代と50歳代、70歳で最も多く回答されている。

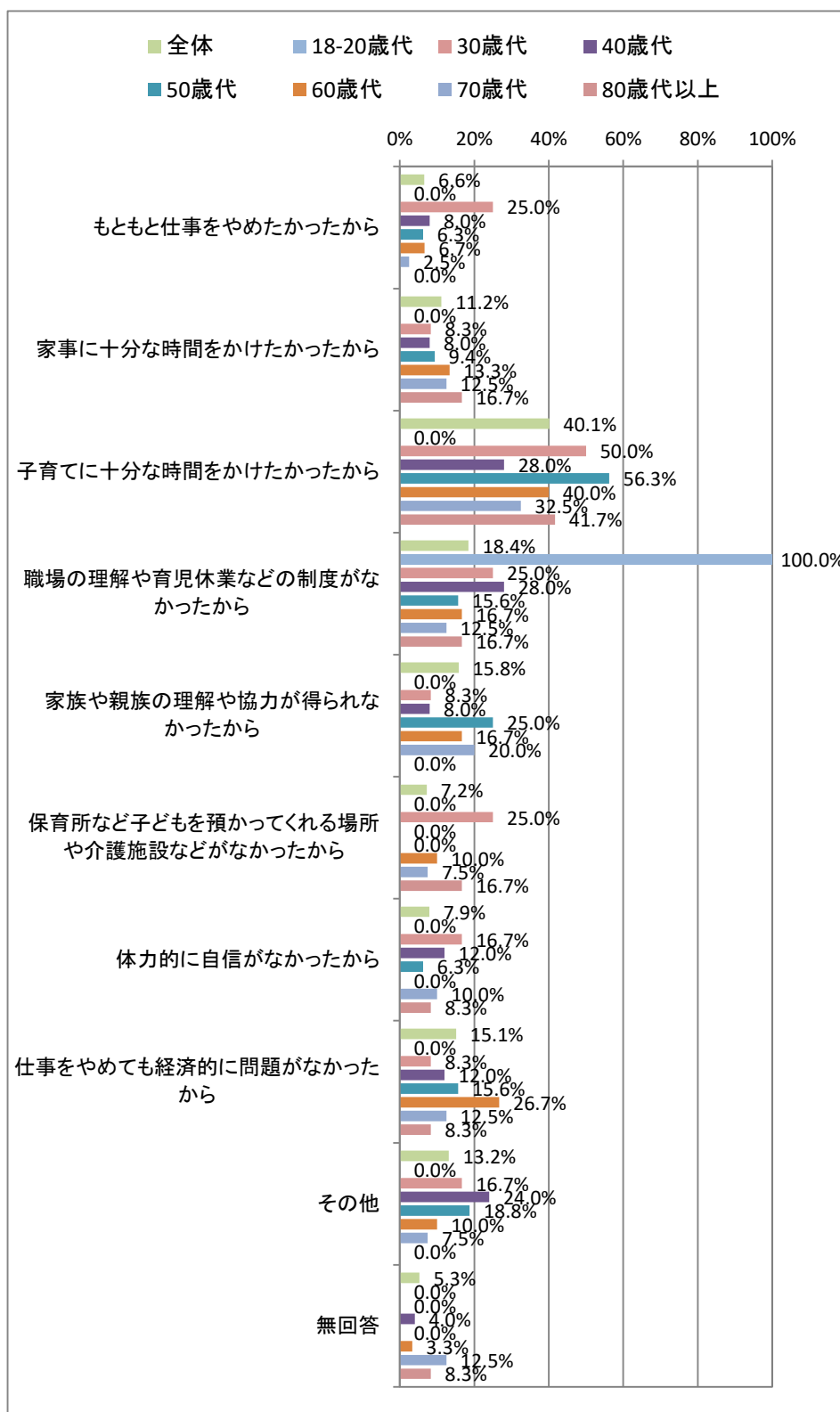


②女性が仕事をやめた理由（1～5の「仕事をやめた」と回答した方）

問17 あなたが、ライフステージの節目に仕事をやめた理由はなんですか。

全体では、「子育てに十分な時間をかけたかったから」が40%と最も多くなっており、次いで「職場の理解や育児休業などの制度がなかったから」が18%となっている。

年代別に見ると、「子育てに十分な時間をかけたかったから」は18-20歳代を除くすべての世代で多くなっている。



区分	ライフステージの節目に仕事をやめた理由(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合										
	全体	もと仕事をやめたから	家事に十分な時間をかけたから	子育てに十分な時間をかけたから	職場の理解や育児休業などの制度がなかったから	家族や親族の理解や協力が得られなかったから	保育所など子ども預かってくれる場所や介護施設などがなかったから	体力的に自信がなかったから	仕事をやめても経済的に問題がなかったから	その他	無回答
全体	152 100.0%	10 6.6%	17 11.2%	61 40.1%	28 18.4%	24 15.8%	11 7.2%	12 7.9%	23 15.1%	20 13.2%	8 5.3%
18-20歳代	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30歳代	12 100.0%	3 25.0%	1 8.3%	6 50.0%	3 25.0%	1 8.3%	3 25.0%	2 16.7%	1 8.3%	2 16.7%	0 0.0%
40歳代	25 100.0%	2 8.0%	2 8.0%	7 28.0%	7 28.0%	2 8.0%	0 0.0%	3 12.0%	3 12.0%	6 24.0%	1 4.0%
50歳代	32 100.0%	2 6.3%	3 9.4%	18 56.3%	5 15.6%	8 25.0%	0 0.0%	2 6.3%	5 15.6%	6 18.8%	0 0.0%
60歳代	30 100.0%	2 6.7%	4 13.3%	12 40.0%	5 16.7%	5 16.7%	3 10.0%	0 0.0%	8 26.7%	3 10.0%	1 3.3%
70歳代	40 100.0%	1 2.5%	5 12.5%	13 32.5%	5 12.5%	8 20.0%	3 7.5%	4 10.0%	5 12.5%	3 7.5%	5 12.5%
80歳代以上	12 100.0%	0 0.0%	2 16.7%	5 41.7%	2 16.7%	0 0.0%	2 16.7%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%

◆出産・子育てについて

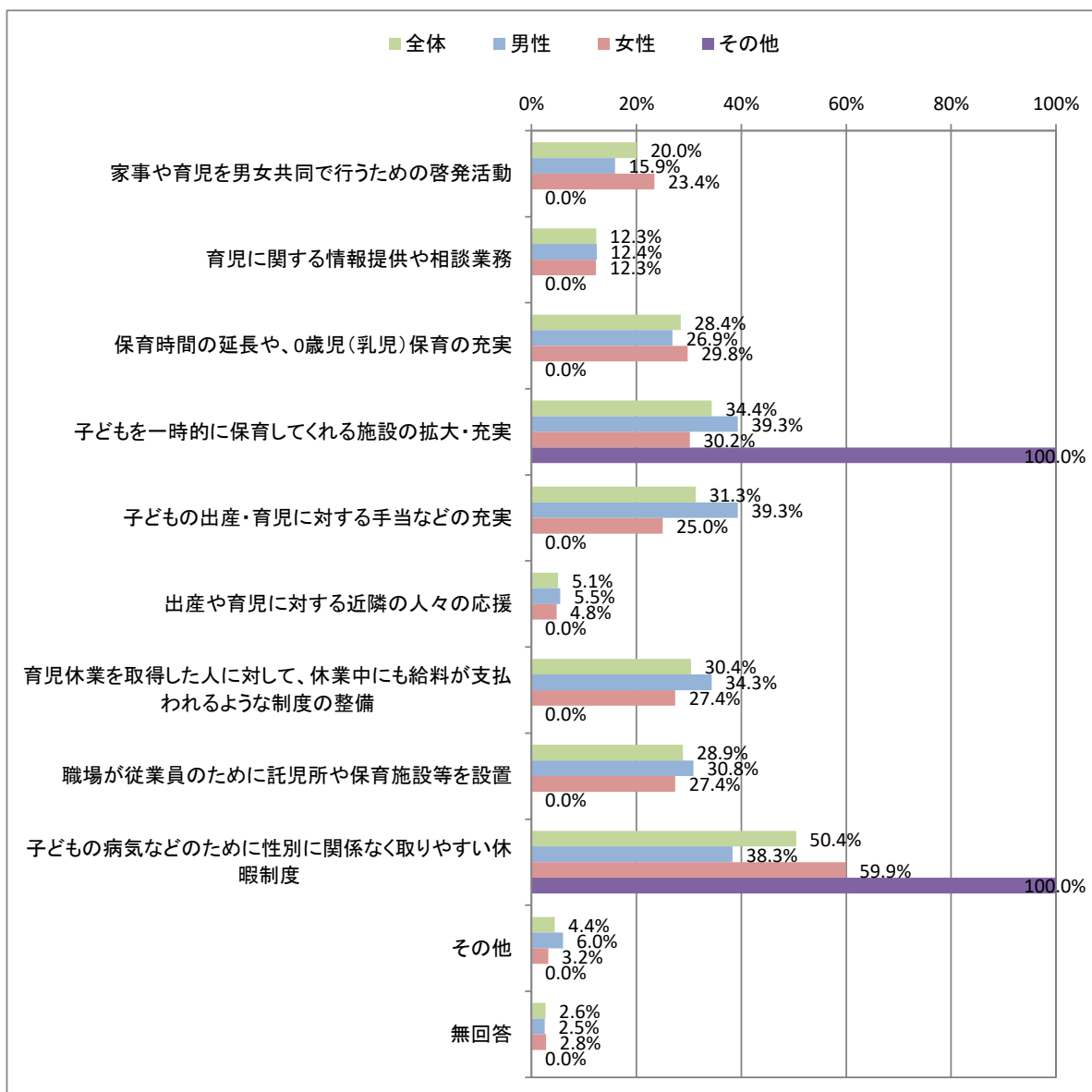
(1) 出産・子育て

問 18 あなたは、子どもを生み育てやすい環境づくりのためには、どのような制度やサービス等が必要だと思いますか。

全体では、「子どもの病気などのために性別に関係なく取りやすい休暇制度」が最も多く50%、次いで「子どもを一時的に保育してくれる施設の拡大・充実」が34%となっている。

男女別に見ると、男性では「子どもを一時的に保育してくれる施設の拡大・充実」と「子どもの出産・育児に対する手当などの充実」が多く、女性では「子どもの病気などのために性別に関係なく取りやすい休暇制度」が最も多くなっている。

年代別に見ると、18-20歳代では「子どもの出産・育児に対する手当などの充実」、30～40歳代と60～80歳代以上では「子どもの病気などのために性別に関係なく取りやすい休暇制度」、50歳代では「子どもを一時的に保育してくれる施設の拡大・充実」が多くなっている。



区分		子どもを生き育てやすい環境(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合											
		家事や育児を男女共同で行うための啓発活動	育児に関する情報提供や相談業務	保育時間の延長や、0歳児(乳児)保育の充実	子どもを一緒に保育してくれる施設の拡大・充実	子どもの出産・育児に対する手当などの充実	出産や育児に対する近隣の人の応援	育児休業を取得した人に対して、休業中にも給料が支払われるような制度の整備	職場が従業員のために託児所や保育施設等を設置	子どもの病気などに性別に関係なく取りやすい休暇制度	その他	無回答	
全体	全体	454 100.0%	91 20.0%	56 12.3%	129 28.4%	156 34.4%	142 31.3%	23 5.1%	138 30.4%	131 28.9%	229 50.4%	20 4.4%	12 2.6%
男女別	男性	201 100.0%	32 15.9%	25 12.4%	54 26.9%	79 39.3%	79 39.3%	11 5.5%	69 34.3%	62 30.8%	77 38.3%	12 6.0%	5 2.5%
	女性	252 100.0%	59 23.4%	31 12.3%	75 29.8%	76 30.2%	63 25.0%	12 4.8%	69 27.4%	69 27.4%	151 59.9%	8 3.2%	7 2.8%
	その他	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
年代別	18-20歳代	42 100.0%	7 16.7%	6 14.3%	15 35.7%	17 40.5%	23 54.8%	1 2.4%	19 45.2%	8 19.0%	16 38.1%	1 2.4%	1 2.4%
	30歳代	48 100.0%	4 8.3%	2 4.2%	12 25.0%	7 14.6%	25 52.1%	1 2.1%	21 43.8%	18 37.5%	26 54.2%	3 6.3%	1 2.1%
	40歳代	72 100.0%	17 23.6%	10 13.9%	22 30.6%	28 38.9%	23 31.9%	3 4.2%	15 20.8%	20 27.8%	33 45.8%	6 8.3%	1 1.4%
	50歳代	84 100.0%	12 14.3%	8 9.5%	24 28.6%	37 44.0%	25 29.8%	6 7.1%	22 26.2%	30 35.7%	36 42.9%	5 6.0%	1 1.2%
	60歳代	90 100.0%	19 21.1%	14 15.6%	33 36.7%	31 34.4%	23 25.6%	6 6.7%	27 30.0%	22 24.4%	53 58.9%	2 2.2%	1 1.1%
	70歳代	92 100.0%	25 27.2%	13 14.1%	18 19.6%	31 33.7%	19 20.7%	4 4.3%	28 30.4%	24 26.1%	53 57.6%	1 1.1%	4 4.3%
	80歳代以上	26 100.0%	7 26.9%	3 11.5%	5 19.2%	5 19.2%	4 15.4%	2 7.7%	6 23.1%	9 34.6%	12 46.2%	2 7.7%	3 11.5%

3. 人権と健康に関する考え

◆人権と健康について

(1) 暴力的行為

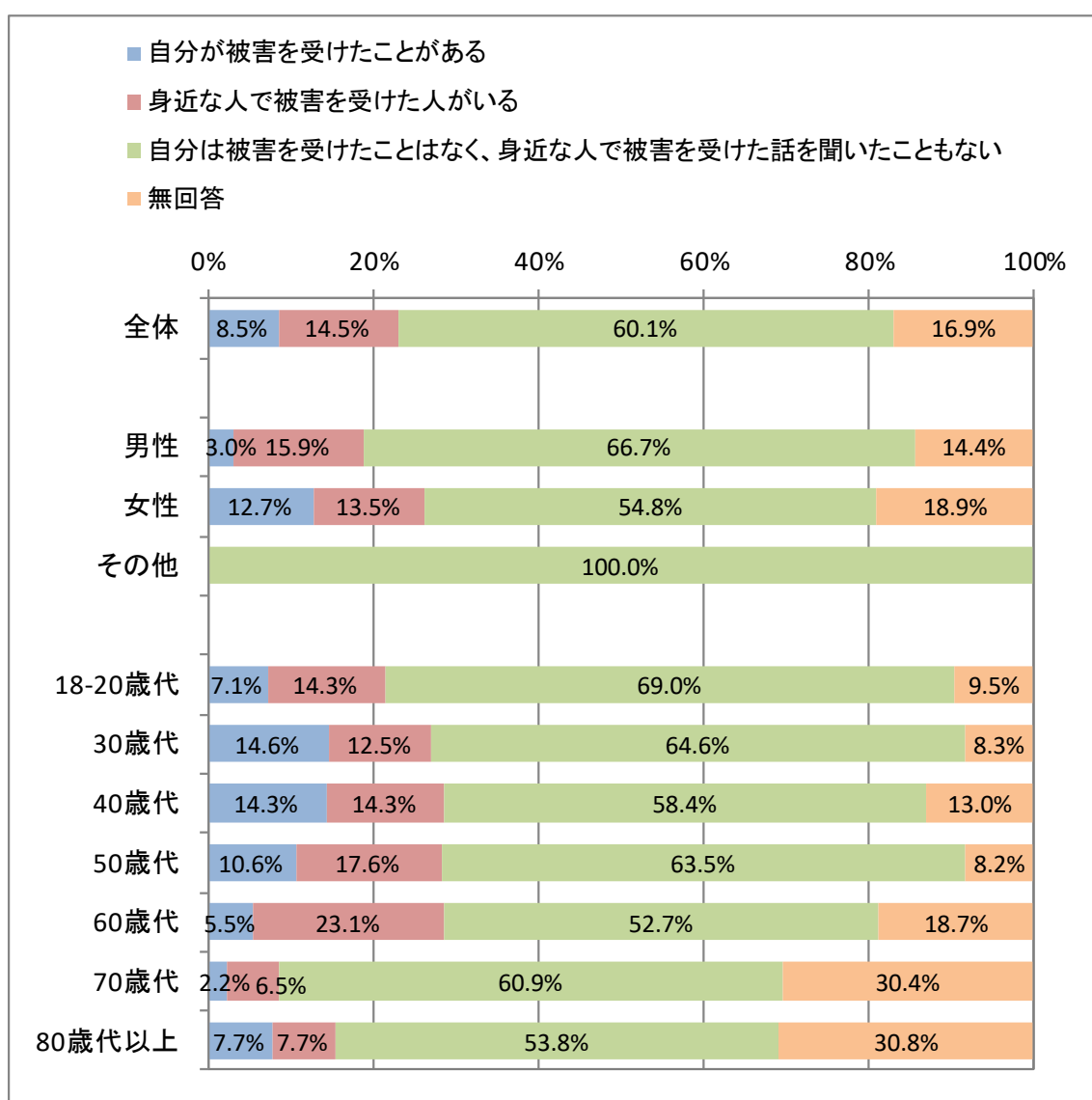
問 19 次のことについて、あなた自身や身近な人が経験したことはありますか。

①セクシュアル・ハラスメント

全体では、「自分は被害を受けたことはなく、身近な人で被害を受けた話を聞いたこともない」が60%を占めている。

男女別に見ると、「自分が被害を受けたことがある」と「身近な人で被害を受けた人がいる」の回答は男性よりも女性が多く、それぞれ13%程度となっている。

年代別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合は、18～60歳代で2割程度と多くなっている。



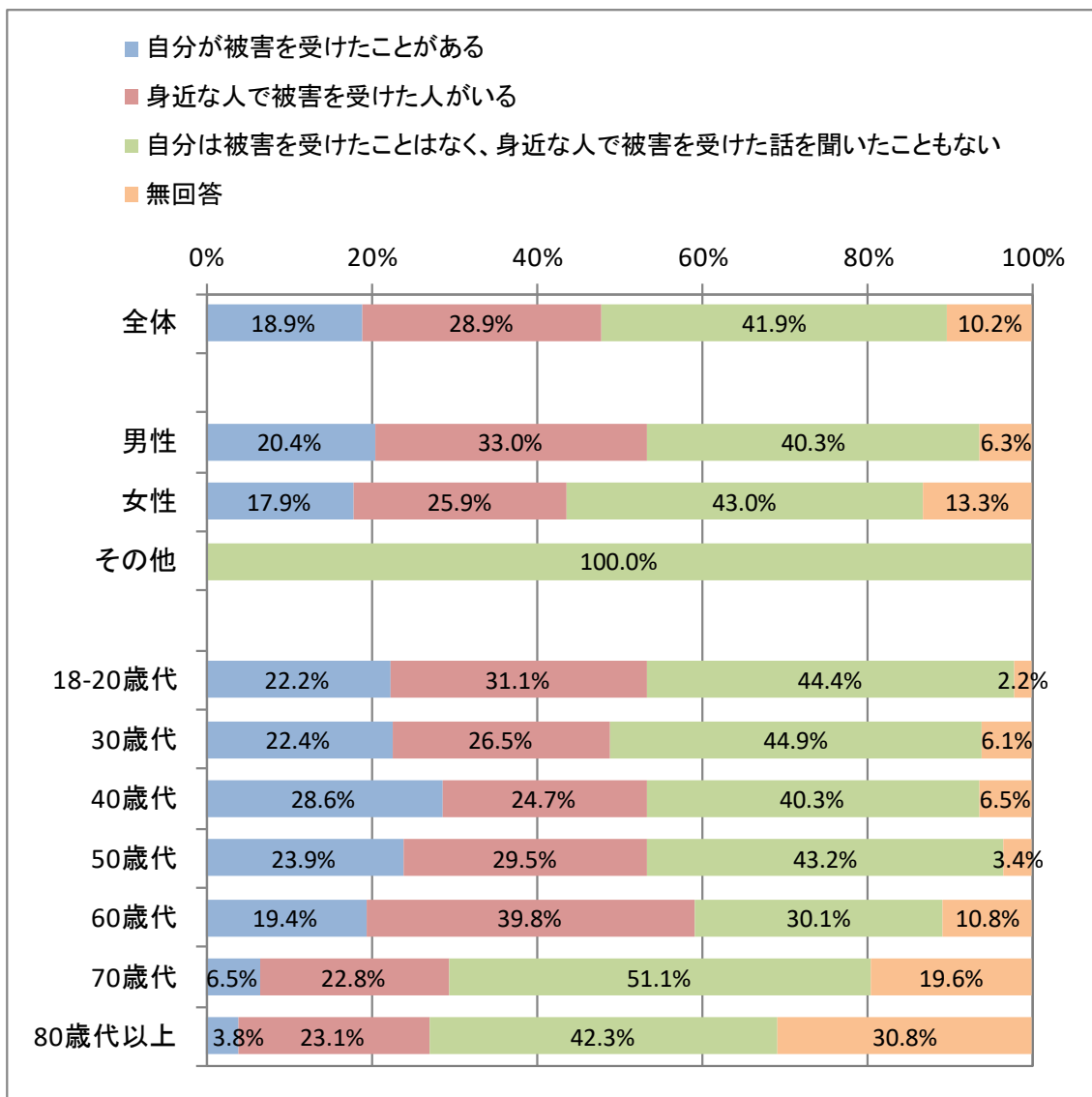
セクシュアル・ハラスメント: 職場などにおける他の者を不快にさせる性的な言動や性的嫌がらせのこと。同性同士であっても、起こることがある。

②パワー・ハラスメント

全体では、「身近な人で被害を受けた人がいる」が28%、「自分が被害を受けたことがある」が18%と、『自分又は身近な人で被害を受けたことがある』が4割強と、6項目の中で最も被害を受けた割合が高い。

男女別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』は、女性よりも男性の方が多くなっている。

年代別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合は18～60歳代で半数以上と多くなっている。



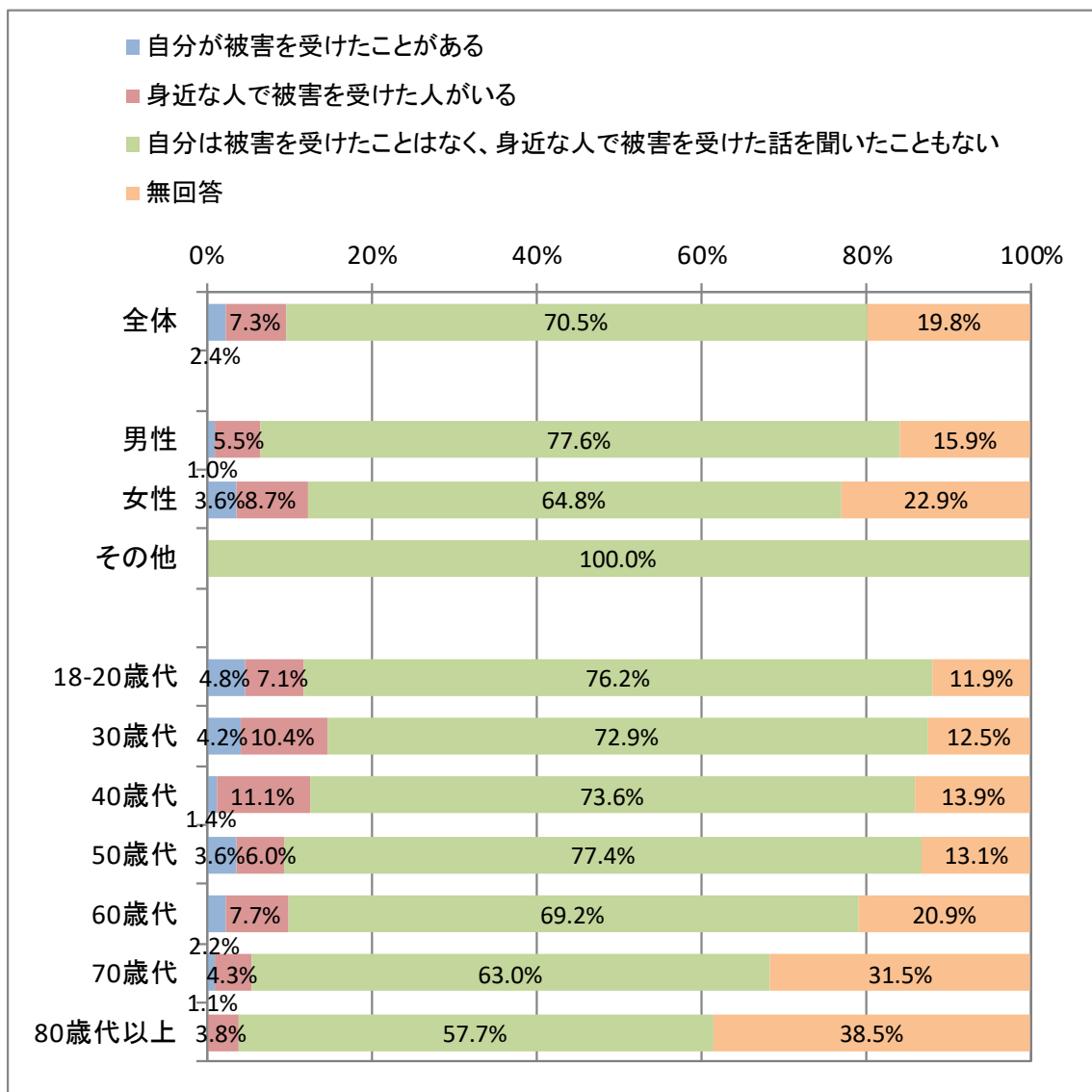
パワー・ハラスメント:職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力(パワー)を利用して、精神的・身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。上司と部下の関係だけに限らず、同僚の関係でも起こりえる。

③ マタニティ・ハラスメント

全体では、「自分は被害を受けたことはなく、身近な人で被害を受けた話を聞いたこともない」の割合が70%となっている。

男女別に見ると、「身近な人で被害を受けた人がいる」の割合は、男性よりも女性の方が多くなっている。

年代別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合は、30歳代で最も多く、年代が高まるに従い低くなるのがうかがえる。



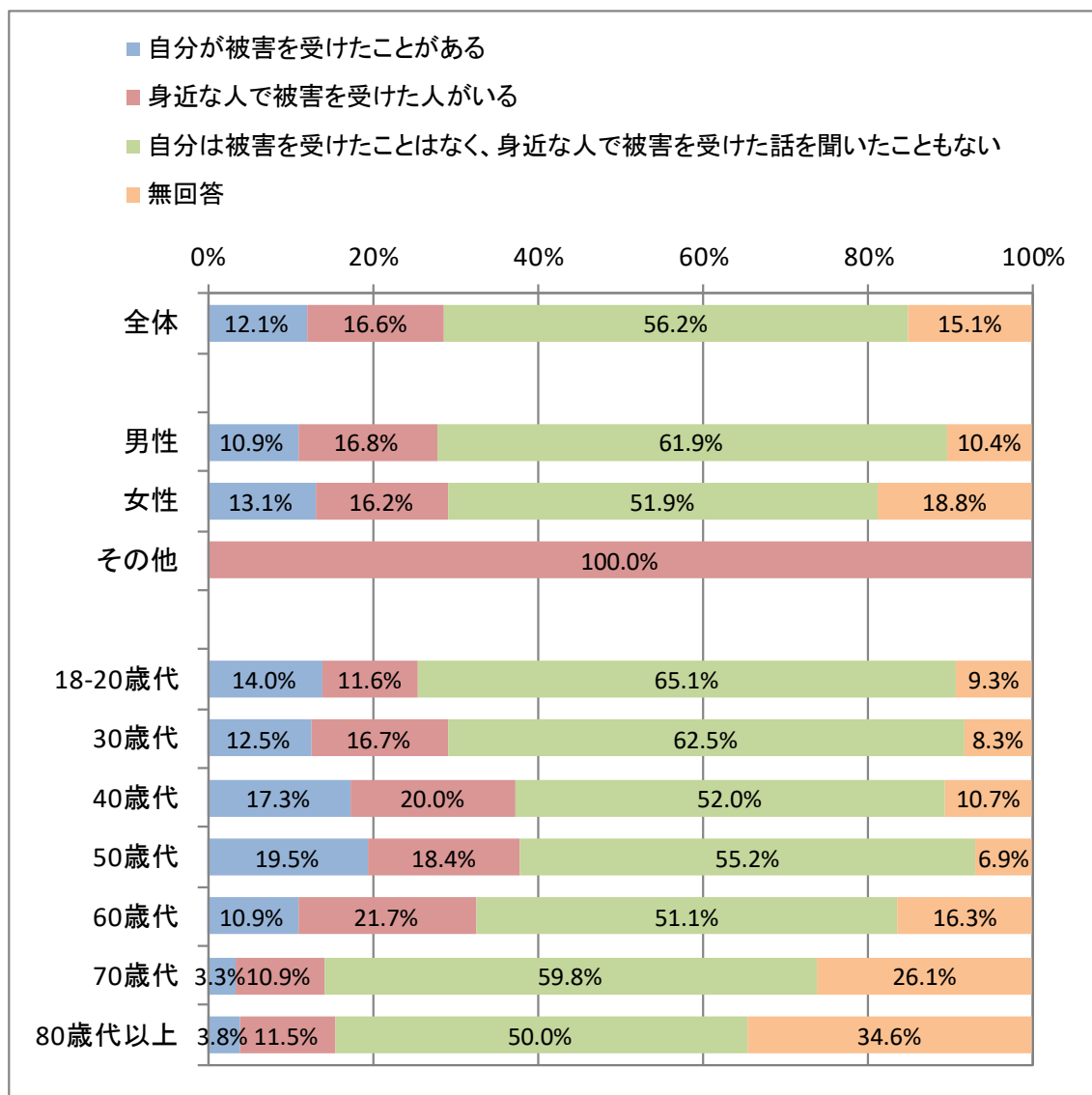
マタニティ・ハラスメント: 職場などにおいて、妊娠・出産・育児休業取得などを理由に行われる異動・降格・減給・自主退職の強要・雇止めなどの不当な扱いや肉体・精神的な嫌がらせのこと。

④モラル・ハラスメント

全体では、「自分は被害を受けたことはなく、身近な人で被害を受けた話を聞いたこともない」割合は56%となっている。

男女別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合は、男性よりも女性の方が若干多くなっている。

年代別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合、は18～60歳代で3割程度と多くなっている。



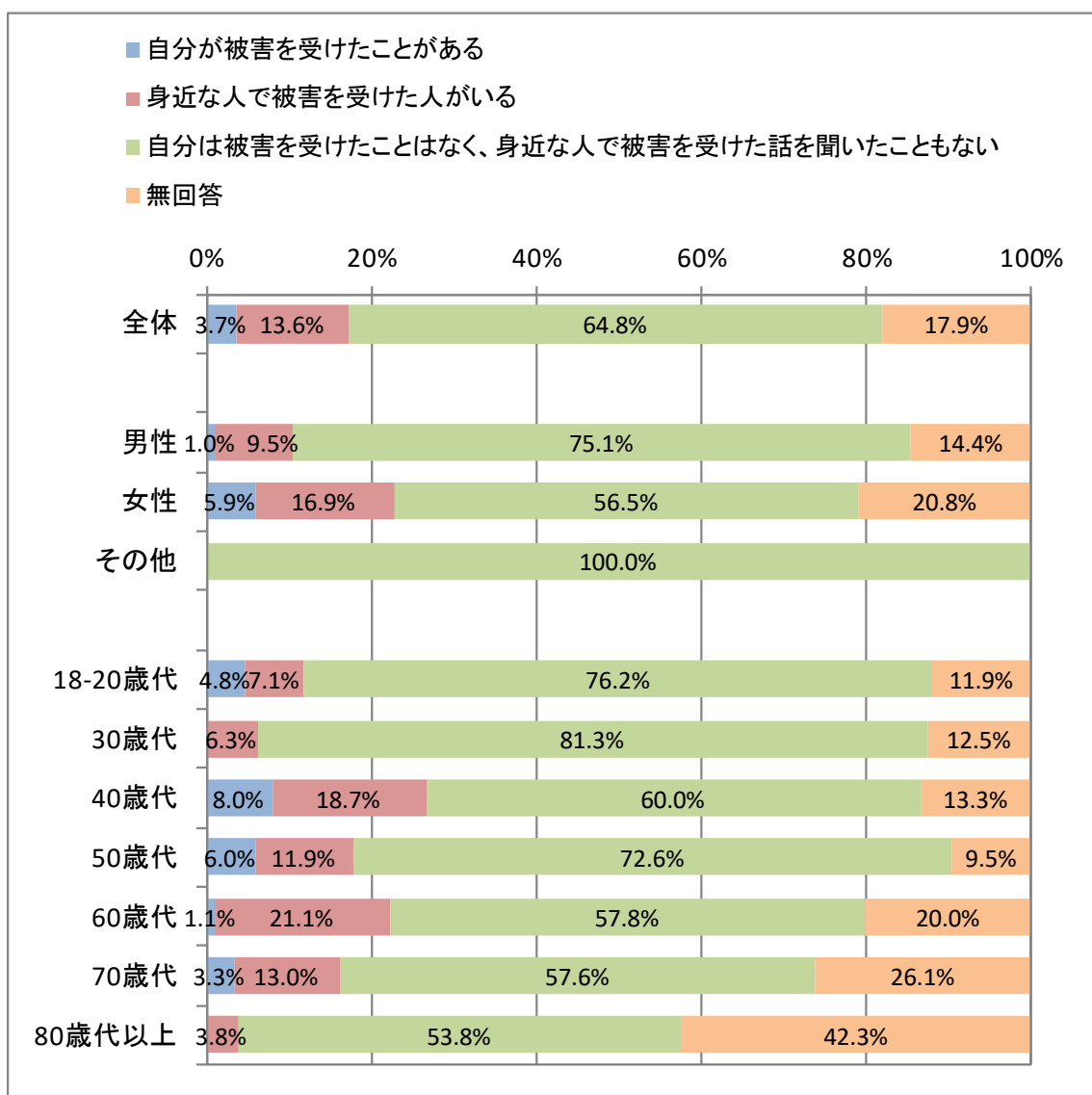
モラル・ハラスメント:身体的な暴力ではなく、暴言や侮辱、無視、責任転嫁する、必要な情報を渡さない、必要以上に介入する、仲間外れにするなどの言葉や態度などにより、相手を追い詰める精神的な嫌がらせのこと。職場、家庭内、恋人間など様々な場面で起こりえる。親密な関係の中で行われるものは、特に当事者以外には気付かれにくいという特徴がある。

⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）

全体では、「自分は被害を受けたことはなく、身近な人で被害を受けた話を聞いたこともない」割合は64%となっている。

男女別に見ると、「自分が被害を受けたことがある」の割合は、男性よりも女性の方が多く、女性が男性の6倍程度となっている。

年代別に見ると、「自分が被害を受けたことがある」の割合は、40歳代と50歳代で多くなっている。



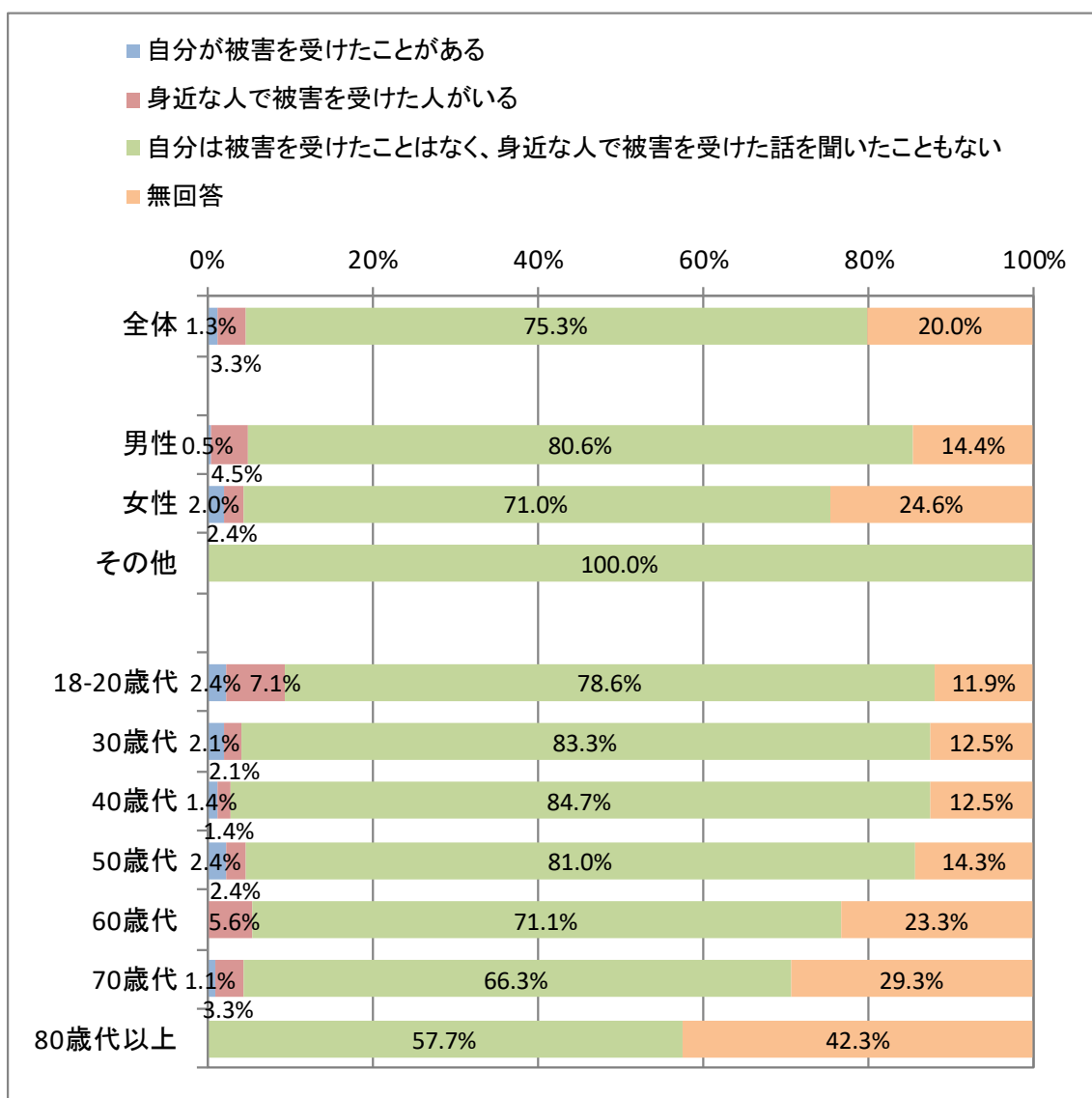
DV(ドメスティック・バイオレンス): 夫婦(事実婚を含む)や恋人間におけるパートナーからの暴力のこと。身体的な暴力に限らず、人格を否定する発言や無視をするなどの精神的暴力、生活費を渡さない、高額のをねだるなどの経済的暴力や、避妊に協力しない、性行為の強要などの性的暴力も含まれる。

⑥デートDV

全体では、「自分は被害を受けたことはなく、身近な人で被害を受けた話を聞いたこともない」割合は75%となっている。

男女別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合は、男女ともに大きな差はみられない。

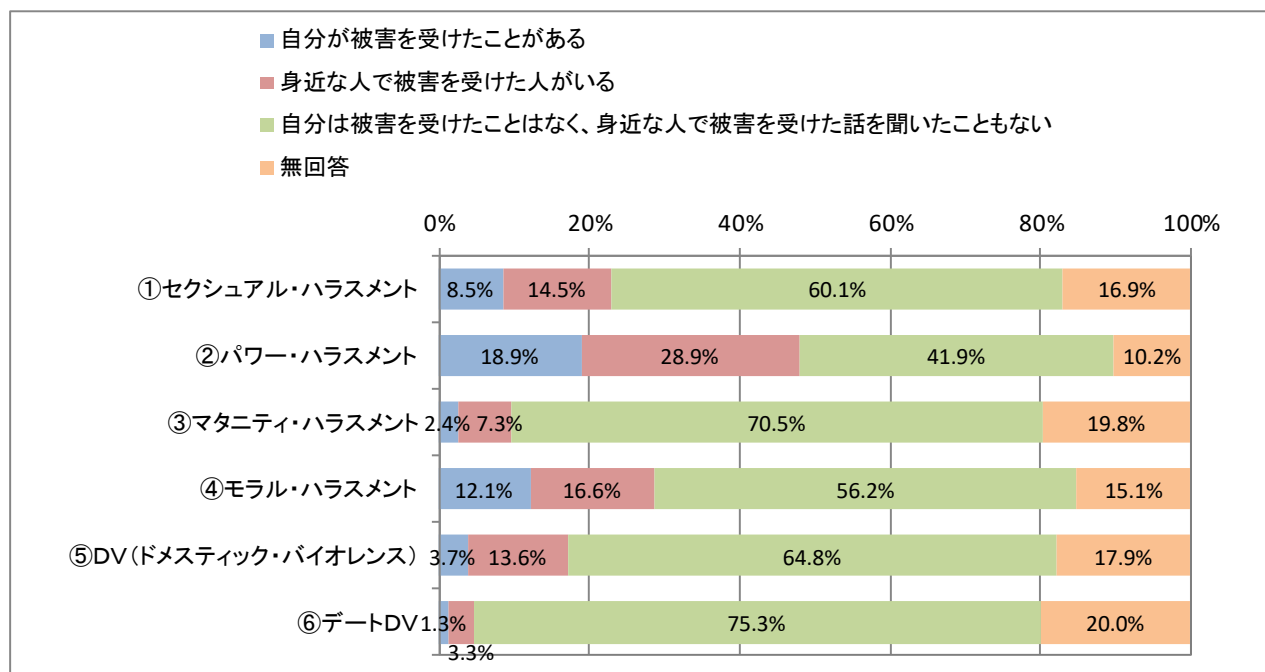
年代別に見ると、『自分又は身近な人で被害を受けた人がいる』の割合は18-20歳代で最も多くなっている。



デートDV: 交際中の若い世代の恋人間(特に10代、20代のカップル)で起きるDVのこと。

■ ①～⑥での回答結果一覧

	自分が被害を受けたことがある	身近な人で被害を受けた人がいる	自分や身近な人で被害を受けた話を聞いたこともない	無回答
①セクシュアル・ハラスメント	8.5%	14.5%	60.1%	16.9%
②パワー・ハラスメント	18.9%	28.9%	41.9%	10.2%
③マタニティ・ハラスメント	2.4%	7.3%	70.5%	19.8%
④モラル・ハラスメント	12.1%	16.6%	56.2%	15.1%
⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）	3.7%	13.6%	64.8%	17.9%
⑥デートDV	1.3%	3.3%	75.3%	20.0%



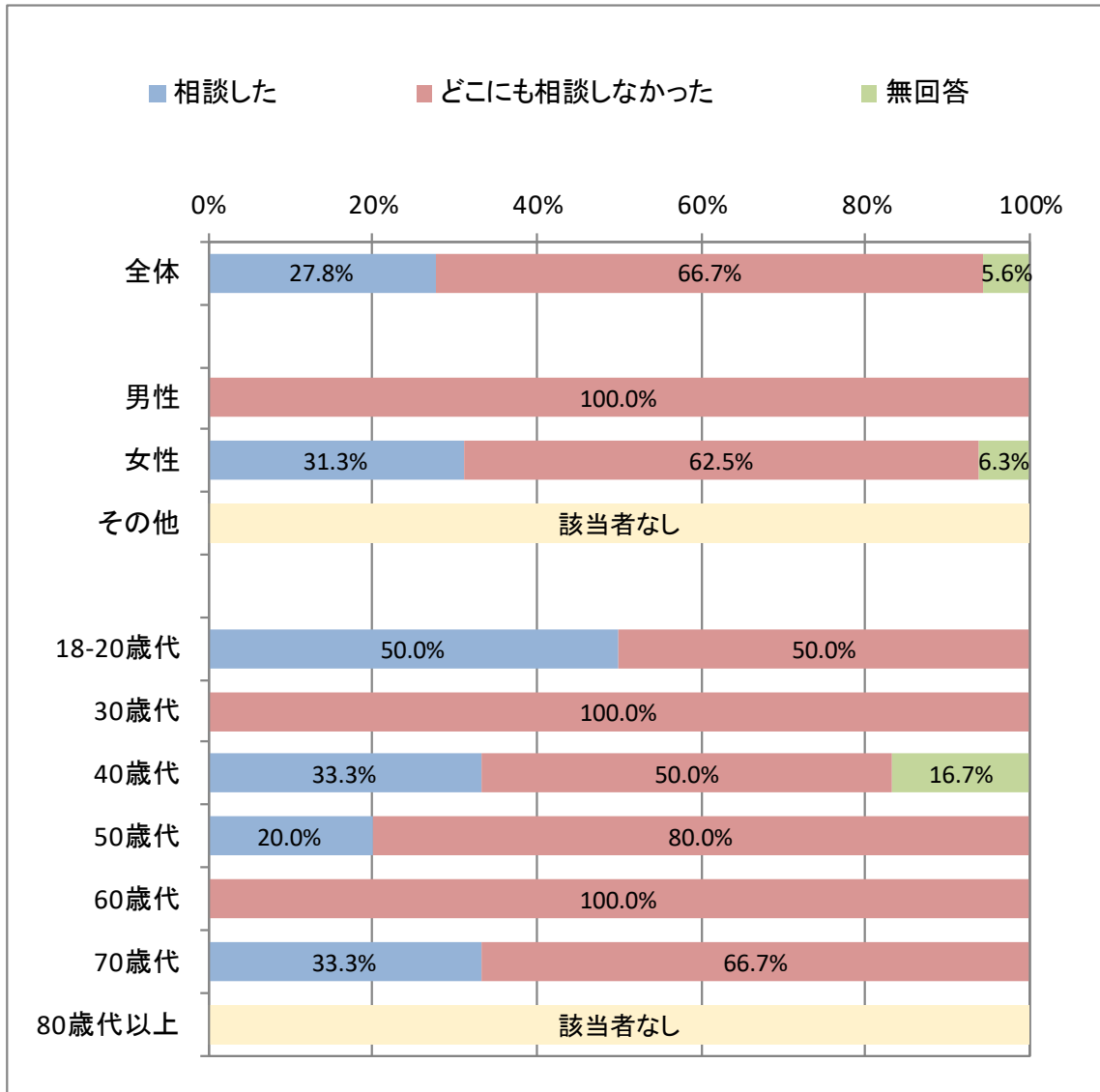
(2) 被害を受けた場合の対応

①被害の相談

問 20 問 19 で⑤「DV」、⑥「デートDV」について、「1. 自分が被害を受けたことがある」と答えた方におたずねします。あなたは相談をしましたか。

全体では、「どこにも相談しなかった」が66%と多くなっている。一方、「相談した」は27%となっている。

男女別に見ると、男性の全て、女性の6割は「どこにも相談しなかった」の結果となった。年代別に見ると、どの年代でも「どこにも相談しなかった」の割合が多くなっている。



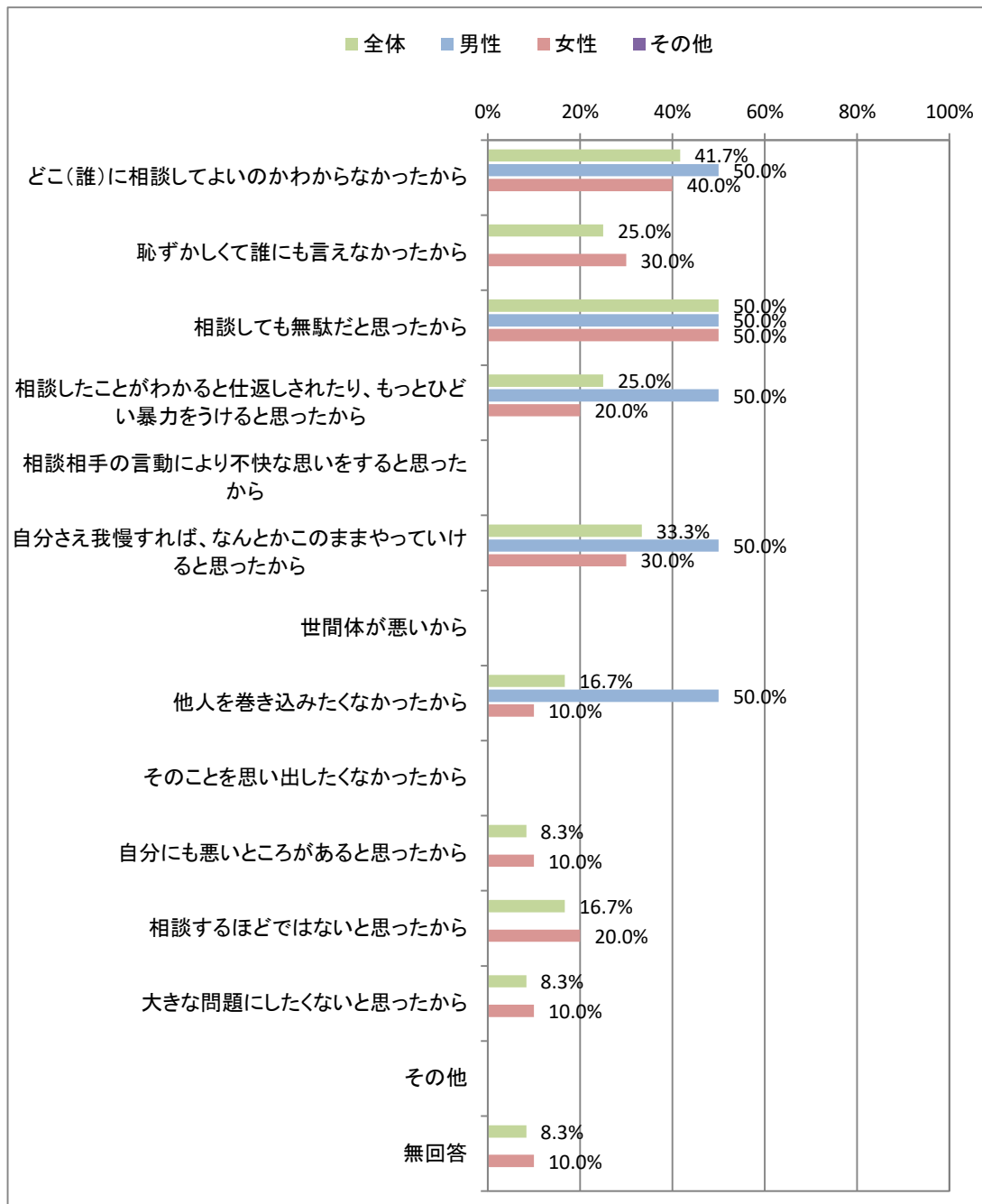
②相談しない理由（どこにも相談しない（しなかった）と回答した方）

問 21 どこにも相談しない（しなかった）理由は何ですか。

全体では、「相談しても無駄だと思ったから」が 50%、次いで「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」が 41%となっている。

男女別に見ると、女性は「相談しても無駄だと思ったから」が 50%、次いで「どこ（誰）に相談してよいのかわからなかったから」が 40%となっている。

年代別に見ると、いずれの年代においても「相談しても無駄だと思ったから」の回答割合が多くなっている。



区分	相談しない(しなかった)理由(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合															
	どこ(誰)に相談してよいか分からなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したこと、相談相手の言動により不快な思いをさせられたり、もつとひどい暴力をうけると思ったから	相談相手の言動により不快な思いをさせられたり、もつとひどい暴力をうけると思ったから	自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっつけていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込まれたから	他人を巻き込まれたから	そのことを思い出したくないから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどではないと思ったから	大きな問題に思わなかったから	その他	無回答		
全体	12 100.0%	5 41.7%	3 25.0%	3 25.0%	0 0.0%	4 33.3%	0 0.0%	2 16.7%	2 16.7%	0 0.0%	1 8.3%	2 16.7%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	
男女別	2 100.0%	1 50.0%	-	1 50.0%	-	1 50.0%	-	1 50.0%	-	-	-	-	-	-	-	-
	10 100.0%	4 40.0%	3 30.0%	2 20.0%	-	3 30.0%	-	1 10.0%	2 20.0%	-	1 10.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%	
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	1 100.0%	1 100.0%	-	1 100.0%	-	-	-	1 100.0%	-	-	1 100.0%	-	-	-	-	-
18-20歳代	1 100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	1 100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	-	3 100.0%	-	0 0.0%	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	4 100.0%	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%	-	1 25.0%	-	1 25.0%	-	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	1 100.0%	1 100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70歳代	2 100.0%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 50.0%	-	-	50.0%
80歳代以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

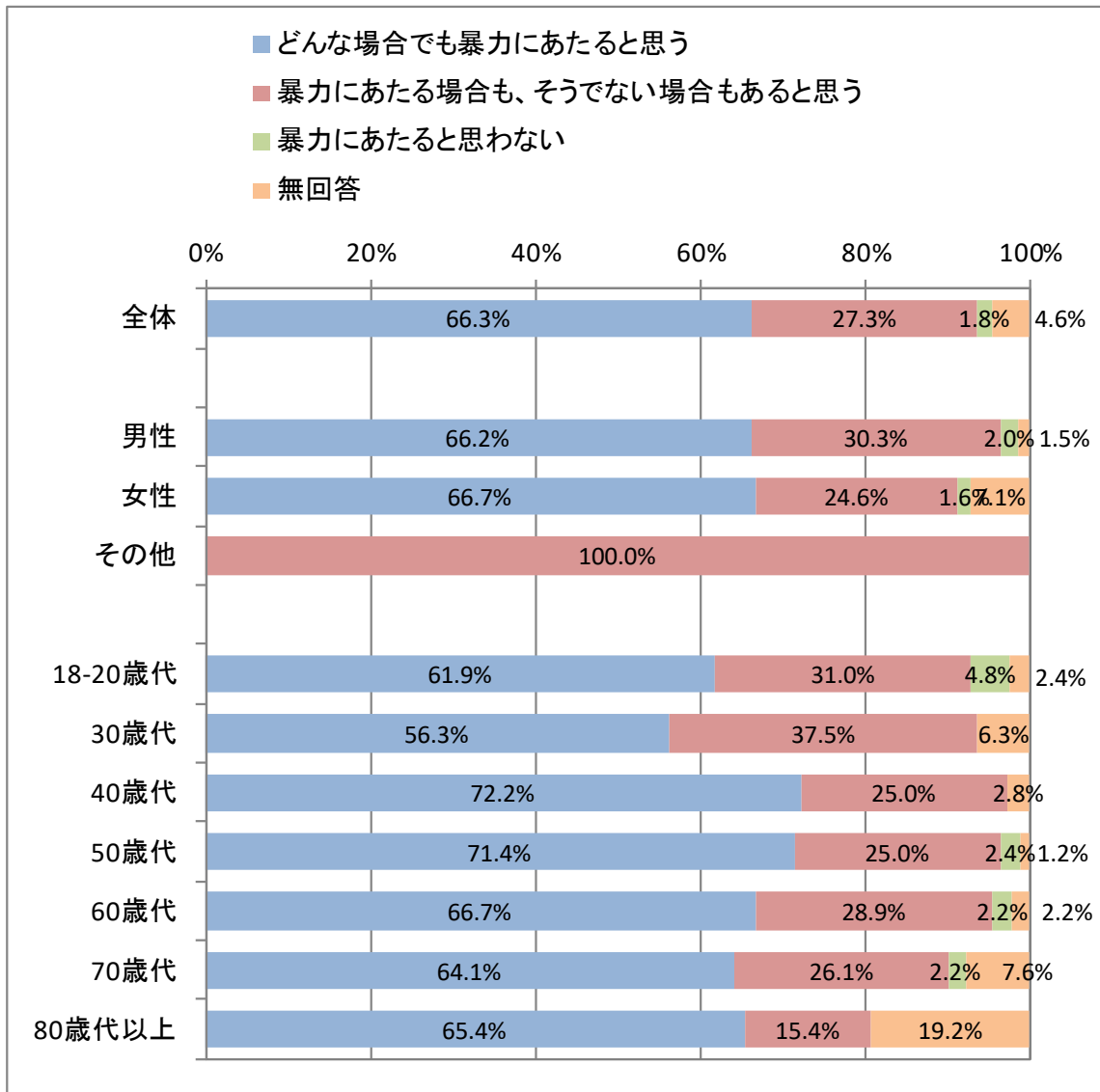
(3) 暴力について

問 22 全ての方におたずねします。あなたは、次のようなことが配偶者や交際相手などの間で行われた場合それを暴力だと思えますか。

①手でたたく・足でける

全体および男女別とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が66%を占めている。

年代別に見ると、18～30歳代は「暴力に当たる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答割合が3割台と比較的高くなっている。

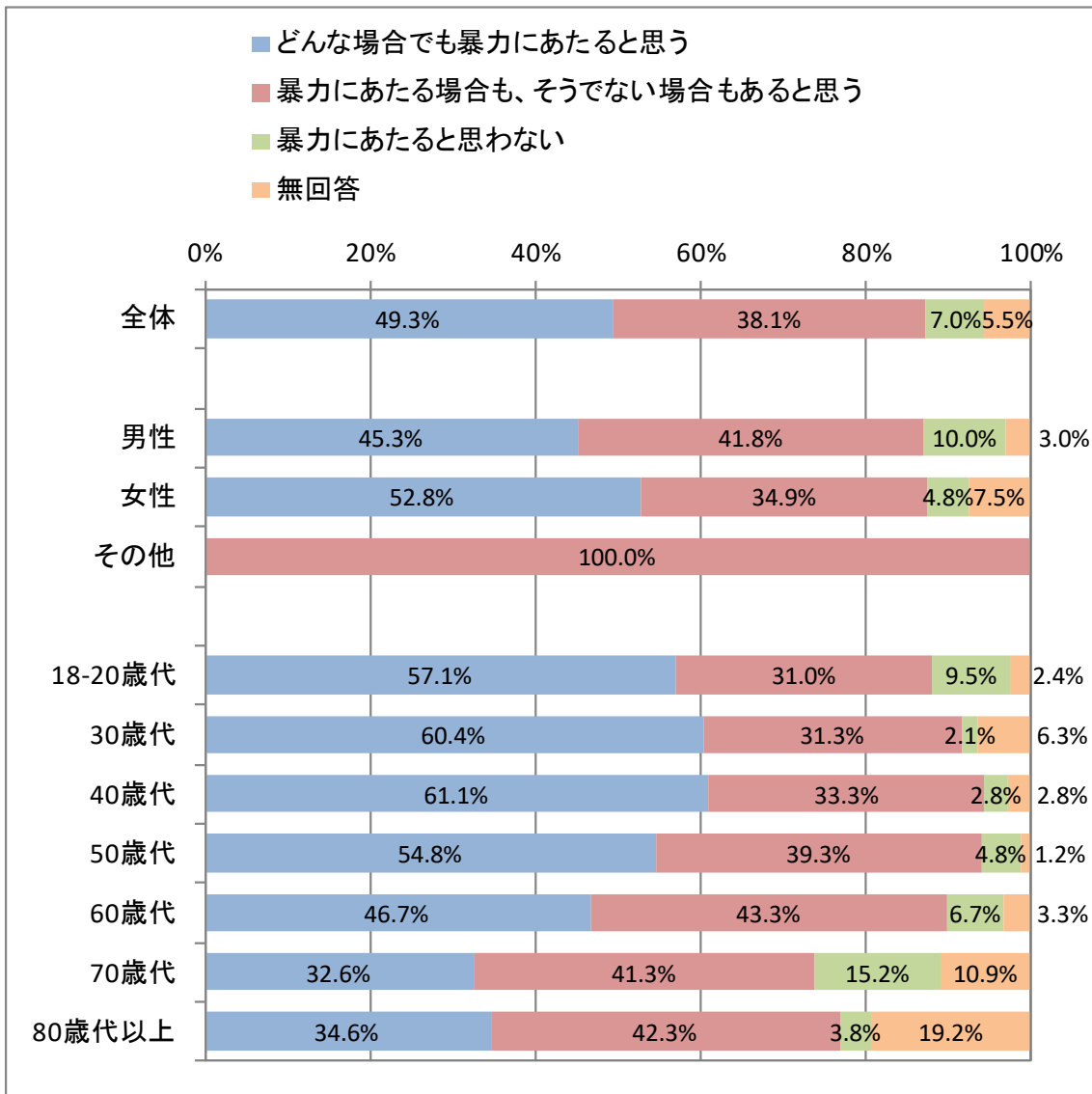


②なぐるふりをして脅す

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が49%と多くなっている。

男女別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が男性よりも女性が高く半数以上を占めている。

年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は18～50歳代で高い。

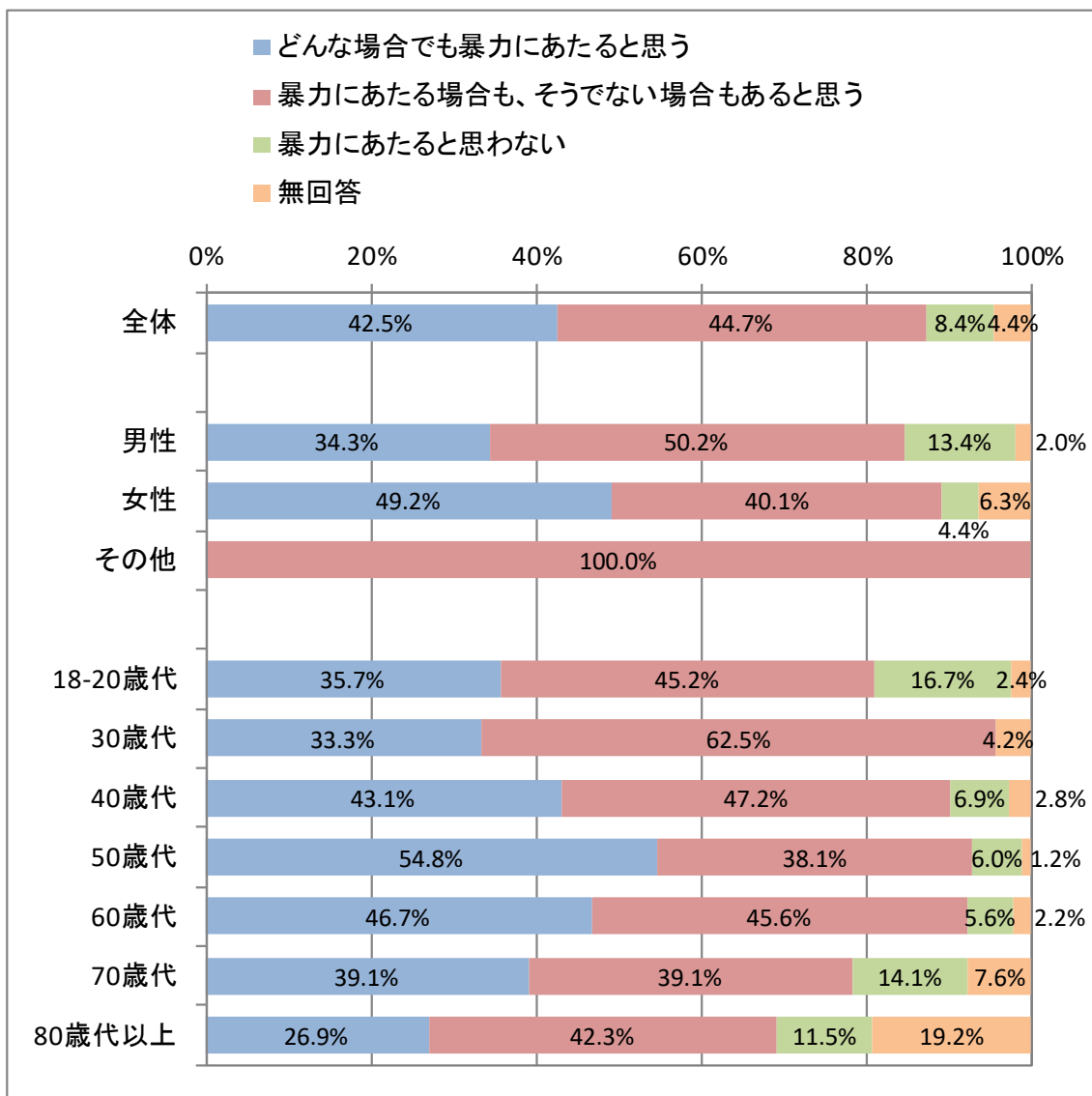


③大声で怒鳴る

全体では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が44%、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が42%との回答結果となった。

男女別に見ると、男性は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっている。

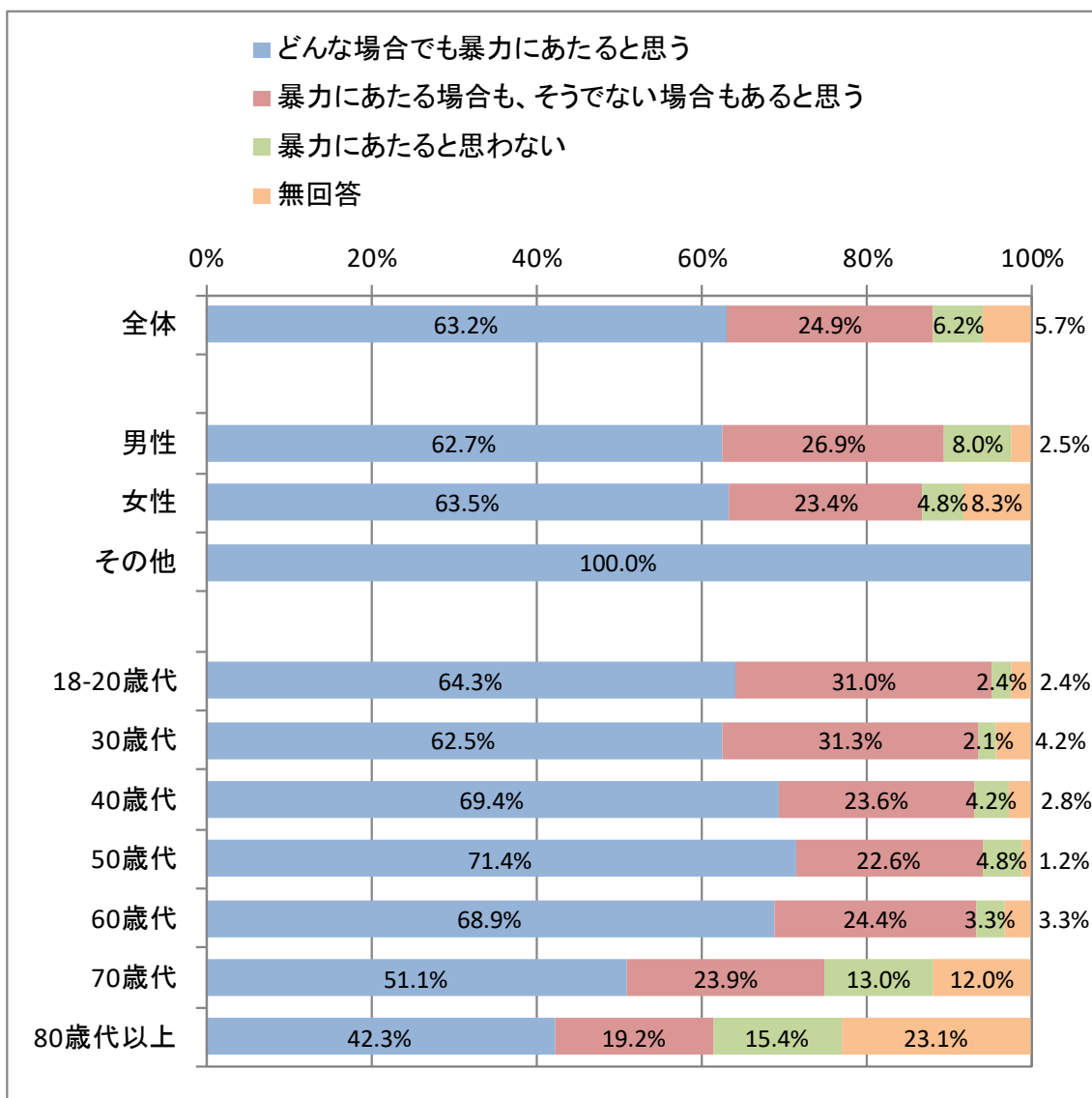
他の行為と比較して、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の回答割合が高い。



④ 人格を否定するようなことを言う

全体および男女別とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が63%と多くなっている。

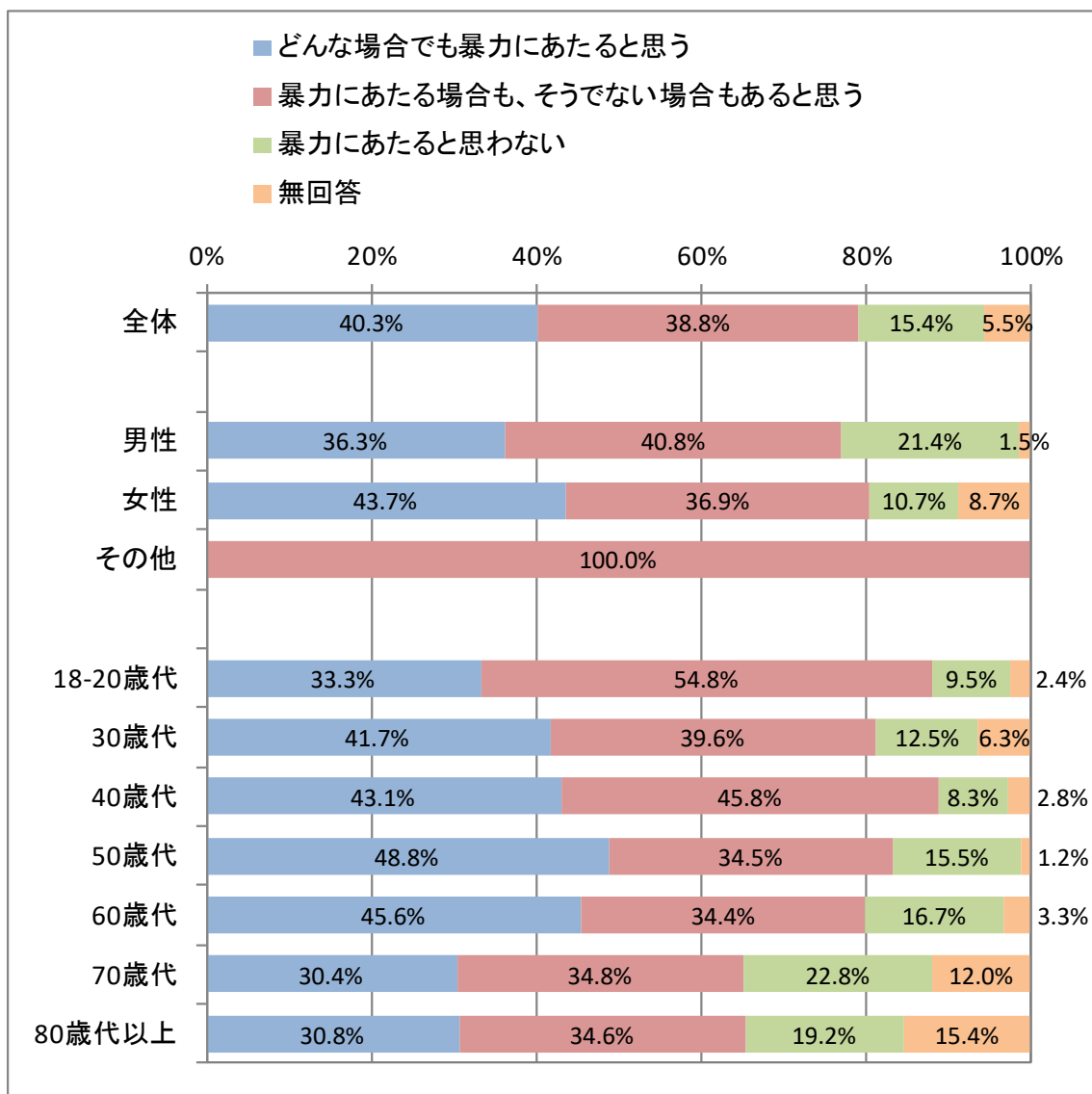
年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は70歳代以上で半数程度と他の年代より低く、「暴力にあたると思わない」と「無回答」は他の年代より高い結果となった。



⑤無視をする

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が40%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が38%となっている。

男女別に見ると、男性の「暴力にあたると思わない」が2割と、女性の倍の結果となった。他の行為と比較して「暴力にあたると思わない」の回答割合が高い結果となった。

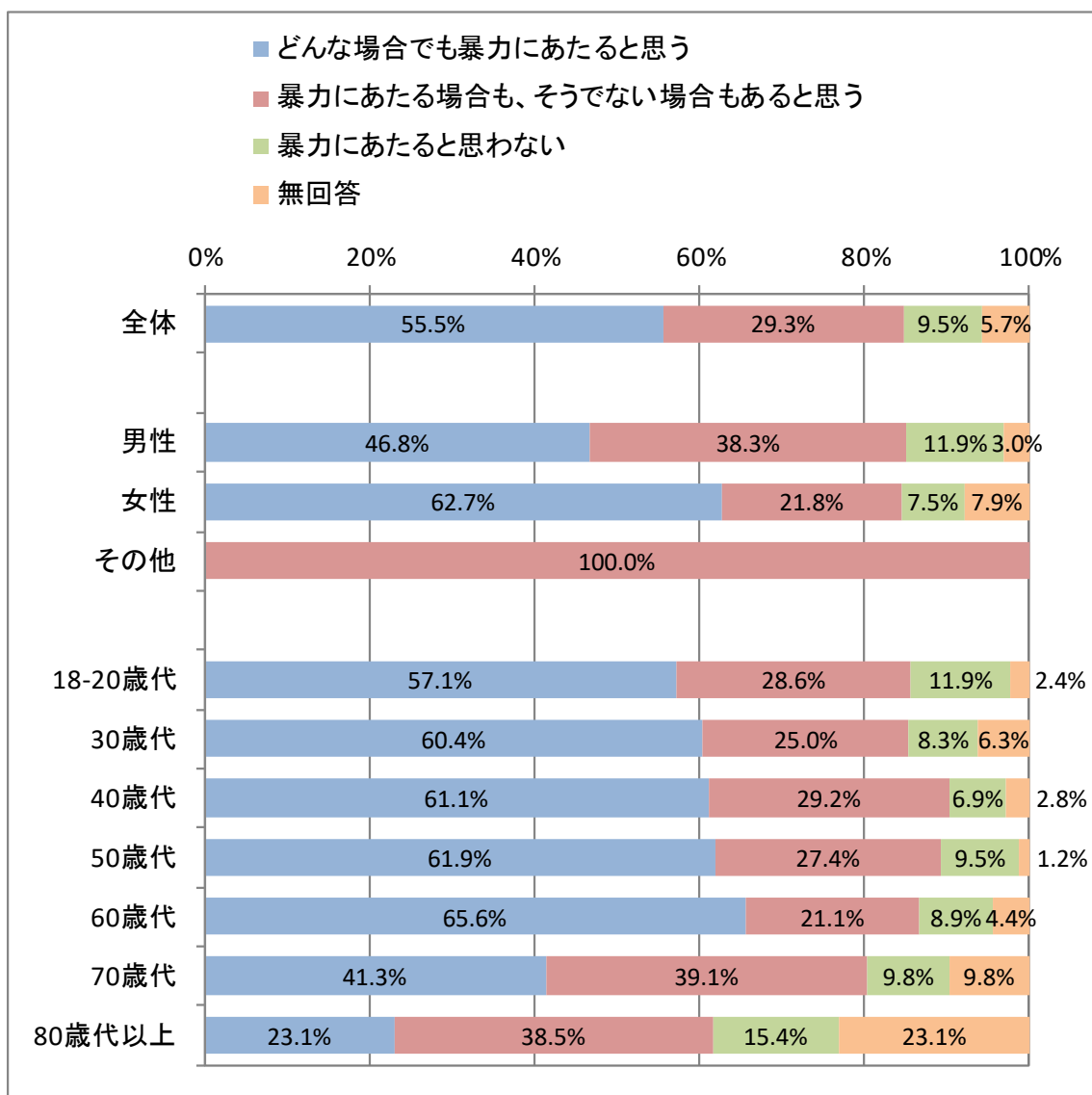


⑥行動を監視・制限する

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が55%と半数以上を占めている。

男女別に見ると、女性では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割と男性よりも高くなっている。

年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は18～60歳代で高くなっている。

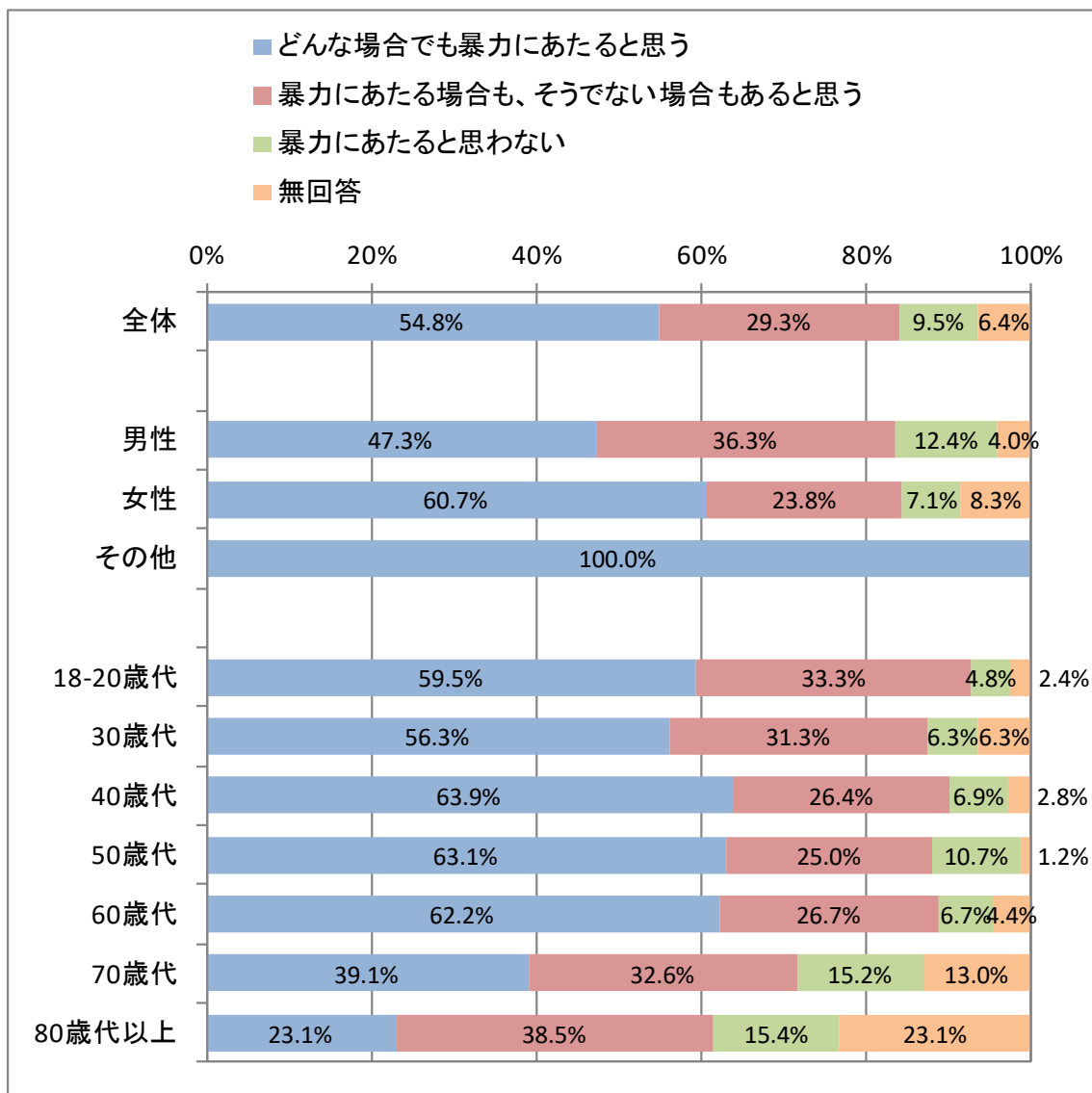


⑦交友関係を監視・制限する

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が54%と半数以上を占めている。

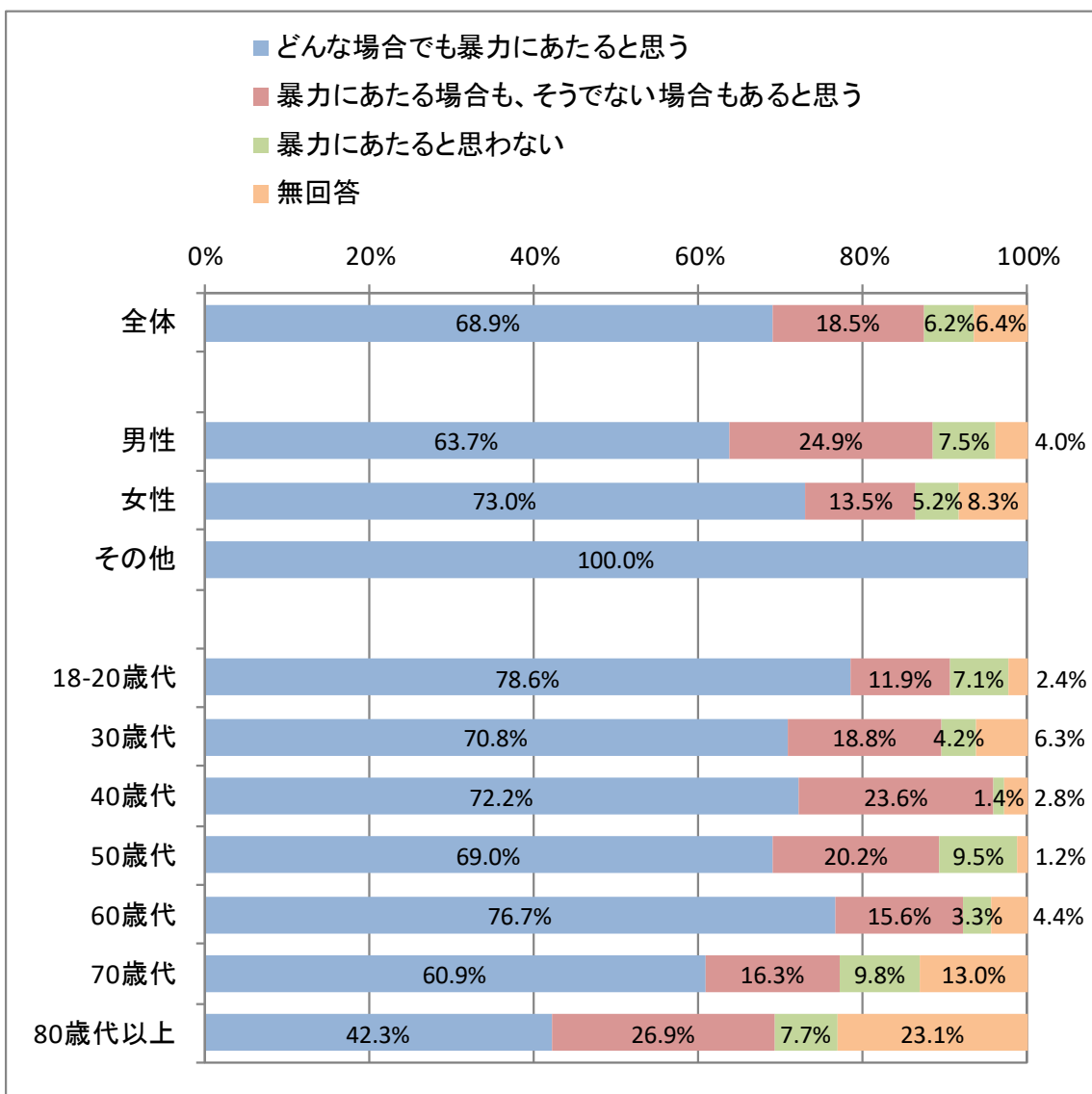
男女別に見ると、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割と男性よりも多くなっている。

年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は18～60歳代で多くなっている。



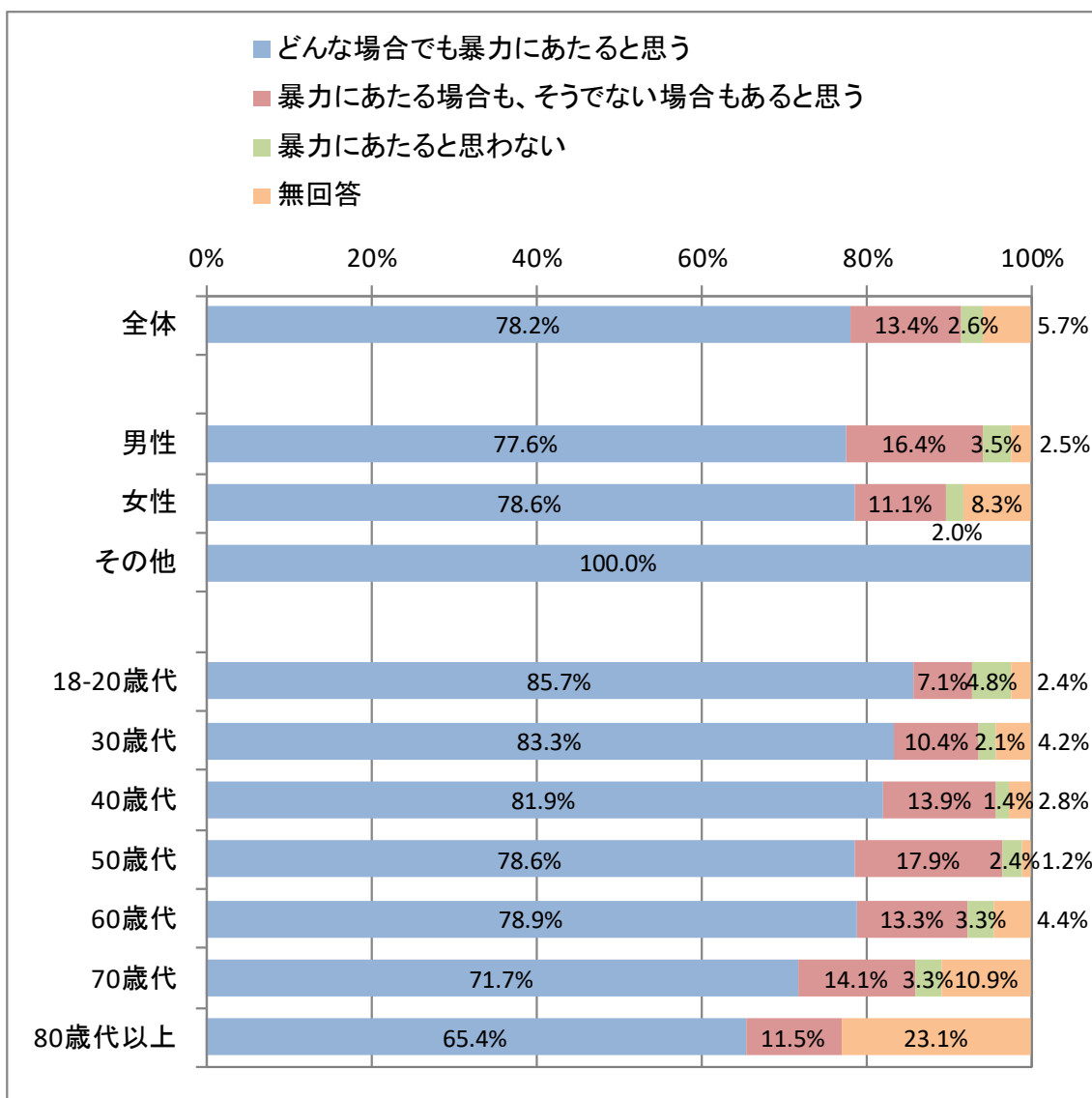
⑧ポルノビデオや雑誌を強制して見せる

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が68%と多くなっている。
 男女別に見ると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっている。
 年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は18～70歳代が多くなっている。



⑨性的な行為を強要する

全体および男女別とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が78%と多くなっている。年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」は全ての年代で多くなっている。

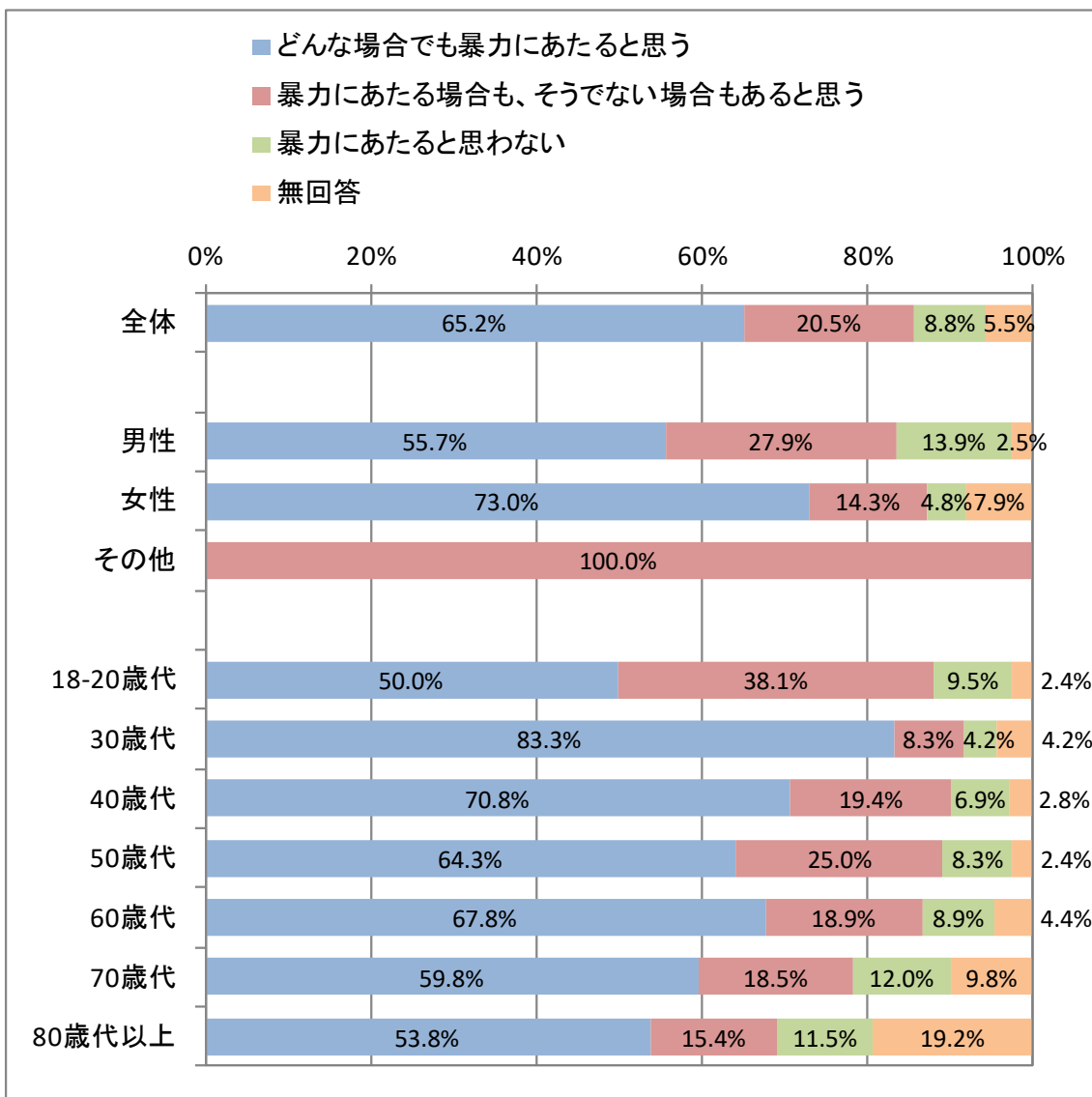


⑩生活費を入れない

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が65%となっている。

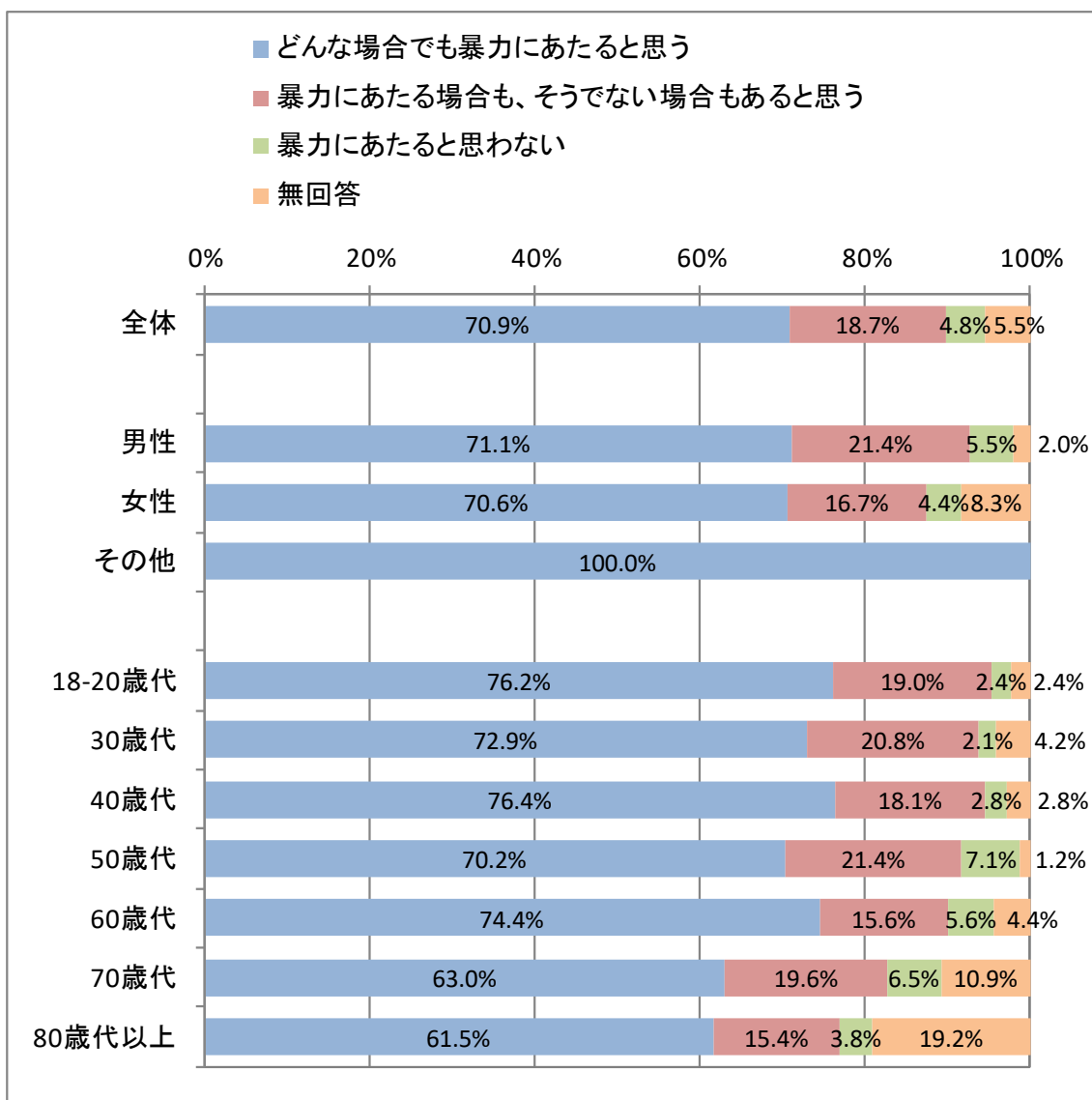
男女別に見ると、女性は「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割と多くなっている。

年代別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」はどの年代でも多いが、18-20歳代は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が約4割となった。



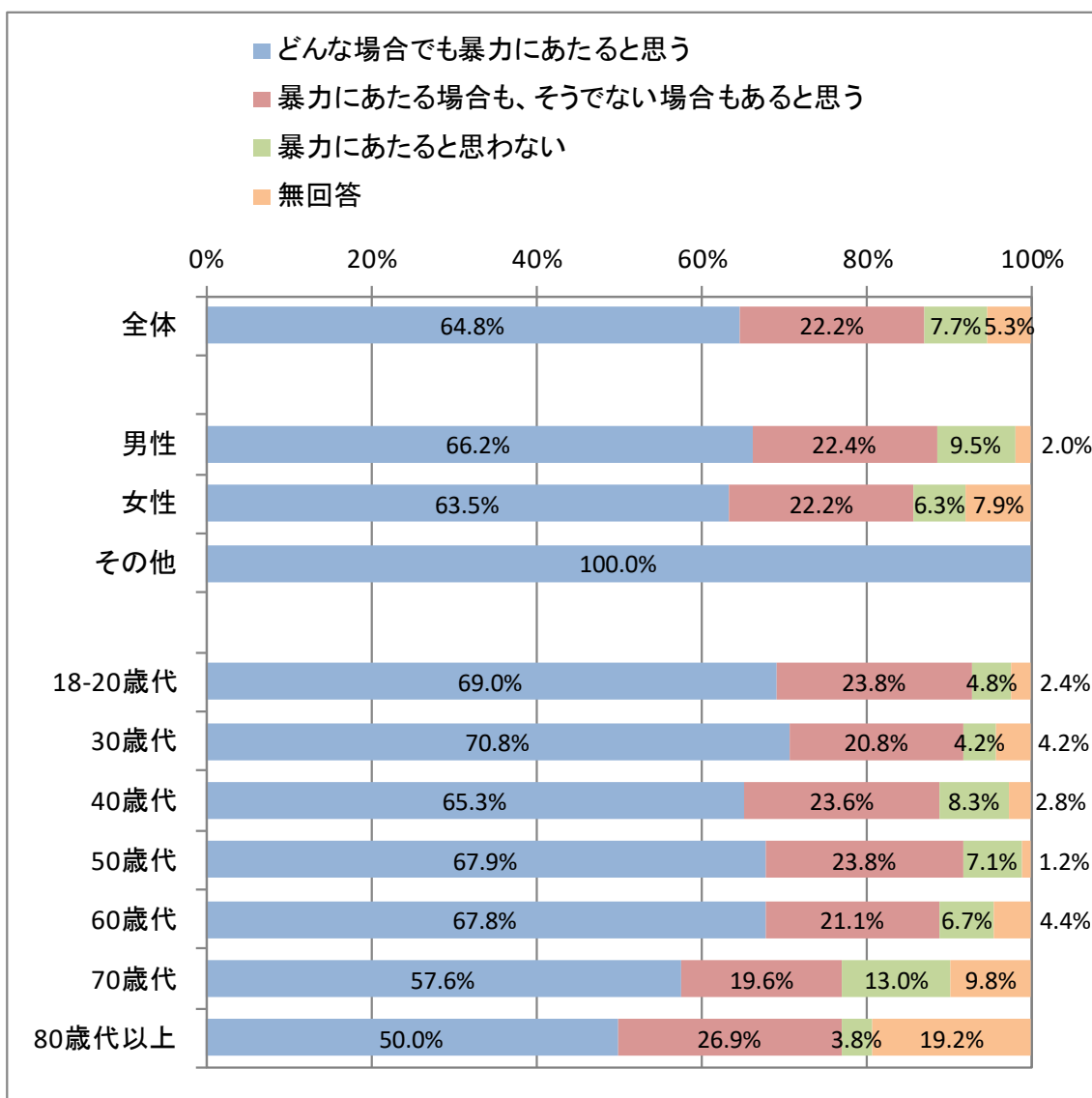
⑪就職や仕事の継続を妨害する

全体および男女別とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が70%と多くなっている。年代別にみても、「どんな場合でも暴力にあたると思う」はどの年代でも多い結果となった。



⑫子どもに悪口を吹き込む

全体および男女別とも、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割台と多くなっている。年代別にみても、「どんな場合でも暴力にあたると思う」はどの年代でも多い結果となった。

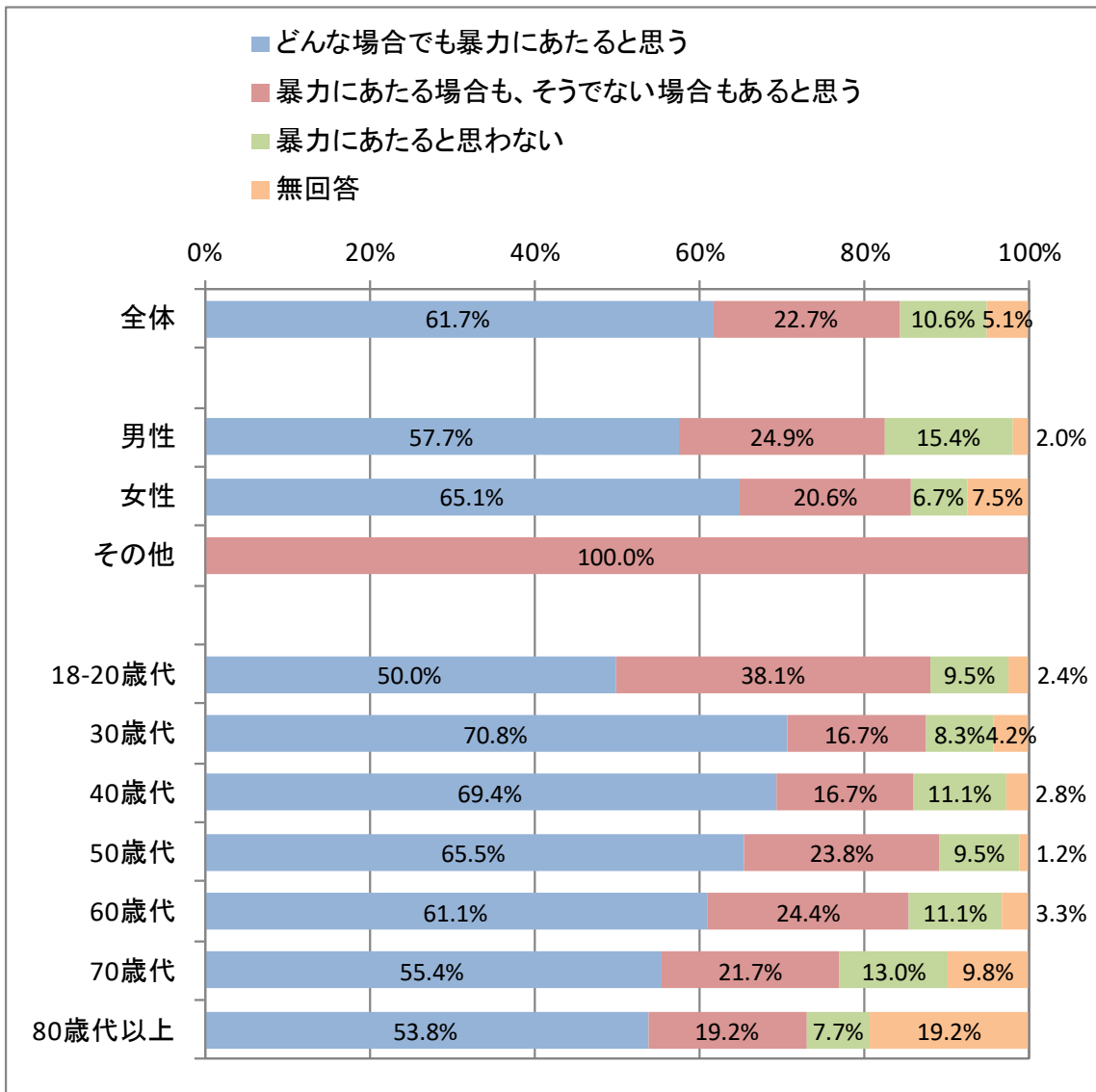


⑬相談せず大金を使う（借りる）

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が61%と多くなっている。

男女別に見ると、男女とも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多くなっている。

年代別に見ても、「どんな場合でも暴力にあたると思う」はどの年代でも多いが、18-20歳代は「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が約4割となった。

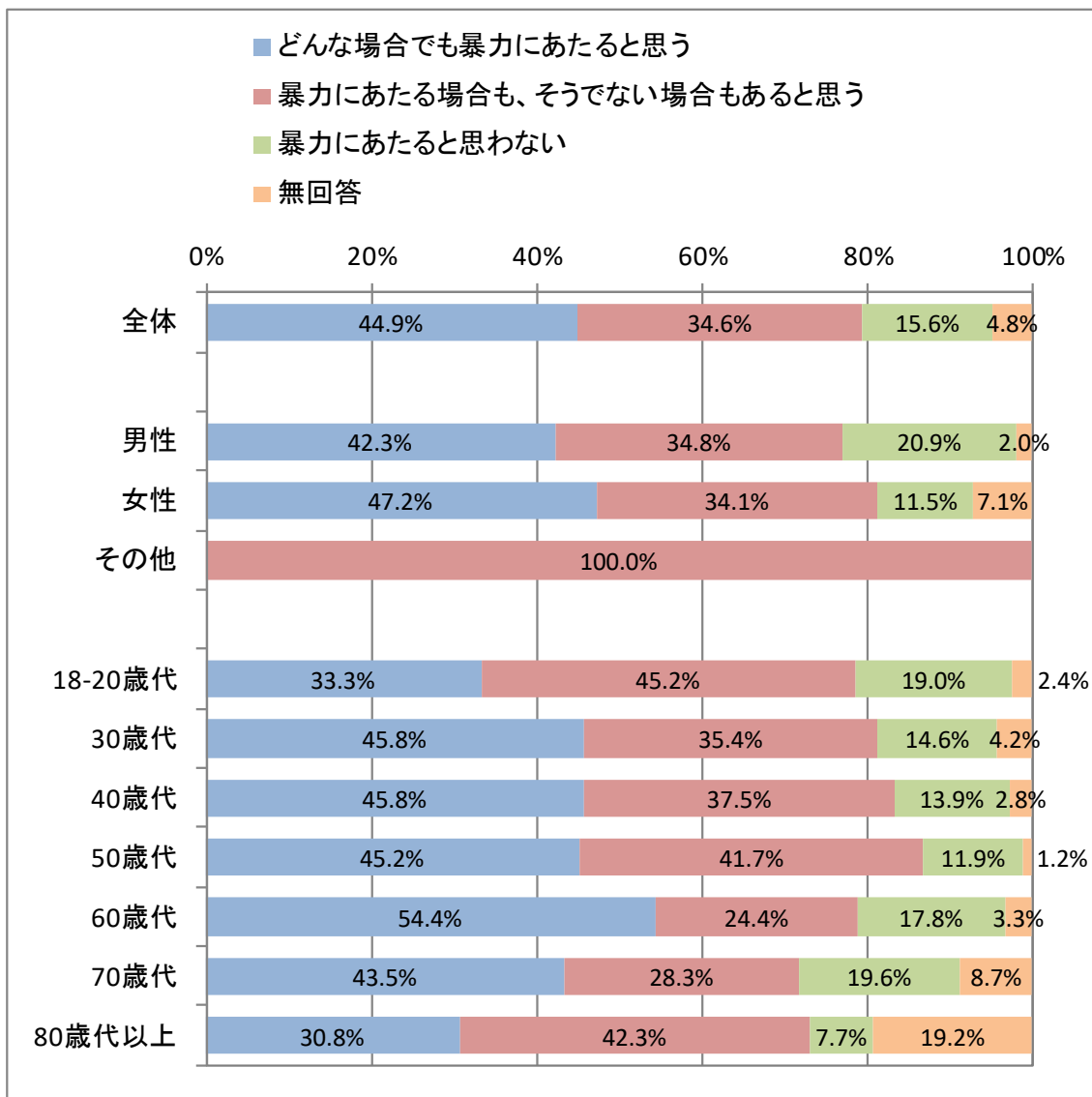


⑭相談せず転職・退職する

全体では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」が44%、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が34%となっている。

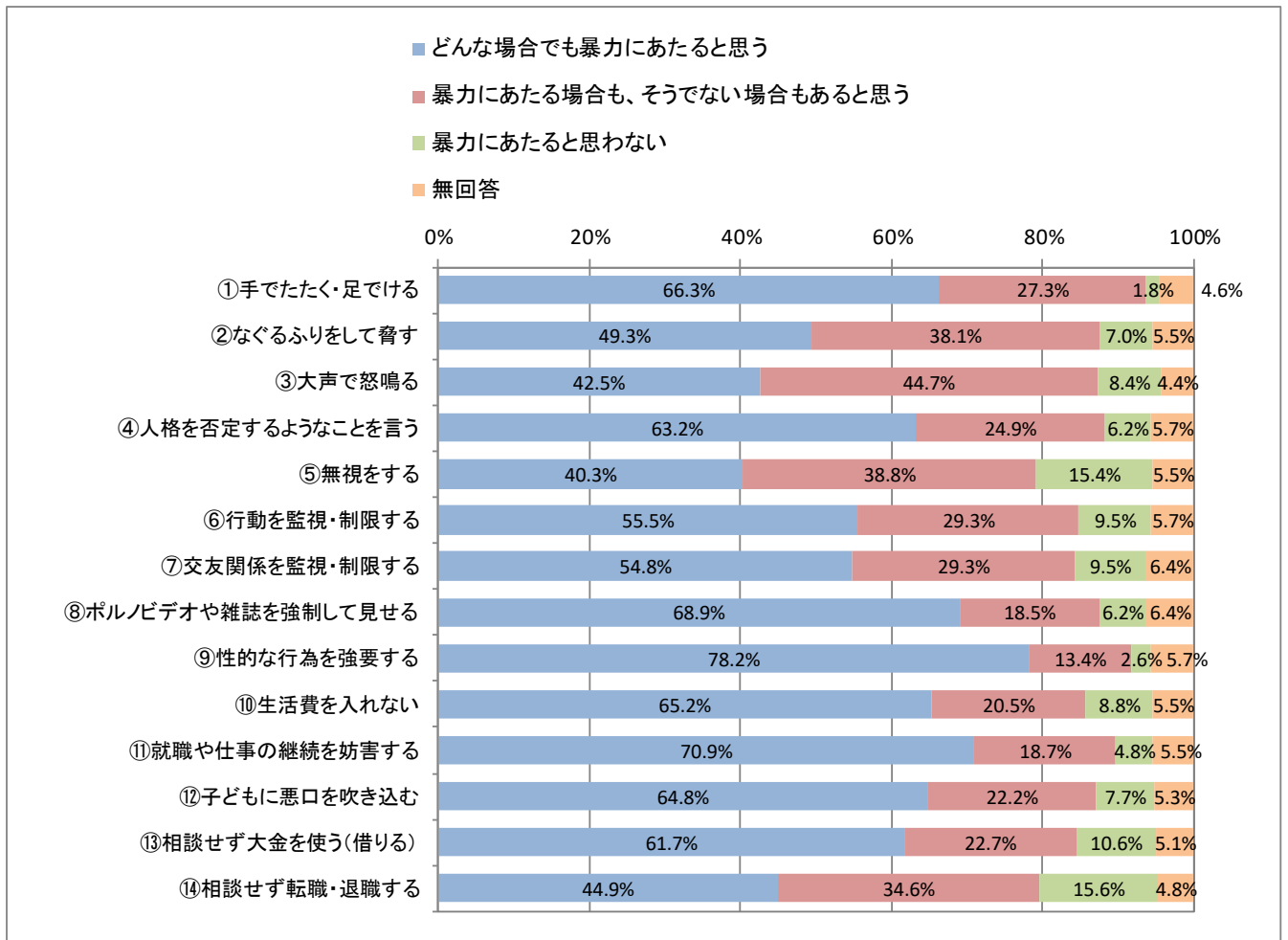
男女別に見ると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」は大きな差異はみられないが、男性の「暴力にあたると思わない」が2割と、女性の倍程度の結果となった。

「大声で怒鳴る」や「無視をする」と同様、他の行為と比較して「どんな場合でも暴力にあたると思う」の回答が少ない結果となった。



■①～⑭での回答結果一覧

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたると思わない	無回答
①手でたたく・足でける	66.3%	27.3%	1.8%	4.6%
②なぐるふりをして脅す	49.3%	38.1%	7.0%	5.5%
③大声で怒鳴る	42.5%	44.7%	8.4%	4.4%
④人格を否定するようなことを言う	63.2%	24.9%	6.2%	5.7%
⑤無視をする	40.3%	38.8%	15.4%	5.5%
⑥行動を監視・制限する	55.5%	29.3%	9.5%	5.7%
⑦交友関係を監視・制限する	54.8%	29.3%	9.5%	6.4%
⑧ポルノビデオや雑誌を強制して見せる	68.9%	18.5%	6.2%	6.4%
⑨性的な行為を強要する	78.2%	13.4%	2.6%	5.7%
⑩生活費を入れない	65.2%	20.5%	8.8%	5.5%
⑪就職や仕事の継続を妨害する	70.9%	18.7%	4.8%	5.5%
⑫子どもに悪口を吹き込む	64.8%	22.2%	7.7%	5.3%
⑬相談せず大金を使う（借りる）	61.7%	22.7%	10.6%	5.1%
⑭相談せず転職・退職する	44.9%	34.6%	15.6%	4.8%



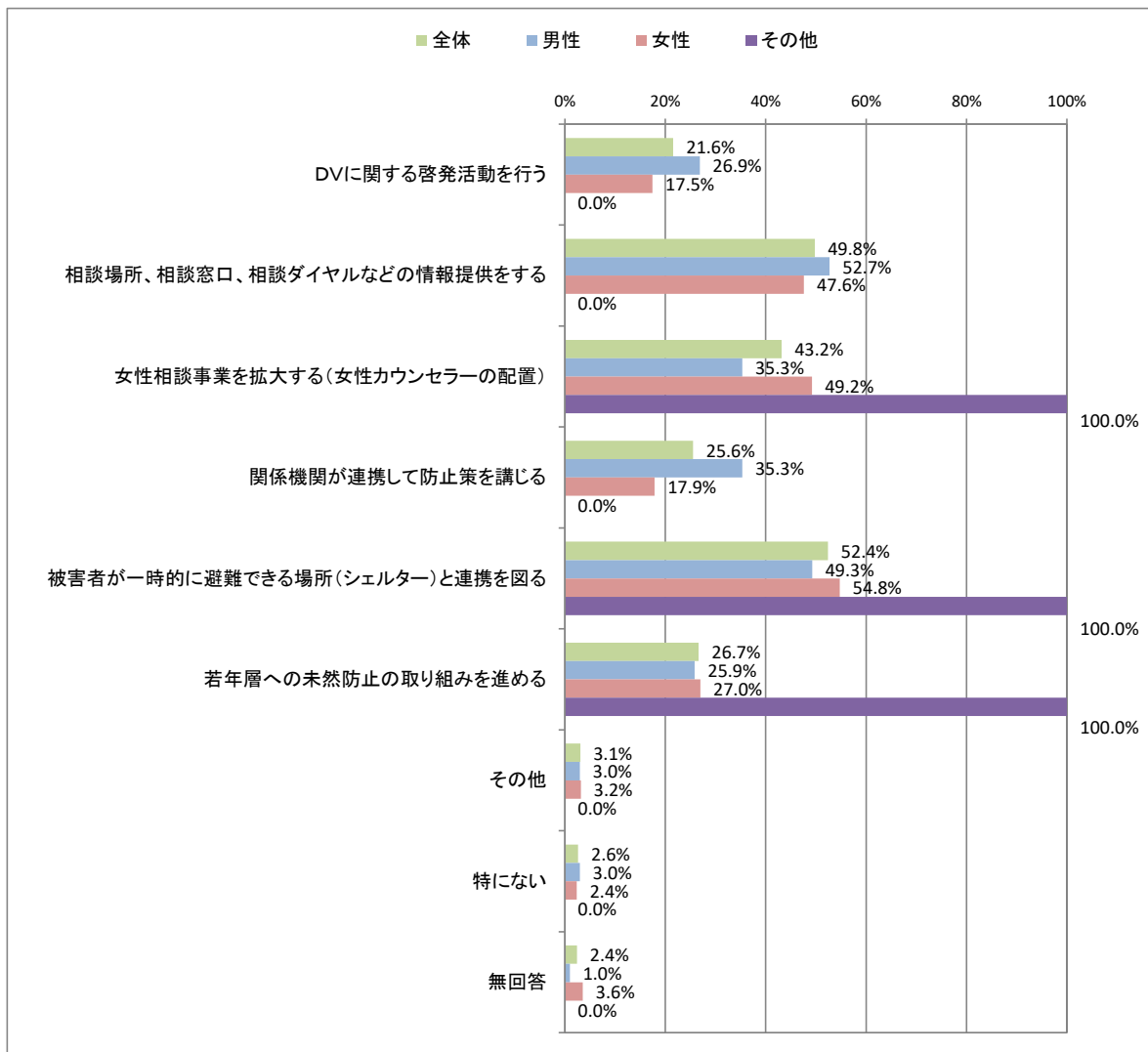
(4) 男女間の暴力等の防止で市が取り組むべきこと

問 23 男女間の暴力（DV）の対応策として、市が取り組むべきだと思うことはどのようなことですか。

全体では、「被害者が一時的に避難できる場所（シェルター）と連携を図る」が 52%と最も多く、次いで「相談場所、相談窓口、相談ダイヤルなどの情報提供をする」が 49%、「女性相談事業を拡大する（女性カウンセラーの配置）」が 43%となっている。

男女別に見ると、男性では「相談場所、相談窓口、相談ダイヤルなどの情報提供をする」が 52%、女性は「被害者が一時的に避難できる場所（シェルター）と連携を図る」が 54%と、それぞれ最も多くなっている。

年代別に見ると、「被害者が一時的に避難できる場所（シェルター）と連携を図る」は 18～50 歳代、「相談場所、相談窓口、相談ダイヤルなどの情報提供をする」は 60～80 歳代以上でそれぞれ多くなっている。



区分	暴力等に市が取り組むべきこと(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合									
	全体	DVIに関する啓発活動を行う	相談場所、相談窓口、ダイヤルなどの情報提供をする	相談場所、相談窓口に女性相談員を拡大する(女性カウンセラーの配置)	関係機関が連携して防止策を講じる	被害者が一時的に避難できる場所(シェルター)と連携を図る	若年層への未然防止の取り組みを進める	その他	特になし	無回答
全体	454 100.0%	98 21.6%	226 49.8%	196 43.2%	116 25.6%	238 52.4%	121 26.7%	14 3.1%	12 2.6%	11 2.4%
男女別	男性	201 100.0%	54 26.9%	106 52.7%	71 35.3%	99 49.3%	52 25.9%	6 3.0%	6 3.0%	2 1.0%
	女性	252 100.0%	44 17.5%	120 47.6%	124 49.2%	45 17.9%	138 54.8%	68 27.0%	8 3.2%	9 3.6%
	その他	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
年代別	18-20歳代	42 100.0%	11 26.2%	16 38.1%	17 40.5%	7 16.7%	28 66.7%	18 42.9%	1 2.4%	0 0.0%
	30歳代	48 100.0%	8 16.7%	16 33.3%	20 41.7%	9 18.8%	35 72.9%	15 31.3%	2 4.2%	0 0.0%
	40歳代	72 100.0%	12 16.7%	34 47.2%	36 50.0%	22 30.6%	36 50.0%	18 25.0%	3 4.2%	0 0.0%
	50歳代	84 100.0%	18 21.4%	45 53.6%	45 53.6%	15 17.9%	49 58.3%	23 27.4%	2 2.4%	2 2.4%
	60歳代	90 100.0%	17 18.9%	55 61.1%	36 40.0%	31 34.4%	46 51.1%	25 27.8%	4 4.4%	1 1.1%
	70歳代	92 100.0%	26 28.3%	47 51.1%	36 39.1%	26 28.3%	37 40.2%	15 16.3%	0 0.0%	3 3.3%
	80歳代以上	26 100.0%	6 23.1%	13 50.0%	6 23.1%	6 23.1%	7 26.9%	7 26.9%	2 7.7%	1 3.8%

4. 男女共同参画社会について

◆男女共同参画社会について

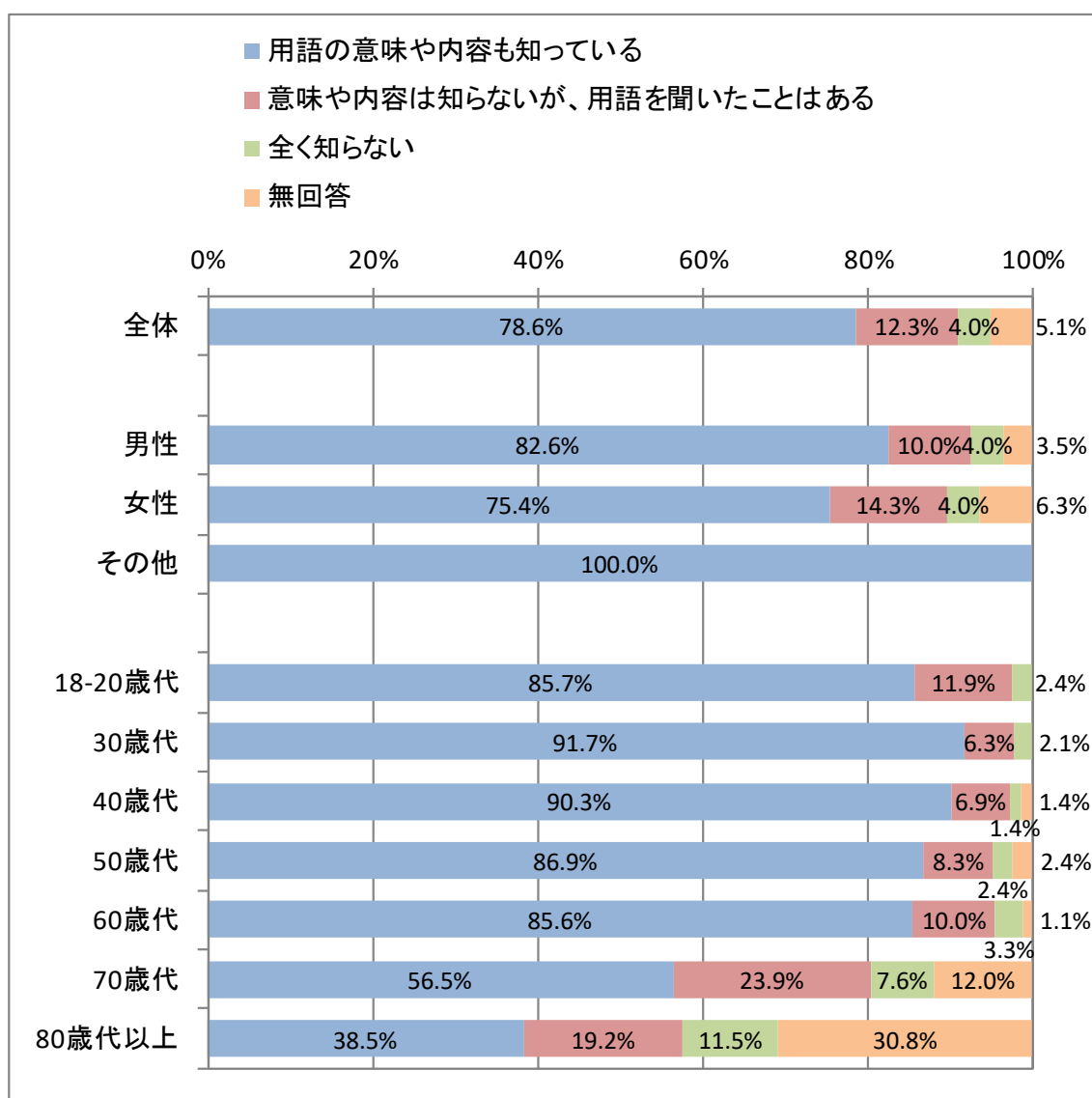
(1) 男女共同参画社会の関連用語の認知

問 24 次の男女共同参画社会に関する用語のうち、あなたが知っている用語はありますか。

①DV（ドメスティック・バイオレンス）

全体および男女別では、「用語の意味や内容も知っている」が7割以上を占めており、9項目の中で最も認知度が高い。

年代別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」は18～60歳代で8割以上を占めている。

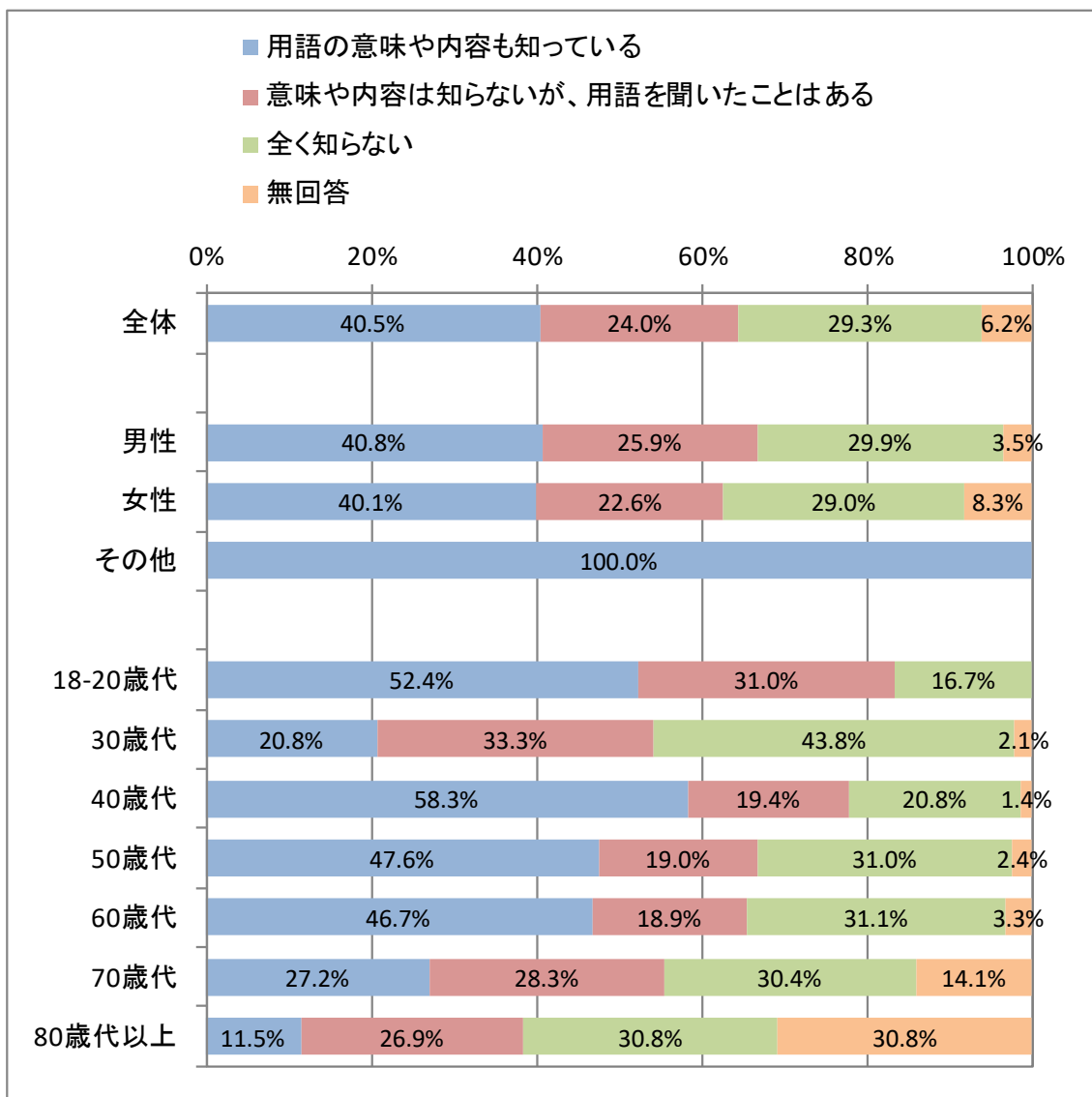


②デートDV

全体では、「用語の意味や内容も知っている」が40%、次いで「全く知らない」が29%、「意味や内容は知らないが、用語を聞いた事はある」は24%であった。

男女別に見ても、大きな差異はみられない。

年代別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことある」の合計数は、80歳代以上を除く世代ではいずれも回答者の過半数を超えている。

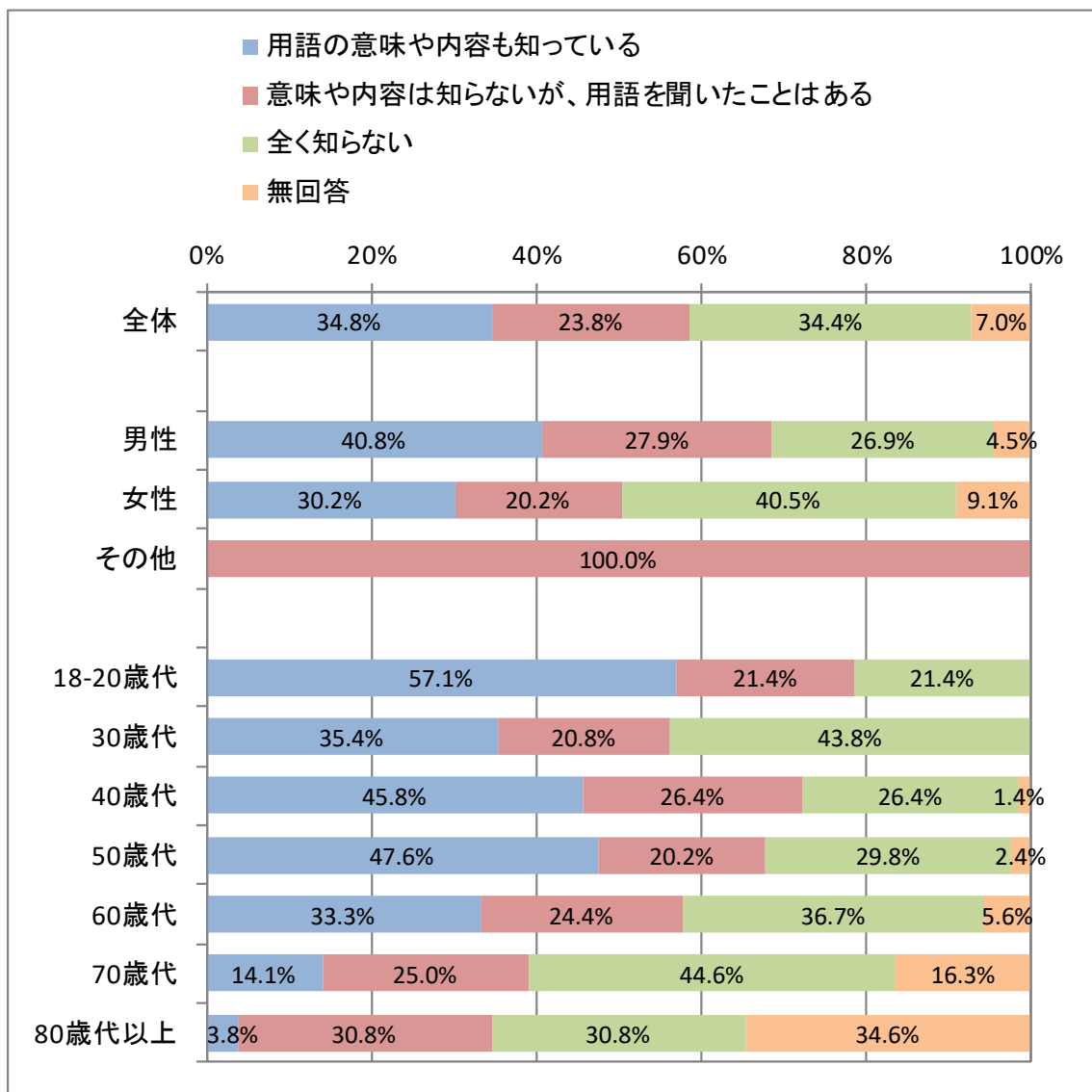


③ワーク・ライフ・バランス

全体では、「用語の意味や内容も知っている」と「全く知らない」が34%となった。

男女別に見ると、男性では「用語の意味や内容も知っている」が、女性では「全く知らない」がそれぞれ4割と多くなっている。

年代別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数が、60歳代以下では過半数を超え、70歳代以上では5割以下となっている。

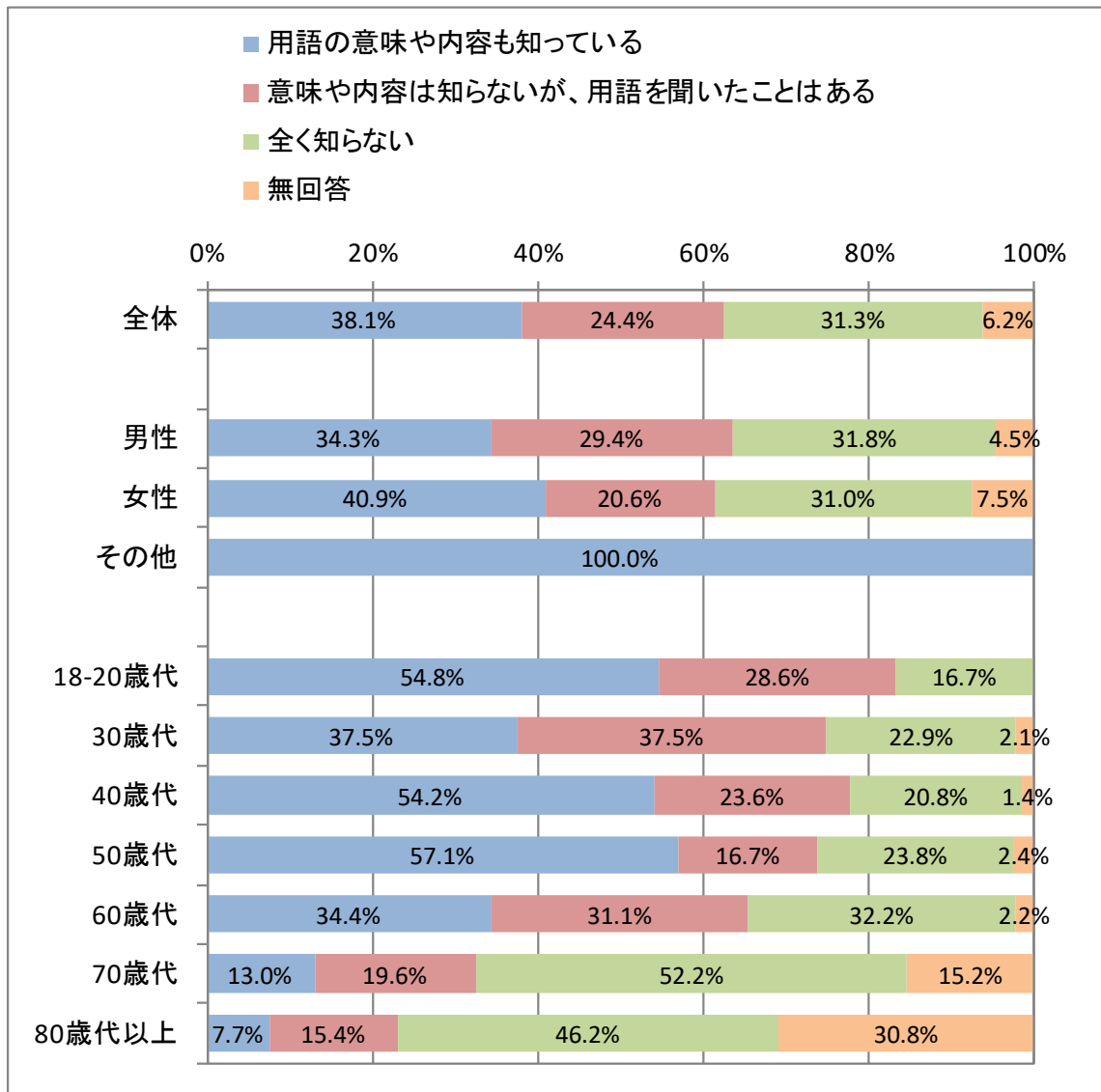


④ジェンダー

全体では、「用語の意味や内容も知っている」が 38%、次いで「全く知らない」が 31% となっている。

男女別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」は女性が多くなっている。

年代別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数が、60 歳代以下では 6 割を超え、70 歳代以上では 4 割以下となっている。

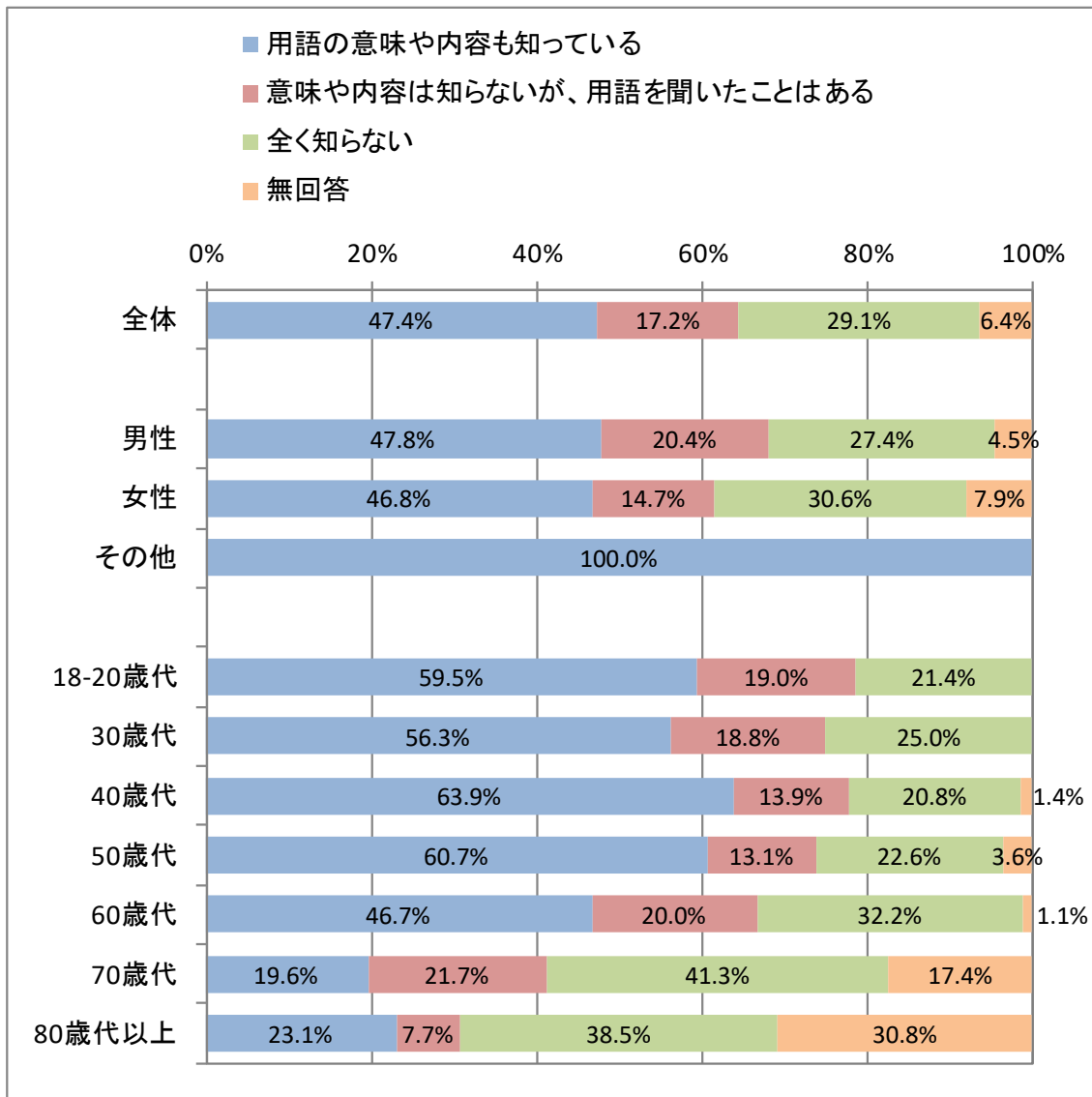


⑤ L G B T

全体では、「用語の意味や内容も知っている」が 47%、次いで「全く知らない」が 29% となっている。

男女別に見ても、全体とほぼ同様な傾向が見受けられる。

年代別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数が、60 歳代以下では 7 割から 8 割程度であり、70 歳代以上では 3 割から 4 割程度となっている。

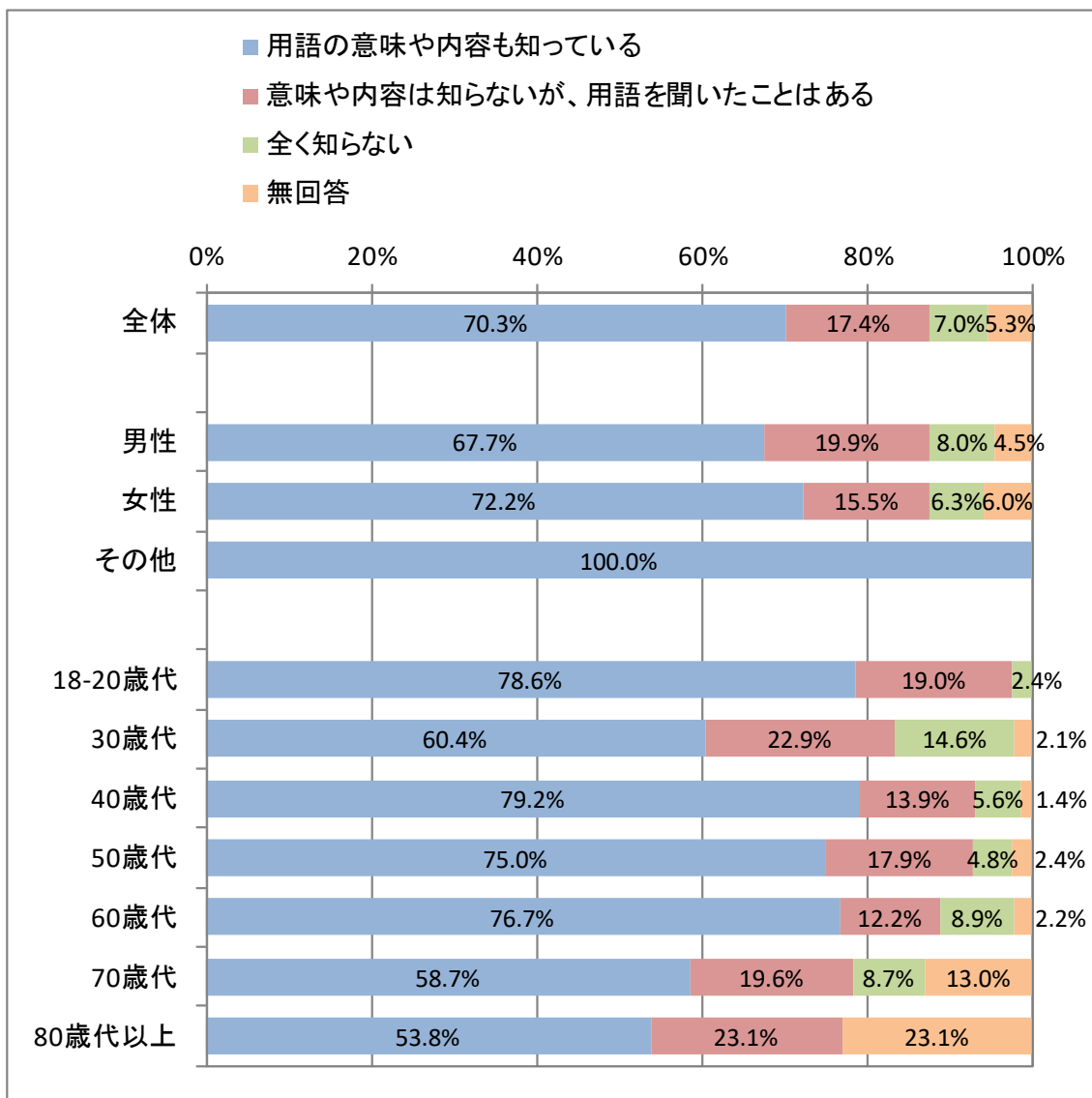


⑥パートナー

全体では、「用語の意味や内容も知っている」が70%となっている。

男女別に見ても、全体とほぼ同様な傾向が見受けられる。

年代別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数が、どの年代でも7割を超えている。

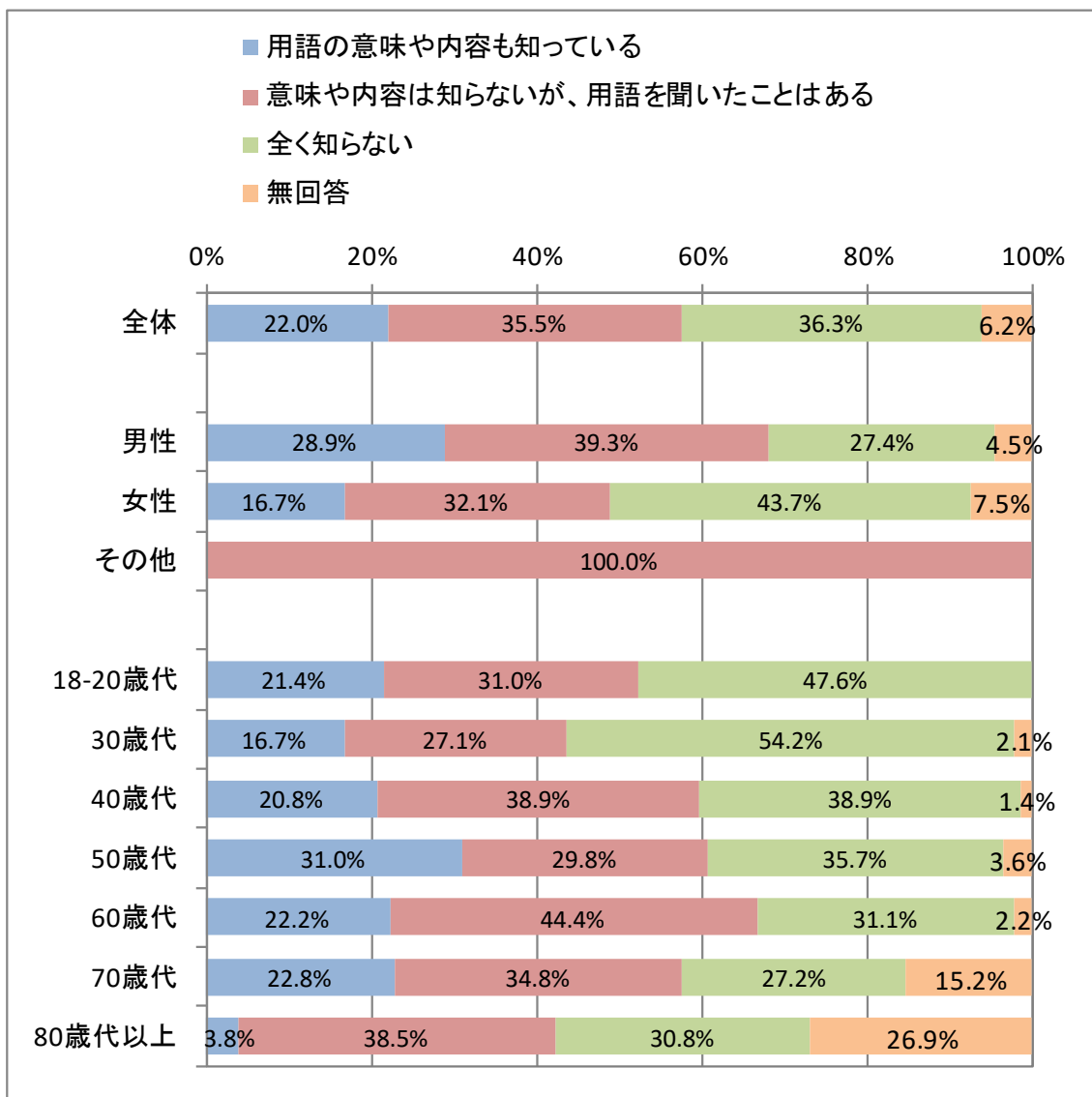


⑦女性活躍推進法

全体では、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数は57%となっている。

男女別に見ると、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数の割合は男性の方が女性よりも高くなっている。

またどの年代でも「用語の意味や内容も知っている」を「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の回答数が上回っている。

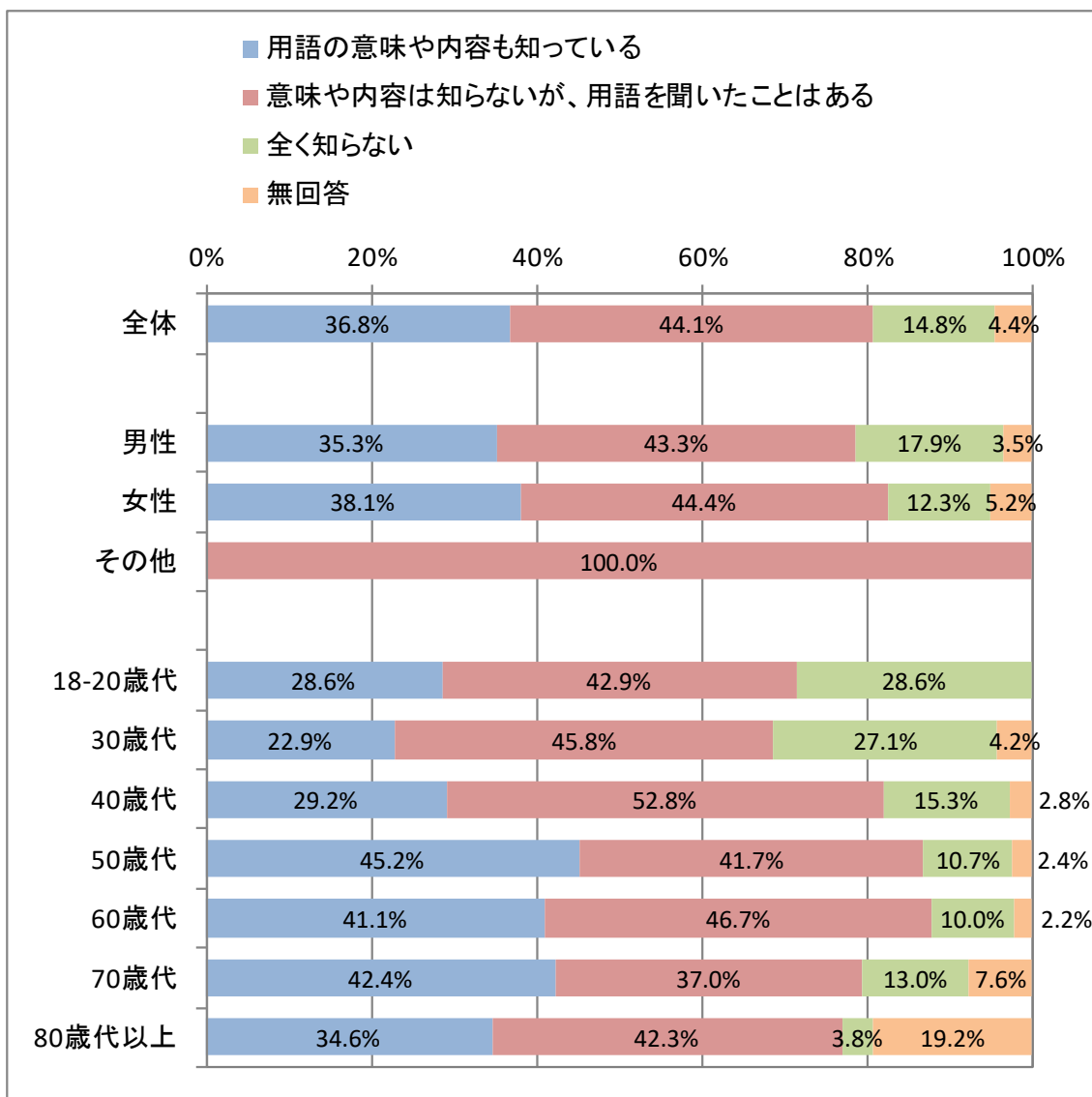


⑧敦賀市男女共同参画センター

全体では、「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」が 44%、次いで「用語の意味や内容も知っている」が 36%となっている。

男女別に見ても、全体とほぼ同様な傾向が見受けられる。

年代別に見ると、30 歳代以下では他の年代と比較し、「全く知らない」の回答数が多い結果となった。

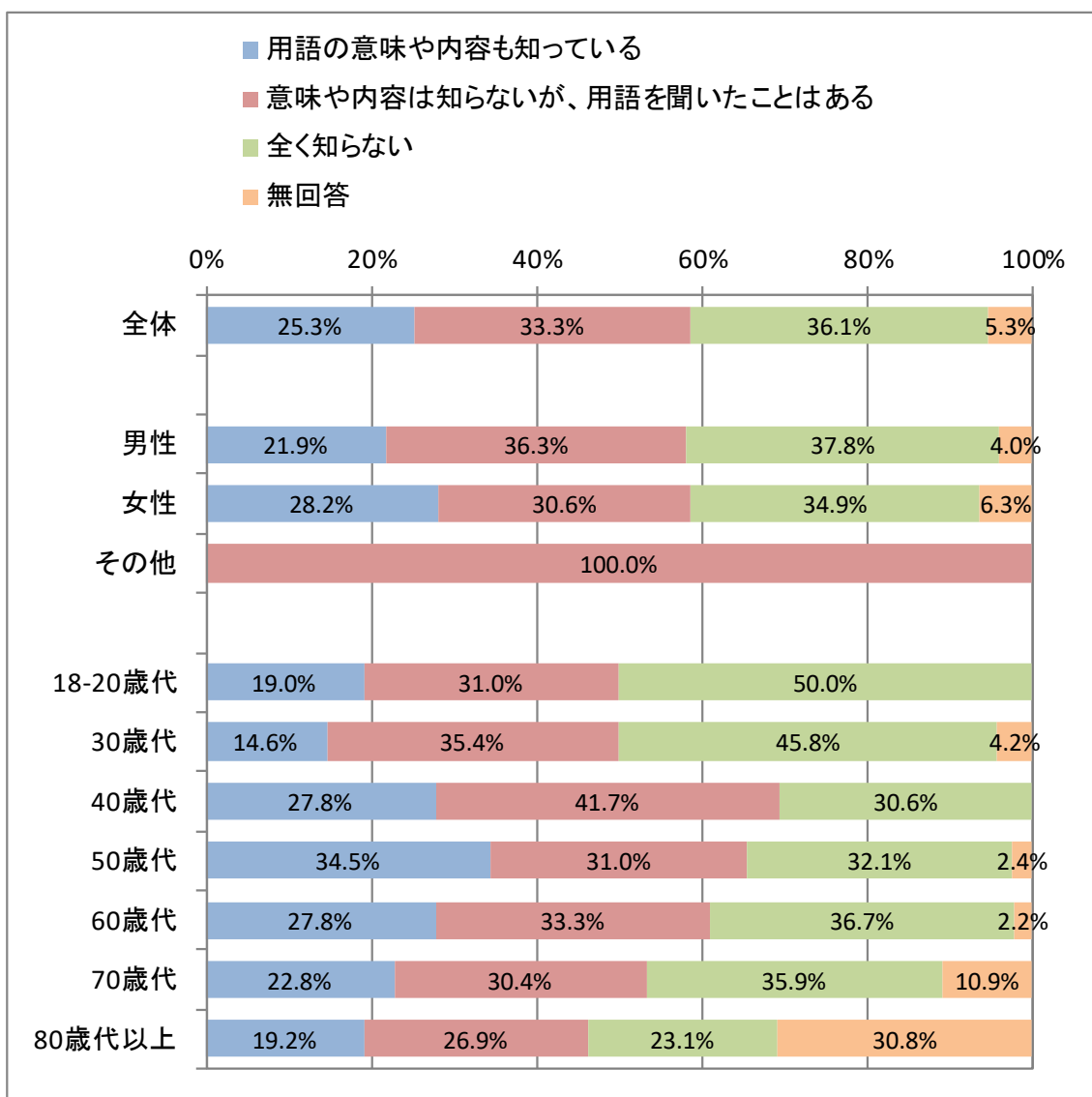


⑨ 敦賀市女性相談窓口

全体では、「全く知らない」が36%となっているが、「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数は58%となっている。

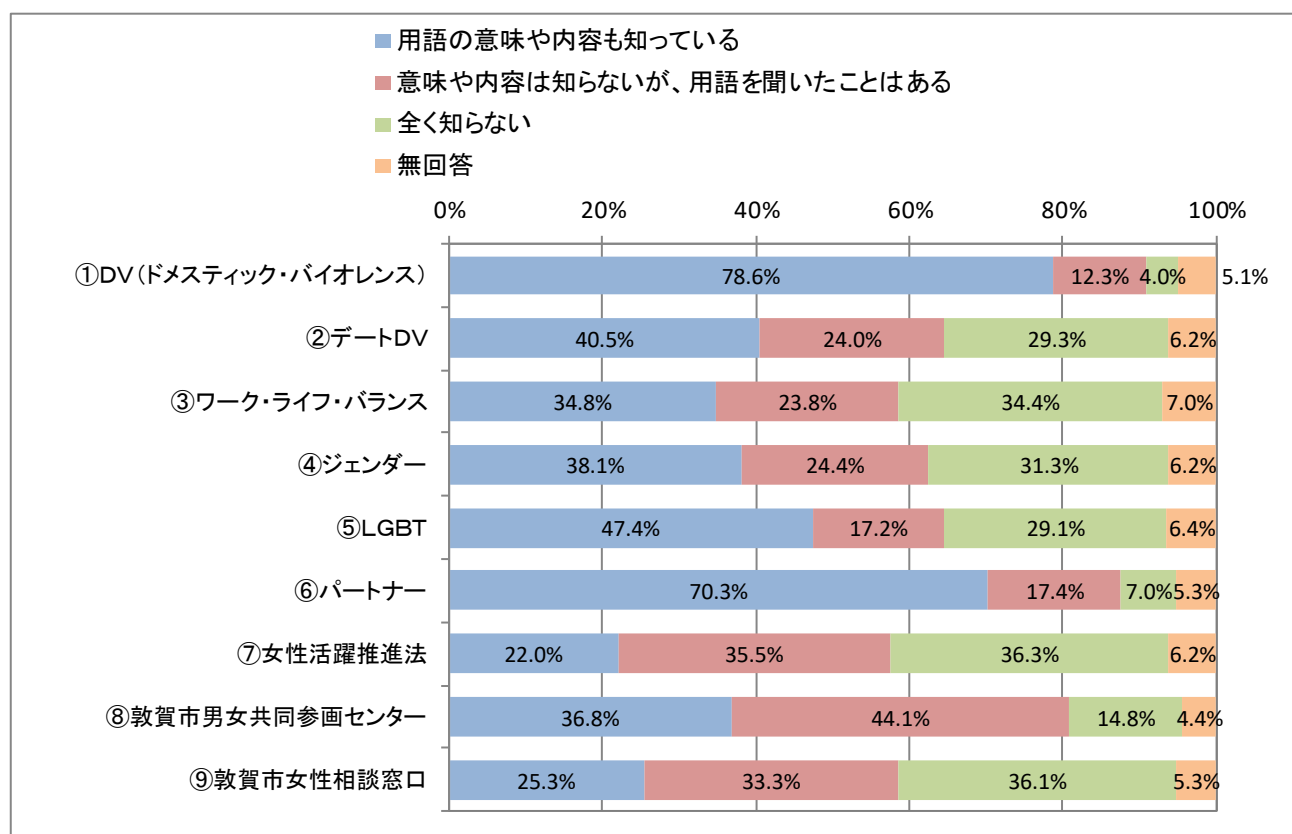
男女で比較すると、女性の方が「用語の意味や内容も知っている」の割合が高くなっている。

年代で比較すると、80歳代以上を除き、どの年代でも「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある」の合計数が5割以上となっている。



■①～⑨での回答結果一覧

	用語の意味や内容も知っている	意味や内容は知らないが、用語を聞いたことはある	全く知らない	無回答
①DV（ドメスティック・バイオレンス）	78.6%	12.3%	4.0%	5.1%
②デートDV	40.5%	24.0%	29.3%	6.2%
③ワーク・ライフ・バランス	34.8%	23.8%	34.4%	7.0%
④ジェンダー	38.1%	24.4%	31.3%	6.2%
⑤LGBT	47.4%	17.2%	29.1%	6.4%
⑥パートナー	70.3%	17.4%	7.0%	5.3%
⑦女性活躍推進法	22.0%	35.5%	36.3%	6.2%
⑧敦賀市男女共同参画センター	36.8%	44.1%	14.8%	4.4%
⑨敦賀市女性相談窓口	25.3%	33.3%	36.1%	5.3%



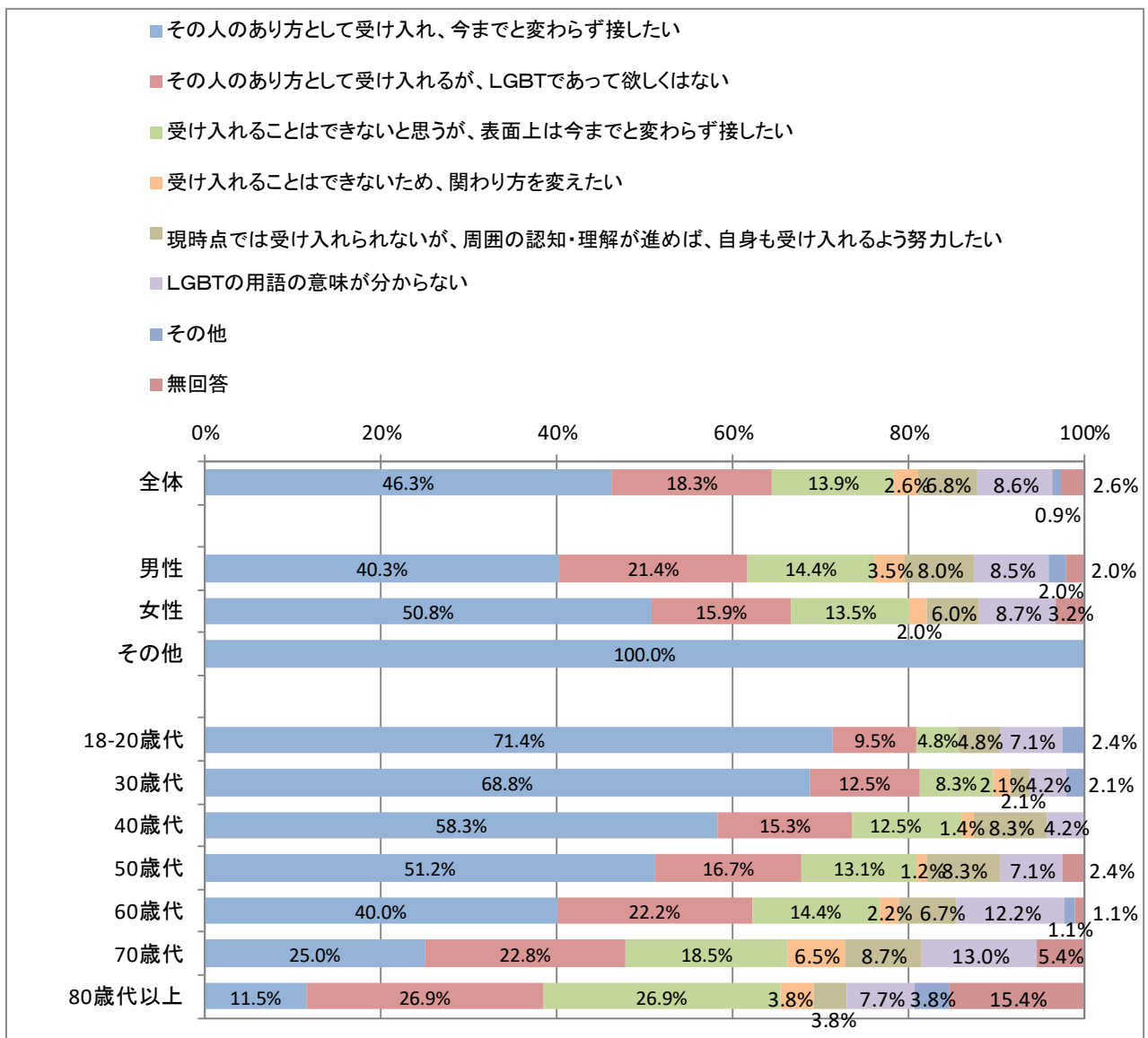
(2) LGBTへの対応

問 25 あなたの親族や友人、同僚など身近な人がLGBTであった場合、あなたはどのように思いますか。

全体では、「その人のあり方として受け入れ、今までと変わらず接したい」が最も多く 46%、次いで「その人のあり方として受け入れるが、LGBTであって欲しくはない」が 18%、「受け入れることはできないと思うが、表面上は今までと変わらず接したい」が 13%となっている。

男女別に見ると、男女ともに「その人のあり方として受け入れ、今までと変わらず接したい」の回答が4割から5割と多くなっている。

年代別に見ると、「その人のあり方として受け入れ、今までと変わらず接したい」が18-20歳代で最も多く、年代が高くなるに従い少なくなる傾向が見受けられる。



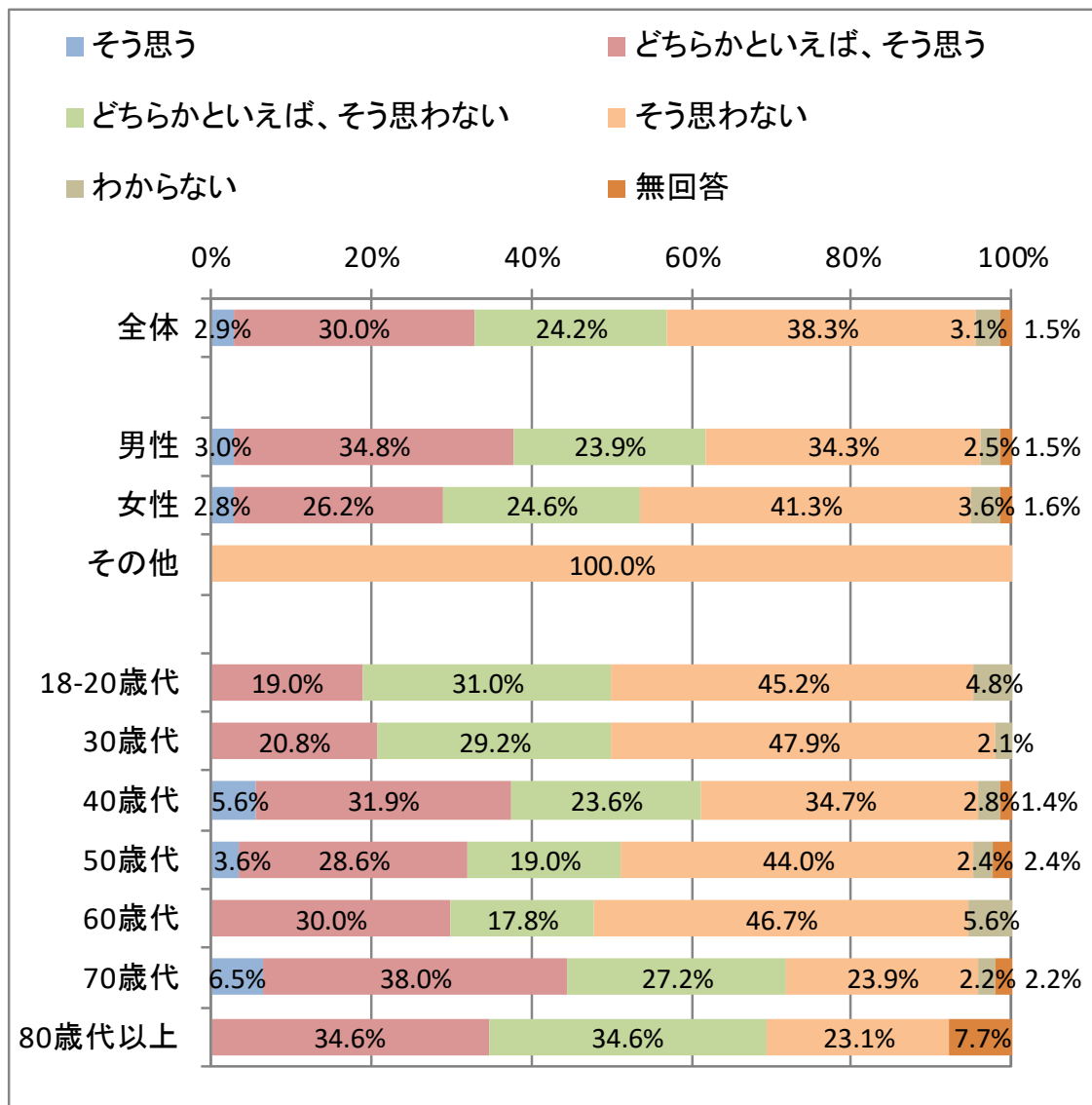
(3) 男女の役割分担

問 26 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

全体では、「そう思わない」が最も多く 38%、次いで「どちらかといえば、そう思う」が 30%となっており、『そう思わない』は6割を占めている。

男女別に見ると、男性では「どちらかといえば、そう思う」が、女性では「そう思わない」が多くなっている。

年代別に見ると、「そう思わない」は 18～60 歳代で、「どちらかといえば、そう思う」は 70 歳代で多くなっている。



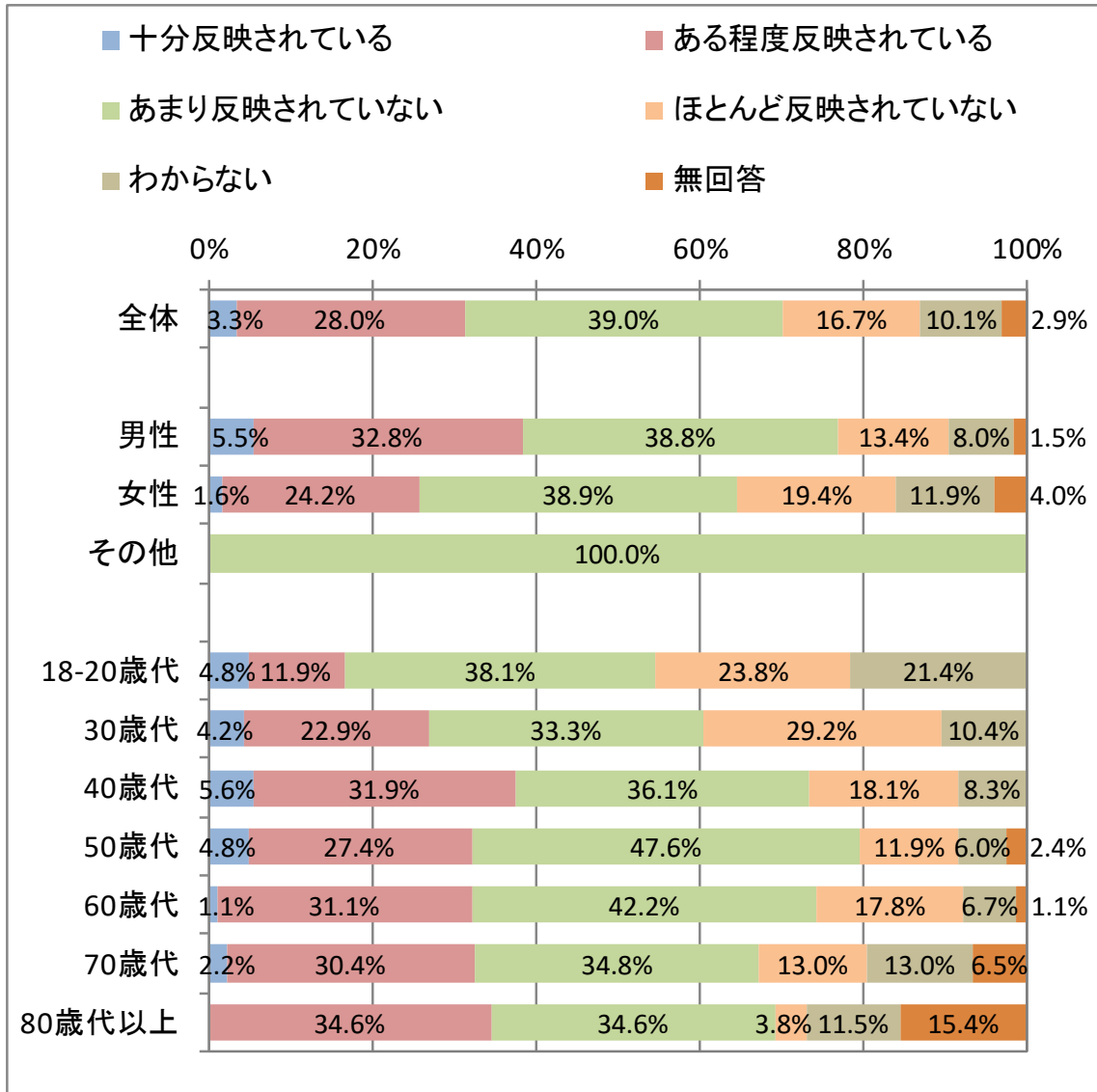
(4) 女性意見の反映度合

問 27 あなたは現在の政治や経済に、女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。

全体では、「あまり反映されていない」が 39%、次いで「ある程度反映されている」が 28% となっている。

男女別に見ると、『反映されている』は女性より男性が、『反映されていない』は男性よりも女性がそれぞれ多くなっている。

いずれの世代でも「あまり反映されていない」の割合が最も高い。



(5) 男女の立場

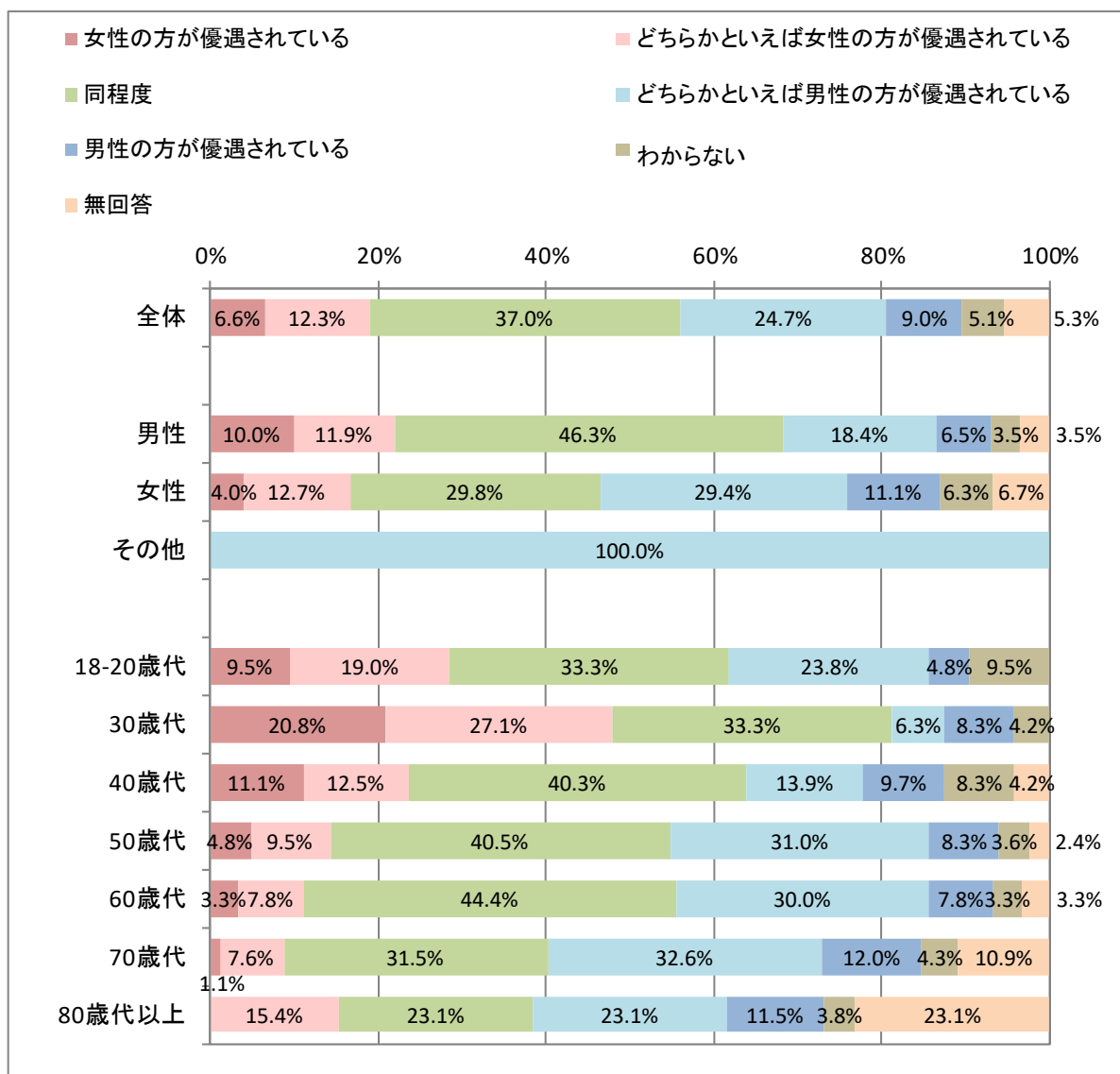
問 28 あなたは、次の①～⑧の分野で男女の立場はどのようになっていると思いますか。

①家庭生活の場

全体では、「同程度」が最も多く 37%、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 24%となっている。また、8項目の中では、最も『女性の方が優遇されている』の回答割合が高くなっている。

男女別に見ると、男性は「同程度」、女性は「同程度」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が多くなっている。

年代別に見ると、40歳代以下では『女性の方が優遇されている』が、『男性の方が優遇されている』よりも回答割合が高く、50歳代以上ではその傾向が逆転する。

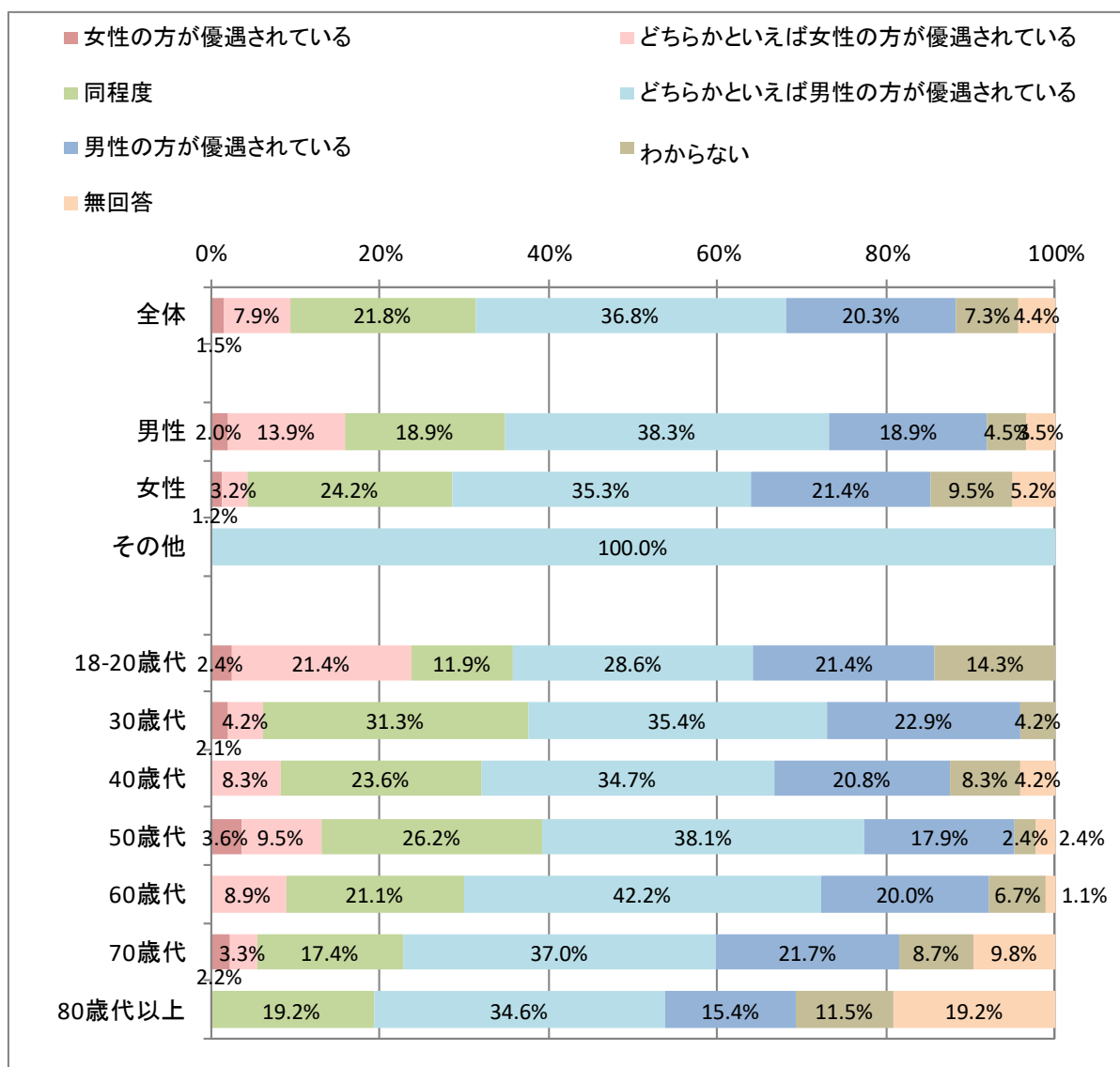


②職場

全体では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多く 36%、次いで「同程度」が 21%、「男性の方が優遇されている」が 20%となっている。

男女別に見ると、『女性の方が優遇されている』の割合は、女性よりも男性の方が約 3 倍近く多くなっている。

年代別に見ると、いずれの年代でも『男性の方が優遇されている』の回答割合が高い結果となった。

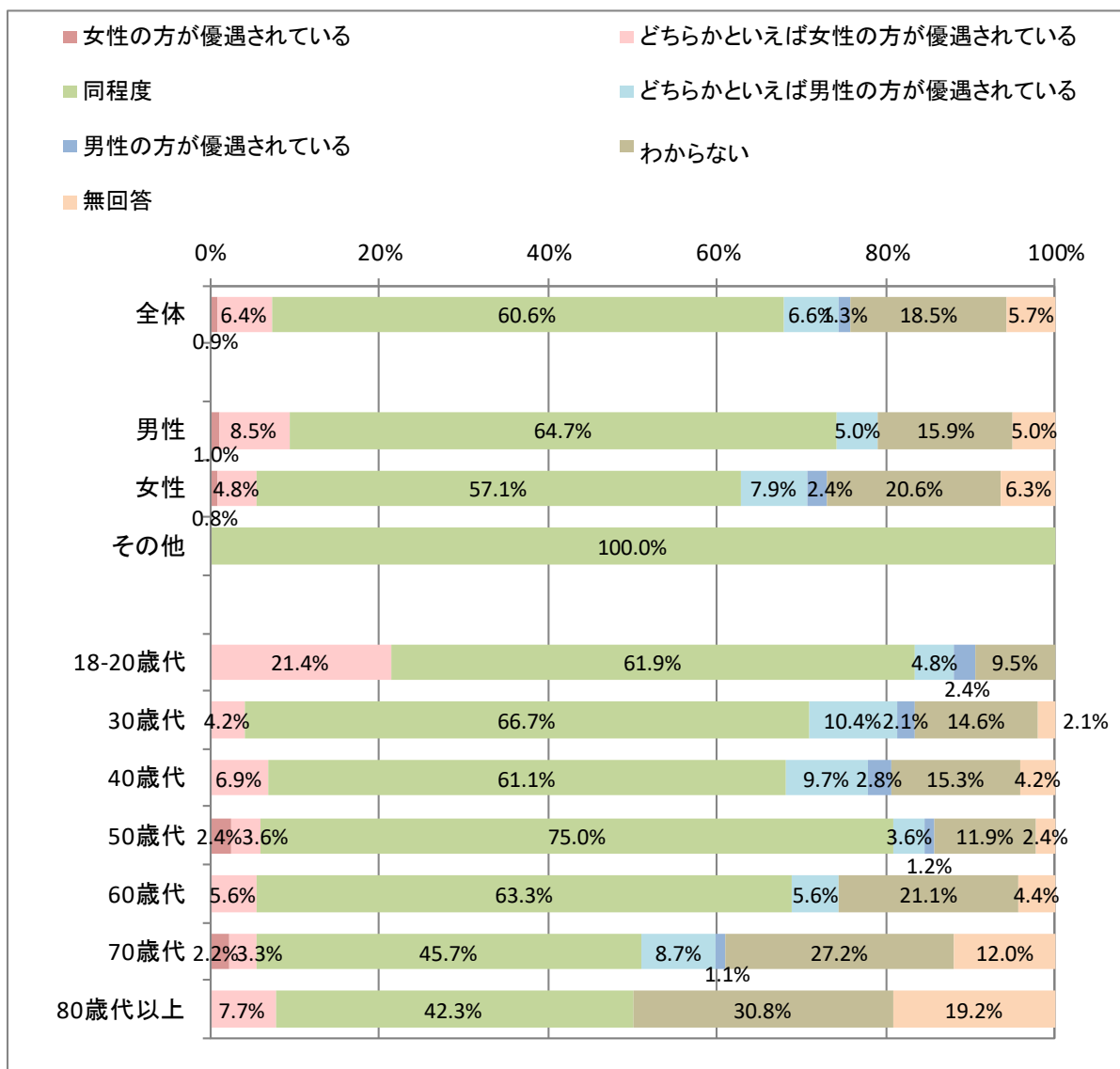


③学校教育の場（生徒の立場）

全体では、「同程度」が最も多く 60%となっている。

男女別に見ると、どちらも「同程度」が6割前後を占めているが、男性に比べて女性の方が『女性の方が優遇されている』の割合が少なくなっている。

年代別に見ると、いずれの年代も「同程度」が最も多いが、『女性の方が優遇されている』は18-20歳代が最も高く、その他の年代は1割未満と低くなっている。

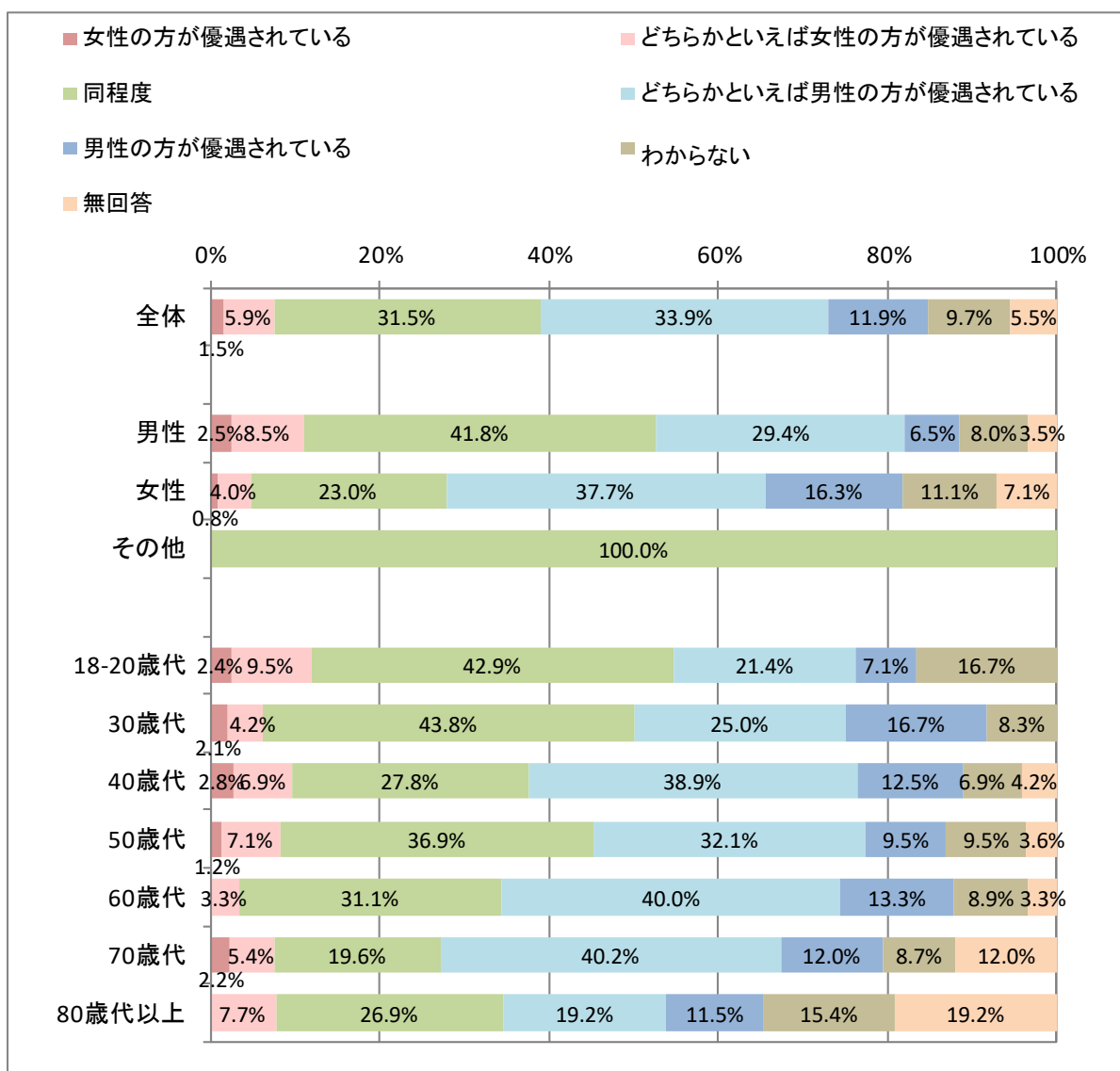


④地域社会

全体では、「どちらかといえば男性が優遇」が最も多く 33%、次いで「同程度」が 31% となっている。

男女別に見ると、男性に比べて女性の方が『女性の方が優遇されている』が少なく、『男性の方が優遇されている』が多くなっている。

また、いずれの年代も『男性の方が優遇されている』の回答割合が高い結果となった。

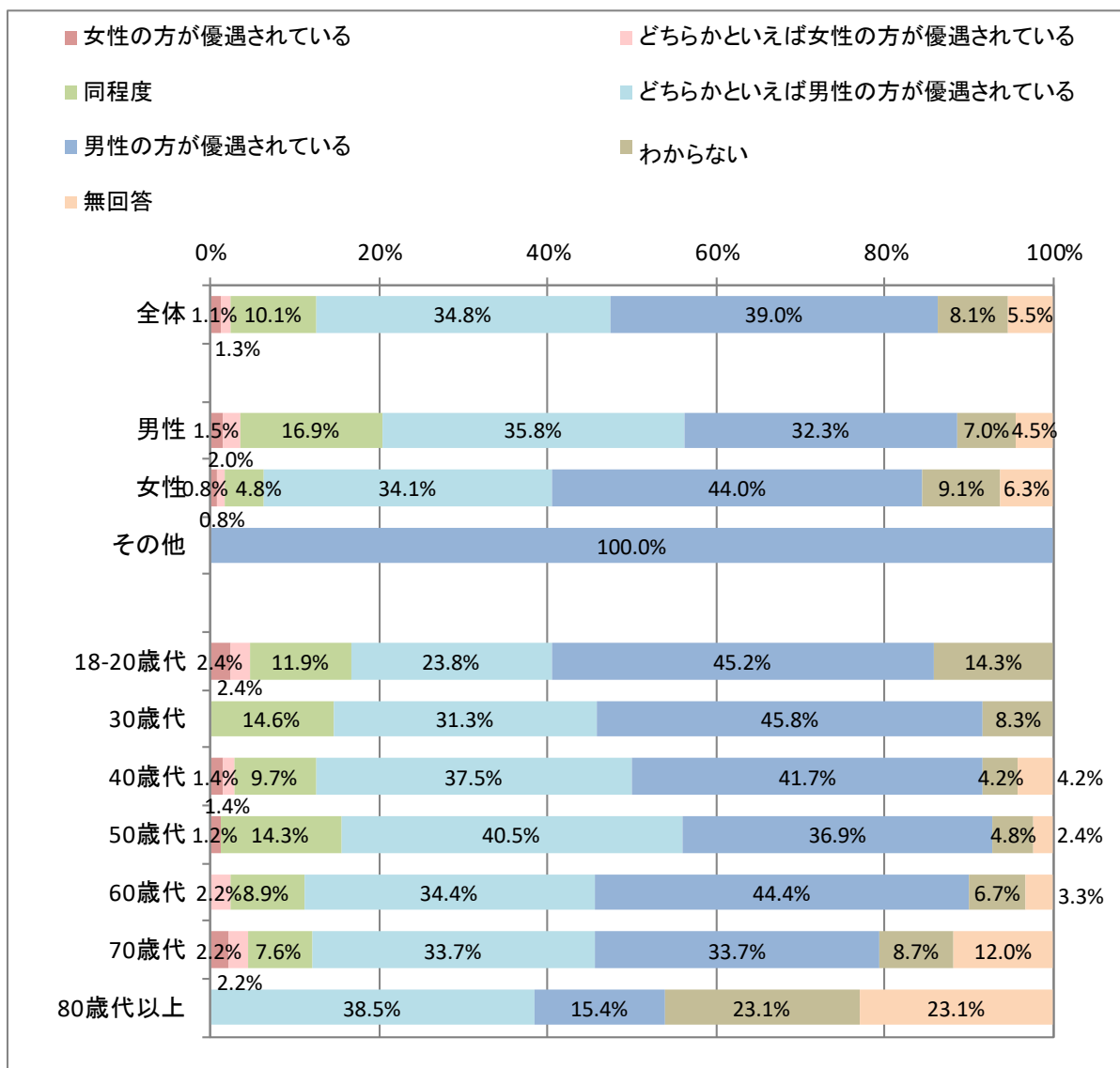


⑤政治の場

全体では、8項目の中で最も『男性の方が優遇されている』の割合が高く7割を占めている。

男女別に見ると、男性に比べて女性の方が『女性の方が優遇されている』が少なく、『男性の方が優遇されている』が多くなっている。

また、いずれの年代も『男性の方が優遇されている』の回答割合が高い結果となった。

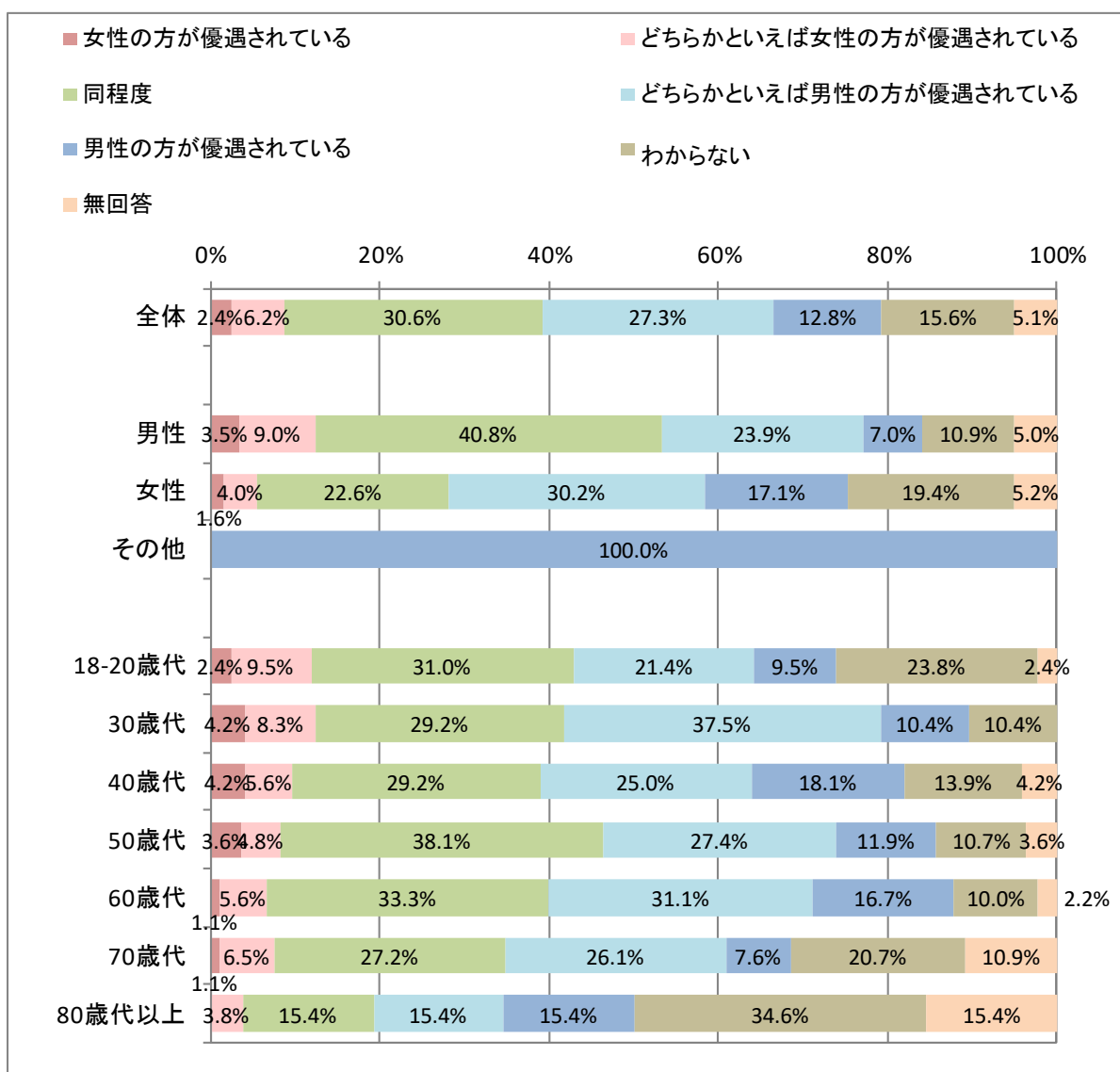


⑥法律、制度上

全体では、「同程度」が最も多く 30%、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 27%となっている。

男女別に見ると、男性では「同程度」が、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が多くなっている。

また、いずれの年代も『男性の方が優遇されている』の回答割合が高い結果となった。

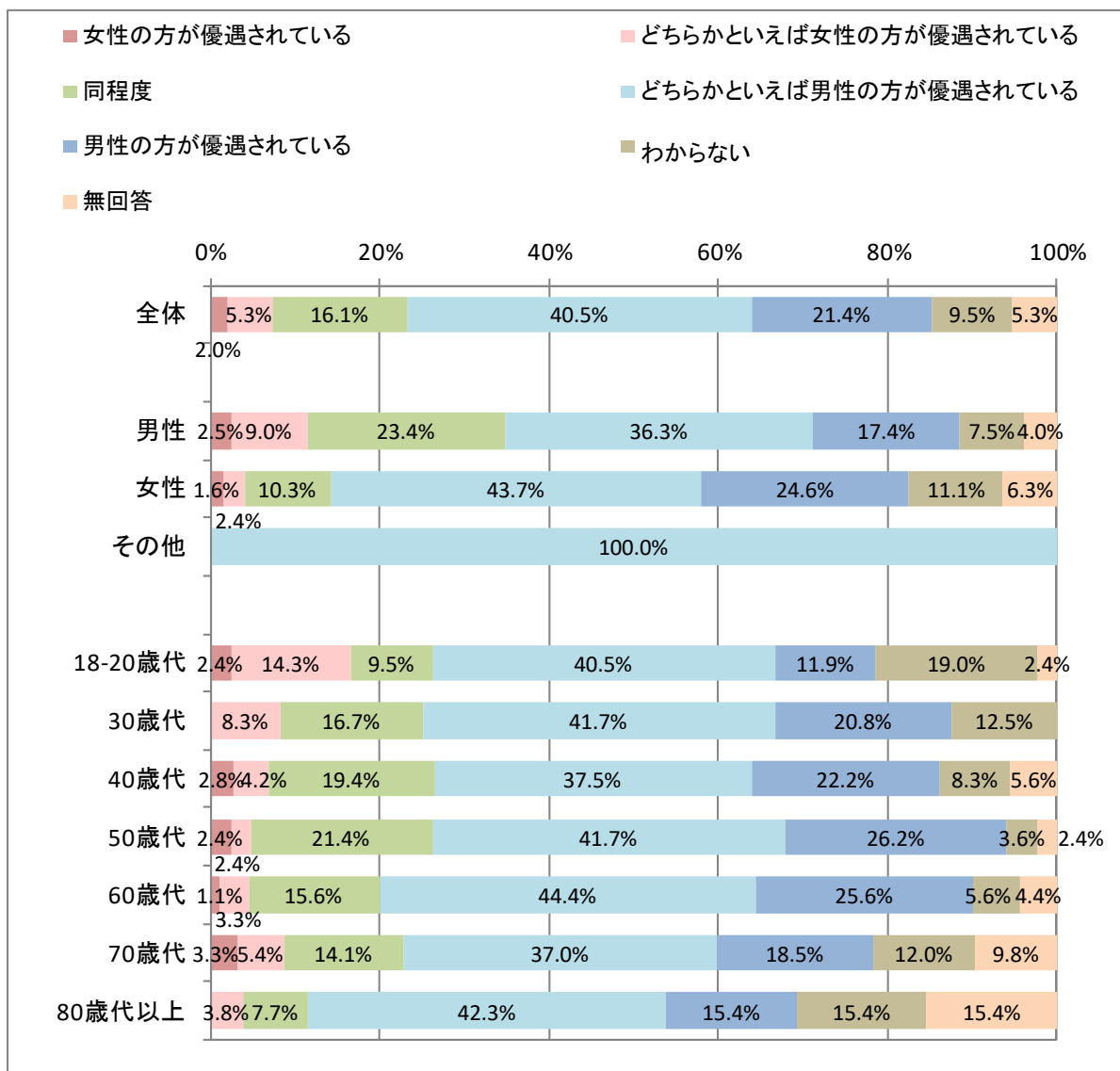


⑦社会通念、風潮

全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多く4割を占めている。

男女別に見ると、男性に比べて女性の方が『女性が優遇されている』が少なく、『男性が優遇されている』が多くなっている。

また、いずれの年代も「どちらかといえば男性が優遇」が最も多くなっている。

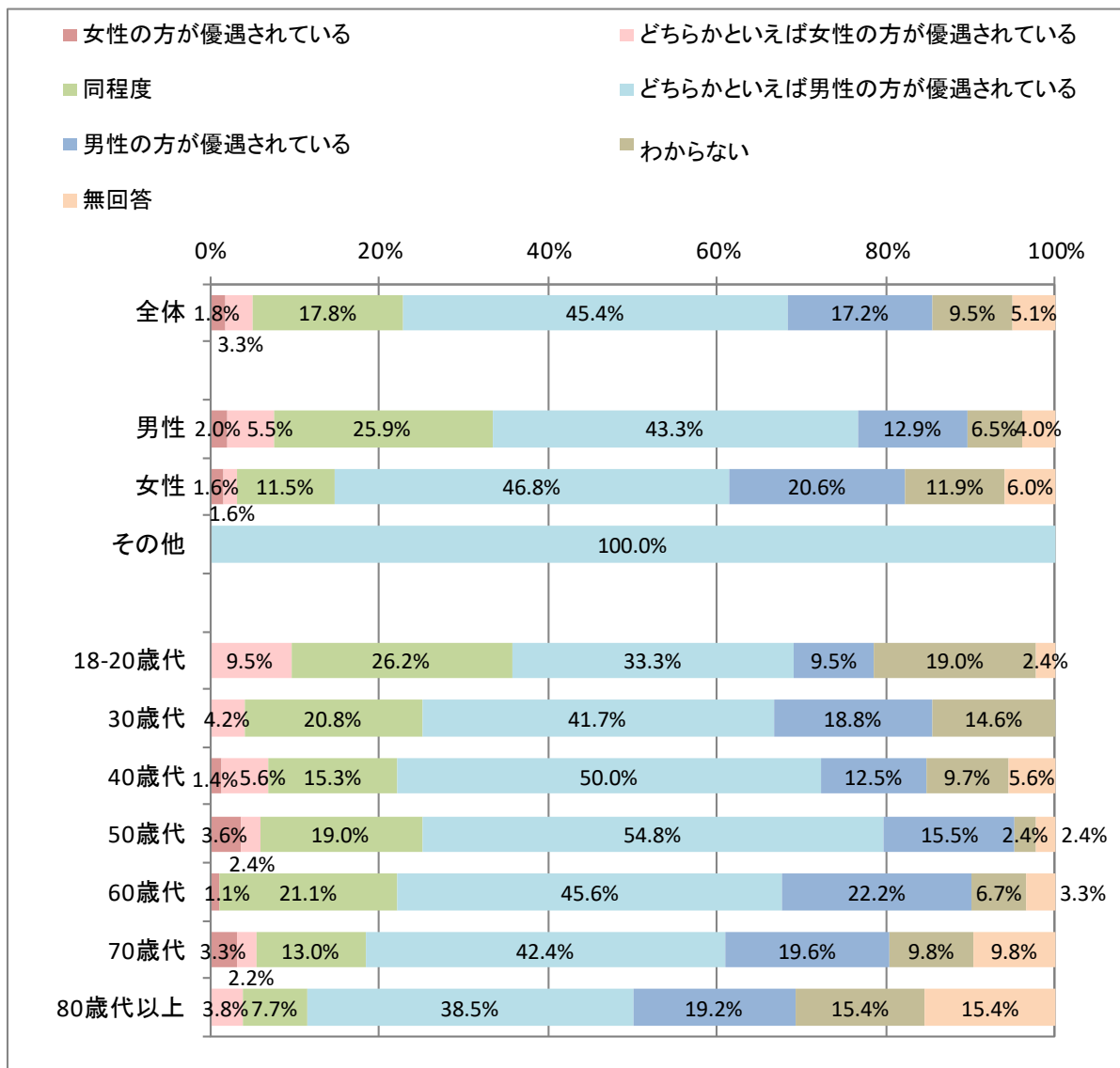


⑧全体的にみて

全体では、「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多く 45%、次いで「同程度」が 17%となっている。

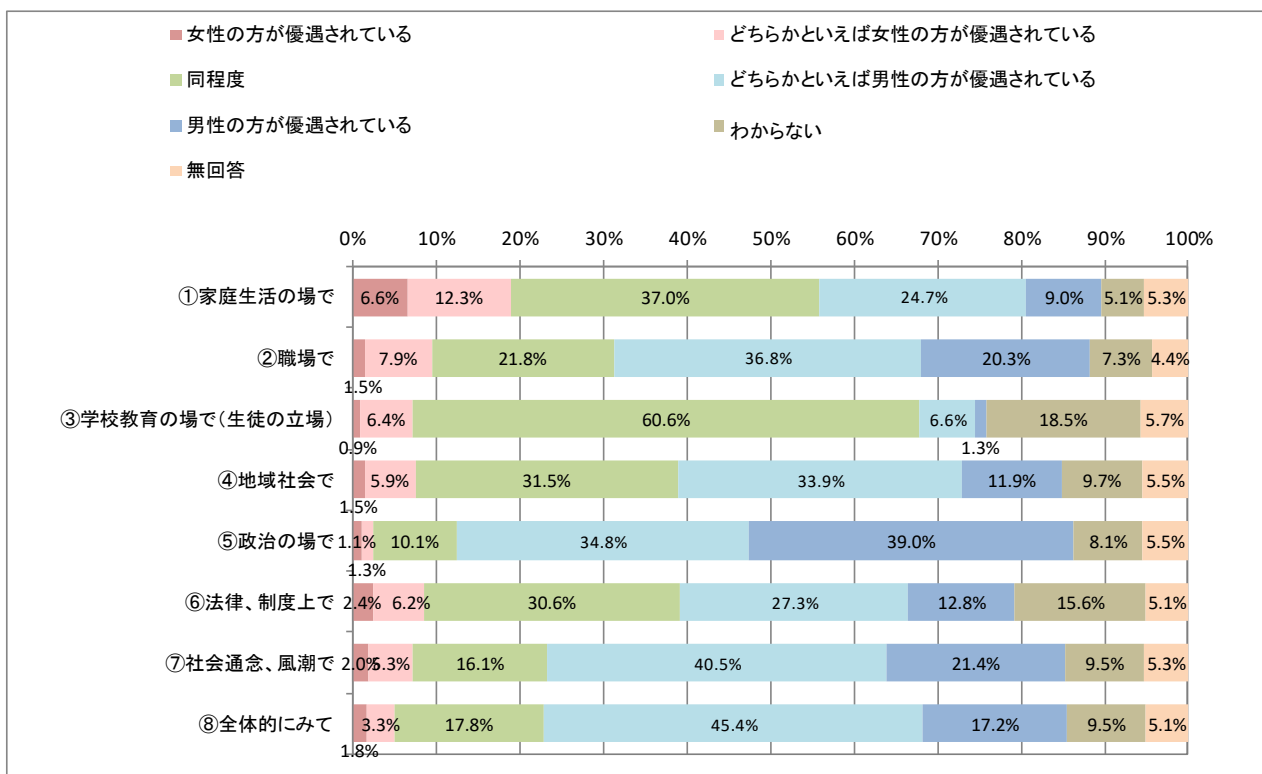
男女別に見ると、いずれも「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も多い結果をなっているが、男性に比べて女性の方が『男性が優遇されている』を、逆に女性に比べて男性の方が『女性が優遇されている』を感じている傾向が見受けられる。

年代別に見ると、「どちらかといえば男性が優遇されている」は、どの年代でも多くなっている。



■ ①～⑧での回答結果一覧

	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答
①家庭生活の場で	6.6%	12.3%	37.0%	24.7%	9.0%	5.1%	5.3%
②職場で	1.5%	7.9%	21.8%	36.8%	20.3%	7.3%	4.4%
③学校教育の場で	0.9%	6.4%	60.6%	6.6%	1.3%	18.5%	5.7%
④地域社会で	1.5%	5.9%	31.5%	33.9%	11.9%	9.7%	5.5%
⑤政治の場で	1.1%	1.3%	10.1%	34.8%	39.0%	8.1%	5.5%
⑥法律・制度上で	2.4%	6.2%	30.6%	27.3%	12.8%	15.6%	5.1%
⑦社会通念、風潮で	2.0%	5.3%	16.1%	40.5%	21.4%	9.5%	5.3%
⑧全体的にみて	1.8%	3.3%	17.8%	45.4%	17.2%	9.5%	5.1%



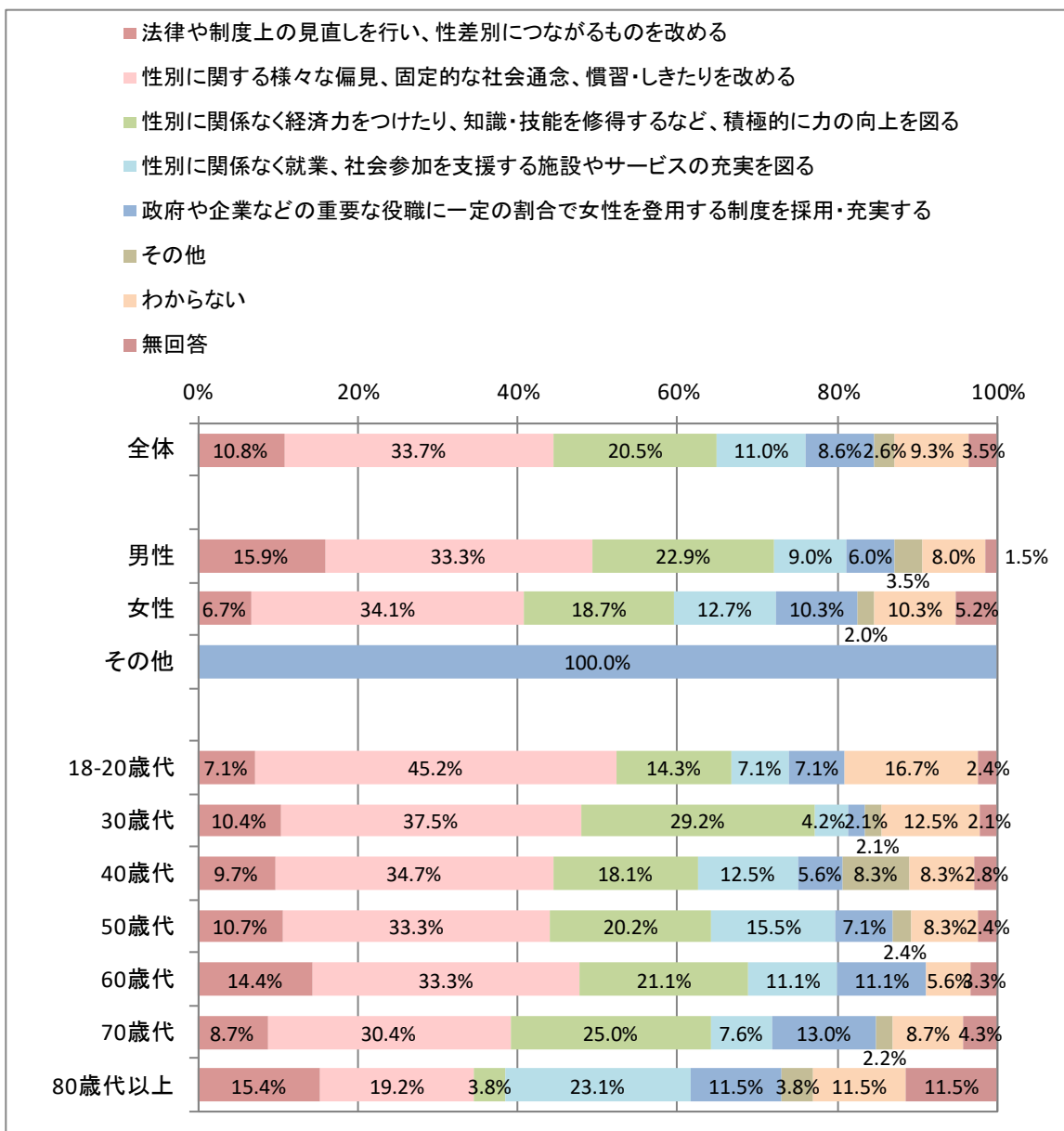
(6) 男女の立場を同程度にするために重要なこと

問 29 男女の立場を同程度にするために、あなたが最も重要だと思うことは何ですか。

全体では、「性別に関する様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が33%と最も多く、次いで「性別に関係なく経済力をつけたり、知識・技能を修得するなど、積極的に力の向上を図る」が20%となっている。

男女別に見ると、「法律や制度上の見直しを行い、性差別につながるものを改める」は女性よりも男性が2倍以上多くなっている。

年代別に見ると、80歳代以上では「性別に関係なく就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」が、その他の年代では「性別に関する様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」が最も多くなっている。



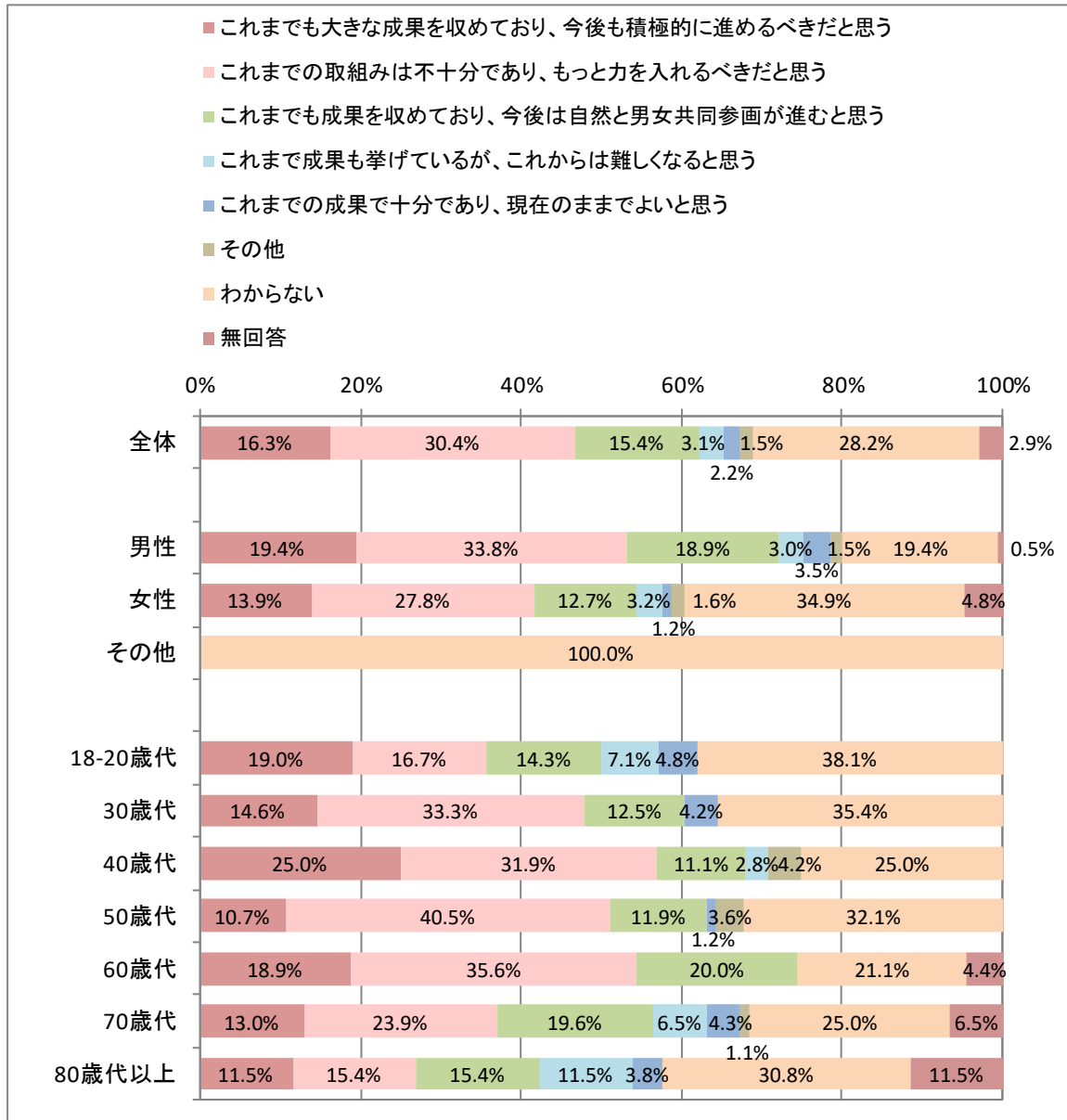
(7) 男女共同参画社会の推進

問 30 「男女共同参画社会」を推進することについてあなたはどのように思いますか。

全体では、「これまでの取組みは不十分であり、もっと力を入れるべきだ」と思うが 30%と最も多くなっている。

男女別に見ると、男性では「これまでの取組みは不十分であり、もっと力を入れるべきだ」と思うが、女性では「わからない」が 34%と最も多くなっている。

全ての年代において、「わからない」が 2割から 4割程度と、比較的高くなっている。



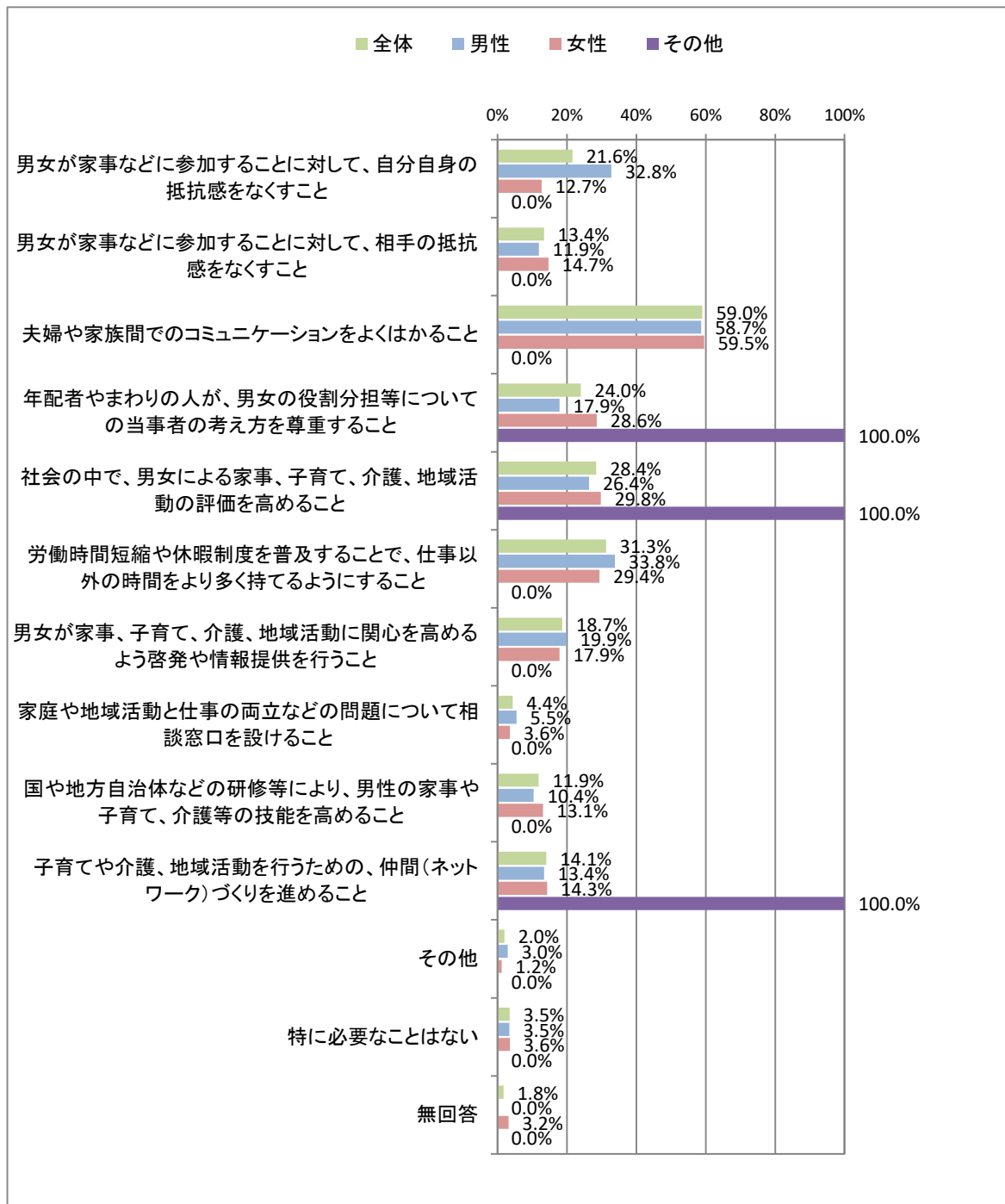
(8) 男女共同参画に必要なこと

問 31 あなたは、男女が共に家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が59%と最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が31%となっている。

男女別に見ると、「男女が家事などに参加することに対して、自分自身の抵抗感をなくすこと」は男性が多く回答しているが、その他は全体とほぼ同様な傾向が見受けられる。

男女別・年代別の全ての分類において、「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」の回答割合が最も多くなっている。



区分	男女共同参画に必要なこと(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合														
	全体	454	98	61	268	109	129	142	85	20	54	64	9	16	8
男女別	全体	100.0%	21.6%	13.4%	59.0%	24.0%	28.4%	31.3%	18.7%	4.4%	11.9%	14.1%	2.0%	3.5%	1.8%
	男性	201	66	24	118	36	53	68	40	11	21	27	6	7	0
	女性	252	32	37	150	72	75	74	45	9	33	36	3	9	8
年代別	全体	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	
	18-20歳代	42	11	5	22	9	10	24	2	1	6	4	1	3	
	30歳代	48	12	9	29	12	11	15	5	0	6	3	1	4	
年代別	40歳代	72	15	11	42	12	19	25	11	3	9	12	3	2	
	50歳代	84	14	9	55	26	20	34	16	3	2	16	2	0	
	60歳代	90	19	11	46	27	37	25	25	5	12	13	1	2	
	70歳代	92	24	13	56	18	26	19	20	5	14	10	0	3	
	80歳代以上	26	3	3	18	5	6	0	6	3	5	6	1	0	
割合	100.0%	11.5%	11.5%	69.2%	19.2%	23.1%	0.0%	0.0%	23.1%	11.5%	19.2%	23.1%	3.8%	0.0%	
全体	454	98	61	268	109	129	142	85	20	54	64	9	16	8	
男性	201	66	24	118	36	53	68	40	11	21	27	6	7	0	
女性	252	32	37	150	72	75	74	45	9	33	36	3	9	8	
その他	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
18-20歳代	42	11	5	22	9	10	24	2	1	6	4	1	3	0	
30歳代	48	12	9	29	12	11	15	5	0	6	3	1	4	0	
40歳代	72	15	11	42	12	19	25	11	3	9	12	3	2	0	
50歳代	84	14	9	55	26	20	34	16	3	2	16	2	2	0	
60歳代	90	19	11	46	27	37	25	25	5	12	13	1	2	1	
70歳代	92	24	13	56	18	26	19	20	5	14	10	0	3	5	
80歳代以上	26	3	3	18	5	6	0	6	3	5	6	1	0	2	
割合	100.0%	11.5%	11.5%	69.2%	19.2%	23.1%	0.0%	23.1%	11.5%	19.2%	23.1%	3.8%	0.0%	7.7%	

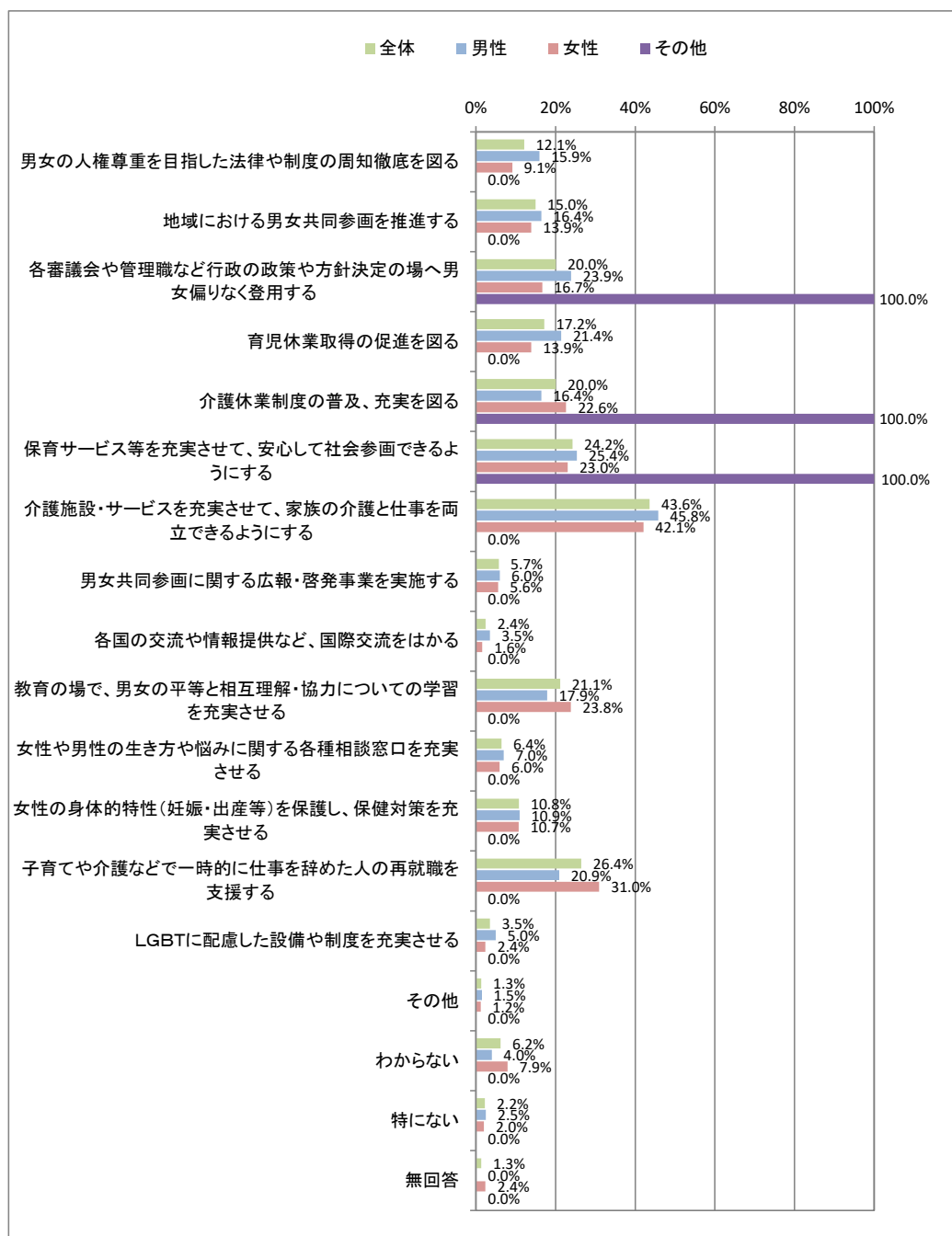
(9) 男女共同参画社会をめざすために、市が対応すべきこと

問 32 あなたは、男女共同参画社会をめざすために、今後、敦賀市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

全体では、「介護施設・サービスを充実させて、家族の介護と仕事を両立できるようにする」が43%と最も多く、次いで「子育てや介護などで一時的に仕事を辞めた人の再就職を支援する」が26%となっている。

男女別に見ると、「各審議会や管理職など行政の政策や方針決定の場へ男女偏りなく登用する」が男性では多く、「子育てや介護などで一時的に仕事を辞めた人の再就職を支援する」が女性では多くなっているが、その他は全体とほぼ同様な傾向が見受けられる。

年代別に見ると、「育児休業取得の促進を図る」が18-20歳代で多くなっている。その他の年代は「介護施設・サービスを充実させて、家族の介護と仕事を両立できるようにする」が最も多くなっている。

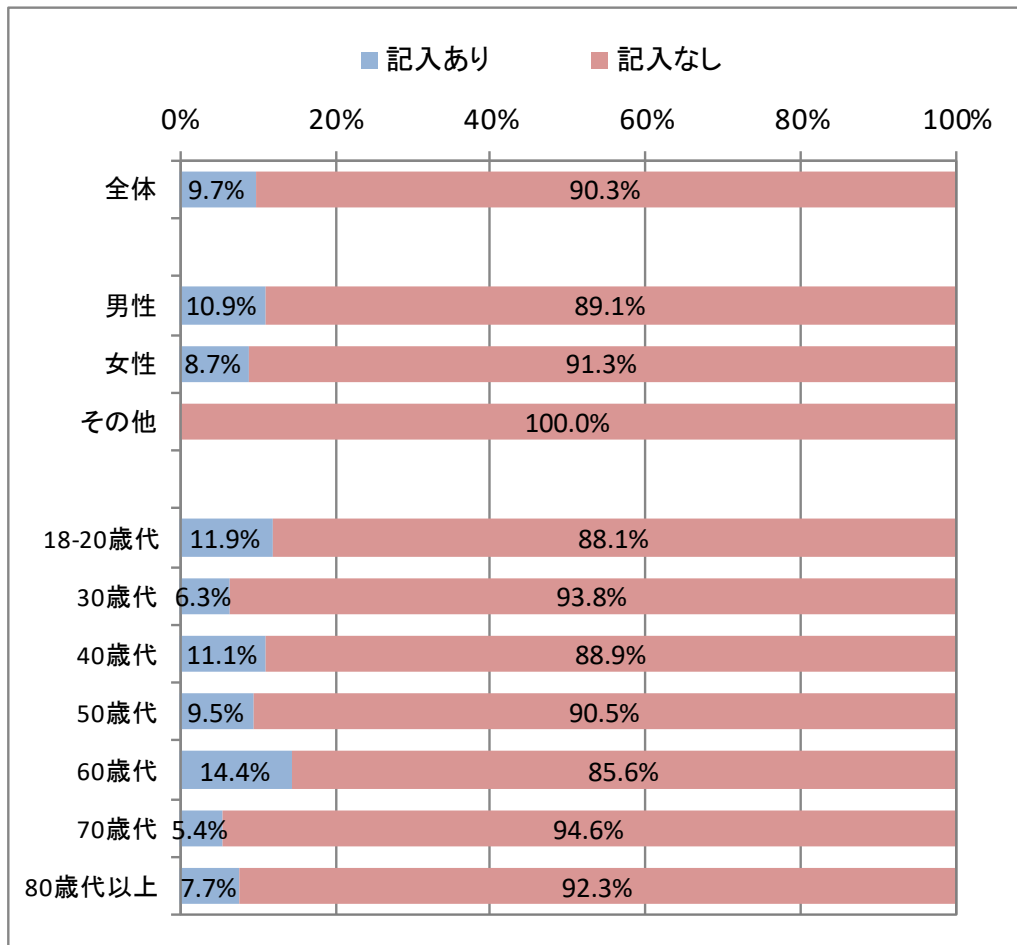


区分	今後、教育に必要なこと(複数回答) ※上段は回答数、下段は回答者数に対する割合																	
	男女の人権 尊重を目的とした法律や制度の周知徹底を図る	男女の権利 地域における男女共同参画を推進する	各審議会や 管理職など 行政の政策 や方針決定 の場へ男女 の偏りなく登用 する	高原体業取 得の促進を 図る	高原体業取 得の促進を 図る	介護休業制 度の普及、充 実を図る	保育サービ ス等を充実さ せて、安心し て社会参画 できるように 仕事を立て ることができる	保護施設・ サービス充実 させて、家 族の介護と 仕事を両立 できるように 仕事を立て ることができる	男女共同参 画に関する 広報・啓発事 業を実施する	各国の交流 や情報提供 など、国際交 流をはかる	教養の場、 男女の平等 と相互理解 の学習を充 実させる	女性や男性 の生き方や 抱えに関する 窓口を充実 させる	女性の身体 的特性(妊 娠・出産等) を保護し、保 健対策を充 実させる	子育てや介 護などで一 時的に仕事 を辞めた人 の再就職を 支援する	LGBTに配慮 した設備や制 度を充実させ る	わからない	特にな い	無回答
全体	454 100.0%	68 15.0%	91 20.0%	78 17.2%	91 20.0%	110 24.2%	198 43.8%	26 5.7%	11 2.4%	96 21.1%	29 6.4%	49 10.8%	120 26.4%	16 3.5%	6 1.3%	28 6.2%	10 2.2%	6 1.3%
男性	201 100.0%	33 16.4%	48 23.9%	43 21.4%	33 16.4%	51 25.4%	92 45.8%	12 6.0%	7 3.5%	36 17.9%	14 7.0%	22 10.9%	42 20.9%	10 5.0%	3 1.5%	8 4.0%	5 2.5%	0 0.0%
女性	252 100.0%	23 9.1%	35 13.9%	35 13.9%	57 22.6%	58 23.0%	106 42.1%	14 5.6%	4 1.6%	60 23.8%	15 6.0%	27 10.7%	78 31.0%	6 2.4%	3 1.2%	20 7.9%	5 2.0%	6 2.4%
その他	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
18-20歳代	42 100.0%	2 4.8%	6 14.3%	20 47.6%	5 11.9%	11 26.2%	11 26.2%	1 2.4%	1 2.4%	12 28.6%	3 7.1%	11 26.2%	7 16.7%	7 16.7%	0 0.0%	2 4.8%	1 2.4%	0 0.0%
30歳代	48 100.0%	5 10.4%	7 14.6%	13 27.1%	9 18.8%	14 29.2%	14 29.2%	3 6.3%	2 4.2%	12 25.0%	2 4.2%	6 12.5%	12 25.0%	1 2.1%	0 0.0%	2 4.2%	3 6.3%	0 0.0%
40歳代	72 100.0%	10 13.9%	9 12.5%	11 15.3%	14 19.4%	22 30.6%	31 43.1%	3 4.2%	1 1.4%	10 13.9%	4 5.6%	10 13.9%	21 29.2%	3 4.2%	3 4.2%	2 2.8%	1 1.4%	0 0.0%
50歳代	84 100.0%	13 15.5%	9 10.7%	13 15.5%	24 28.6%	20 23.8%	36 42.9%	6 7.1%	2 2.4%	16 19.0%	10 11.9%	9 10.7%	22 26.2%	4 4.8%	1 1.2%	5 6.0%	0 0.0%	0 0.0%
60歳代	90 100.0%	11 12.2%	12 13.3%	12 13.3%	20 22.2%	23 25.6%	48 53.3%	5 5.6%	0 0.0%	25 27.8%	3 3.3%	6 6.7%	21 23.3%	1 1.1%	2 2.2%	8 8.9%	1 1.1%	1 1.1%
70歳代	92 100.0%	7 7.6%	21 22.8%	7 7.6%	13 14.1%	19 20.7%	43 46.7%	7 7.6%	4 4.3%	18 19.6%	5 5.4%	4 4.3%	28 30.4%	0 0.0%	0 0.0%	8 8.7%	3 3.3%	3 3.3%
80歳代以上	26 100.0%	7 26.9%	4 15.4%	2 7.7%	3 23.1%	1 3.8%	15 57.7%	1 3.8%	1 3.8%	3 11.5%	2 7.7%	3 11.5%	9 34.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.8%	1 3.8%	2 7.7%

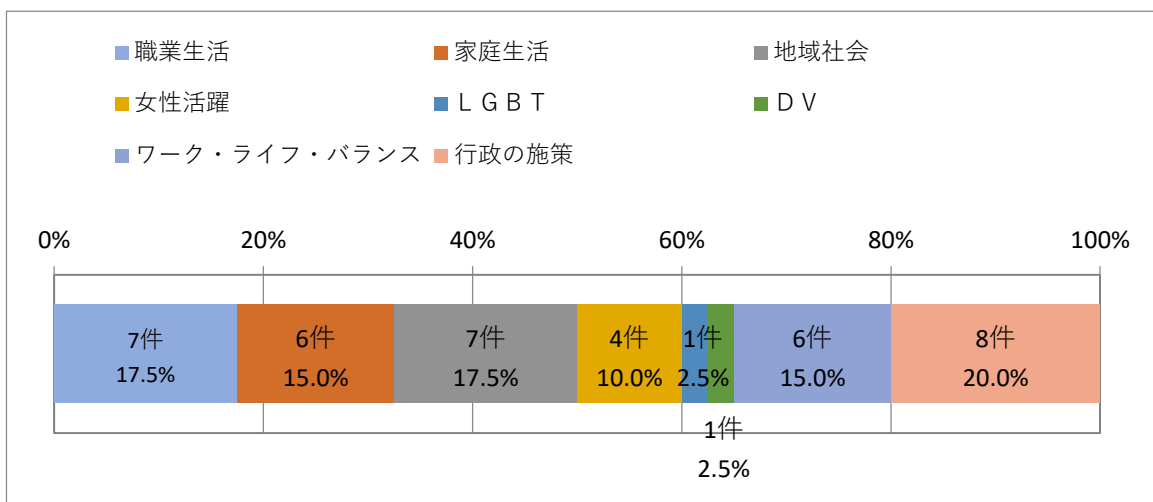
5. 自由意見

問 33 男女が共に参画するまちづくりを進めることについて、ご意見・ご提案やご要望などありましたら、自由に記入してください。

全体で自由意見の記入は 10%となっている。



■ 自由意見を記入する際、カテゴリーを選択した方の割合（全体で 40 件）



【意見の内容】

● 男性 18-20 歳代

もっと職に関する情報を増やしたり、職業に関することを相談できる施設を増やしたりしたらいいと思います。
「男女が共に参画する」ということを、私を含めて分かっていない若者が多いのではないかと思います。
女性だから、という理由だけでポストを与えるのはおかしい。能力にみあった人材をあてるべきであって、女性の管理職率を高めるための人事は止めてほしい。
中学生の時に同性から男女両方に好意を持ってしまう事を相談されましたが、実感がわからずに今まで通り関わることが出来ると思っていましたが、実際にはセクハラのようにも取れる行動がエスカレートしたため耐え切れなくなり、一切遊ばなくなりました。おそらく本人も精神的に傷ついたかもしれませんし、LGBT や性に関する予備知識があれば良かったと思います。私自身も教員から首を絞められるなどの体罰を受けていたことと重なり、精神を長い間病んでしまいました。相談する機会はあったと思いますが、LGBT などの事を知らなかったことと、社会的に発言する事もタブーだと思っていたのでなかなか難しかったです。

○ 女性 18-20 歳代

年配者が多く、若い世代への理解があまりないように感じます。男性が家計を支え、女性が家庭を支えるという考えが以前はあり、共働きに対して理解を得られない時期もありました。現在では共働きをする方も増え、以前よりは浸透するようになりましたが、家庭それぞれに事情があり、昔のような男性が家計を、女性が家庭をというスタンスは必ずしもできるとは思えません。逆の家庭もある中で、そういう方たちにも広い目で見て頂き理解して下さいと、もう少し地域社会も円滑に進むのではないかと思います。
女性一人でも十分に子育てできるようなお金を稼げる社会になってほしい。
私はLGBTのBにあたります。もっと過ごしやすい将来が来るとうれしいです。

● 男性 30 歳代

税金が多くて、豊かな生活が送れない。
どうやったらワーク・ライフ・バランスを実現できるか。今のところ、個人事業主か一部の職種に限られる。行政施策として市営住宅を増やして、入居条件に市が実施している軽作業労働をボランティアとして年数回行ってもらう。市営住宅を増やすことによって県内一高い賃貸価格を下げて、家庭への負担を減らし、入居者にボランティアをしてもらうことにより市の負担も減る。尚かつ地域社会と入居者間との交流も図れる。家賃が数万円減れば仕事量を少し減らして生活を優先できて、少しはバランスを取りやすい状況をつくれるかもしれない。
時代が進めば男女参画社会になると思います。女性が働く機会が増え、家事だけをする人が昔よりも格段に減っているからです。昭和を生きた人が男女の差をつくり差別化し、男性優位の社会をつくったと思っています。人口が減り自ずと人手不足になり、特に介護の世界では深刻になると思います。女性と男性を差別化する人が減って、女性の地位が高まらないと社会は回っていかないと。なによりまず、市民が未来を見据えて生活できる政策をお願いします。新幹線が停まっても敦賀にどうプラスになるのでしょうか。どう活用されますか。今も大切ですが、20年後、30年後、50年後になれば敦賀がどのように素晴らしい市になっているのか、全く想像できません。勝手なことを書きましたが、市民のことを考え、周りの県、市町村の方が来たいと思う市になることを祈っております。

○ 女性 30 歳代

仕事にしても家事にしても、まわりを見ると高齢の方ほど、女がすべきと強くおっしゃいます。職場でも同じです。それが強い限り、何をしても”夫がかわいそう”の意見が出てこちらは働きにくくなると思います。
幼児はよく熱を出すので保育園のお迎えはどうしても母親の役目になってしまいます。そういったときに優しい目で迎えに行っていよいよと言ってくれるような会社や社会であれば、女性の生きにくさ、立場の弱さ、経済的な弱さ等からくる不安も緩和されるのではないかと思います。子供の為に会社を休んでも許される仕事場が増えれば、とても楽になると思いますし、そういった職場を選べるような情報提供の場所があれば主婦の人達も、もう一度働きに出ようという気持ちになると思います。
まずは自己肯定感を高め、相手を尊重すること。誕生学の導入など教育現場でしてほしい。

● 男性 40 歳代

地域、行政、会社においていまだに古い考えを持った人が力を持っており、女性の活躍などを妨げていることがある。
箱物、観光客誘致など市民にメリットの少ない施策を改めて、市民サービス(ソフト面)に重点を置いた施策を進めてほしい。徴収した税金を市民のために有効活用してください。
基本的に労働時間が長すぎる事で家事をする余裕がなくなってしまっていると思います。教員の方も同様だと思います。学校で積極的に民間や、高齢者を登用する事で子供のうちから「男女共同参画」を実感、学習できると思います。将来的にはそれで社会通念等も変化すると考えます。
職員たちよ、12 頁の要求をしっかり読み、高齢化社会にあったバスの運営に取り組むように。逆に空気バスの本数は予約制にする以前よりも増やすべきでは。花火大会よりも、市役所移転よりも、男女共同参画よりも、どの項目よりも最優先で取り組むよう。以上、よろしくお願いします。
私の職場においても「ワーク・ライフ・バランス」という言葉が浸透しつつあるが、労働時間の短縮に全くつながっていない。根本的な仕事量の見直し、人員配置を考えていかなければならない。また連動して「仕事の効率化」という言葉も叫ばれているが、職場環境の向上がつかない限り、実現には限界がある。本当のワーク・ライフ・バランスを実現するためには、まず職場のトップが意識を変える必要がある。誰もが働きやすい働きがいのある職場をつくる意識をトップが第一に考えていくことが重要である。
小、中学校義務教育の過程で男女が協力し合い、性別関係なく物事を考えることを教えるべきである。世の中で活躍している女性は一握りのように感じる。男女の人口比率の問題もあるが、これまでにそういう教育をしてこなかったから、社会通念上、女だからとか男だからという人間が多くなってしまったと感じる。

○ 女性 40 歳代

記入していて感じたのですが、給料が全体的に低い中、女性も働かないと生活できないままだと、少子化になるのは当然で、分けて考えることではないと思います。この預け先が確保できると、働きに出る。働きに出ると、1人っ子になるのは当然考えられる事で、男女が共に参画するということは、少子化を進めることにもなります。子供の学校(大学など)や子育てに対する支援があってこそその社会づくりだと思います。自分の子供を自分で育てられる社会も必要だと思います。
勤務時間の短縮。休日の保証。
敦賀の人口は今後増えることはないと思いますが、限られた力で敦賀らしく街づくりを行い、小さい子供から元気で、まだ若い人達とがんばり支えたいと思う老人まで(今の老人は昔と違って若いです。力もあります)。みんなが一つになってそれぞれの力を発揮すればいいと思う。敦賀らしいオリジナリティがあって、この街に生まれて来て、生きてよかったと思える人が増えたらいいと思います。
家族でも、職場でも、人として助け合える社会になればよいと思う。男女というこだわりは、近年は私の周りでは感じないので、人として、周りの人たちとうまくやっけていけるまちづくりをしていくとよいと思う。何かとストレスがあると、思いやりや、誰かのために動くという余裕がなくなると思います。仕事でのストレスは時期よりもむしろ人間関係が大きいと思います。職場や家庭、地域でのいろいろな困りごと、相談するまでもないが日々積み重なって困っていることを、正しい方向に導いてくれる何かがあればと思います。愚痴を言って、共感しあって、誰かを悪者にして…ではなく、うまくいくように困っているところをみんなで助け合える何か。
敦賀に興味があり一年前によく物件が見つかって引っ越してきました。住めば都とはならず敦賀の悪いところばかりが目につきます。私も県内いろいろ住みましたが、こんなに早く出たいと思ったことはないです。どうせならと、思いこに残したいと思いついて書かせてもらいます。敦賀は 30 年~50 年遅れています。まるで戦後の成長期を迎えた日本です。区画整理ができていない為、道路は入り組み、三角地は多く、信号も五差路なども多く、街や地区もかぶってムチャクチャな状態です。見栄っ張りが多いので地域での買い物は食品だけで、地域の活性化はムリ。仕事関係はいまだに〇〇組ありきな所があって驚いた。そんな時、高浜原発のニュースがあり変に私自身納得した。今どきそんなレベルのニュース見たことないので笑えた。まだまだありますが、地元で育った人にはわからないでしょうし、是非、他方から敦賀に来た人にそうなのって聞いてもらいたい。敦賀は、何においても遅れている事を知った上で、地域社会や、新幹線の終着駅である敦賀の発展の為にご尽力されることを願います。大きな港、大きな駅、多くの原発、財力はあるから足元が見えない。仕事で来ている人が住む町ではなく、敦賀に住みたい人を増やすべきです。ちなみに、如実に表れているのが、アパート、マンションの家賃の高さ。レベルの低い部屋でも 2~3 万円は高い。「仕事関係が多いから高い」と不動産屋は言っていました。神戸の私の部屋は 2DK で駐車場 1 台付き月 6 万円(築 10 年)。敦賀なら 8 万円以上が当たり前です。しかも築 30 年以上。市役所も新築していると聞きました。せめて「住基カード」ぐらい作ってほしいですネ。これ一番初めに驚きました。今どき窓口って…。これだけ言いたい事言わせてもらったので名前ぐらい書いておきます。敦賀をもう一度

好きになりたいと願っております。
市が活性化すれば施設も充実すると思います。そのためには誰もが訪れたい町にする。新幹線が敦賀に停まったところで、降りてみたくなる町でないといけないと思います。「駅に降り立って散策する街並」ではないと思います。何をメインにしてどこへ行ってもらうのか、統一性がない。気比神宮なのか港(赤レンガ)なのか。はたまた松本零士なのか。それと子供が楽しめる場所が少ない。港の近くに水族館でもあればいいと思います。大きくなくても触れ合えたり、特色のある水族館とか。散策してもらうためにスタンプラリーとかどうですか。ちょっとした景品がもらえれば、街中を歩くと思いますよ。
私には4才と7才の子供がいます。不妊治療を何年も続けて授かりました。その為、高齢での出産となり(よって祖父母も高齢…←協力が得られない)、子育てと家事、仕事を両立させるには困難な状態です。毎日フーフー言いながら、時間だけが過ぎさっています。しかし、共働きでなければ生活も厳しく限られた時間で働いているのですが、下の子の保育園入園にあたり少しだけ時間が足りず、時間を延ばすことになりました。月64時間以上で働くには扶養をはずれるしか方法はなく、しぶしぶ手続きしました。結果、今まで以上に自分に負担がかかり、イライラが増し、夫や子供に強くあたってしまう時もある自分に余裕がないことに気が付き始めています。最初の扶養範囲内の勤務時間が1番自分に合っていたんだと実感させられました。働き慣れた職場を離れる勇気もなく、ただ今は1日1日を何とか過ごしています。夫は仕事が忙しく、とても家事を頼める状況ではありません。帰りはほぼ毎日21時以降です…。仕事と家庭の両立は何かを犠牲にしなければ成り立っていかないと思います。

● 男性 50歳代

地方ほど、また年輩者ほど男尊女卑の傾向がある。祖父母の時代の関係性を孫世代が継承することのないように、幼少期からの教育が必要と考える。
私が仕事を始めた頃に比べれば、多くの分野で女性の進出が見られるが、マネジメント職の女性はまだまだ少ない。民間企業の見本として、まず市役所等の公務員での管理職の女性比率を向上するべき。敦賀もしくは福井県には目標があるのかどうか知らないが、半々になるくらいにしていくべき。目標と期限を設定して対応しないと、まず自分たちでは変れないと思う。
育児、介護休暇を取るにも代わる人がいないと職場に迷惑がかかる。つまり取得しづらい環境にある。正社員の仕事量が多すぎる。すなわち、働く人が足りていない。非正規社員の給料が安すぎるので人が集まらない。女の人が参画するためには、育児のみならず介護に関しても人がいないと苦しいことになる。現場で働く人を増やしてほしいと考えます。
少子化対策が一番。経済的に安定して子供を産める環境にする支援が必要。子供が成人するまでにお金がかかるので、女性も働かざるを得ない。結婚、子育てをどうするか。女性のキャリアを出産後も保障。なるべく子供とのいる時間を長く(3~4年)。結婚できるように男性の所得の向上を。下手すると女性の方が良い場合もある。アンケートの趣旨と違う回答になりすみません。
敦賀市の介護認定について、明らかに他の市町よりも認定が厳しいです。財政の影響でしょうか。他と同じような基準で認定していただきたいです。仕事を休んで介護するのは難しいです。仕事を辞めることにつながります。敦賀市の保育所は充実していて子育ての面では解消されつつあります。
休日、アフター5に楽しめるスポーツ施設、公園等の整備。
行政、企業などに女性の活躍の場をもっと広げて、女性の地位、生活力の向上を図るべき。

○ 女性 50歳代

生活の為に働かなければいけないので、男女共同参画は私の生活からは一段階上の話です。私生活を充実させてくてもお金や心に余裕がない。自身に心の余裕があれば周りに対する気配り、社会を見つめてみようなんて思えるのですが。貧富の差が大きくなっていませんか。
一家庭内での男女の役割分担について— 息子、嫁に対して舅、姑が役割分担、生活の仕方に口を出されて閉口した経験がある。身近な所から男女共同参画が進むことを望む。また、近所の方から生活の仕方に口を出されて閉口した経験もある。近所の方も決めつけたような口出しはほしくないでほしいと思う。
広い土地があるのもっと活用してほしいです。私は他県から引っ越してきましたが、敦賀人は冷たいです。特に市役所の人達です。対応は悪いし、笑顔もないです。もう少し良い対応をしてください。
すべてにおいて思いやり、感謝の心が大切だと思っています。私は毎朝、日の出にあいさつと感謝を、夜、寝る前に今日一日の反省と感謝を。人にも物にも当たり前ではない感謝の心を持っていれば大丈夫だと思って生きています。家庭が円満であれば職場でもどこでもうまくいくと思います。

● 男性 60 歳代

<p>幼児教育、初等、中等教育、高等教育への財政的支援(予算)を今の 2~3 倍にしてもよいと思います。そのため増税は OK かと思います。</p>
<p>男だから、女だからという視線をまず外してほしい。人の感情によるところが大きいので、時間のかかる事だと思います。</p>
<p>税金が正しく使われているか不明。</p>
<p>市県民税が高い。もっと安くして欲しい。</p>
<p>平成 9 年、少子化に関する基本的な考え方について対応の中身は男女の役割分業など固定的な雇用慣行の是正であったと思います。ただ、具体的な取り組みは保育や育児休業制度等の両立支援施策に留まっている気がします。また、これまでの働き方改革はずっと前からの話であります。今後も単なる残業削減策にとどまりそうです。女性等の多様な人材が活躍できる組織になることが働き方改革だと思います。</p>
<p>今、地域のつながりが希薄だと思う。子供が少なくなり、又、子供も忙しい時代。子供会、学童、青年団、婦人会、老人会(活発なのは老人会の元気な人だけ)、小さくまとまっていて新しい人が引っ越してきても情報が伝わらない。誰がいて、どう生活しているのか皆わからない。よそ者に冷たい。閉鎖的。男女参画活動については、老人はあまり知らないと思う。地域活動をもっと活発にできないか。先日の殺人事件、介護で一杯一杯になったのかと推察される。テレビで隣の人や村の人は「活発だった、明るい人」くらいの印象、親身になってくれる人はいなかったのか。年寄りが増えて地域が機能していない。小さい子供を持つ親も大変だが、人の輪に入るきっかけはいろいろあると思うが、高齢者は家に居るかデイサービスくらい。毎日の生活がぼんやりしていて、何もできなくて、でも年末年始はやってくる。行事があっても子、孫のいない人は参加できないし、行けない。生まれてから死ぬまで男女が共に参画できる世の中にしなくては!!一世帯、二世帯、三世帯と広がっていけるような地域で皆、面倒を見られたら良いと思います。</p>

○ 女性 60 歳代

<p>私の職場は、男性にとっては働きやすく、女性、特に 50 代(子育ての仕上げおよび介護等、自分自身の更年期等の問題を抱えた世代)が働くことにしんどさを持っている傾向が見られるそうです。30 代の男性は家事、子育ても担当し共働きをしているようなので、今後は男女共に家事も介護もする時代が来るとは思いますが、50 代以上の男性に女性配偶者のことを理解して共に子育ての仕上げ、介護ができるよう、また、するのだという意識を持つような啓発を、市のトップが宣言してはどうでしょうか!!市長さん、よろしくお願いします。市職員、特に管理職の方は、配偶者に任せてないと思いますが、仕事が忙しいというのなら、態度や心からの感謝の言葉が大切です。</p>
<p>夫の DV でやっと離婚できて、子供が 4 人いて仕事もなかなか見つからず生活が大変だった。母子手当も少なく、パートの仕事についても給料が安く、生活は困窮を極めた。市や地域の助けが欲しかったが当時はなかなか相談窓口もなく、大変な思いで生きてきた。そういう人たちはたくさんいるが、市はあてにならないと思っている。母子を助けてほしい。</p>
<p>すべての人の意識がまだまだ低い。女性は家庭の事をする、男性は外で仕事という意識を無くすような社会全体に変えていかなければと思う。これからの男性は家事をするのが当たり前の世の中になってほしい。</p>
<p>家庭生活の中で男性が家事に協力することはとても良い事だと思います。共働きの場合など少しでも自分にできる事を男性が手伝う事によってお互いに仲良く生活していけると考えます。</p>
<p>特に高齢者男性が男女共同参画についてなかなか理解していないように思います。女性より年配男性にアピールが大事。</p>
<p>DV やデート DV を予防できる取り組みが進んでほしい。また、働く者の人権を尊重、守ることのできるよう、経営者、管理職の研修や、セクハラ、パワハラ、モラハラ等の人権侵害を予防できる(認めない)研修がどの企業でも義務づけられるようになると良いと思う。今後、外国人労働者への対応としても必要だと思う。</p>
<p>家庭生活の間 7 のアンケートについて。炊事・掃除・洗濯について、それぞれ分担している家庭が多いと思われます。同じ行で一つにくくらないでほしい。</p>
<p>仕事を続けられることは幸せな生き方であるという考え方を育てるような教育や啓発活動などがあると良いと思う。</p>
<p>生まれ育った環境が違う者たちが 1 つのことを目指すのは当然難しいのだと思うのですが…。そこで何事をするにでも構えてするのではなく、自然体でやるのが一番早く目標につながるのでは…と思うのですが…。意味不明なこと言って申し訳ありません。いつもご苦勞様です。ありがとうございます。</p>

● 男性 70 歳代

・少子化により女性の活躍が期待されているのは理解できますが、女性の中には結婚して家庭に入って子育てで満足している女性もいると思います。子供の躾が悪くなっている 1 つの理由として、女性が仕事を持っているためと考えます。例として、箸の持ち方の悪さが気になっています。しつけはその人を美しく見せる効果があると考えます。女性にすべてを任せるのではなく、家族で協力し合っていくものですが、女性が重要な役割があるように考えます。以上のことを頭に入れて進めてもらいたい。

子供に対するイジメ、虐待等全国的に増えてきていると思うが、夫婦間、家族全体の DV も表に出ていない部分を入れると相当な数になるのではないかと推察する。家族の中での DV は世間体を考慮し、隣同士であっても知らないことが多いと思う。DV についてもっと力を入れた方が良いと思う。

◎少子高齢化社会に向けて、高齢者活性化の中で高齢者のスポーツ等で仲間の活性化、健康増進の目的等で行政が介入している事が多いが、一方で高齢者と若手の融合を図り、少子化軽減等への施策が出来ないか。例えば育児支援に経験済の高齢者(元気な老女)を当て、母親が安心して子供を預け仕事に専念できる様な仕組みづくりをし、子供の出生率の増加を期待する等、高齢者の有効利用が出来ないものか。現在知っているものとして社協の高齢者向け食事作りのボランティアがあるが、子供を看ながら母親が仕事できるようなパート的な職と施設の提供を行政で確保する方法等があればと思う。◎町の組織にて、必ず女性を数人、役員に配属するよう配慮してやっていますが、意見交換で役立つ事が多く、地域の各組織においても、女性の方を組織人として確保することが必要と考えています。◎各市町村に「道の駅」があり県内外からの集客力を高めているが、敦賀には似たものはあるが立地、規模等小さく、大々的に考えてほしい。◎敦賀は子供の遊び場が点在しており、高浜のボールパークの様な規模の大きな子供の遊び場がなく、遠くまで足を運ぶ必要がある。長い目で集客力を増やすためにも一考をお願いする。子供が出かけると親、祖父母と相乗効果が見込まれる為。

○ 女性 70 歳代

個々の特性を生かして、家庭や職場での役割分担をすべきと思う。家事は女性という概念から家庭のしつけの一環で家事を覚えさせられてきた。まず、家庭の中での意識改革が必要と思う。おふくろの味がおやじの味に変わってもよい。

考えたことがないことが多くてちゃんと答えられてないような…。

男女共同参画は以前に比べたら、随分進んでいるとは思いますが、年齢層によって考え方の格差は大きい。何かの機会(学校行事、地域の行事等)を利用して、話をしたり共同で動いたりなどの交流もあっていいかなと思う。

団塊最後の世代です。産後 6 週間での復帰で定年まで勤めました。仕事を続けるので親に仕事を辞めてもらい、子育て、通院も含めてしてもらいました。現在、職場の協力もあり、育休、時短取得しやすく子供の病気は電話 1 本で休めます。家庭と両立しながら仕事ができる良い時代になったと思います。一方で、時代の流れもあり産み育てても入園できない、延長保育の支援がない保育園、人手不足など新たな問題が生じているが、参画することは出来るので、これから若い方には皆が集まる場所にどんどん出て行って、情報発信してほしい。

● 男性 80 歳代以上

年金一人生活。残りの人生エンジョイ。

◎【地域社会の現状】私は H13 年と 28 年の 2 回、町内会長を務めたが、町内会運営の難しさを痛感した。町内会活動に参加しない、役員のみ手が足りない、総会出席者は 10%未満など渋滞が長く続いている。これは当町内会に限らず全国的な問題でもある。これは、高齢化による独居、夫婦二人暮らしに加え、若年層の価値観や生活様式の変化(利己主義化、自分ファースト)によるものだと思う。地域活力の低下を食い止め、人々が助け合い、認め合い、互いに尊重し合える、心安らぐ町づくりが今こそ必要と考える。◎【市民の理解を得るために】前述のことを踏まえ、男女共同参画施策をどう進めていくかは至難であると思うが、まず市民の関心を向けるための普及、啓発活動を進めるべきであり、現在、市で取り組んでいる参画施策を地域の区、町内会の事業として制度化することが必要だと思う。市と連携することにより住民とより近い距離で理解と協力が得られるのではないかと考える。ただし、この活動は個人個人の心や行動に触れるデリケートな問題があるので、きちんとした活動プロセスを定めて進めるべきと考える。ひと昔前までは「向こう三軒両隣」での日常的に助け合いが行われていた。小さな単位の活動が「隣組制度」になり、町内会に発展していった歴史にも学ぶところがあるのではないかと。

1 年を通して男女共に参画を希望する人を市が定期的に募集し、よりよい敦賀市の新しい町づくりを推進して、多く参画した人の意見を市が最後に集約して、敦賀市の発展に役立たせていけば市民が住み良い町が出来ると考えます。

○ 女性 80 歳代以上

私は戦争を体験しています。2人共、自分のことは自分で動いておりました。今は何年も前から好きな事をして
います。花を育て、水やり、草むしり等、体を動かしています。ありがとうございました。

(14年前)娘が母子家庭だった為、孫が幼児の時受け皿が少なく延長時間も限られ、今はよくなったとは言え、
女性が同等に働くため8時位まで延長できたらと思います。又、病後児童の受け皿も幼児の数から見ると少ない
かなと思います。

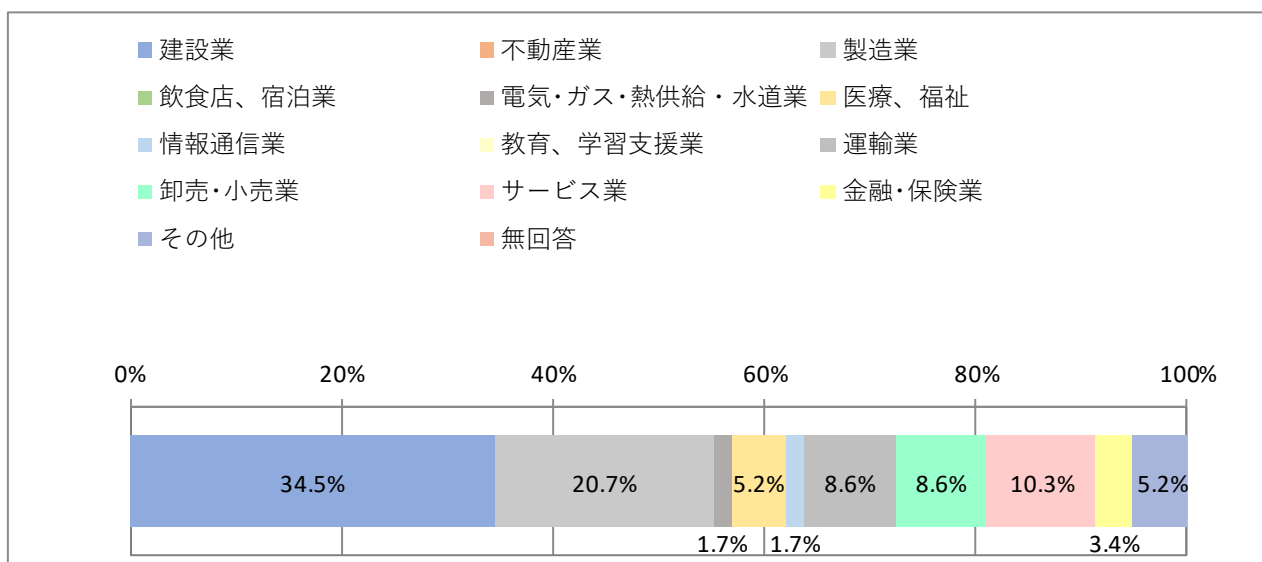
Ⅲ 事業所調査の結果

1. 事業所の概要等

(1) 業種

問1 貴事業所の主な業種は次のどれに該当しますか。

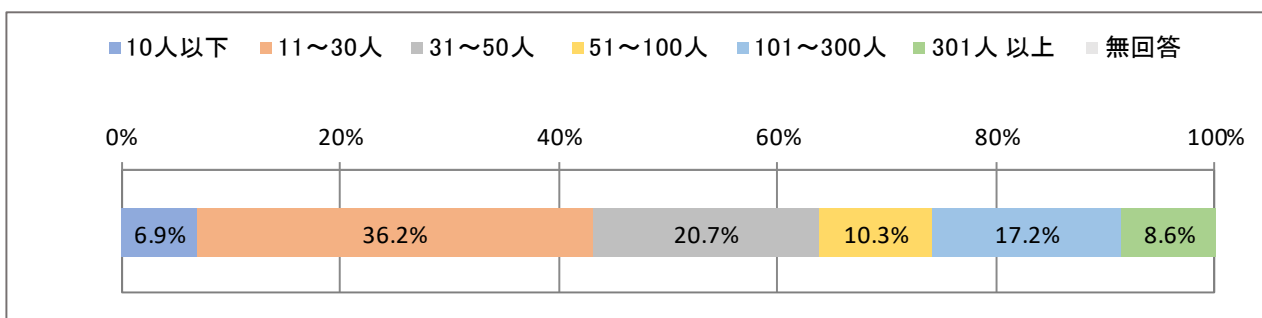
全体では、「建設業」が34%と最も多く、次いで「製造業」が20%、「サービス業」が10%となっている。



(2) 従業員規模（正規従業員数と非正規従業員数の合計）

問2 貴事業所の従業員規模（正規従業員数と非正規従業員数の合計）は次のどれに該当しますか。

従業員規模は、「11～30人」が最も多く36%、次いで「31～50人」が20%、「101～300人」が17%となっている。



2. 女性の登用

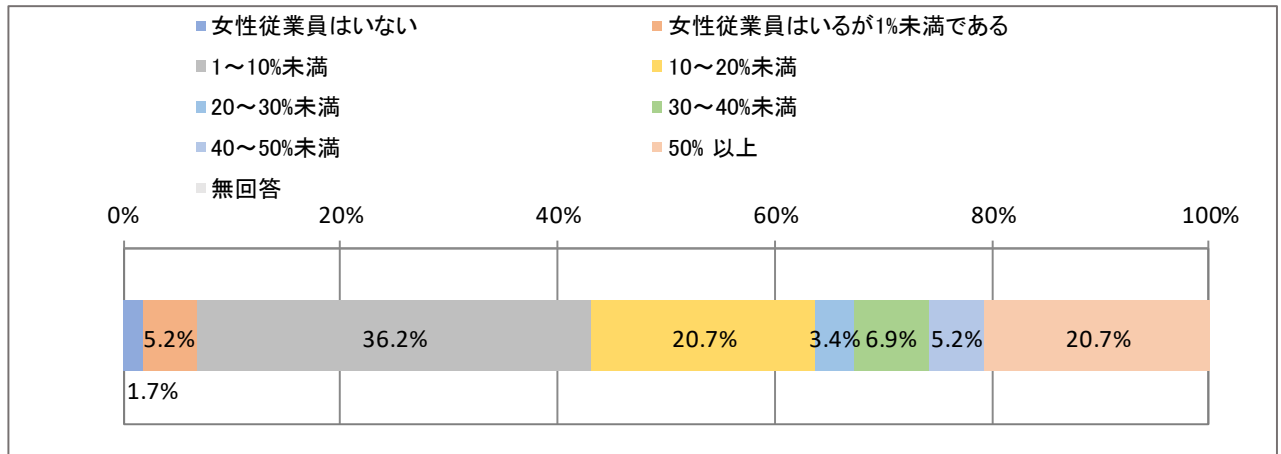
◆女性の登用について

(1) 女性従業員の割合

①全従業員のうち女性の従業員の割合

問3-1 貴事業所の女性従業員の割合（全従業員のうち女性の従業員の割合（全従業員のうち女性が占める割合））について教えてください。

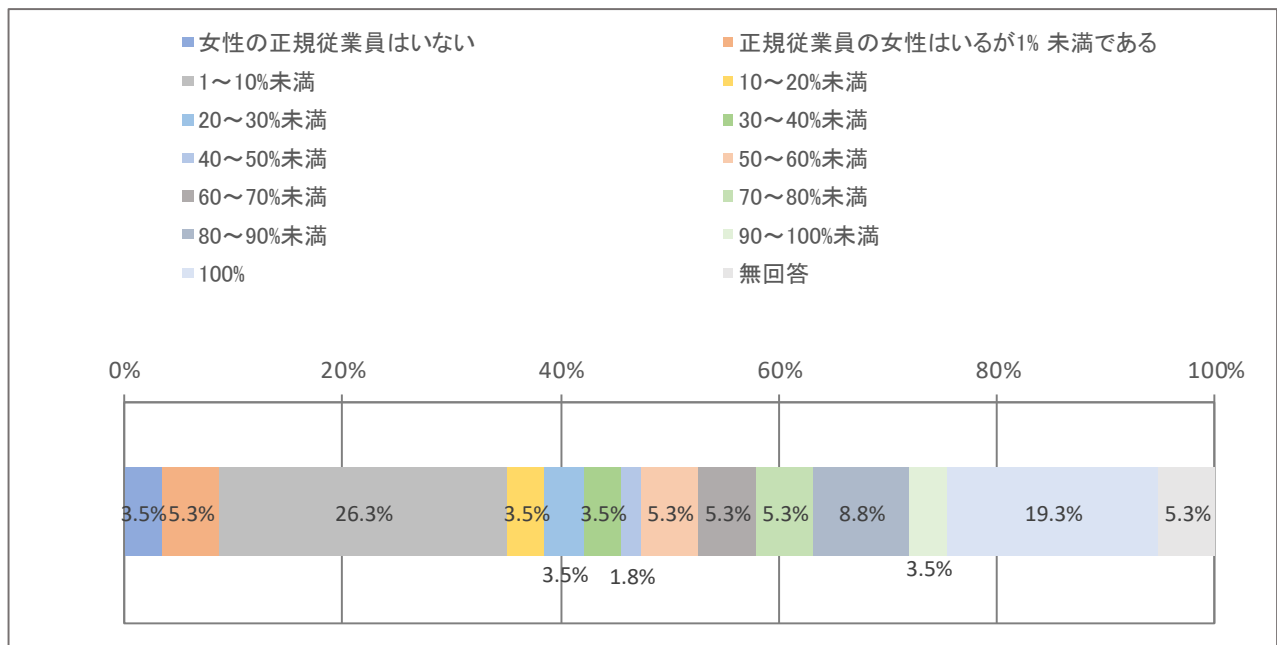
全従業員のうち女性従業員の割合は、「1～10%未満」が36%と最も多く、次いで「10～20%未満」と「50%以上」が20%となっている。



②正規従業員の割合（前問で女性従業員がいると回答した事業所）

問3-2 貴事業所の女性従業員のうち正規従業員の割合（全女性の従業員のうち正規従業員が占める割合）について教えてください。

女性従業員のうち正規従業員の割合は、「1～10%未満」が26%と最も多く、次いで「100%」が19%となっている。

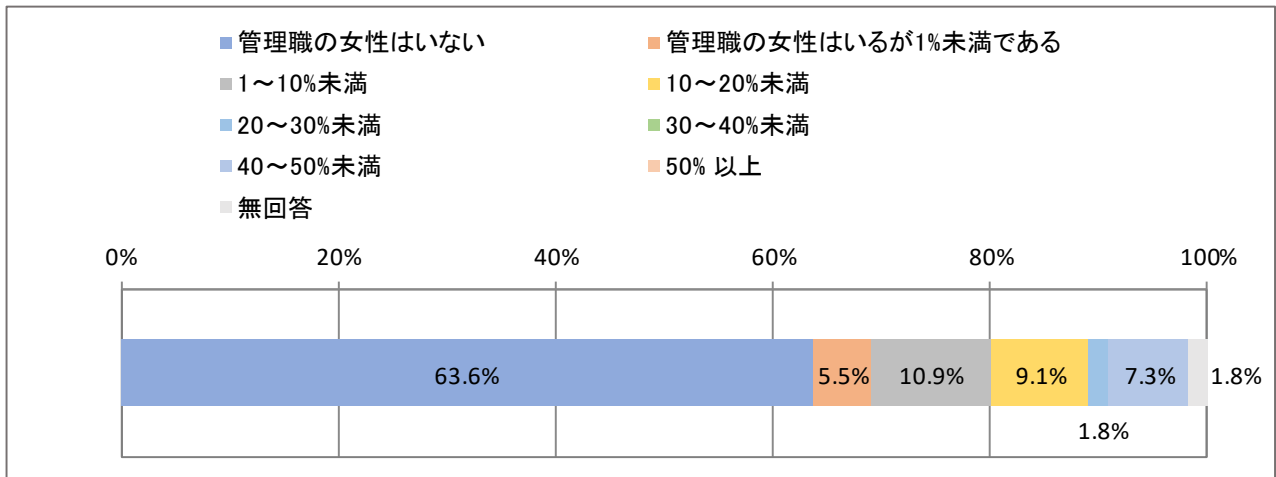


(2) 女性管理職の割合

①女性管理職の割合

問4-1 貴事業所の管理職のうち女性の管理職の割合（全管理職員のうち女性が占める割合）について教えてください。

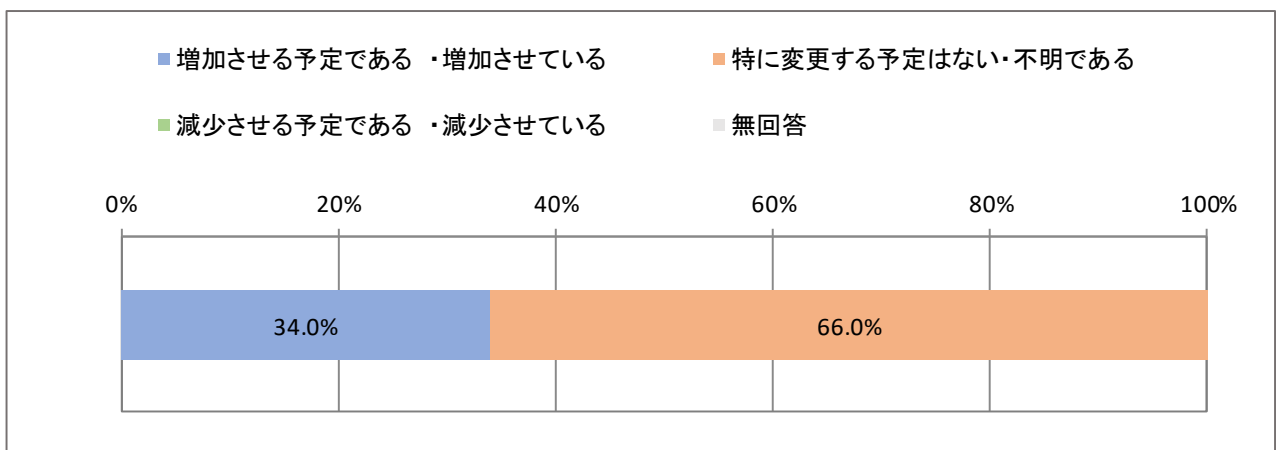
管理職のうち女性の管理職の割合は、「管理職の女性はいない」が63%と最も多く、次いで「1～10%未満」で10%となっている。



②女性管理職の方針（女性管理職の割合が30%未満と回答した事業所）

問4-2 貴事業所の管理職のうち女性の管理職の割合（全管理職員のうち女性が占める割合）の方針について教えてください。

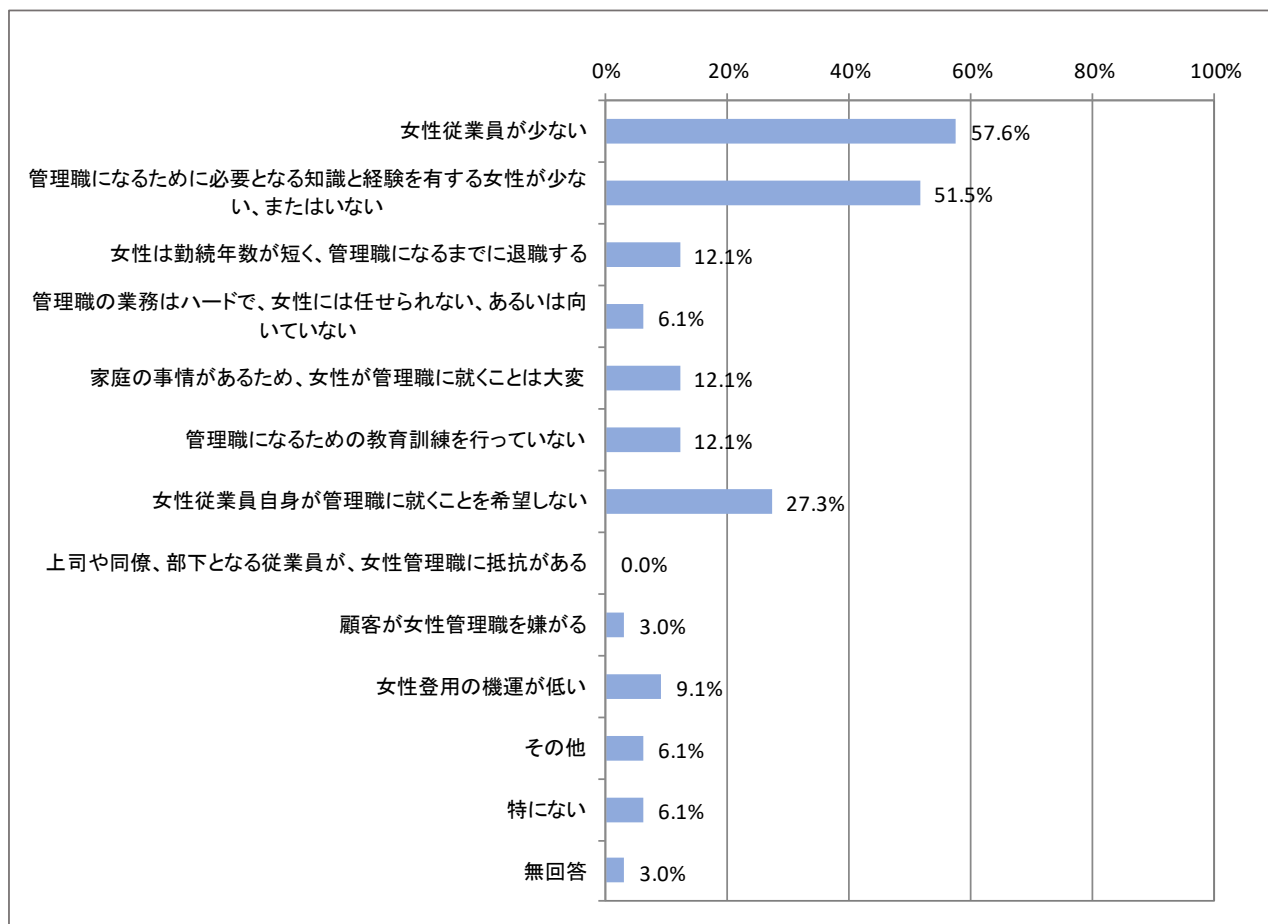
女性の管理職の割合方針は、「特に変更する予定はない・不明である」が66%、「増加させる予定である・増加させている」が34%となっている。



③女性管理職の方針（女性管理職の割合を維持または減少と回答した事業所）

問4-3 貴事業所において女性管理職が少ない(または、いない)のはどのような理由からですか。

女性管理職が少ない(または、いない)理由としては、「女性従業員が少ない」が57%と最も多く、次いで「管理職になるために必要となる知識と経験を有する女性が少ない、またはいない」が51%、「女性従業員自身が管理職に就くことを希望しない」が27%となっている。

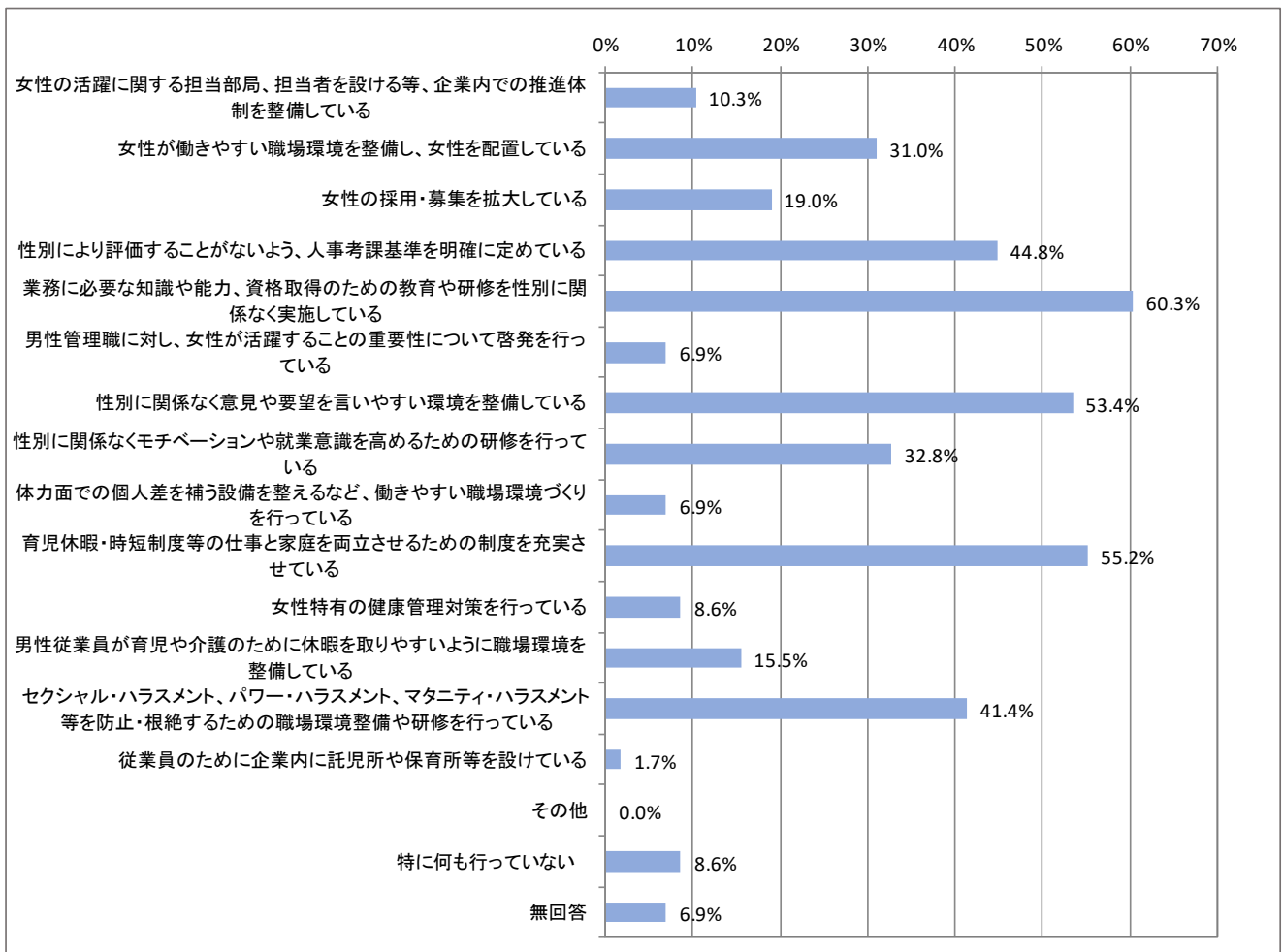


(3) 従業員が活躍するための取り組み

① 取り組みの選択

問5-1 貴事業所では、性別に関係なく従業員が活躍するためにどのような取り組みをしていますか。

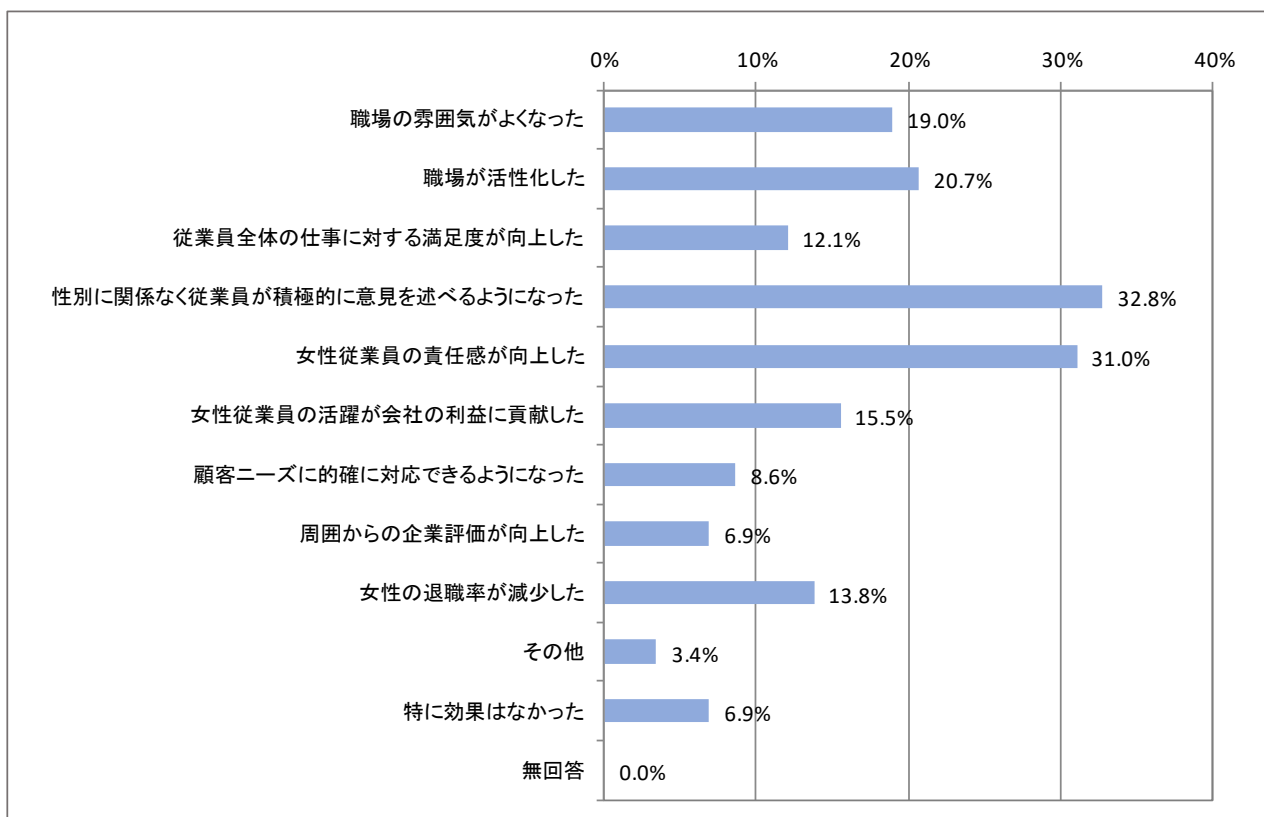
従業員が活躍するためにどのような取り組みをしているかについては、「業務に必要な知識や能力、資格取得のための教育や研修を性別に関係なく実施している」が60%と最も多く、次いで「育児休暇・時短制度等の仕事と家庭を両立させるための制度を充実させている」が55%、「性別に関係なく意見や要望を言いやすい環境を整備している」が53%となっている。



②取り組みに対する効果（取り組みを実施していると回答した事業所）

問5-2 問5-1で回答した取り組みを行ってどのような効果がありましたか。

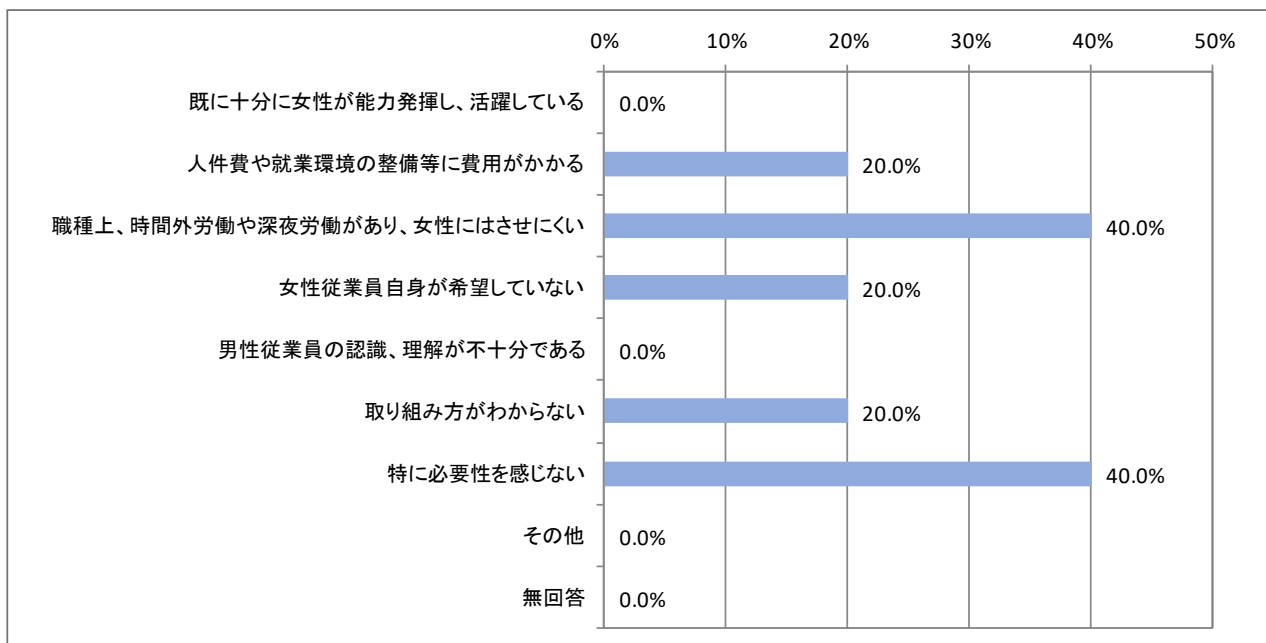
取り組みの効果については、「性別に関係なく従業員が積極的に意見を述べるようになった」が32%と最も多く、次いで「女性従業員の責任感が向上した」が31%、「職場が活性化した」が20%となっている。



③取り組みを実施していない理由（取り組みを実施していないと回答した事業所）

問5-3 問5-1の取り組みを行っていない理由は何ですか。

取り組みを実施していない理由については、「職種上、時間外労働や深夜労働があり、女性にはさせにくい」と「特に必要性を感じない」が40%と最も多くなっている。

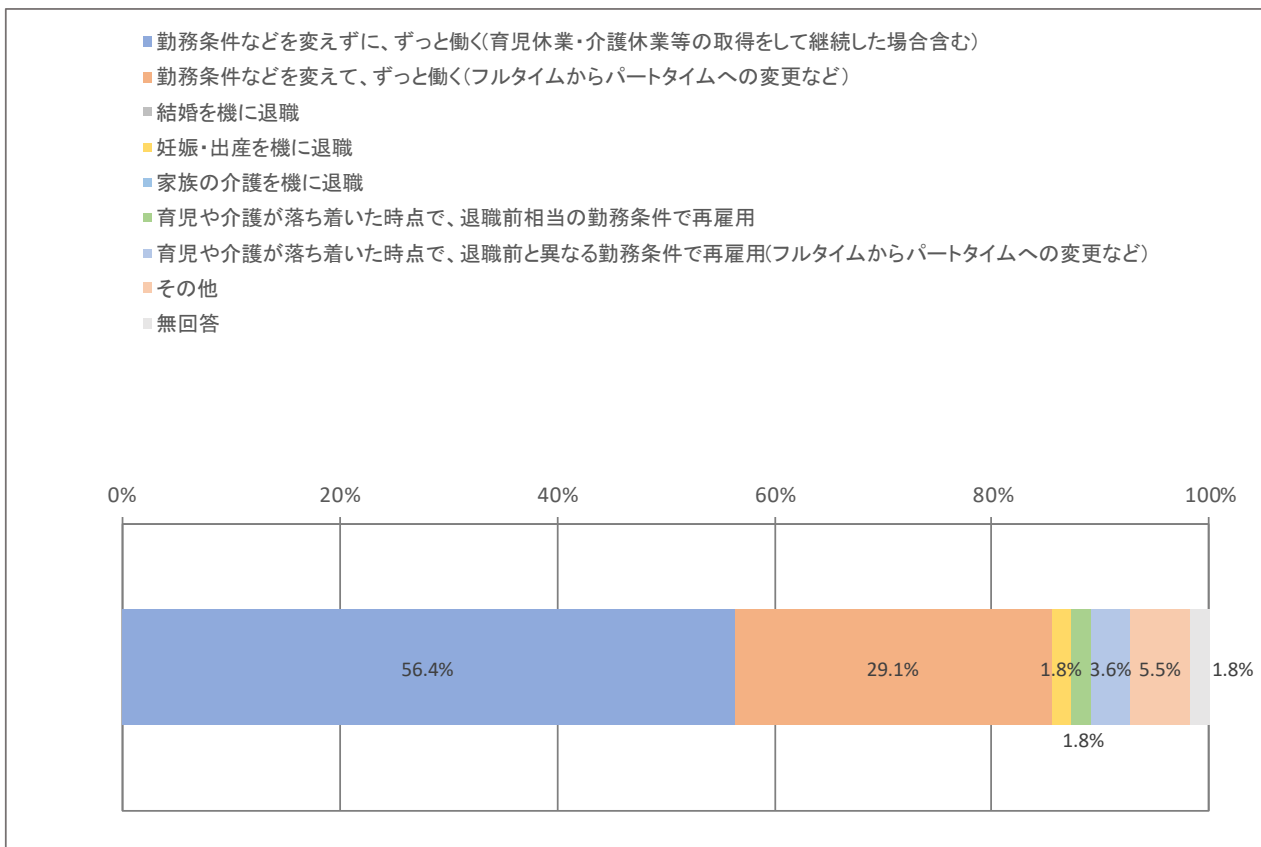


(4) 女性従業員の働き方

①事業所が望む、ライフステージの節目をむかえた女性従業員の働き方

問6-1 貴事業所では結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目をむかえた女性従業員にどのような働き方を望みますか。

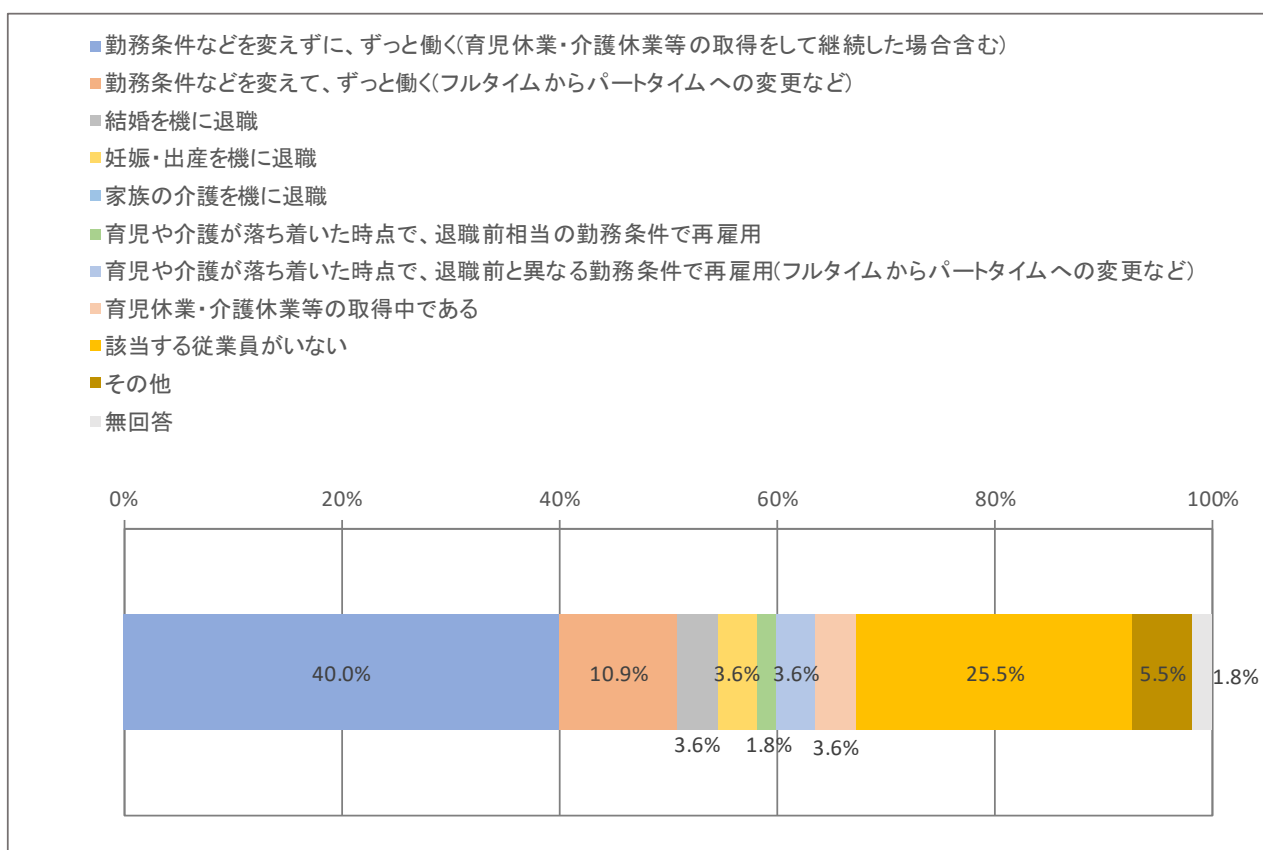
事業所が節目をむかえた女性従業員にどのような働き方を望むかについては、「勤務条件などを変えずに、ずっと働く(育児休業・介護休業等の取得をして継続した場合含む)」が56%と最も多く、次いで「勤務条件を変えて、ずっと働く(フルタイムからパートタイムへの変更など)」29%となっている。



②女性従業員が選んだ、ライフステージの節目をむかえた働き方

問6-2 過去5年間に於いて、貴事業所の女性従業員は結婚や妊娠、出産、介護などのライフステージの節目にどのような働き方を選ぶことが多かったですか。

節目をむかえた女性従業員がどのような働き方を選ぶかについては、「勤務条件などを変えずに、ずっと働く(育児休業・介護休業等の取得をして継続した場合含む)」が40%と最も多く、次いで「該当する従業員がいない」が25%、「勤務条件を変えて、ずっと働く(フルタイムからパートタイムへの変更など)」が10%となっている。



3. 休業制度など

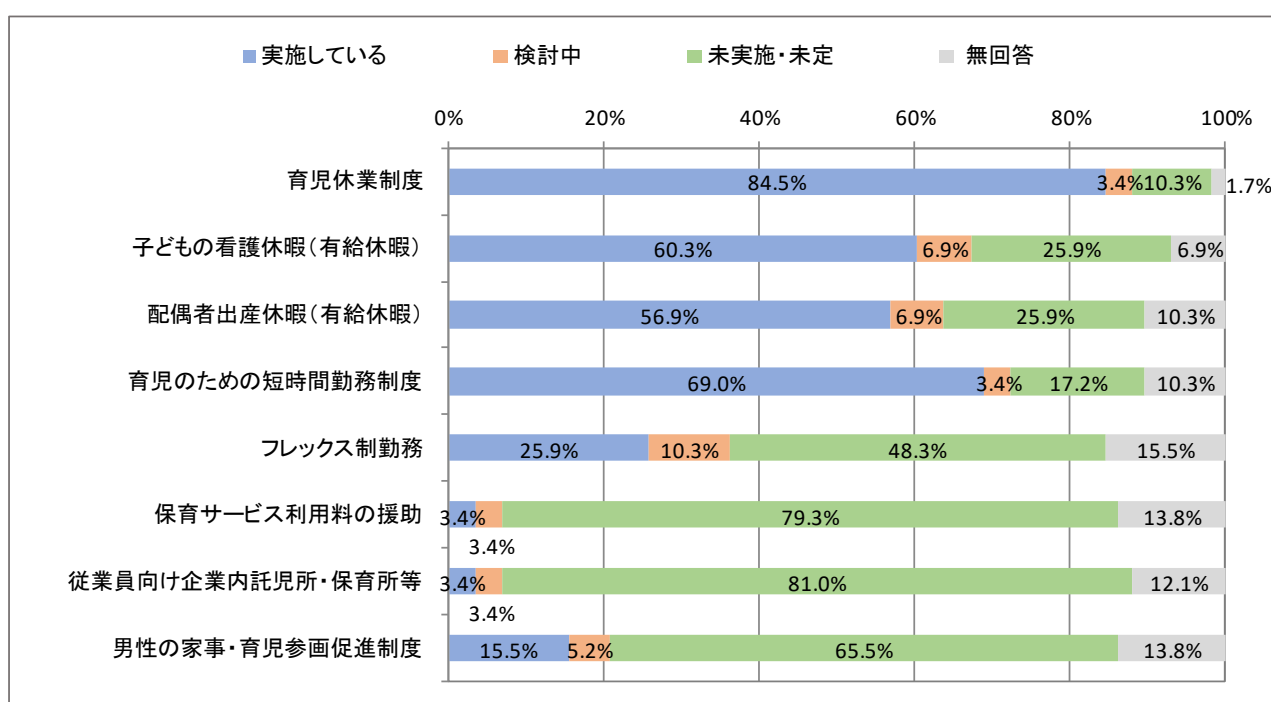
◆育児休業と育児支援の取り組みについて

(1) 子育てを応援する取り組み

問7-1 貴事業所には、以下のような従業員の子育てを応援する取り組みがありますか。または検討されていますか。項目ごとにお答えください。また、それ以外に貴事業所で取り組んでいること、配慮していることなどがありましたらご記入ください。

実施している取り組みで最も多いのは「育児休業制度」で84%となっており、次いで「育児のための短時間勤務制度」が69%、「子どもの看護休暇(有給休暇)」が60%となっている。

一方、「従業員向け企業内託児所・保育所等」や「保育サービス利用料の援助」、「男性の家事・育児参画促進制度」は未実施・未定が6割以上と多くなっている。



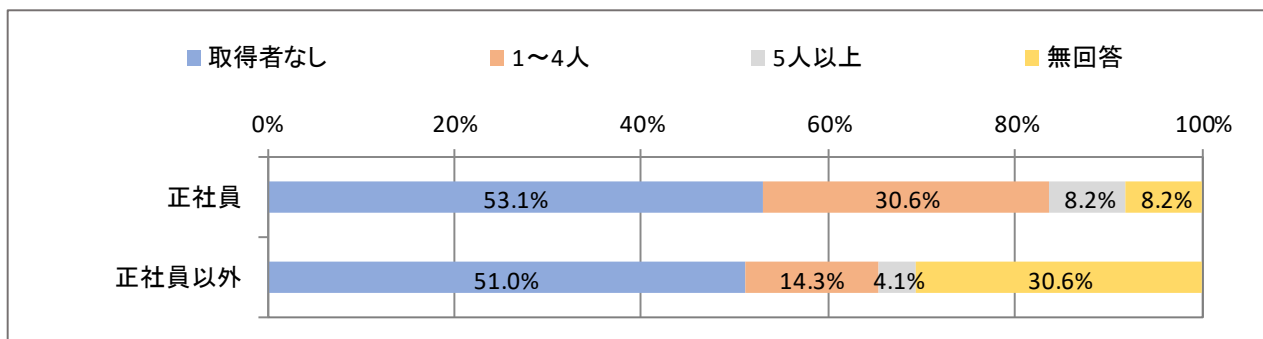
○その他に取り組んでいること

- ・ 正規の年次有給休暇以外の傷病や介護、子の看護のための積立年休制度をつくった。その場合の積立年休を従来の20日間から最大30日間とした。
- ・ アニバーサリー休暇(有給)を毎年度ごとに1日取得可能となるよう制度化した。
- ・ 男性労働者を対象にした「育児休業制度」の利用を促進するための資料による周知。
- ・ 一時パート制度を導入。
- ・ 出産後の配置転換(事務)。

(2) 育児休業制度の取得状況（育児休業制度を実施していると回答した事業所）

問7-2 育児休業制度の取得状況を教えてください。正社員、正社員以外（臨時社員・パート・派遣社員）で男女別の人数を記入してください。

正社員では、「取得者なし」が53%と最も多く、次いで「1～4人」が30%となっている。また、平均取得者数[※]は男性0.06人、女性1.12人、全体では1.18人となっている。正社員以外では、「取得者なし」が51%に上り、取得者のある事業所は9件となっている。



※育児休業制度を実施していると回答した49事業所のうち、男性取得者数は3人、女性取得者数は55人となった。

よって、平均取得者数は男性0.06人、女性1.12人、全体では1.18人となる。

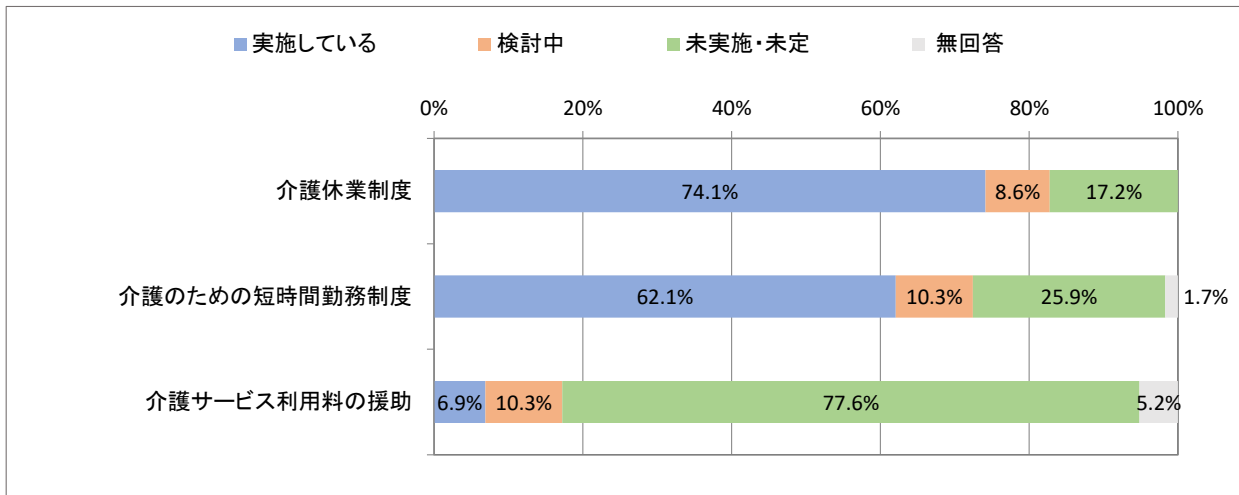
◆介護休業と介護支援の取り組みについて

(1) 介護支援の取り組み

問8-1 貴事業所には、以下のような従業員の介護を支援する取り組みがありますか。または検討されていますか。項目ごとにお答えください。また、それ以外に貴事業所で取り組んでいること、配慮していることなどがありましたらご記入ください。

介護休業制度は「実施している」が74%と多く、「未実施・未定」は17%となっている。
また、介護のための短時間勤務制度は「実施している」が62%、「未実施・未定」は25%となっている。

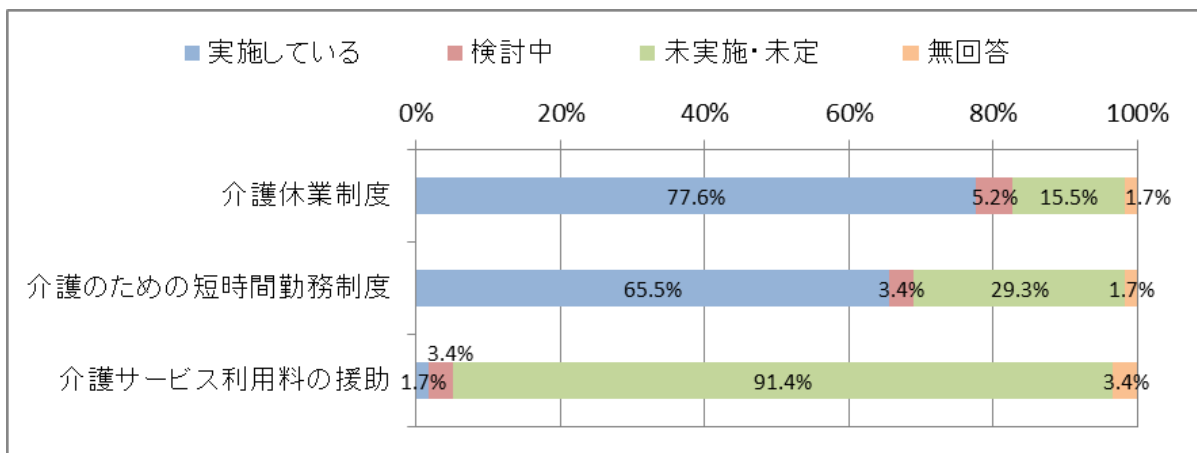
一方、介護サービス利用料の援助は「未実施・未定」が77%と大半を占めている。



○その他に取り組んでいること

- ・ 正規の年次有給休暇以外に介護で休む場合、積立年休制度を制度化した。その場合の積立年休を従来の20日間から最大30日間とした。

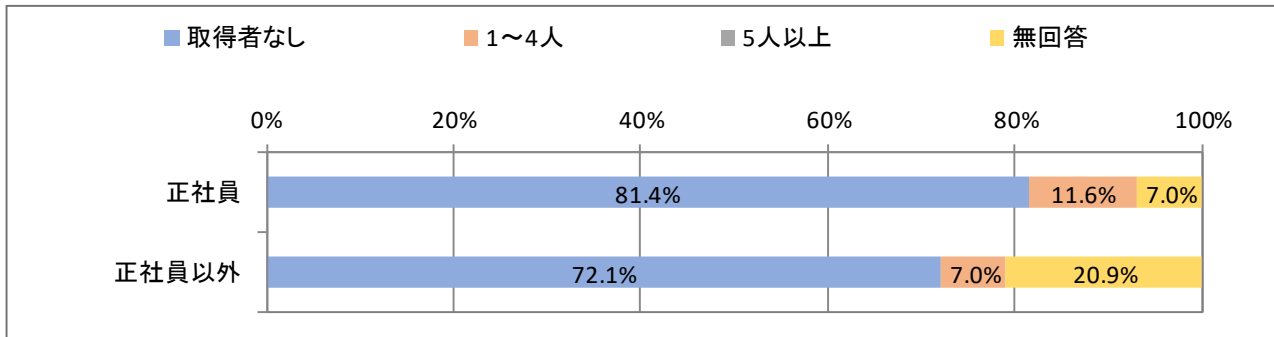
■参考資料（前回調査の結果）



(2) 介護休業制度の取得状況（介護休業を実施していると回答した事業所）

問8-2 介護休業制度の取得状況を教えてください。正社員、正社員以外（臨時社員・パート・派遣社員）で男女別の人数を記入してください。

正社員では、「取得者なし」が81%と多く、取得者が「5人以上」の事業所は見られない。また、平均取得者数^{*}は男性が0.05人、女性0.07人、全体では0.12人となっている。正社員以外では「取得者なし」が72%で、取得者のある事業所は3件となっている。

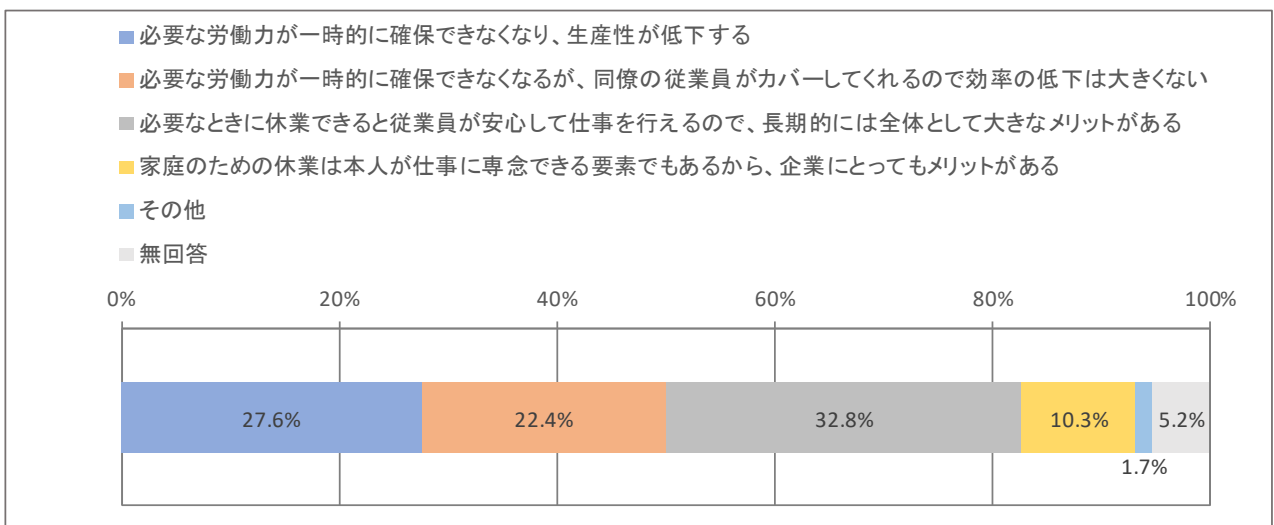


※介護休業制度を実施していると回答した43事業所のうち、男性取得者数は2人、女性取得者数は3人となった。

よって、平均取得者数は男性0.05人、女性0.07人、全体では1.12人となる。

問9 育児休業や介護休業等の支援制度などは、どのようなメリット・デメリットがありますか。

休業制度については、「必要なときに休業できると従業員が安心して仕事を行えるので、長期的には全体として大きなメリットがある」が32%と最も多く、次いで「必要な労働力が一時的に確保できなくなり、生産性が低下する」が27%となっている。



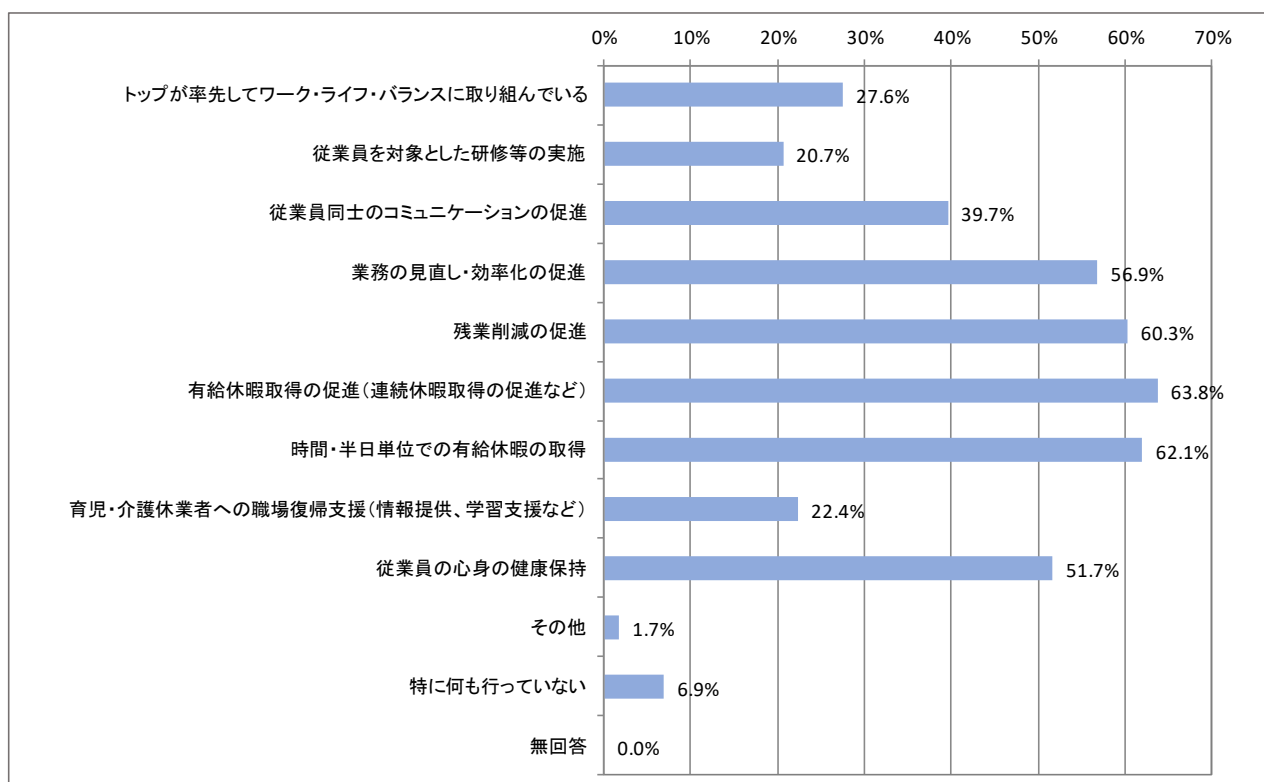
4. 職場環境

◆ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立・調和）について

（1）ワーク・ライフ・バランス

問10 ワーク・ライフ・バランスについて、貴事業所で以下の取り組みがありますか。

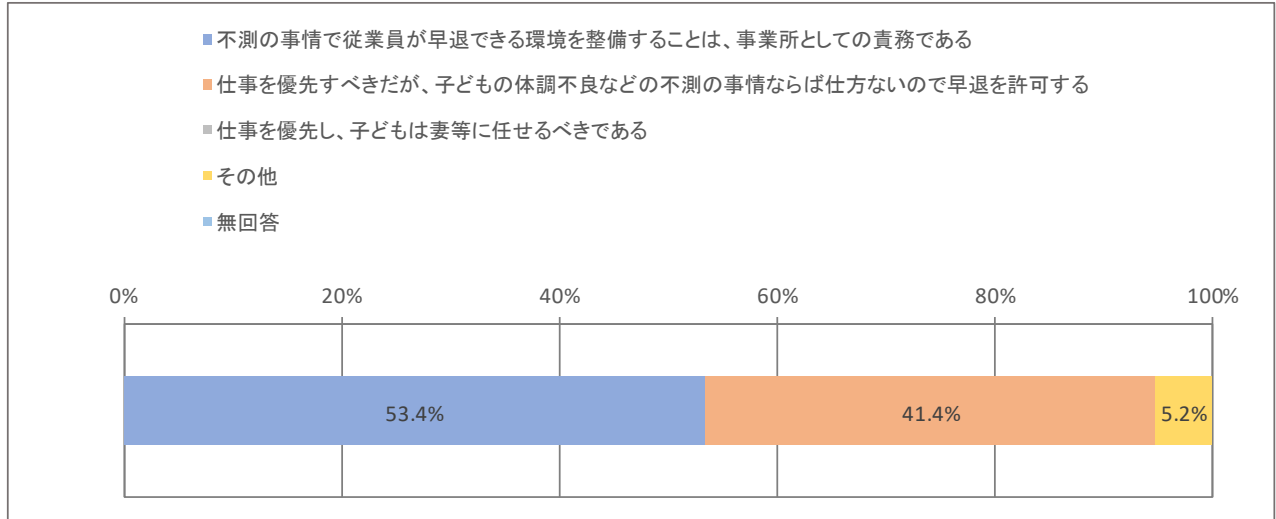
ワーク・ライフ・バランスの取り組みについては、「有給休暇取得の促進（連続休暇取得の促進など）」が63%と最も多く、次いで「時間・半日単位での有給休暇の取得」が62%、「残業削減の促進」が60%となっている。



(2) 男性従業員の不測事情における早退時の捉え方

問 11 一般に男性従業員が子どもの体調不良など不測の事情で早退することについてどう思いますか。貴事業所の考えに最も近いものをお答えください。

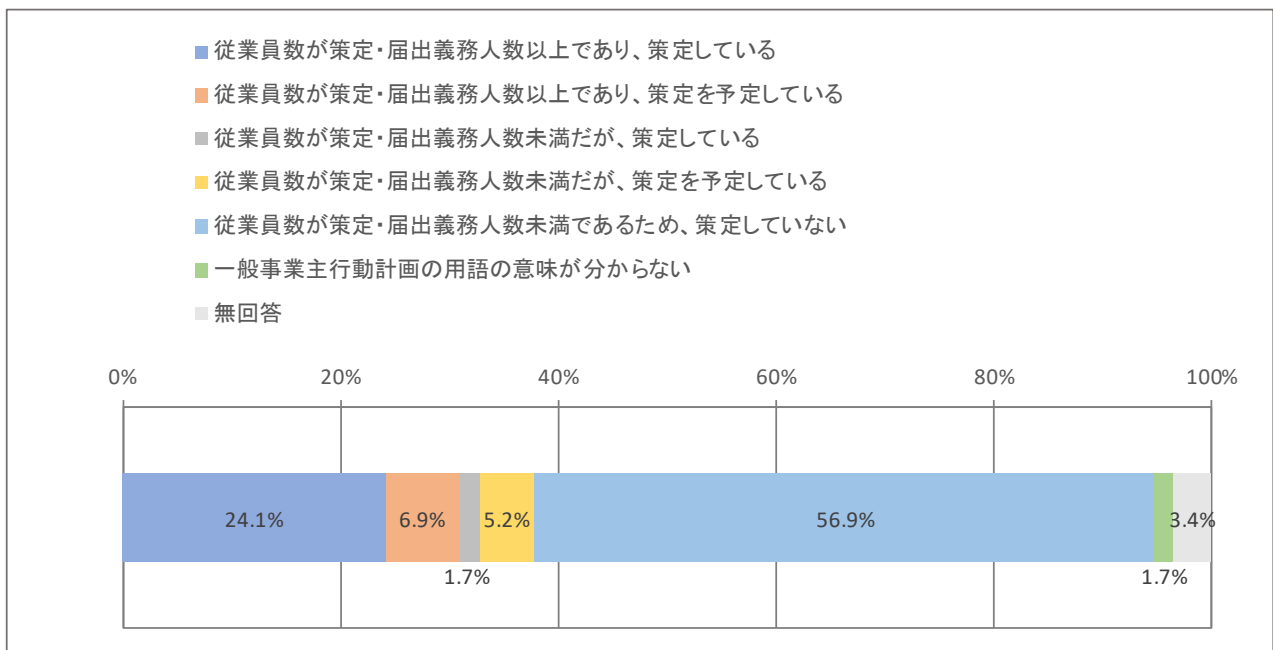
男性従業員が子どもの体調不良など不測の事情で早退することについては、「不測の事情で従業員が早退できる環境を整備することは、事業所としての責務である」が53%と最も多くなっている。一方、「仕事を優先し、子どもは妻等に任せるべきである」の回答はなかった。



(3) 一般事業主行動計画の策定

問 12 貴事業所では一般事業主行動計画を策定していますか。または、策定する予定はありますか。

一般事業主行動計画を策定については、「従業員数が策定・届出義務人数未満であるため、策定していない」が56%と最も多く、次いで「従業員数が策定・届出義務人数以上であり、策定している」が24%となっている。



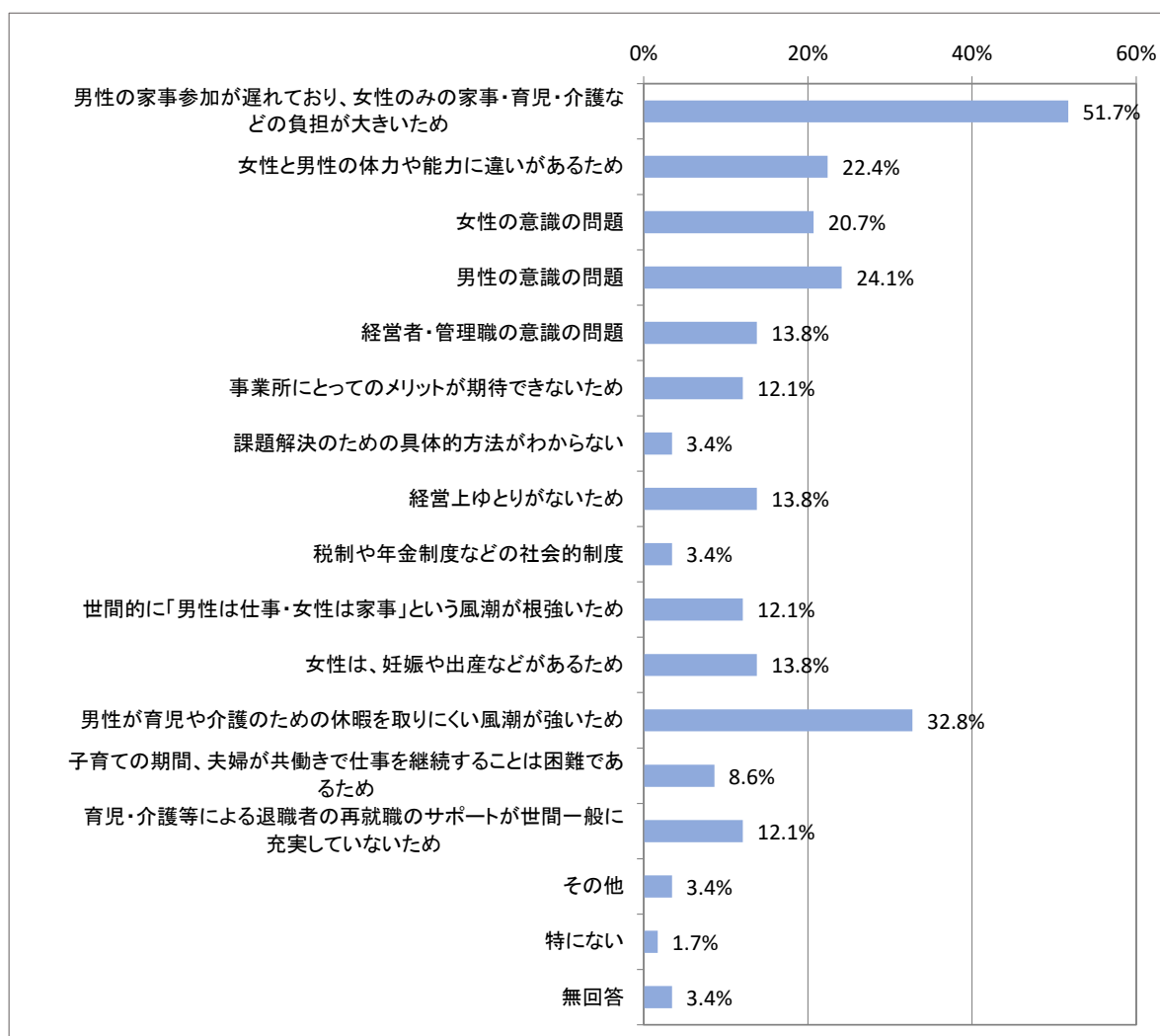
5. 男女共同参画社会の実現

◆男女共同参画社会の実現について

(1) 男女共同参画が浸透しない要因

問 13 一般的な事業所において男女共同参画が浸透しない要因はどのようなことだと思いますか。貴事業所の考えに最も近いものをお答えください。

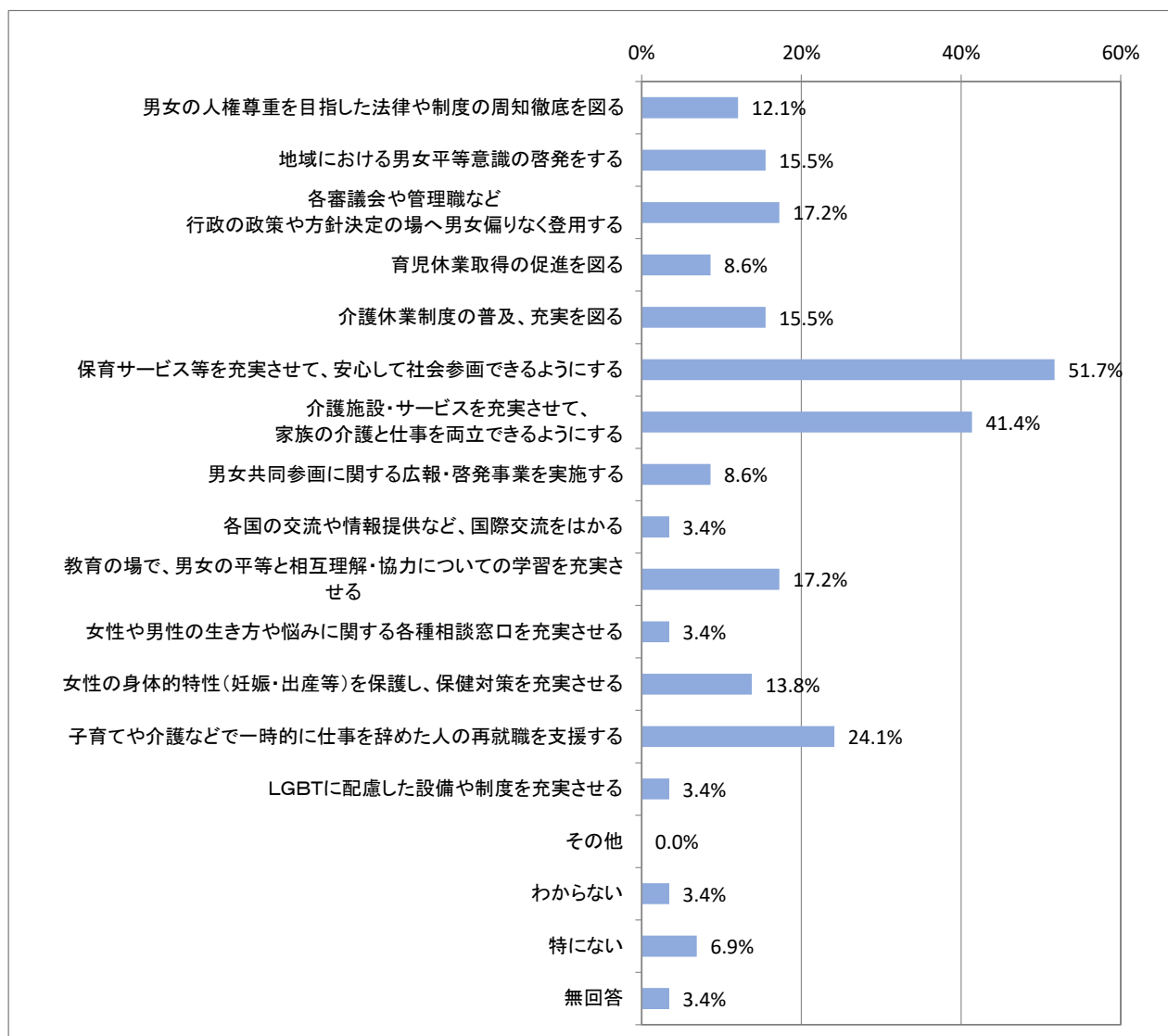
一般的な事業所において男女共同参画が浸透しない要因については、「男性の家事参加が遅れており、女性のみ家事・育児・介護などの負担が大きいため」が51%と最も多く、次いで「男性が育児や介護のための休暇を取りにくい風潮が強いため」が32%となっている。



(2) 男女共同参画の実現に向けて、市が対応すべきこと

問 14 男女共同参画社会を実現していくために、今後、敦賀市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。貴事業所の考えに最も近いものをお答えください。

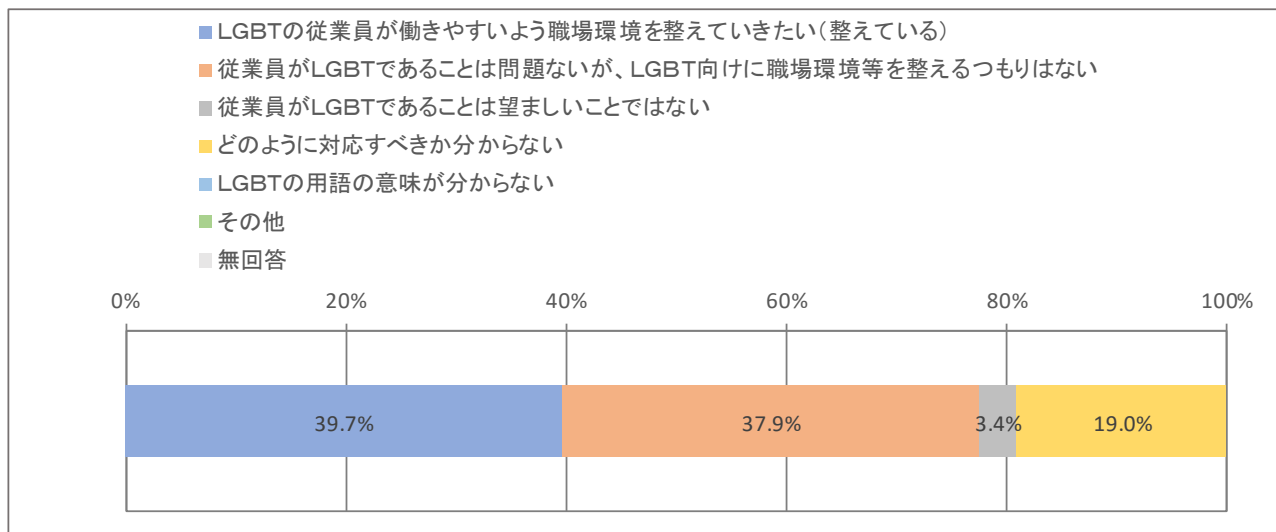
「保育サービス等を充実させて、安心して社会参画できるようにする」が 51%と最も高く、次いで「介護施設・サービスを充実させて、家族の介護と仕事を両立できるようにする」が 41%、「子育てや介護などで一時的に仕事を辞めた人の再就職を支援する」が 24%となっている。



(3) LGBTの従業員への対応

問 15 貴事業所にLGBTの従業員がいた場合、貴事業所はその従業員に関してどのように思われますか。貴事業所の考えに最も近いものをお答えください。

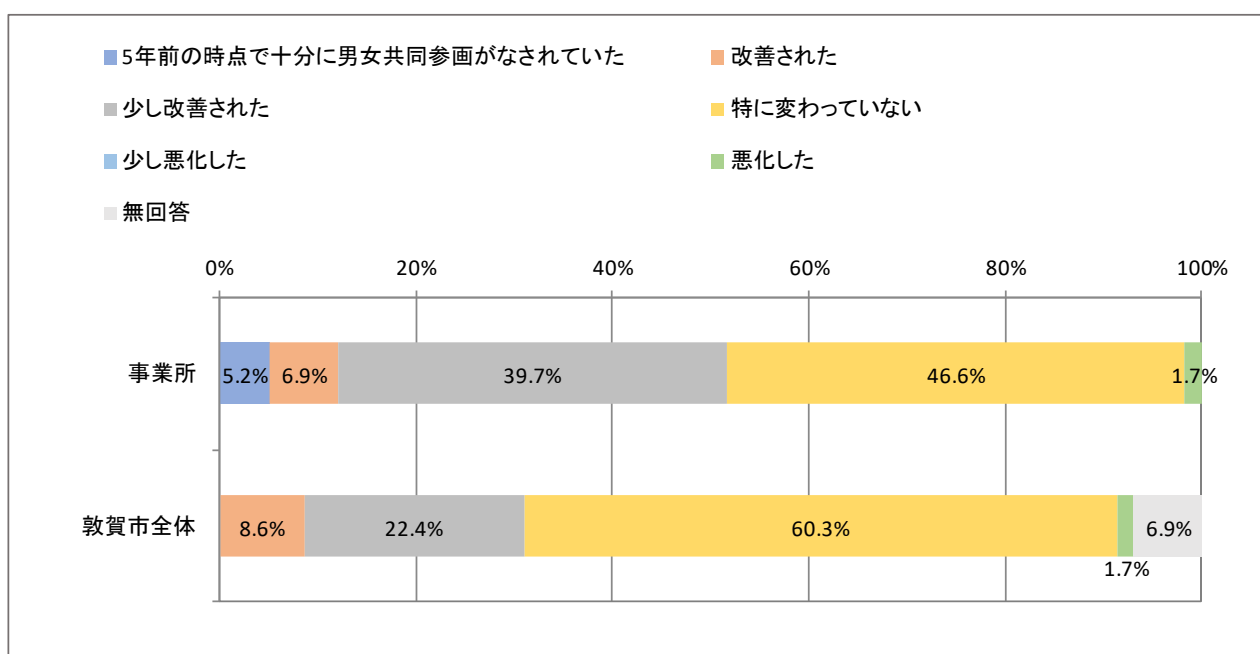
「LGBTの従業員が働きやすいよう職場環境を整えていきたい（整えている）」が39%と最も多く、次いで「従業員がLGBTであることは問題ないが、LGBT向けに職場環境等を整えるつもりはない」が37%となっている。



(4) 男女共同参画の改善動向

問 16 貴事業所と敦賀市全体のそれぞれにおいて、男女共同参画は5年前と比べて改善されたと感じますか。貴事業所の考えに最も近いものをお答えください。

事業所・敦賀市全体ともに、「特に変わっていない」が最も多くなった。次いで「少し改善された」が多いが、事業所の方がその割合が高くなっている。



(5) 男女共同参画におけるアピールポイント

問 17 貴事業所の「男女共同参画におけるアピールポイント」を1つ挙げるとすれば何ですか。また、今後予定または取り入れようと考えているものがありましたら、記入してください。

「男女共同参画におけるアピールポイント」は14事業所、「今後取り入れようと考えている男女共同参画に関する取り組み」は5事業所が記入している。

● 記入された「男女共同参画におけるアピールポイント」

希望があれば女性作業員の採用を推進している。
男女の差別なく、雇用の受け入れの窓口を開いていること。
男女平等の人材育成。製造の現場は男性優位と思われがちですが、数年前より女性オペレーターの採用を進め、体格差を補う設備も増やした結果、女性でも安心して働ける職場になっています。また、現場で必要な技能資格は、男女関係なく取得を支援しています。人材育成においても、同一の評価制度や研修を行っています。
男女関係なく役職につくことができる。
女性の管理職、役員への登用。
女性の管理職登用。
全社レベルで職場の女性キーマンを選出し、女性が働きやすい環境を目指して定期的に会合を行い、会社に企画を提案している。
会社諸制度について会社の経営に支障をきたさない範囲で、無理なく継続的に整備していく方向性でいる。
パート職員も含めて女性職員の育児休業を100%取得し、出産、育児に伴う退職の発生はありません。女性職員が働きやすい環境は男性職員にとっても働きやすい環境であるとし、全ての職員が働きやすい環境であるように取り組んでいます。
昔はバラ配達、バラ出荷が当たり前だったが、最近は荷主さんの方もパレット輸送に切り替えるなど少しずつではあるが輸送の手間が省けており、女性ドライバーでも運行しやすい輸送が増えている。更に、牛乳タンク輸送も合わせて始めた事で、以前より女性ドライバーが応募しやすい環境になっていると思う。
同等の待遇等会社の措置が必要。
女性従業員の割合が全体の80%であり、女性が働きやすい活気のある職場である。
育児休職後の従業員は100%復職しています。
福利厚生の実施による女性社員の離職率の低さ。

● 記入された「今後取り入れようと考えている男女共同参画に関する取り組み」

現場におけるトイレカーの導入を検討している。
比較的若い年代は、学校教育などを通じて学んできているが、反面、指導、教育する立場にある管理職や年長者世代に向けた研修の必要性を感じている。今後、取り組んでいきたい。
女性の管理職、役職者の登用や、働き方の多様化を推進する取り組みを予定しています。
今より更に荷主と共に働きやすいよう、運行の在り方を考えていきたい。男女もだが運送業界全体として高齢ドライバー(50歳以上)の問題もあるので、老若男女問わず長く働ける会社になりたいと考えている。
本社との連携を旨とし支店として取組みたいと思います。

IV これまでの調査結果等との比較

1. 調査概要

	平成 12 年度	平成 17 年度	平成 21 年度	平成 26 年度	【今回】 令和元年度
調査対象	敦賀市に居住する 満 18 歳以上の男女 1,000 名			敦賀市に居住する 満 18 歳以上の男女 1,200 名	
調査方法	調査票を郵送による配布・回収（郵送法）				
調査期間	平成 13 年 1 月 18 日～1 月 31 日	平成 17 年 8 月 3 日～8 月 20 日	平成 21 年 8 月 17 日～8 月 31 日	平成 26 年 9 月 29 日～10 月 20 日	令和元年 11 月 1 日～11 月 30 日

	平成 12 年度	平成 17 年度	平成 21 年度	平成 26 年度	【今回】 令和元年度
配布票数	1,000 件			1,200 件	
有効票数	580 件	380 件	405 件	420 件	454 件
有効回収率	58.0%	38.0%	40.5%	35.0%	37.8%

2. 調査結果の経年的考察

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

経年的に見ると、今回調査は『そうは思わない』（「どちらかといえば、そう思わない」と「そうは思わない」の合計）は大きく上昇しており、国調査結果（R1）とほぼ同様の割合となった。

これは、家庭状況や価値観等の多様化が影響しているものと考えられる。

(2) 男女の立場

「家庭生活の場」と「職場」において、その他の項目に比べ「同程度」の上昇幅が大きくなっている。また、女性の優遇度が大きく上昇している項目は見られず、「政治の場」では男性の優遇度が上昇している。

これらのことから、男女の立場の平等については今後も推進が必要と考えられる。

(3) 出産・育児等の環境

前回調査では「子どもを一時的に保育してくれる施設の拡大・充実」が最も多かったが、今回の調査では「子どもの病気などのために性別に関係なく取りやすい休暇制度」が最も多くなっている。

このことから、育児に関して両親とも積極的に参加するための休暇制度の充実が求められていることがうかがえる。

(4) 家庭生活での夫婦の分担

今回調査から調査の精度を向上させるため「他の家族が中心」と「該当なし」の選択肢を追加したところ、「無回答」の割合が減少した。また、「乳幼児の世話」、「子どものしつけや教育」、「子どもの学校行事への参加」、「親や家族の介護・看護」などの一般に特定の時期にのみ生じる内容については「該当なし」の回答割合が多く、選択肢の追加により実情に沿った回答を得られたものと考えられる。

経年比較においては、「家の軽微な修繕、庭の手入れ」を除き、依然として夫婦における家事、育児、介護等の分担については、「主に夫」を「主に妻」が大きく上回る傾向がみられる。

家庭生活においては女性側への負担が偏っており、男性の家事、育児、介護等への参加の一層の推進が必要と考えられる。

(5) 女性の仕事

前回調査に比べ、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」の回答割合が30%と半分程度に減少した。一方、「結婚して子供が生まれた後も職業を持ち続ける」の回答割合が37%と最も多くなっている。

国調査結果(R1)と比べても、「子どもが出来ても、ずっと職業を続ける方がよい(61%)」が最も多く、同様な傾向がうかがえる。

また、事業所の意識調査結果でも、結婚、出産等のライフステージの節目をむかえた女性の働き方について「勤務条件などを変えずに、ずっと働く(育児休業・介護休業等の取得をして継続した場合を含む)」ことが望ましいとする回答割合が56%と最も多い。

これらのことから、敦賀市においても女性の活躍を望む意識が高まっていると考えられる。

(6) 男女間の暴力的行為

経年的に見ると、セクシャル・ハラスメント、DV(ドメスティック・バイオレンス)ともに「身近な人で被害を受けた人がいる」が増加している一方で「自分が被害を受けたことがある」について大きな変動がない。

被害は抑制されている一方で、各用語に関する社会的認知度や意識が高まっているものと考えられる。

(7) 男女共同参画に関する用語の周知度

経年的に見ると、「DV(ドメスティック・バイオレンス)」は毎回上昇しており8割近い周知度となった。

「デートDV」は前回調査より若干減少したものの、「ワーク・ライフ・バランス」と「ジェンダー」は大きく上昇し、それぞれが6割程度の周知度となった。

(8) 男女共同参画社会の推進

前回調査に比べ、「もっと力を入れるべきだと思う」が4ポイント増加した一方、「今後は自然と男女共同参画が進むと思う」が3ポイント減少している。

これまで以上に、男女共同参画社会の推進に取り組むことが望まれることがうかがえる。

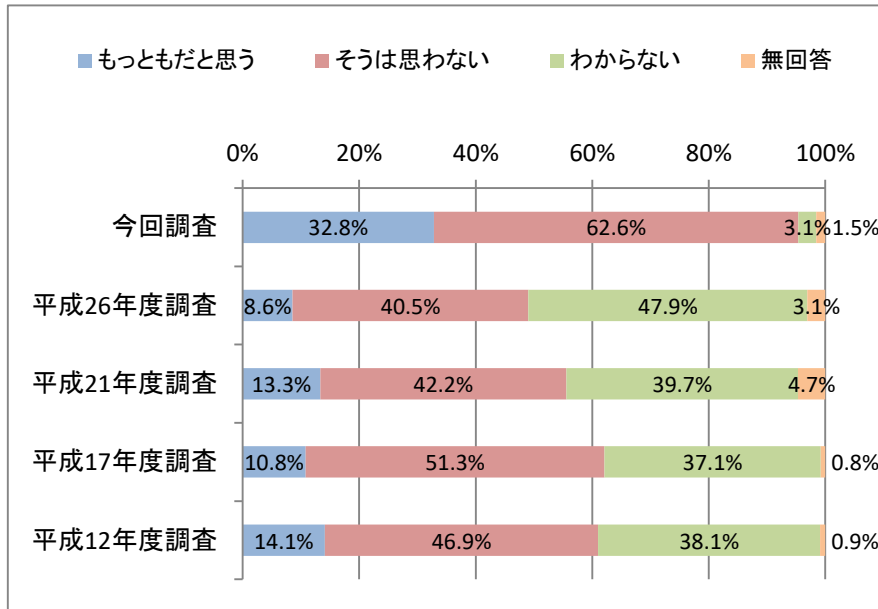
※国調査結果は令和元年度の「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府)より抜粋

3. 比較分析

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

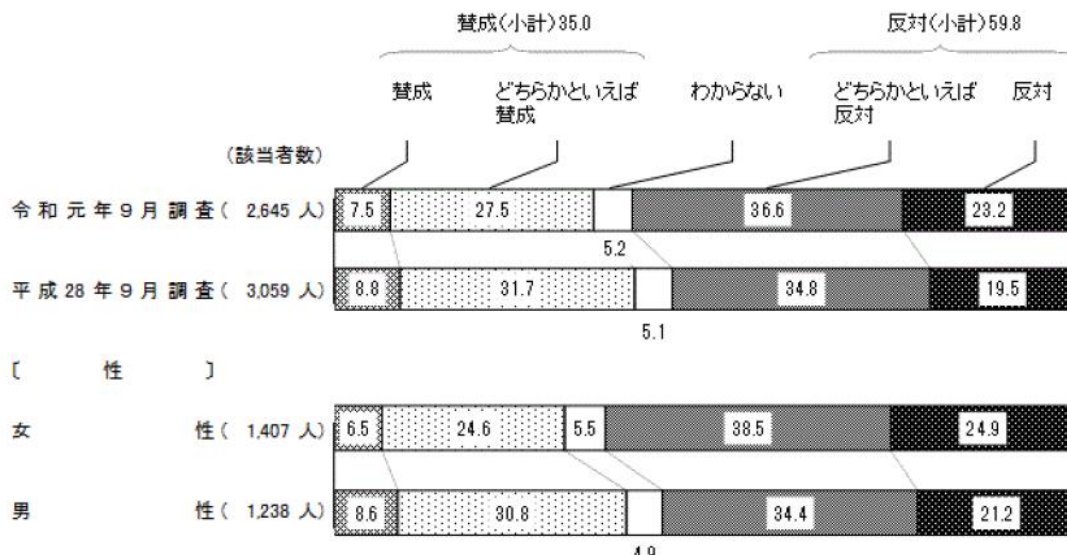
「もっともだと思う」と「そうは思わない」は回答割合が増加しており、「そうは思わない」は6割を超えている。適正化の影響があるものと考えられるが、「そうは思わない」という考えが優位と見ることに差支えはないと考えられる。

今回調査の結果は国調査結果（R1）と比べると、ほぼ同様な傾向であることがうかがえる。



※今回調査の選択肢「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を「もっともだと思う」に、「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」を「そうは思わない」に、前回調査の選択肢「どちらともいえない」と「わからない」を「わからない」に読み替えている。

※参考（R1国調査結果より）：「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

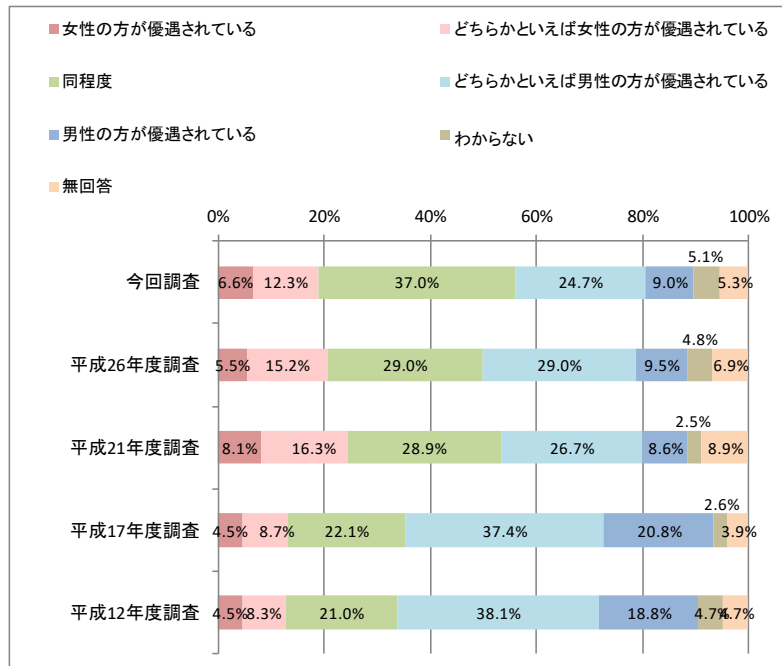


区分		回答者数	もっともだ と思う	そうは思わ ない	わからない	無回答	
今回調査	合計	454	32.8%	62.6%	3.1%	1.5%	
	性別	男性	201	37.8%	58.2%	2.5%	1.5%
		女性	252	29.0%	65.9%	3.6%	1.6%
		その他	1	-	100.0%	-	-
	年代別	18-20歳代	42	19.0%	76.2%	4.8%	-
		30歳代	48	20.8%	77.1%	2.1%	-
		40歳代	72	37.5%	58.3%	2.8%	1.4%
		50歳代	84	32.1%	63.1%	2.4%	2.4%
60歳代		90	30.0%	64.4%	5.6%	-	
70歳代		92	44.6%	51.1%	2.2%	2.2%	
80歳代以上	26	34.6%	57.7%	-	7.7%		
平成26年度調査	合計	420	8.6%	40.5%	47.9%	3.1%	
	性別	男性	184	12.0%	41.3%	44.6%	2.2%
		女性	231	5.7%	40.0%	50.9%	3.5%
	年代別	18-20歳代	33	15.2%	36.4%	48.5%	-
		30歳代	66	9.1%	43.9%	47.0%	-
		40歳代	49	6.1%	36.7%	57.1%	-
		50歳代	82	6.1%	43.9%	46.3%	3.7%
		60歳代	95	6.3%	40.0%	50.5%	3.2%
70歳代		64	9.4%	39.1%	46.9%	4.7%	
80歳以上	27	18.5%	37.0%	33.3%	11.1%		
平成21年度調査	合計	405	13.3%	42.2%	39.7%	4.7%	
	性別	男性	172	21.5%	37.8%	36.0%	4.7%
		女性	232	7.3%	45.7%	42.2%	4.7%
	年代別	18-20歳代	40	15.0%	40.0%	45.0%	-
		30歳代	70	14.3%	38.6%	47.1%	-
		40歳代	57	7.0%	47.4%	40.4%	5.3%
		50歳代	84	14.3%	46.4%	36.9%	2.4%
60歳代		88	13.6%	40.9%	38.7%	6.8%	
70歳代	66	15.2%	39.4%	33.3%	12.1%		
平成17年度調査	合計	380	10.8%	51.3%	37.1%	0.8%	
	性別	男性	168	15.5%	46.4%	38.1%	-
		女性	212	7.1%	55.2%	36.4%	1.4%
	年代別	18-20歳代	45	6.7%	57.8%	35.5%	-
		30歳代	53	5.7%	52.8%	41.5%	-
		40歳代	72	5.6%	55.6%	38.9%	-
		50歳代	72	11.1%	62.5%	26.4%	-
60歳代		71	9.9%	42.3%	46.5%	1.4%	
70歳代	66	24.2%	37.9%	34.8%	3.0%		
平成12年度調査	合計	580	14.1%	46.9%	38.1%	0.9%	
	性別	男性	262	17.6%	41.6%	40.1%	0.8%
		女性	316	11.4%	51.3%	36.7%	0.6%
	年代別	18-20歳代	81	12.3%	61.7%	26.0%	-
		30歳代	101	13.9%	42.6%	42.6%	1.0%
		40歳代	123	5.7%	43.1%	51.2%	-
		50歳代	129	14.0%	50.4%	34.9%	0.8%
60歳代		73	15.1%	54.8%	28.7%	1.4%	
70歳代	69	31.9%	27.5%	40.5%	-		

(2) 男女平等の実現度

① 家庭生活の場

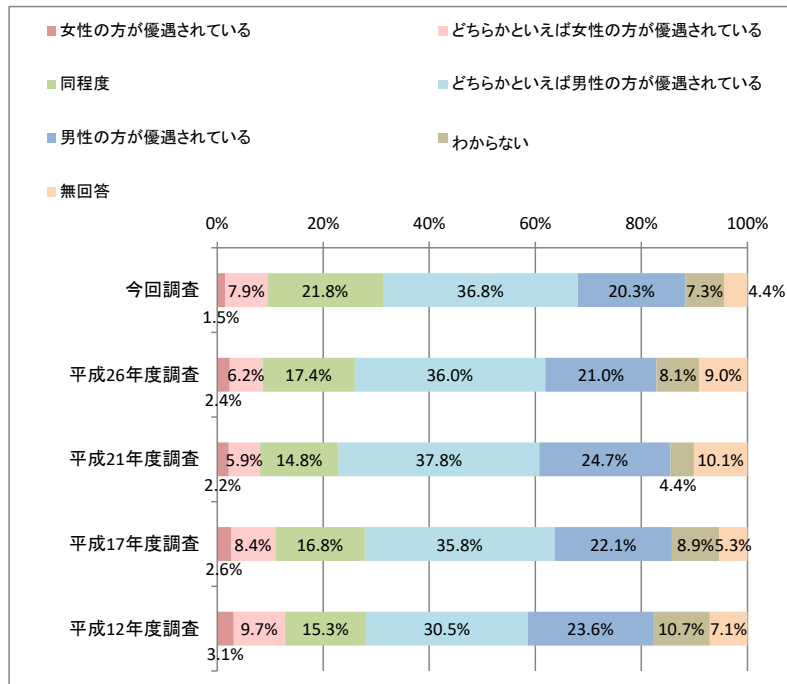
「同程度」は増加し、『男性が優遇』および『女性が優遇』ともに減少している傾向がうかがえる。



区分		回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	
今回調査	合計	454	6.6%	12.3%	37.0%	24.7%	9.0%	5.1%	5.3%	
	性別	男性	201	10.0%	11.9%	46.3%	18.4%	6.5%	3.5%	3.5%
		女性	252	4.0%	12.7%	29.8%	29.4%	11.1%	6.3%	6.7%
		その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別	18-20歳代	42	9.5%	19.0%	33.3%	23.8%	4.8%	9.5%	-
		30歳代	48	20.8%	27.1%	33.3%	6.3%	8.3%	4.2%	-
		40歳代	72	11.1%	12.5%	40.3%	13.9%	9.7%	8.3%	4.2%
		50歳代	84	4.8%	9.5%	40.5%	31.0%	8.3%	3.6%	2.4%
		60歳代	90	3.3%	7.8%	44.4%	30.0%	7.8%	3.3%	3.3%
70歳代		92	1.1%	7.6%	31.5%	32.6%	12.0%	4.3%	10.9%	
80歳代以上		26	-	15.4%	23.1%	23.1%	11.5%	3.8%	23.1%	
平成26年度調査	合計	420	5.5%	15.2%	29.0%	29.0%	9.5%	4.8%	6.9%	
	性別	男性	184	5.4%	15.8%	34.8%	26.1%	8.2%	6.0%	3.8%
		女性	231	5.7%	14.8%	24.8%	31.3%	10.9%	3.9%	8.7%
		その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別	18-20歳代	33	9.1%	24.2%	36.4%	18.2%	6.1%	6.1%	-
		30歳代	66	12.1%	15.2%	33.3%	25.8%	9.1%	3.0%	1.5%
		40歳代	49	-	20.4%	24.5%	30.6%	14.3%	6.1%	4.1%
		50歳代	82	2.4%	12.2%	35.4%	32.9%	7.3%	6.1%	3.7%
		60歳代	95	6.3%	15.8%	22.1%	37.9%	8.4%	4.2%	5.3%
70歳代		64	4.7%	7.8%	31.3%	29.7%	9.4%	3.1%	14.1%	
80歳以上		27	3.7%	18.5%	22.2%	3.7%	18.5%	7.4%	25.9%	
平成21年度調査	合計	405	8.1%	16.3%	28.9%	26.7%	8.6%	2.5%	8.9%	
	性別	男性	172	8.7%	15.7%	38.4%	23.3%	5.8%	1.7%	6.4%
		女性	232	7.8%	16.4%	22.0%	29.3%	10.8%	3.0%	10.8%
		その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別	18-20歳代	40	22.5%	25.0%	17.5%	17.5%	10.0%	7.5%	-
		30歳代	70	12.9%	25.7%	34.3%	21.4%	4.3%	1.4%	-
		40歳代	57	10.5%	12.3%	29.8%	35.1%	5.3%	1.8%	5.3%
		50歳代	84	6.0%	11.9%	35.7%	28.6%	9.5%	1.2%	7.1%
		60歳代	88	1.1%	15.9%	29.5%	22.7%	15.9%	3.4%	11.4%
70歳代		66	4.5%	10.6%	19.7%	33.3%	4.5%	1.5%	25.8%	
80歳以上		1	-	-	-	100.0%	-	-	-	
平成17年度調査	合計	380	4.5%	8.7%	22.1%	37.4%	20.8%	2.6%	3.9%	
	性別	男性	168	5.4%	8.3%	28.6%	36.3%	16.7%	1.2%	3.6%
		女性	212	3.8%	9.0%	17.0%	38.2%	24.1%	3.8%	4.2%
		その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別	18-20歳代	45	4.4%	17.8%	33.3%	13.3%	26.7%	2.2%	2.2%
		30歳代	53	9.4%	7.5%	20.8%	34.0%	20.8%	3.8%	3.8%
		40歳代	72	1.4%	5.6%	25.0%	37.5%	22.2%	4.2%	4.2%
		50歳代	72	2.8%	8.3%	16.7%	47.2%	20.8%	2.8%	1.4%
		60歳代	71	2.8%	9.9%	26.8%	39.4%	16.9%	1.4%	2.8%
70歳代		66	7.6%	6.1%	13.6%	43.9%	19.7%	1.5%	7.6%	
80歳以上		1	-	-	-	100.0%	-	-	-	
平成12年度調査	合計	580	4.5%	8.3%	21.0%	38.1%	18.8%	4.7%	4.7%	
	性別	男性	262	4.6%	8.0%	26.0%	40.1%	14.1%	3.8%	3.4%
		女性	316	4.1%	8.5%	17.1%	36.7%	22.8%	5.1%	5.7%
		その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別	18-20歳代	81	3.7%	9.9%	25.9%	32.1%	17.3%	8.6%	2.5%
		30歳代	101	1.0%	12.9%	15.8%	39.6%	21.8%	4.0%	5.0%
		40歳代	123	4.9%	6.5%	25.2%	35.8%	22.0%	2.4%	3.3%
		50歳代	129	5.4%	7.8%	24.0%	38.0%	18.6%	3.1%	3.1%
		60歳代	73	6.8%	8.2%	17.8%	46.6%	13.7%	2.7%	4.1%
70歳代		69	4.3%	4.3%	14.5%	40.6%	15.9%	8.7%	11.6%	
80歳以上		1	-	-	-	100.0%	-	-	-	

②職場

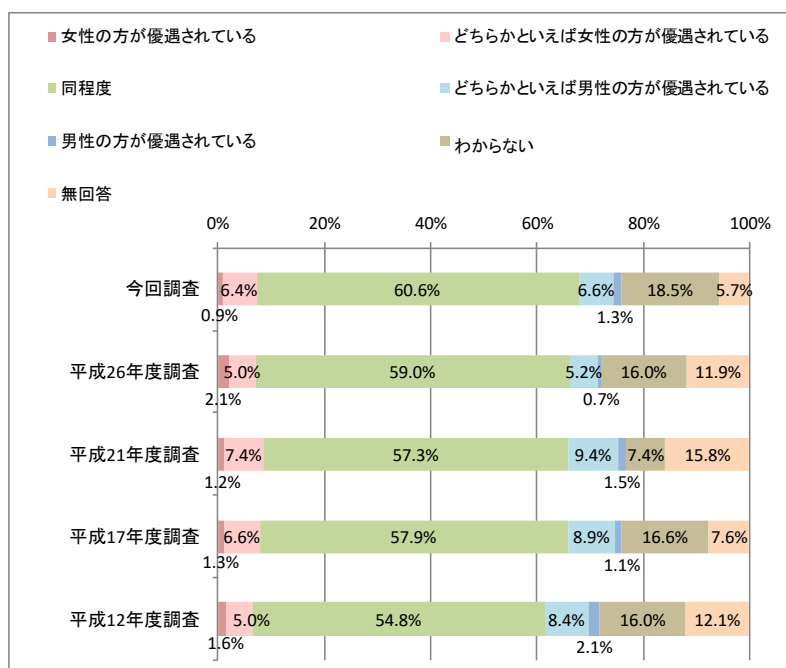
「同程度」は上昇、『男性が優遇されている』は半数を超えている。



区分	回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	
今回調査	合計	454	1.5%	7.9%	21.8%	36.8%	20.3%	7.3%	4.4%
	性別								
	男性	201	2.0%	13.9%	18.9%	38.3%	18.9%	4.5%	3.5%
	女性	252	1.2%	3.2%	24.2%	35.3%	21.4%	9.5%	5.2%
	その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別								
	18-20歳代	42	2.4%	21.4%	11.9%	28.6%	21.4%	14.3%	-
	30歳代	48	2.1%	4.2%	31.3%	35.4%	22.9%	4.2%	-
	40歳代	72	-	8.3%	23.6%	34.7%	20.8%	8.3%	4.2%
50歳代	84	3.6%	9.5%	26.2%	38.1%	17.9%	2.4%	2.4%	
60歳代	90	-	8.9%	21.1%	42.2%	20.0%	6.7%	1.1%	
70歳代	92	2.2%	3.3%	17.4%	37.0%	21.7%	8.7%	9.8%	
80歳代以上	26	-	-	19.2%	34.6%	15.4%	11.5%	19.2%	
平成26年度調査	合計	420	2.4%	6.2%	17.4%	36.0%	21.0%	8.1%	9.0%
	性別								
	男性	184	4.9%	9.8%	23.9%	35.9%	14.1%	6.0%	5.4%
	女性	231	0.4%	3.5%	12.2%	36.5%	26.1%	10.0%	11.3%
	年代別								
	18-20歳代	33	12.1%	3.0%	30.3%	24.2%	24.2%	3.0%	3.0%
	30歳代	66	6.1%	4.5%	21.2%	47.0%	16.7%	3.0%	1.5%
	40歳代	49	2.0%	8.2%	14.3%	36.7%	28.6%	8.2%	2.0%
	50歳代	82	1.2%	14.6%	20.7%	36.6%	17.1%	6.1%	3.7%
60歳代	95	-	5.3%	16.8%	39.7%	26.3%	9.5%	8.4%	
70歳代	64	-	-	9.4%	40.6%	15.6%	12.5%	21.9%	
80歳以上	27	-	3.7%	11.1%	22.2%	14.8%	18.5%	29.6%	
平成21年度調査	合計	405	2.2%	5.9%	14.8%	37.8%	24.7%	4.4%	10.1%
	性別								
	男性	172	2.9%	7.6%	19.8%	38.4%	20.9%	3.5%	7.0%
	女性	232	1.7%	4.3%	11.2%	37.5%	27.6%	5.2%	12.5%
	年代別								
	18-20歳代	40	2.5%	-	20.0%	32.5%	37.5%	7.5%	-
	30歳代	70	2.9%	7.1%	17.1%	32.9%	32.9%	4.3%	2.9%
	40歳代	57	5.3%	3.5%	14.0%	43.9%	28.1%	1.8%	3.5%
	50歳代	84	-	9.5%	17.9%	45.2%	16.7%	6.0%	4.8%
60歳代	88	2.3%	6.8%	15.9%	34.1%	25.0%	4.5%	11.4%	
70歳代	66	1.5%	4.5%	4.5%	36.4%	15.2%	3.0%	34.8%	
平成17年度調査	合計	380	2.6%	8.4%	16.8%	35.8%	22.1%	8.9%	5.3%
	性別								
	男性	168	3.0%	9.5%	14.9%	42.9%	17.3%	7.1%	5.4%
	女性	212	2.4%	7.5%	18.4%	30.2%	25.9%	10.4%	5.2%
	年代別								
	18-20歳代	45	2.2%	8.9%	20.0%	31.1%	26.7%	11.1%	-
	30歳代	53	-	13.2%	15.1%	47.2%	22.6%	1.9%	-
	40歳代	72	1.4%	8.3%	20.8%	36.1%	27.8%	4.2%	1.4%
	50歳代	72	6.9%	11.1%	12.5%	27.8%	27.8%	8.3%	5.6%
60歳代	71	-	5.6%	15.5%	39.4%	16.9%	16.9%	5.6%	
70歳代	66	4.5%	4.5%	18.2%	33.3%	12.1%	10.6%	16.7%	
平成12年度調査	合計	580	3.1%	9.7%	15.3%	30.5%	23.6%	10.7%	7.1%
	性別								
	男性	262	3.8%	11.1%	21.8%	30.9%	19.5%	8.0%	5.0%
	女性	316	2.2%	8.5%	10.1%	30.4%	27.2%	12.7%	8.9%
	年代別								
	18-20歳代	81	1.2%	9.9%	19.8%	30.9%	24.7%	8.6%	4.9%
	30歳代	101	4.0%	12.9%	9.9%	30.7%	27.7%	10.9%	4.0%
	40歳代	123	5.7%	9.8%	21.1%	30.9%	19.5%	7.3%	5.0%
	50歳代	129	1.6%	13.2%	16.3%	28.7%	28.7%	9.3%	2.3%
60歳代	73	2.7%	5.5%	16.4%	32.9%	20.5%	9.6%	12.3%	
70歳代	69	1.4%	2.9%	5.8%	31.9%	17.4%	21.7%	18.8%	

③学校教育の場で（生徒の立場）

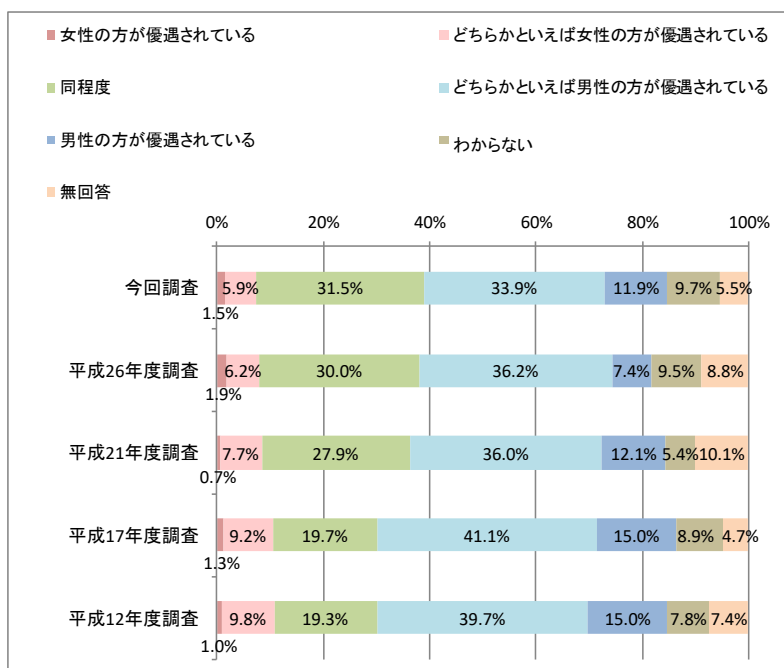
「同程度」6割となっている。経年的に「同程度」が増加する傾向にある。



区分		回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答
今回調査	合計	454	0.9%	6.4%	60.6%	6.6%	1.3%	18.5%	5.7%
	性別								
	男性	201	1.0%	8.5%	64.7%	5.0%	-	15.9%	5.0%
	女性	252	0.8%	4.8%	57.1%	7.9%	2.4%	20.6%	6.3%
	その他	1	-	-	100.0%	-	-	-	-
	年代別								
	18-20歳代	42	-	21.4%	61.9%	4.8%	2.4%	9.5%	-
	30歳代	48	-	4.2%	66.7%	10.4%	2.1%	14.6%	2.1%
40歳代	72	-	6.9%	61.1%	9.7%	2.8%	15.3%	4.2%	
50歳代	84	2.4%	3.6%	75.0%	3.6%	1.2%	11.9%	2.4%	
60歳代	90	-	5.6%	63.3%	5.6%	-	21.1%	4.4%	
70歳代	92	2.2%	3.3%	45.7%	8.7%	1.1%	27.2%	12.0%	
80歳代以上	26	-	7.7%	42.3%	-	-	30.8%	19.2%	
平成26年度調査	合計	420	2.1%	5.0%	59.0%	5.2%	0.7%	16.0%	11.9%
	性別								
	男性	184	3.3%	4.9%	60.9%	4.9%	0.5%	14.1%	11.4%
	女性	231	1.3%	5.2%	58.7%	4.8%	0.9%	17.4%	11.7%
	年代別								
	18-20歳代	33	6.1%	15.2%	72.7%	-	-	6.1%	-
	30歳代	66	3.0%	9.1%	72.7%	4.5%	-	10.6%	-
	40歳代	49	4.1%	2.0%	69.4%	6.1%	-	14.3%	4.1%
50歳代	82	-	4.9%	69.5%	3.7%	-	13.4%	8.5%	
60歳代	95	1.1%	4.2%	48.4%	6.3%	2.1%	23.2%	14.7%	
70歳代	64	3.1%	1.6%	51.6%	4.7%	-	17.2%	21.9%	
80歳以上	27	-	-	22.2%	11.1%	3.7%	22.2%	40.7%	
平成21年度調査	合計	405	1.2%	7.4%	57.3%	9.4%	1.5%	7.4%	15.8%
	性別								
	男性	172	1.7%	11.6%	57.0%	8.1%	-	8.1%	13.4%
	女性	232	0.9%	3.9%	57.8%	10.3%	2.6%	6.9%	17.7%
	年代別								
	18-20歳代	40	-	15.0%	55.0%	7.5%	5.0%	10.0%	7.5%
	30歳代	70	1.4%	5.7%	68.6%	8.6%	2.9%	7.1%	5.7%
	40歳代	57	-	8.8%	68.4%	7.0%	-	8.8%	7.0%
50歳代	84	2.4%	6.0%	65.5%	10.7%	-	2.4%	13.1%	
60歳代	88	2.3%	5.7%	50.0%	10.2%	1.1%	10.2%	20.5%	
70歳代	66	-	7.6%	36.4%	10.6%	1.5%	7.6%	36.4%	
平成17年度調査	合計	380	1.3%	6.6%	57.9%	8.9%	1.1%	16.6%	7.6%
	性別								
	男性	168	2.4%	7.1%	61.3%	6.5%	1.2%	13.7%	7.7%
	女性	212	0.5%	6.1%	55.2%	10.8%	0.9%	18.9%	7.5%
	年代別								
	18-20歳代	45	6.7%	8.9%	57.8%	13.3%	2.2%	8.9%	2.2%
	30歳代	53	-	5.7%	73.6%	5.7%	-	13.2%	1.9%
	40歳代	72	-	6.9%	68.1%	9.7%	-	12.5%	2.8%
50歳代	72	1.4%	4.2%	59.7%	9.7%	-	16.7%	8.3%	
60歳代	71	-	7.0%	50.7%	9.9%	1.4%	22.5%	8.5%	
70歳代	66	1.5%	7.6%	39.4%	6.1%	3.0%	22.7%	19.7%	
平成12年度調査	合計	580	1.6%	5.0%	54.8%	8.4%	2.1%	16.0%	12.1%
	性別								
	男性	262	2.3%	5.0%	56.9%	7.6%	1.5%	15.6%	11.5%
	女性	316	0.6%	5.1%	53.8%	9.2%	2.5%	16.1%	12.7%
	年代別								
	18-20歳代	81	2.5%	7.4%	56.8%	8.6%	4.9%	9.9%	9.9%
	30歳代	101	1.0%	5.0%	63.4%	12.9%	-	13.9%	4.0%
	40歳代	123	2.4%	7.3%	67.5%	4.9%	1.6%	6.5%	9.8%
50歳代	129	1.6%	4.7%	51.2%	10.1%	2.3%	20.2%	10.1%	
60歳代	73	-	2.7%	43.8%	6.8%	4.1%	24.7%	17.8%	
70歳代	69	-	1.4%	37.7%	7.2%	-	26.1%	27.5%	

④地域社会

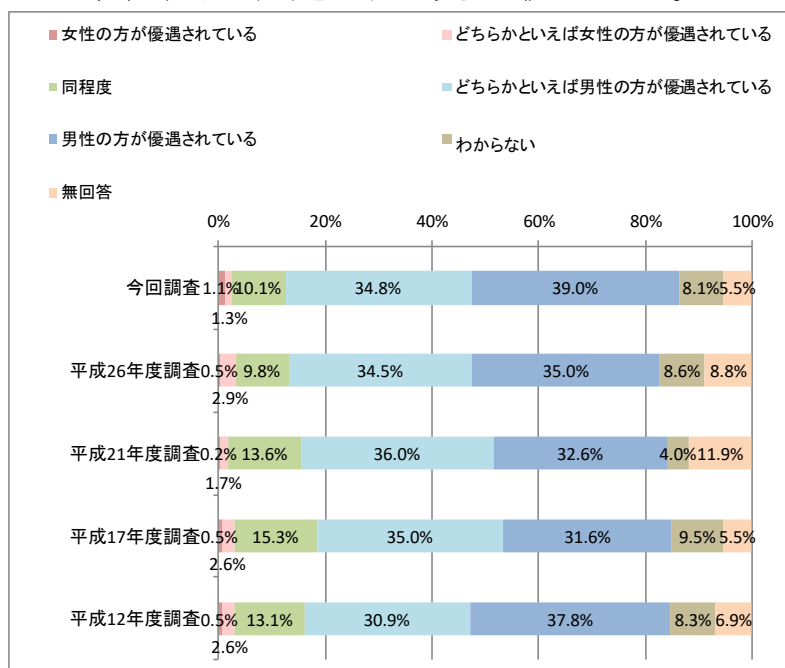
「同程度」の割合が年々上昇し続け3割を超えている。一方、『男性が優遇されている』は45%となっており、前回調査より2ポイント増加している。



区分		回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答
今回調査	合計	454	1.5%	5.9%	31.5%	33.9%	11.9%	9.7%	5.5%
	性別								
	男性	201	2.5%	8.5%	41.8%	29.4%	6.5%	8.0%	3.5%
	女性	252	0.8%	4.0%	23.0%	37.7%	16.3%	11.1%	7.1%
	その他	1	-	-	100.0%	-	-	-	-
	年代別								
	18-20歳代	42	2.4%	9.5%	42.9%	21.4%	7.1%	16.7%	-
	30歳代	48	2.1%	4.2%	43.8%	25.0%	16.7%	8.3%	-
	40歳代	72	2.8%	6.9%	27.8%	38.9%	12.5%	6.9%	4.2%
	50歳代	84	1.2%	7.1%	36.9%	32.1%	9.5%	9.5%	3.6%
60歳代	90	-	3.3%	31.1%	40.0%	13.3%	8.9%	3.3%	
70歳代	92	2.2%	5.4%	19.6%	40.2%	12.0%	8.7%	12.0%	
80歳代以上	26	-	7.7%	26.9%	19.2%	11.5%	15.4%	19.2%	
平成26年度調査	合計	420	1.9%	6.2%	30.0%	36.2%	7.4%	9.5%	8.8%
性別									
男性	184	3.3%	8.7%	35.9%	34.8%	4.3%	7.6%	5.4%	
女性	231	0.9%	4.3%	25.7%	37.4%	9.6%	11.3%	10.9%	
年代別									
18-20歳代	33	-	12.1%	45.5%	21.2%	3.0%	18.2%	-	
30歳代	66	1.5%	12.1%	39.4%	30.3%	6.1%	9.1%	1.5%	
40歳代	49	6.1%	8.2%	22.4%	44.9%	6.1%	12.2%	-	
50歳代	82	3.7%	4.9%	34.1%	36.6%	6.1%	11.0%	3.7%	
60歳代	95	0.0%	3.2%	26.3%	42.1%	12.6%	5.3%	10.5%	
70歳代	64	0.0%	1.6%	23.4%	42.2%	6.3%	9.4%	17.2%	
80歳代以上	27	3.7%	7.4%	22.2%	18.5%	3.7%	7.4%	37.0%	
平成21年度調査	合計	405	0.7%	7.7%	27.9%	36.0%	12.1%	5.4%	10.1%
性別									
男性	172	1.7%	12.8%	33.7%	32.6%	8.7%	4.1%	6.4%	
女性	232	-	3.4%	23.7%	38.8%	14.7%	6.5%	12.9%	
年代別									
18-20歳代	40	-	10.0%	42.5%	20.0%	15.0%	10.0%	2.5%	
30歳代	70	2.9%	12.9%	25.7%	34.3%	14.3%	8.6%	1.4%	
40歳代	57	-	5.3%	29.8%	45.6%	7.0%	8.8%	3.5%	
50歳代	84	1.2%	7.1%	36.9%	38.1%	9.5%	1.2%	6.0%	
60歳代	88	-	6.8%	21.6%	37.5%	14.8%	4.5%	14.8%	
70歳代	66	-	4.5%	16.7%	34.8%	12.1%	3.0%	28.8%	
平成17年度調査	合計	380	1.3%	9.2%	19.7%	41.1%	15.0%	8.9%	4.7%
性別									
男性	168	1.8%	8.9%	29.8%	39.9%	7.7%	6.0%	6.0%	
女性	212	0.9%	9.4%	11.8%	42.0%	20.8%	11.3%	3.8%	
年代別									
18-20歳代	45	-	8.9%	20.0%	28.9%	20.0%	20.0%	2.2%	
30歳代	53	-	18.9%	20.8%	35.8%	9.4%	11.3%	3.8%	
40歳代	72	-	4.2%	20.8%	54.2%	15.3%	4.2%	1.4%	
50歳代	72	2.8%	6.9%	9.7%	48.6%	18.1%	9.7%	4.2%	
60歳代	71	2.8%	8.5%	21.1%	46.5%	11.3%	5.6%	4.2%	
70歳代	66	1.5%	10.6%	27.3%	24.2%	16.7%	7.6%	12.1%	
平成12年度調査	合計	580	1.0%	9.8%	19.3%	39.7%	15.0%	7.8%	7.4%
性別									
男性	262	1.5%	11.8%	26.7%	37.4%	10.3%	6.5%	5.7%	
女性	316	0.3%	8.2%	13.3%	41.5%	19.0%	8.9%	8.9%	
年代別									
18-20歳代	81	2.5%	7.4%	25.9%	38.3%	14.8%	7.4%	3.7%	
30歳代	101	1.0%	9.9%	18.8%	40.6%	14.9%	8.9%	5.9%	
40歳代	123	0.8%	17.9%	13.0%	42.3%	13.8%	8.1%	4.1%	
50歳代	129	0.8%	8.5%	21.7%	41.1%	19.4%	4.7%	3.9%	
60歳代	73	-	6.8%	19.2%	41.1%	17.8%	4.1%	11.0%	
70歳代	69	-	4.3%	20.3%	31.9%	5.8%	15.9%	21.7%	

⑤政治の場

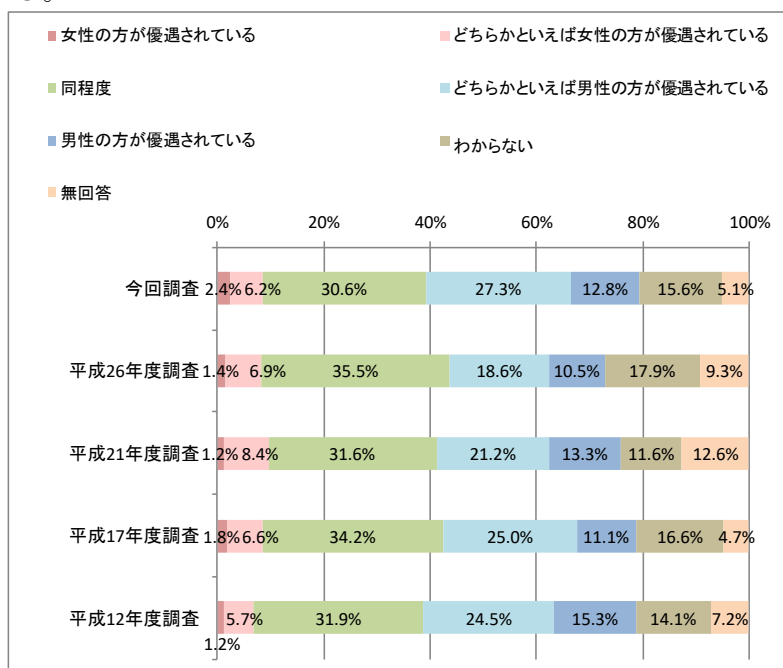
『男性が優遇されている』が74%と、前回調査から4ポイント増加している。他の項目に比べて、経年的に平等感の低い状況が続いている。



区分		回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答
今回調査	合計	454	1.1%	1.3%	10.1%	34.8%	39.0%	8.1%	5.5%
	性別								
	男性	201	1.5%	2.0%	16.9%	35.8%	32.3%	7.0%	4.5%
	女性	252	0.8%	0.8%	4.8%	34.1%	44.0%	9.1%	6.3%
	その他	1	-	-	-	-	100.0%	-	-
	年代別								
	18-20歳代	42	2.4%	2.4%	11.9%	23.8%	45.2%	14.3%	-
	30歳代	48	-	-	14.6%	31.3%	45.8%	8.3%	-
	40歳代	72	1.4%	1.4%	9.7%	37.5%	41.7%	4.2%	4.2%
	50歳代	84	1.2%	-	14.3%	40.5%	36.9%	4.8%	2.4%
60歳代	90	-	2.2%	8.9%	34.4%	44.4%	6.7%	3.3%	
70歳代	92	2.2%	2.2%	7.6%	33.7%	33.7%	8.7%	12.0%	
80歳代以上	26	-	-	-	38.5%	15.4%	23.1%	23.1%	
平成26年度調査	合計	420	0.5%	2.9%	9.8%	34.5%	35.0%	8.6%	8.8%
	性別								
	男性	184	0.5%	4.3%	17.4%	33.2%	32.6%	6.5%	5.4%
	女性	231	0.4%	1.7%	3.9%	35.7%	37.0%	10.4%	10.9%
	年代別								
	18-20歳代	33	-	6.1%	9.1%	21.2%	48.5%	12.1%	3.0%
	30歳代	66	-	6.1%	10.6%	30.3%	50.0%	1.5%	1.5%
	40歳代	49	2.0%	2.0%	8.2%	46.9%	32.7%	6.1%	2.0%
	50歳代	82	-	6.1%	8.5%	36.6%	36.6%	8.5%	3.7%
	60歳代	95	1.1%	-	8.4%	37.9%	35.8%	9.5%	7.4%
70歳代	64	-	-	12.5%	39.1%	18.8%	10.9%	18.8%	
80歳代以上	27	-	-	14.8%	14.8%	14.8%	18.5%	37.0%	
平成21年度調査	合計	405	0.2%	1.7%	13.6%	36.0%	32.6%	4.0%	11.9%
	性別								
	男性	172	0.6%	2.9%	22.1%	40.1%	22.1%	2.3%	9.9%
	女性	232	-	0.9%	6.9%	33.2%	40.5%	5.2%	13.4%
	年代別								
	18-20歳代	40	-	-	7.5%	30.0%	50.0%	10.0%	2.5%
	30歳代	70	1.4%	1.4%	11.4%	34.3%	42.9%	5.7%	2.9%
	40歳代	57	-	1.8%	17.5%	50.9%	26.3%	-	3.5%
	50歳代	84	-	2.4%	15.5%	39.3%	33.3%	3.6%	6.0%
	60歳代	88	-	3.4%	14.8%	36.4%	23.9%	3.4%	18.2%
70歳代	66	-	-	12.1%	24.2%	27.3%	3.0%	33.3%	
平成17年度調査	合計	380	0.5%	2.6%	15.3%	35.0%	31.6%	9.5%	5.5%
	性別								
	男性	168	0.6%	3.6%	20.2%	36.3%	25.6%	6.5%	7.1%
	女性	212	0.5%	1.9%	11.3%	34.0%	36.3%	11.8%	4.2%
	年代別								
	18-20歳代	45	-	2.2%	-	33.3%	46.7%	13.3%	4.4%
	30歳代	53	-	1.9%	20.8%	37.7%	34.0%	5.7%	-
	40歳代	72	-	1.4%	13.9%	47.2%	33.3%	2.8%	1.4%
	50歳代	72	1.4%	5.6%	12.5%	30.6%	34.7%	9.7%	5.6%
	60歳代	71	-	2.8%	16.9%	38.0%	22.5%	15.5%	4.2%
70歳代	66	1.5%	1.5%	24.2%	22.7%	22.7%	10.6%	16.7%	
平成12年度調査	合計	580	0.5%	2.6%	13.1%	30.9%	37.8%	8.3%	6.9%
	性別								
	男性	262	0.8%	3.1%	19.8%	32.4%	31.7%	6.9%	5.3%
	女性	316	-	2.2%	7.6%	29.7%	42.7%	9.5%	8.2%
	年代別								
	18-20歳代	81	-	1.2%	12.3%	42.0%	34.6%	4.9%	4.9%
	30歳代	101	-	5.0%	7.9%	31.7%	47.5%	5.0%	3.0%
	40歳代	123	0.8%	4.1%	12.2%	30.9%	42.3%	6.5%	3.3%
50歳代	129	-	1.6%	14.0%	30.2%	38.0%	10.9%	5.4%	
60歳代	73	-	1.4%	16.4%	27.4%	37.0%	8.2%	9.6%	
70歳代	69	1.4%	1.4%	18.8%	23.2%	18.8%	15.9%	20.3%	

⑥法律、制度上

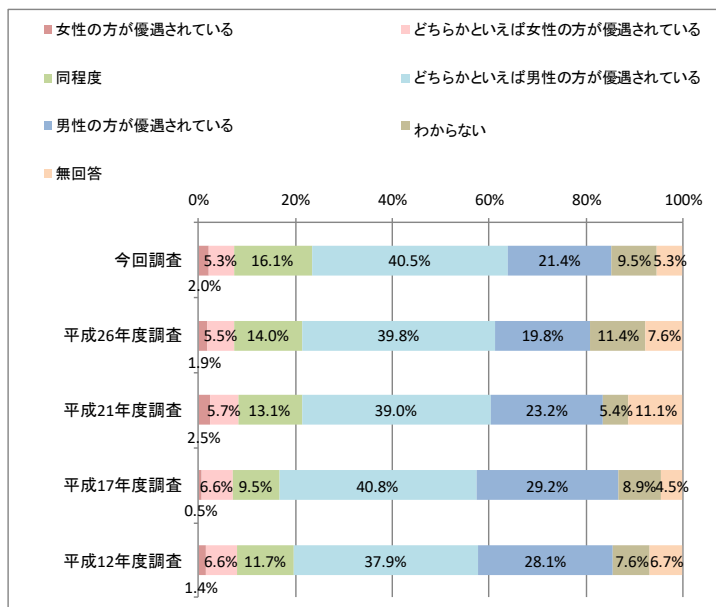
前回調査に比べて「同程度」が5ポイント減少し、『男性が優遇されている』が11ポイント増加している。



区分	回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	
今回調査	合計	454	2.4%	6.2%	30.6%	27.3%	12.8%	15.6%	5.1%
	性別								
	男性	201	3.5%	9.0%	40.8%	23.9%	7.0%	10.9%	5.0%
	女性	252	1.6%	4.0%	22.6%	30.2%	17.1%	19.4%	5.2%
	その他	1	-	-	-	-	100.0%	-	-
	年代別								
	18-20歳代	42	2.4%	9.5%	31.0%	21.4%	9.5%	23.8%	2.4%
	30歳代	48	4.2%	8.3%	29.2%	37.5%	10.4%	10.4%	-
	40歳代	72	4.2%	5.6%	29.2%	25.0%	18.1%	13.9%	4.2%
	50歳代	84	3.6%	4.8%	38.1%	27.4%	11.9%	10.7%	3.6%
60歳代	90	1.1%	5.6%	33.3%	31.1%	16.7%	10.0%	2.2%	
70歳代	92	1.1%	6.5%	27.2%	26.1%	7.6%	20.7%	10.9%	
80歳代以上	26	-	3.8%	15.4%	15.4%	15.4%	34.6%	15.4%	
平成26年度調査	合計	420	1.4%	6.9%	35.5%	18.6%	10.5%	17.9%	9.3%
	性別								
	男性	184	2.7%	7.6%	44.0%	15.8%	7.1%	16.3%	6.5%
	女性	231	0.4%	6.5%	29.1%	20.4%	13.0%	19.6%	10.9%
	年代別								
	18-20歳代	33	12.1%	12.1%	36.4%	6.1%	12.1%	18.2%	3.0%
	30歳代	66	-	18.2%	31.8%	21.2%	9.1%	18.2%	1.5%
	40歳代	49	2.0%	6.1%	34.7%	30.6%	4.1%	20.4%	2.0%
	50歳代	82	1.2%	6.1%	46.3%	17.1%	11.0%	14.6%	3.7%
	60歳代	95	-	2.1%	37.9%	20.0%	13.7%	18.9%	7.4%
70歳代	64	-	3.1%	29.7%	17.2%	7.8%	20.3%	21.9%	
80歳以上	27	-	3.7%	22.2%	7.4%	14.8%	14.8%	37.0%	
平成21年度調査	合計	405	1.2%	8.4%	31.6%	21.2%	13.3%	11.6%	12.6%
	性別								
	男性	172	2.3%	12.8%	38.4%	20.3%	5.8%	11.0%	9.3%
	女性	232	0.4%	4.7%	26.7%	22.0%	19.0%	12.1%	15.1%
	年代別								
	18-20歳代	40	-	15.0%	25.0%	30.0%	15.0%	10.0%	5.0%
	30歳代	70	4.3%	10.0%	21.4%	21.4%	25.7%	15.7%	1.4%
	40歳代	57	1.8%	10.5%	36.8%	22.8%	10.5%	15.8%	1.8%
	50歳代	84	1.2%	10.7%	34.5%	36.2%	11.9%	7.1%	8.3%
	60歳代	88	-	4.5%	37.5%	19.3%	8.0%	11.4%	19.3%
70歳代	66	-	3.0%	30.3%	10.6%	10.6%	10.6%	34.8%	
平成17年度調査	合計	380	1.8%	6.6%	34.2%	25.0%	11.1%	16.6%	4.7%
	性別								
	男性	168	3.0%	8.3%	41.7%	23.2%	6.5%	11.3%	6.0%
	女性	212	0.9%	5.2%	28.3%	26.4%	14.6%	20.8%	3.8%
	年代別								
	18-20歳代	45	2.2%	17.8%	15.6%	24.4%	8.9%	31.1%	-
	30歳代	53	5.7%	3.8%	41.5%	28.3%	7.5%	13.2%	-
	40歳代	72	-	8.3%	34.7%	36.1%	11.1%	8.3%	1.4%
	50歳代	72	2.8%	5.6%	33.3%	23.6%	15.3%	13.9%	5.6%
	60歳代	71	-	2.8%	39.4%	22.5%	7.0%	23.9%	4.2%
70歳代	66	1.5%	4.5%	36.4%	13.6%	15.2%	13.6%	15.2%	
平成12年度調査	合計	580	1.2%	5.7%	31.9%	24.5%	15.3%	14.1%	7.2%
	性別								
	男性	262	1.5%	8.0%	43.9%	21.0%	8.8%	11.5%	5.3%
	女性	316	0.6%	3.5%	22.2%	27.5%	20.9%	16.5%	8.9%
	年代別								
	18-20歳代	81	2.5%	4.9%	30.9%	27.2%	13.6%	14.8%	6.2%
	30歳代	101	-	6.9%	27.7%	27.7%	20.8%	11.9%	5.0%
	40歳代	123	2.4%	9.8%	32.5%	26.0%	17.9%	7.3%	4.1%
	50歳代	129	-	3.9%	31.0%	28.7%	15.5%	16.3%	4.7%
	60歳代	73	-	2.7%	41.1%	20.5%	9.6%	15.1%	11.0%
70歳代	69	1.4%	2.9%	31.9%	11.6%	10.1%	24.6%	17.4%	

⑦社会通念、風潮

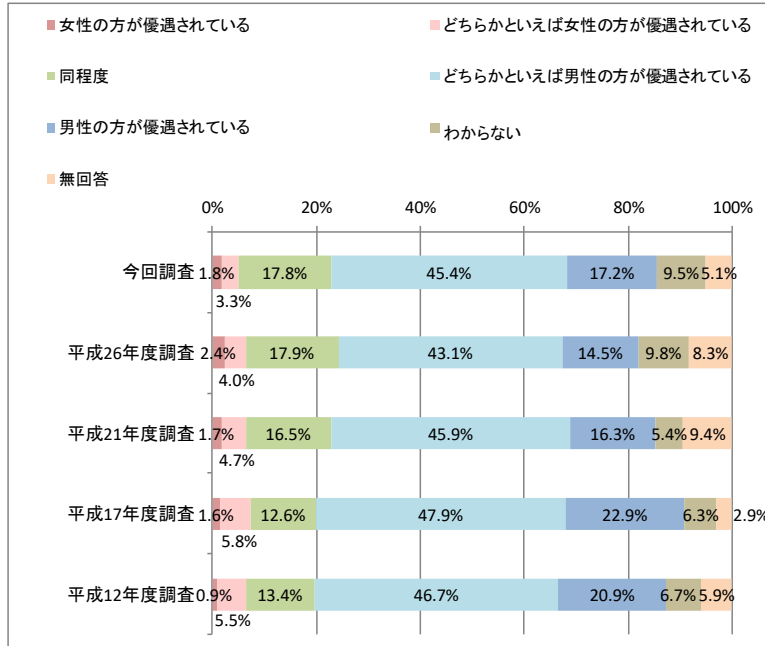
「同程度」がやや上昇しているものの、経年的に平等感が低い項目で、男性の優遇感が継続して高い状況となっている。



区分	回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答
今回調査	合計	454	2.0%	5.3%	16.1%	40.5%	21.4%	9.5%
	性別							
	男性	201	2.5%	9.0%	23.4%	36.3%	17.4%	7.5%
	女性	252	1.6%	2.4%	10.3%	43.7%	24.6%	11.1%
	その他	1	-	-	-	100.0%	-	-
	年代別							
	18-20歳代	42	2.4%	14.3%	9.5%	40.5%	11.9%	19.0%
	30歳代	48	-	8.3%	16.7%	41.7%	20.8%	12.5%
	40歳代	72	2.8%	4.2%	19.4%	37.5%	22.2%	8.3%
	50歳代	84	2.4%	2.4%	21.4%	41.7%	26.2%	3.6%
60歳代	90	1.1%	3.3%	15.6%	44.4%	25.6%	5.6%	
70歳代	92	3.3%	5.4%	14.1%	37.0%	18.5%	12.0%	
80歳代以上	26	-	3.8%	7.7%	42.3%	15.4%	15.4%	
平成26年度調査	合計	420	1.9%	5.5%	14.0%	39.8%	19.8%	11.4%
	性別							
	男性	184	2.7%	6.5%	19.6%	39.7%	15.2%	12.0%
	女性	231	1.3%	4.8%	9.6%	40.4%	23.0%	11.3%
	年代別							
	18-20歳代	33	9.1%	9.1%	18.2%	27.3%	21.2%	15.2%
	30歳代	66	3.0%	9.1%	19.7%	31.8%	24.2%	10.6%
	40歳代	49	2.0%	6.1%	8.2%	49.0%	22.4%	12.2%
	50歳代	82	1.2%	8.5%	15.9%	43.9%	17.1%	9.8%
	60歳代	95	-	2.1%	14.7%	44.2%	21.1%	10.5%
70歳代	64	-	3.1%	6.3%	46.9%	12.5%	12.5%	
80歳以上	27	3.7%	-	18.5%	18.5%	18.5%	25.9%	
平成21年度調査	合計	405	2.5%	5.7%	13.1%	39.0%	23.2%	5.4%
	性別							
	男性	172	4.1%	8.1%	15.7%	47.1%	13.4%	4.1%
	女性	232	1.3%	3.4%	11.2%	33.2%	30.6%	6.5%
	年代別							
	18-20歳代	40	2.5%	7.5%	20.0%	27.5%	32.5%	7.5%
	30歳代	70	7.1%	5.7%	11.4%	30.0%	34.3%	10.0%
	40歳代	57	-	7.0%	8.8%	57.9%	17.5%	5.3%
	50歳代	84	4.8%	2.4%	15.5%	45.2%	20.2%	4.8%
	60歳代	88	-	8.0%	13.6%	39.8%	18.2%	3.4%
70歳代	66	-	4.5%	10.6%	30.3%	21.2%	3.0%	
平成17年度調査	合計	380	0.5%	6.6%	9.5%	40.8%	29.2%	8.9%
	性別							
	男性	168	0.6%	8.9%	11.3%	43.5%	23.8%	6.0%
	女性	212	0.5%	4.7%	8.0%	38.7%	33.5%	11.3%
	年代別							
	18-20歳代	45	2.2%	11.1%	8.9%	26.7%	28.9%	20.0%
	30歳代	53	-	7.5%	11.3%	37.7%	35.8%	7.5%
	40歳代	72	-	4.2%	9.7%	50.0%	31.9%	2.8%
	50歳代	72	-	8.3%	5.6%	43.1%	29.2%	8.3%
	60歳代	71	-	4.2%	5.6%	53.5%	22.5%	11.3%
70歳代	66	1.5%	6.1%	16.7%	27.3%	27.3%	7.6%	
平成12年度調査	合計	580	1.4%	6.6%	11.7%	37.9%	28.1%	7.6%
	性別							
	男性	262	1.9%	8.8%	15.3%	41.6%	21.4%	6.1%
	女性	316	0.6%	4.7%	8.9%	35.1%	33.5%	8.9%
	年代別							
	18-20歳代	81	2.5%	7.4%	8.6%	38.3%	30.9%	8.6%
	30歳代	101	-	13.9%	10.9%	34.7%	31.7%	4.0%
	40歳代	123	1.6%	7.3%	8.9%	42.3%	31.7%	4.1%
	50歳代	129	0.8%	4.7%	10.1%	42.6%	32.6%	4.7%
	60歳代	73	2.7%	1.4%	20.5%	35.6%	16.4%	12.3%
70歳代	69	-	2.9%	15.9%	30.4%	15.9%	18.8%	

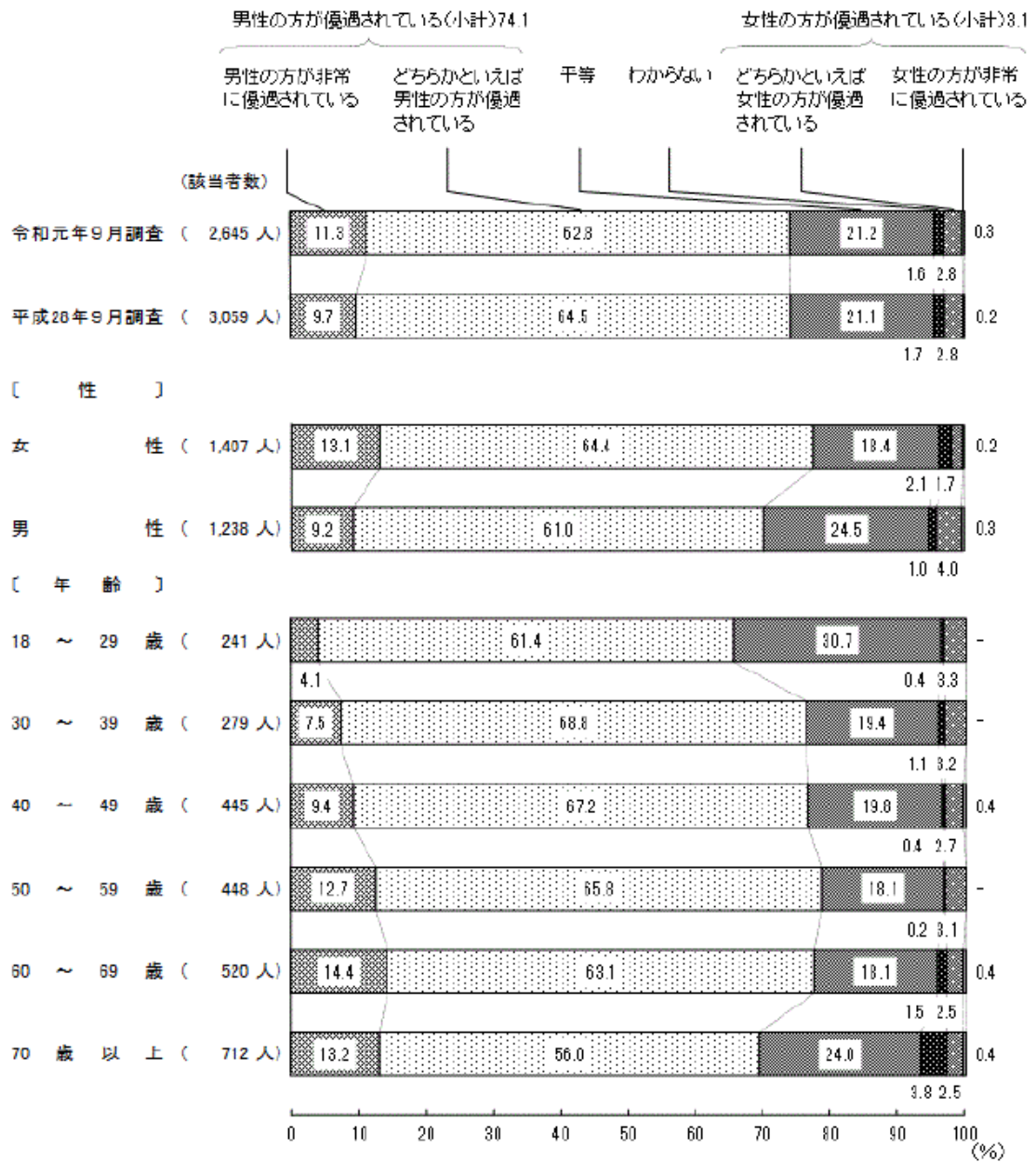
⑧全体的

「同程度」の割合は緩やかに上昇しているものの2割未満であり、『男性が優遇されている』は6割を超えている。国調査結果（R1）と比べると、「平等（同程度）」の割合が低く、やや女性の優遇度が高い状況となっている。



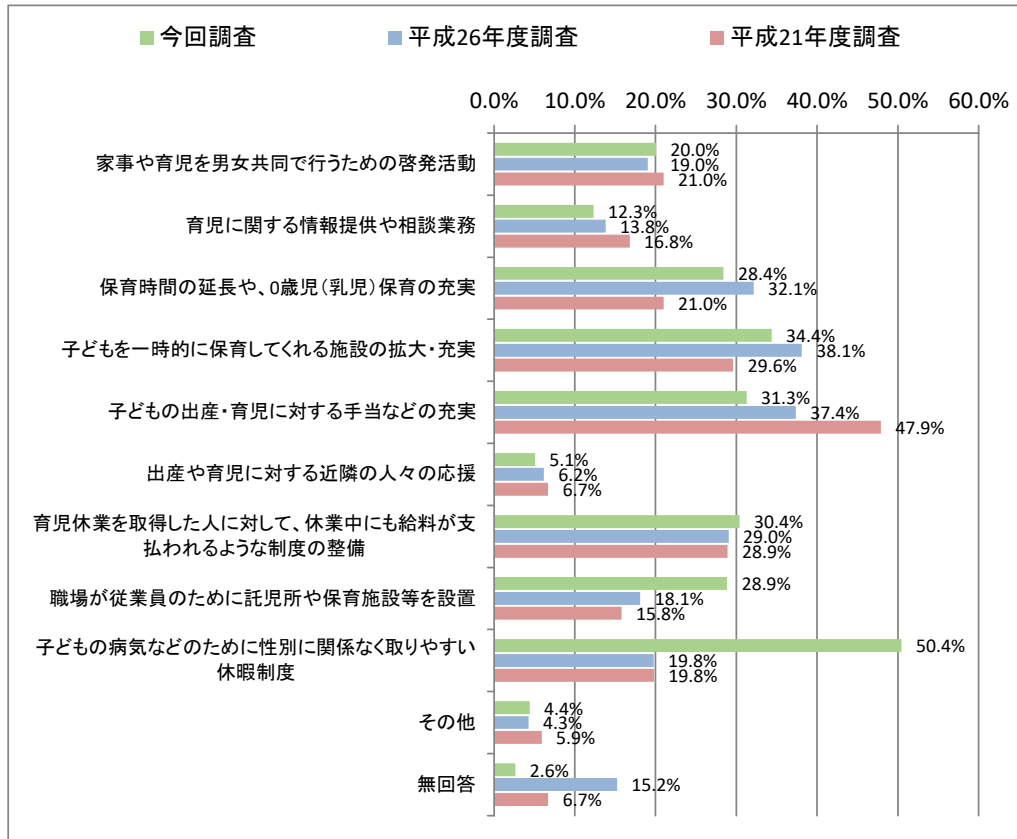
区分	回答者数	女性の方が優遇されている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	同程度	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている	わからない	無回答	
今回調査	合計	454	1.8%	3.3%	17.8%	45.4%	17.2%	9.5%	5.1%
	性別								
	男性	201	2.0%	5.5%	25.9%	43.3%	12.9%	6.5%	4.0%
	女性	252	1.6%	1.6%	11.5%	46.8%	20.6%	11.9%	6.0%
	その他	1	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別								
	18-20歳代	42	-	9.5%	26.2%	33.3%	9.5%	19.0%	2.4%
	30歳代	48	-	4.2%	20.8%	41.7%	18.8%	14.6%	-
	40歳代	72	1.4%	5.6%	15.3%	50.0%	12.5%	9.7%	5.6%
50歳代	84	3.6%	2.4%	19.0%	54.8%	15.5%	2.4%	2.4%	
60歳代	90	1.1%	-	21.1%	45.6%	22.2%	6.7%	3.3%	
70歳代	92	3.3%	2.2%	13.0%	42.4%	19.6%	9.8%	9.8%	
80歳代以上	26	-	3.8%	7.7%	38.5%	19.2%	15.4%	15.4%	
平成26年度調査	合計	420	2.4%	4.0%	17.9%	43.1%	14.5%	9.8%	8.3%
	性別								
	男性	184	3.3%	6.0%	22.8%	41.8%	10.3%	9.2%	6.5%
	女性	231	1.7%	2.6%	13.9%	44.3%	17.8%	10.4%	9.1%
	年代別								
	18-20歳代	33	6.1%	15.2%	15.2%	27.3%	18.2%	18.2%	-
	30歳代	66	3.0%	6.1%	24.2%	53.0%	7.6%	4.5%	1.5%
	40歳代	49	4.1%	2.0%	12.2%	44.9%	18.4%	16.3%	2.0%
	50歳代	82	2.4%	4.9%	19.5%	50.0%	11.0%	7.3%	4.9%
60歳代	95	-	2.1%	18.9%	45.3%	20.0%	6.3%	7.4%	
70歳代	64	1.6%	1.6%	12.5%	40.6%	12.5%	12.5%	18.8%	
80歳以上	27	3.7%	-	22.2%	14.8%	14.8%	14.8%	29.6%	
平成21年度調査	合計	405	1.7%	4.7%	16.5%	45.9%	16.3%	5.4%	9.4%
	性別								
	男性	172	1.2%	7.6%	23.8%	50.0%	7.6%	3.5%	6.4%
	女性	232	2.2%	2.2%	11.2%	43.1%	22.8%	6.9%	11.6%
	年代別								
	18-20歳代	40	-	2.5%	22.5%	55.0%	12.5%	7.5%	-
	30歳代	70	4.3%	7.1%	15.7%	41.4%	25.7%	5.7%	-
	40歳代	57	-	3.5%	15.8%	57.9%	14.0%	5.3%	3.5%
	50歳代	84	1.2%	3.6%	20.2%	44.0%	17.9%	6.0%	7.1%
60歳代	88	2.3%	8.0%	11.4%	46.6%	12.5%	5.7%	13.6%	
70歳代	66	1.5%	1.5%	16.7%	36.4%	13.6%	3.0%	27.3%	
平成17年度調査	合計	380	1.6%	5.8%	12.6%	47.9%	22.9%	6.3%	2.9%
	性別								
	男性	168	3.0%	7.1%	15.5%	50.0%	15.5%	5.4%	3.6%
	女性	212	0.5%	4.7%	10.4%	46.2%	28.8%	7.1%	2.4%
	年代別								
	18-20歳代	45	-	6.7%	17.8%	40.0%	26.7%	8.9%	-
	30歳代	53	1.9%	5.7%	17.0%	50.9%	18.9%	5.7%	-
	40歳代	72	1.4%	4.2%	6.9%	63.9%	19.4%	2.8%	1.4%
	50歳代	72	1.4%	9.7%	4.2%	48.6%	26.4%	8.3%	1.4%
60歳代	71	-	5.6%	11.3%	59.2%	15.5%	7.0%	1.4%	
70歳代	66	4.5%	3.0%	22.7%	19.7%	31.8%	6.1%	12.1%	
平成12年度調査	合計	580	0.9%	5.5%	13.4%	46.7%	20.9%	6.7%	5.9%
	性別								
	男性	262	1.1%	8.4%	17.9%	45.8%	17.2%	5.3%	4.2%
	女性	316	0.3%	3.2%	9.8%	47.5%	24.1%	7.9%	7.3%
	年代別								
	18-20歳代	81	1.2%	4.9%	14.8%	50.6%	17.3%	8.6%	2.5%
	30歳代	101	1.0%	9.9%	16.8%	43.6%	18.8%	5.9%	4.0%
	40歳代	123	0.8%	8.9%	13.8%	49.6%	21.1%	2.4%	3.3%
	50歳代	129	-	4.7%	7.8%	50.4%	27.1%	6.2%	3.9%
60歳代	73	1.4%	1.4%	19.2%	41.1%	19.2%	5.5%	12.3%	
70歳代	69	-	-	11.6%	42.0%	17.4%	15.9%	13.0%	

※参考（R1国調査結果より）：「社会全体でみた男女の地位の平等感」



(3) 出産・育児がしやすい環境づくりに必要なこと

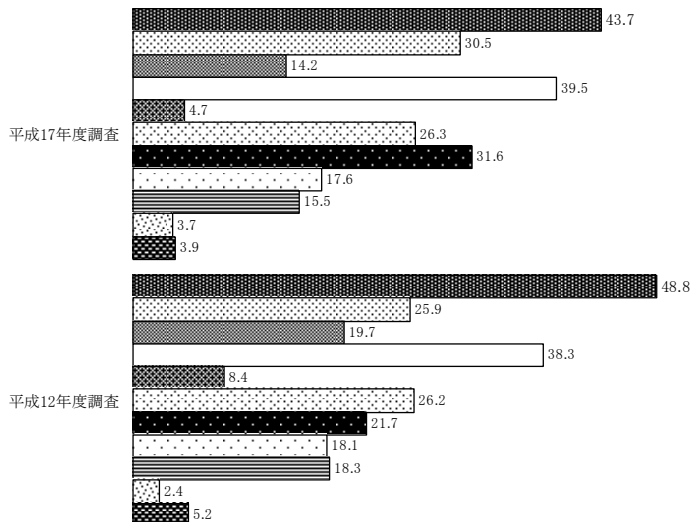
前回調査に比べて、特に「子どもの病気などのために性別に関係なく取りやすい休暇制度」と「職場が従業員のために託児所や保育施設等を設置」の回答割合が上昇している。



【参考】
 ※平成17年以前は
 選択肢が異なる

子どもを生み育てやすい環境づくりに必要なこと

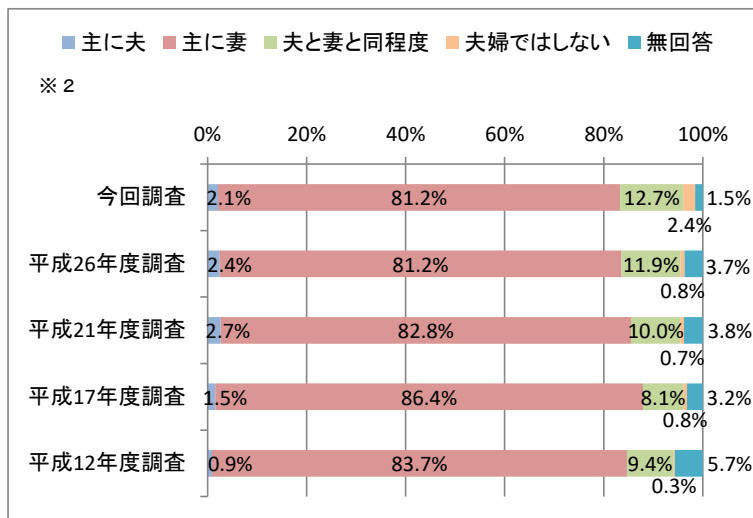
- 家事や育児についても、男女が共同で取り組むことの大切さと必要性について社会全体の意識の改革をはかる啓発活動の活発化
- 育児休業を取得した人に対して、休業中にも給料が支払われるような制度の整備
- 企業が内部に保育施設を設置すること
- 親の働く時間に対応できるような保育時間の延長や、産休明けに利用できる0歳児(乳児)保育の充実
- ボランティア活動や生涯学習への参加活動、冠婚葬祭などの時に子どもを一時的に保育してくれる施設の拡大・充実
- 保育所に子どもを預けたい人の希望がかなえられやすいようにすること
- 子どもの出産・育児に対する手当などの充実
- 育児について気軽に相談できる機関と場所の拡大と人的ネットワークの整備や情報の提供
- 出産や育児の素晴らしいことや楽しさ、親となることの意義や生きがいについて社会へ十分アピールすること
- その他
- 無回答



(4) 家庭生活での夫婦の分担（既婚者・実情）

① 炊事・掃除・洗濯^{※1}

「主に夫」よりも「主に妻」が大きく上回る傾向に大きな変化はみられないが、経年的に「同程度」の割合が上昇していることがうかがえる。



※1

前回までの調査は、炊事、掃除、洗濯を個別に設問していたが、今回調査から3つをまとめた設問に変わった。経年比較をするにあたり、これまでの回答結果をまとめて平均化したものを、左記図表で示している。

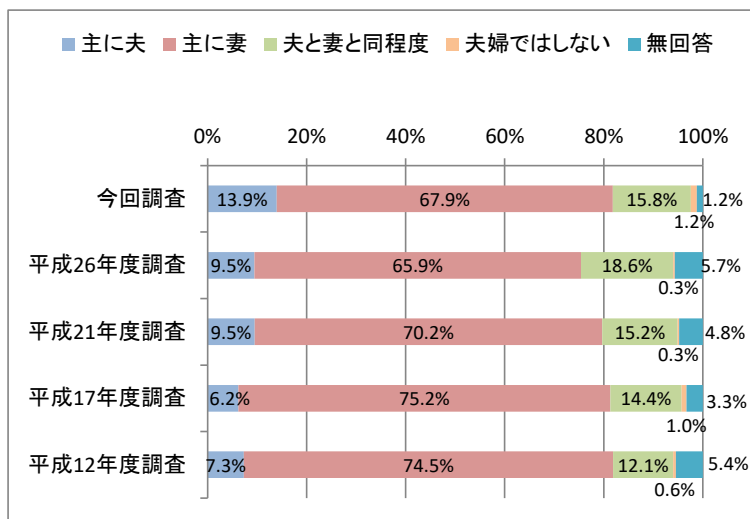
区分	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答		
今回調査	合計	2.1%	81.2%	12.7%	2.4%	1.5%	
	性別	男性	3.2%	79.1%	13.9%	3.2%	0.6%
		女性	1.2%	83.1%	11.6%	1.7%	2.3%
		その他	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	-	37.5%	25.0%	37.5%	-
		30歳代	-	75.0%	22.2%	-	2.8%
		40歳代	-	87.7%	10.5%	1.8%	-
		50歳代	-	85.5%	11.6%	1.4%	1.4%
		60歳代	-	82.1%	15.4%	-	2.6%
70歳代		8.6%	78.6%	7.1%	4.3%	1.4%	
80歳以上		8.3%	83.3%	8.3%	-	-	
平成26年度調査	合計	2.4%	81.2%	11.9%	0.8%	3.7%	
	性別	男性	2.7%	67.0%	24.8%	-	5.4%
		女性	1.6%	76.7%	11.9%	1.2%	8.7%
	年代別	18-20歳代	3.0%	60.6%	36.4%	-	-
		30歳代	1.5%	74.7%	17.2%	-	6.6%
		40歳代	3.4%	71.4%	19.0%	2.0%	4.1%
		50歳代	2.0%	82.9%	12.2%	-	2.8%
		60歳代	0.7%	73.7%	17.5%	1.4%	6.7%
		70歳代	4.2%	70.8%	13.6%	-	11.4%
80歳以上	-	48.2%	18.5%	1.2%	32.1%		
平成21年度調査	合計	2.7%	82.8%	10.0%	0.7%	3.8%	
	性別	男性	3.4%	83.6%	10.4%	-	2.7%
		女性	2.1%	82.2%	9.7%	1.3%	4.7%
	年代別	18-20歳代	5.5%	83.3%	11.1%	-	-
		30歳代	1.3%	86.0%	11.1%	-	2.0%
		40歳代	1.5%	93.2%	5.3%	-	-
		50歳代	3.5%	85.1%	7.5%	1.3%	2.6%
		60歳代	-	84.4%	10.8%	-	4.8%
	70歳代	6.7%	66.7%	14.5%	2.4%	9.7%	
平成17年度調査	合計	1.5%	86.4%	8.1%	0.8%	3.2%	
	性別	男性	2.4%	82.3%	11.3%	1.0%	2.9%
		女性	0.8%	89.6%	5.7%	0.6%	3.3%
	年代別	18-20歳代	-	90.0%	10.0%	-	-
		30歳代	-	90.8%	9.2%	-	-
		40歳代	1.0%	90.9%	8.1%	-	-
		50歳代	2.1%	83.1%	7.9%	3.7%	3.2%
60歳代		2.1%	88.6%	8.4%	-	1.1%	
70歳代	2.1%	79.0%	7.5%	-	11.3%		
平成12年度調査	合計	0.9%	83.7%	9.4%	0.3%	5.7%	
	性別	男性	1.4%	79.2%	12.6%	0.2%	6.6%
		女性	0.5%	87.3%	6.9%	0.4%	4.9%
	年代別	18-20歳代	-	90.1%	9.9%	-	-
		30歳代	1.3%	89.1%	9.3%	-	-
		40歳代	0.9%	89.5%	5.6%	0.9%	3.2%
		50歳代	0.8%	86.0%	10.7%	-	2.5%
60歳代		0.5%	77.3%	14.8%	-	7.4%	
70歳代	1.5%	68.2%	7.7%	0.5%	22.1%		

※2

経年比較をするにあたり、前回調査の「夫が中心」を「主に夫」に、「妻が中心」を「主に妻」に、今回調査の「他の家族が中心」と「該当なし」を「夫婦ではない」に、それぞれ読み替える。以下、②～⑨も同様である。

②家計のやりくり（生活費の管理）

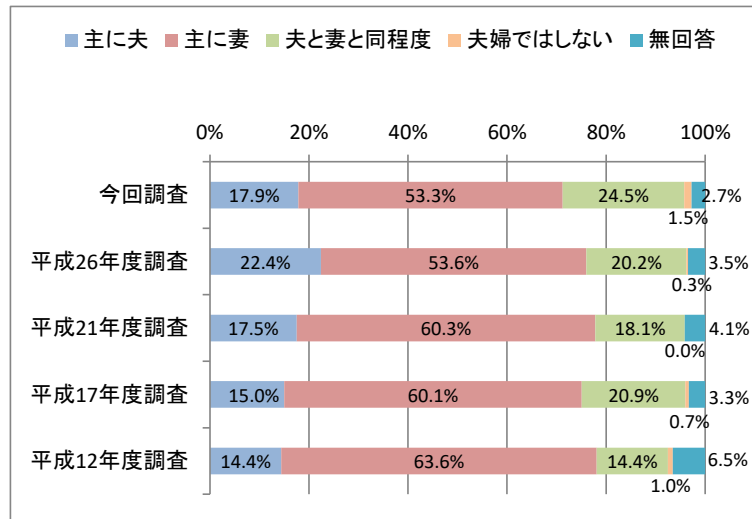
「主に夫」の割合が増加したが、以前として「主に妻」が7割近くを占めている。



区分	回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではしない	無回答		
今回調査	合計	330	13.9%	67.9%	15.8%	1.2%	1.2%	
	性別	男性	158	20.9%	63.3%	14.6%	1.3%	-
		女性	172	7.6%	72.1%	16.9%	1.2%	2.3%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%	-
		30歳代	36	16.7%	52.8%	27.8%	-	2.8%
		40歳代	57	14.0%	64.9%	19.3%	-	1.8%
		50歳代	69	13.0%	60.9%	24.6%	-	1.4%
		60歳代	78	14.1%	51.3%	28.2%	2.6%	3.8%
		70歳代	70	30.0%	38.6%	27.1%	2.9%	1.4%
80歳代以上		12	25.0%	50.0%	8.3%	-	16.7%	
平成26年度調査	合計	317	9.5%	65.9%	18.6%	0.3%	5.7%	
	性別	男性	144	10.3%	56.5%	26.1%	0.5%	6.5%
		女性	172	6.1%	64.8%	18.3%	0.4%	10.4%
	年代別	18-20歳代	13	3.0%	54.5%	39.4%	3.0%	-
		30歳代	48	12.1%	59.1%	21.2%	-	7.6%
		40歳代	34	4.1%	61.2%	28.6%	2.0%	4.1%
		50歳代	73	4.9%	74.4%	15.9%	-	4.9%
		60歳代	79	7.4%	63.2%	20.0%	-	9.5%
		70歳代	52	10.9%	56.3%	21.9%	-	10.9%
		80歳以上	18	14.8%	37.0%	11.1%	-	37.0%
平成21年度調査	合計	315	9.5%	70.2%	15.2%	0.3%	4.8%	
	性別	男性	138	10.9%	72.5%	14.5%	-	2.2%
		女性	176	8.5%	68.8%	15.3%	0.6%	6.8%
	年代別	18-20歳代	12	-	91.7%	8.3%	-	-
		30歳代	51	11.8%	68.6%	15.7%	-	3.9%
		40歳代	44	6.8%	77.3%	13.6%	2.3%	-
		50歳代	76	7.9%	73.7%	15.8%	-	2.6%
		60歳代	77	6.5%	71.4%	15.6%	-	6.5%
		70歳代	55	18.2%	54.5%	16.4%	-	10.9%
	平成17年度調査	合計	306	6.2%	75.2%	14.4%	1.0%	3.3%
性別		男性	136	9.6%	72.1%	14.0%	1.5%	2.9%
		女性	170	3.5%	77.6%	14.7%	0.6%	3.5%
年代別		18-20歳代	10	-	80.0%	20.0%	-	-
		30歳代	40	5.0%	80.0%	15.0%	-	-
		40歳代	66	10.6%	81.8%	7.6%	-	-
		50歳代	63	4.8%	77.8%	12.7%	1.6%	3.2%
		60歳代	64	4.7%	75.0%	17.2%	1.6%	1.6%
		70歳代	62	6.5%	61.3%	19.4%	1.6%	11.3%
平成12年度調査		合計	478	7.3%	74.5%	12.1%	0.6%	5.4%
	性別	男性	212	11.3%	69.8%	12.7%	0.5%	5.7%
		女性	266	4.1%	78.2%	11.7%	0.8%	5.3%
	年代別	18-20歳代	27	-	88.9%	11.1%	-	-
		30歳代	79	2.5%	84.8%	11.4%	1.3%	-
		40歳代	114	7.9%	76.3%	12.3%	0.9%	2.6%
		50歳代	119	7.6%	81.5%	8.4%	-	2.5%
		60歳代	72	8.3%	65.3%	19.4%	-	6.9%
		70歳代	65	13.8%	50.8%	12.3%	1.5%	21.5%

③預貯金の管理

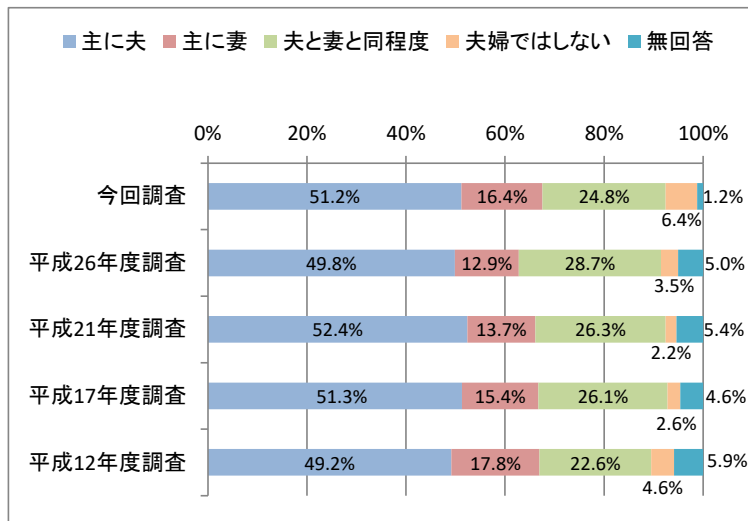
「主に夫」よりも「主に妻」が大きく上回る傾向に変化は見られないが、経年的に「主に妻」が減少し、「夫と妻と同程度」が増加している傾向がうかがえる。



区分		回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答	
今回調査	合計	330	17.9%	53.3%	24.5%	1.5%	2.7%	
	性別	男性	158	20.9%	51.3%	24.7%	2.5%	0.6%
		女性	172	15.1%	55.2%	24.4%	0.6%	4.7%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	12.5%	62.5%	12.5%	12.5%	-
		30歳代	36	16.7%	52.8%	27.8%	-	2.8%
		40歳代	57	14.0%	64.9%	19.3%	-	1.8%
		50歳代	69	13.0%	60.9%	24.6%	-	1.4%
		60歳代	78	14.1%	51.3%	28.2%	2.6%	3.8%
70歳代		70	30.0%	38.6%	27.1%	2.9%	1.4%	
80歳代以上		12	25.0%	50.0%	8.3%	-	16.7%	
平成26年度調査	合計	317	22.4%	53.6%	20.2%	0.3%	3.5%	
	性別	男性	144	22.8%	46.2%	24.5%	1.6%	4.9%
		女性	172	14.8%	51.3%	23.9%	-	10.0%
	年代別	18-20歳代	13	6.1%	51.5%	39.4%	3.0%	-
		30歳代	48	22.7%	40.9%	27.3%	-	9.1%
		40歳代	34	14.3%	49.0%	30.6%	2.0%	4.1%
		50歳代	73	15.9%	59.8%	20.7%	-	3.7%
		60歳代	79	15.8%	52.6%	24.2%	-	7.4%
		70歳代	52	28.1%	46.9%	12.5%	1.6%	10.9%
80歳以上		18	22.2%	25.9%	22.2%	-	29.6%	
平成21年度調査	合計	315	17.5%	60.3%	18.1%	-	4.1%	
	性別	男性	138	19.6%	60.1%	18.1%	-	2.2%
		女性	176	15.9%	60.8%	17.6%	-	5.7%
	年代別	18-20歳代	12	8.3%	91.7%	-	-	-
		30歳代	51	17.6%	60.8%	19.6%	-	2.0%
		40歳代	44	13.6%	77.3%	9.1%	-	-
		50歳代	76	18.4%	59.2%	21.1%	-	1.3%
		60歳代	77	18.2%	59.7%	15.6%	-	6.5%
		70歳代	55	20.0%	41.8%	27.3%	-	10.9%
平成17年度調査	合計	306	15.0%	60.1%	20.9%	0.7%	3.3%	
	性別	男性	136	14.7%	58.8%	22.1%	1.5%	2.9%
		女性	170	15.3%	61.2%	20.0%	-	3.5%
	年代別	18-20歳代	10	-	80.0%	20.0%	-	-
		30歳代	40	7.5%	72.5%	20.0%	-	-
		40歳代	66	10.6%	59.1%	30.3%	-	-
		50歳代	63	19.0%	63.5%	12.7%	1.6%	3.2%
		60歳代	64	18.8%	65.6%	14.1%	-	1.6%
		70歳代	62	19.4%	40.3%	27.4%	1.6%	11.3%
平成12年度調査	合計	478	14.4%	63.6%	14.4%	1.0%	6.5%	
	性別	男性	212	18.9%	65.1%	8.5%	0.9%	6.6%
		女性	266	10.9%	62.4%	19.2%	1.1%	6.4%
	年代別	18-20歳代	27	3.7%	81.5%	14.8%	-	-
		30歳代	79	6.3%	78.5%	13.9%	1.3%	-
		40歳代	114	17.5%	59.6%	18.4%	1.8%	2.6%
		50歳代	119	12.6%	73.1%	10.9%	0.8%	2.5%
		60歳代	72	16.7%	62.5%	12.5%	-	8.3%
		70歳代	65	24.6%	29.2%	16.9%	1.5%	27.7%

④家の軽微な修繕、庭の手入れ

「主に妻」よりも「主に夫」が大きく上回る傾向に大きな変化は見られない。

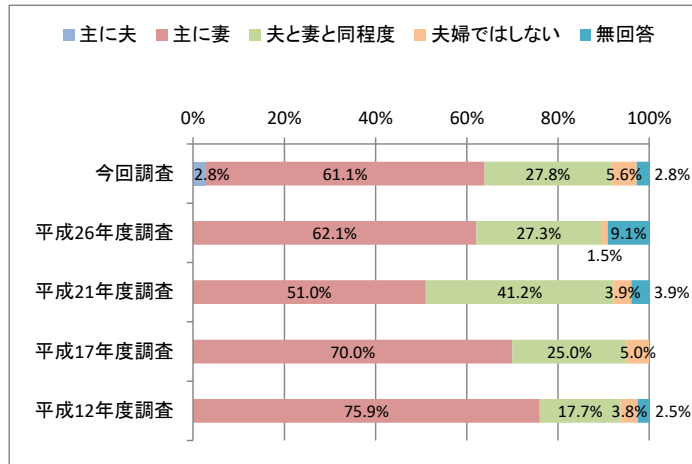


区分	回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではしない	無回答		
今回調査	合計	330	51.2%	16.4%	24.8%	6.4%	1.2%	
	性別	男性	158	61.4%	9.5%	24.1%	5.1%	-
		女性	172	41.9%	22.7%	25.6%	7.6%	2.3%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	37.5%	-	12.5%	50.0%	-
		30歳代	36	52.8%	16.7%	22.2%	5.6%	2.8%
		40歳代	57	50.9%	12.3%	21.1%	15.8%	-
		50歳代	69	58.0%	14.5%	24.6%	1.4%	1.4%
		60歳代	78	50.0%	16.7%	30.8%	2.6%	-
		70歳代	70	48.6%	20.0%	25.7%	2.9%	2.9%
80歳代以上		12	41.7%	33.3%	16.7%	8.3%	-	
平成26年度調査	合計	317	49.8%	12.9%	28.7%	3.5%	5.0%	
	性別	男性	144	62.0%	6.0%	22.8%	3.3%	6.0%
		女性	172	35.7%	16.1%	35.7%	2.2%	10.4%
	年代別	18-20歳代	13	54.5%	12.1%	33.3%	-	-
		30歳代	48	43.9%	15.2%	25.8%	7.6%	7.6%
		40歳代	34	44.9%	12.2%	36.7%	2.0%	4.1%
		50歳代	73	41.5%	14.6%	39.0%	2.4%	2.4%
		60歳代	79	53.7%	9.5%	26.3%	1.1%	9.5%
		70歳代	52	50.0%	7.8%	25.0%	1.6%	15.6%
	80歳以上	18	37.0%	7.4%	22.2%	3.7%	29.6%	
平成21年度調査	合計	315	52.4%	13.7%	26.3%	2.2%	5.4%	
	性別	男性	138	60.1%	10.1%	22.5%	1.4%	5.8%
		女性	176	46.0%	16.5%	29.5%	2.8%	5.1%
	年代別	18-20歳代	12	16.7%	33.3%	25.0%	25.0%	-
		30歳代	51	39.2%	23.5%	31.4%	3.9%	2.0%
		40歳代	44	43.2%	13.6%	40.9%	2.3%	-
		50歳代	76	61.8%	9.2%	23.7%	1.3%	3.9%
		60歳代	77	62.3%	10.4%	20.8%	-	6.5%
	70歳代	55	52.7%	10.9%	21.8%	-	14.5%	
	平成17年度調査	合計	306	51.3%	15.4%	26.1%	2.6%	4.6%
性別		男性	136	58.8%	10.3%	24.3%	2.2%	4.4%
		女性	170	45.3%	19.4%	27.6%	2.9%	4.7%
年代別		18-20歳代	10	20.0%	30.0%	50.0%	-	-
		30歳代	40	40.0%	10.0%	42.5%	7.5%	-
		40歳代	66	47.0%	18.2%	31.8%	3.0%	-
		50歳代	63	58.7%	17.5%	19.0%	1.6%	3.2%
		60歳代	64	62.5%	12.5%	21.9%	1.6%	1.6%
70歳代		62	50.0%	14.5%	16.1%	1.6%	17.7%	
平成12年度調査		合計	478	49.2%	17.8%	22.6%	4.6%	5.9%
	性別	男性	212	59.9%	13.2%	18.9%	1.9%	6.1%
		女性	266	40.6%	21.4%	25.6%	6.8%	5.6%
	年代別	18-20歳代	27	40.7%	29.6%	18.5%	11.1%	-
		30歳代	79	41.8%	21.5%	29.1%	6.3%	1.3%
		40歳代	114	47.4%	21.1%	21.9%	7.9%	1.8%
		50歳代	119	54.6%	18.5%	21.0%	3.4%	2.5%
		60歳代	72	54.2%	11.1%	23.6%	-	11.1%
		70歳代	65	50.8%	9.2%	18.5%	1.5%	20.0%

⑤乳幼児の世話

今回より調査の精度を上げるため「他の家族が中心」と「該当なし」の選択肢を追加したところ、「無回答」が減少し、本来の実情に合うと考えられる「該当なし」が選択されることが多かった（16頁参照、下記表とグラフでは「夫婦ではない」に読み替えている）。

経年比較のため「乳幼児の世話」が一般的に生じやすい時期である30歳代で比較すると、従来と同様に「主に夫」よりも「主に妻」が大きく上回る傾向がみられる。

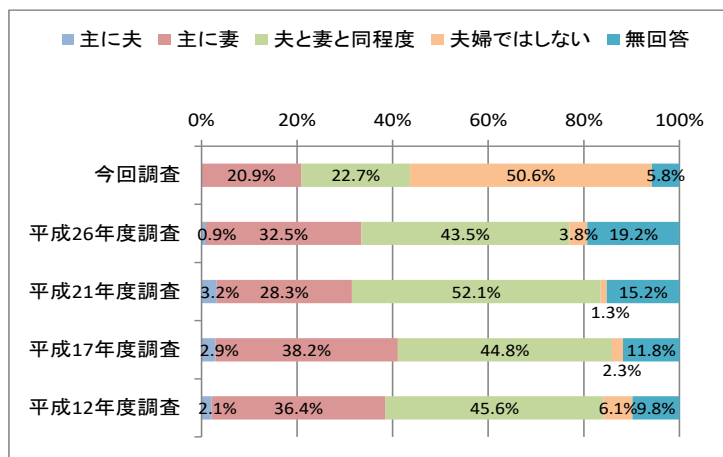


区分	回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答	
今回調査	合計	330	0.6%	21.2%	5.8%	64.5%	7.9%
	性別						
	男性	158	0.6%	23.4%	5.1%	65.2%	5.7%
	女性	172	0.6%	19.2%	6.4%	64.0%	9.9%
	その他	-	-	-	-	-	-
	年代別						
	18-20歳代	8	-	12.5%	12.5%	75.0%	-
	30歳代	36	2.8%	61.1%	27.8%	5.6%	2.8%
	40歳代	57	-	38.6%	5.3%	50.9%	5.3%
	50歳代	69	-	20.3%	1.4%	71.0%	7.2%
60歳代	78	-	9.0%	3.8%	80.8%	6.4%	
70歳代	70	-	5.7%	1.4%	80.0%	12.9%	
80歳代以上	12	8.3%	-	-	66.7%	25.0%	
平成26年度調査	合計	317	-	54.9%	20.2%	3.2%	21.8%
	性別						
	男性	144	-	44.0%	30.4%	2.2%	23.4%
	女性	172	-	56.5%	20.9%	2.6%	20.0%
	年代別						
	18-20歳代	13	-	42.4%	57.6%	-	-
	30歳代	48	-	62.1%	27.3%	1.5%	9.1%
	40歳代	34	-	57.1%	30.6%	4.1%	8.2%
	50歳代	73	-	61.0%	28.0%	1.2%	9.8%
	60歳代	79	-	49.5%	21.1%	2.1%	27.4%
70歳代	52	-	39.1%	6.3%	3.1%	51.6%	
80歳以上	18	-	22.2%	22.2%	7.4%	48.1%	
平成21年度調査	合計	315	0.3%	58.4%	22.2%	2.2%	16.8%
	性別						
	男性	138	-	58.7%	22.5%	2.9%	15.9%
	女性	176	0.6%	58.0%	22.2%	1.7%	17.6%
	年代別						
	18-20歳代	12	-	50.0%	33.3%	8.3%	8.6%
	30歳代	51	-	51.0%	41.2%	3.9%	3.9%
	40歳代	44	-	70.5%	22.7%	-	6.8%
	50歳代	76	1.3%	68.4%	19.7%	2.6%	7.9%
	60歳代	77	-	58.4%	15.6%	2.6%	23.4%
70歳代	55	-	43.6%	14.5%	-	41.8%	
平成17年度調査	合計	306	-	67.0%	17.6%	2.3%	13.1%
	性別						
	男性	136	-	61.8%	21.3%	1.5%	15.4%
	女性	170	-	71.2%	14.7%	2.9%	11.2%
	年代別						
	18-20歳代	10	-	60.0%	20.0%	-	20.0%
	30歳代	40	-	70.0%	25.0%	5.0%	-
	40歳代	66	-	71.2%	24.2%	1.5%	3.0%
	50歳代	63	-	79.4%	11.1%	1.6%	7.9%
	60歳代	64	-	62.5%	20.3%	3.1%	14.1%
70歳代	62	-	53.2%	9.7%	1.6%	35.5%	
平成12年度調査	合計	478	0.4%	66.9%	13.8%	7.9%	10.9%
	性別						
	男性	212	0.5%	61.3%	16.0%	8.0%	14.2%
	女性	266	0.4%	71.4%	12.0%	7.9%	8.3%
	年代別						
	18-20歳代	27	-	55.6%	25.9%	18.5%	-
	30歳代	79	-	75.9%	17.7%	3.8%	2.5%
	40歳代	114	-	74.6%	14.0%	6.1%	5.3%
	50歳代	119	1.7%	78.2%	10.9%	5.0%	4.2%
	60歳代	72	-	51.4%	12.5%	13.9%	22.2%
70歳代	65	-	44.6%	10.8%	10.8%	33.8%	

⑥子どものしつけや教育

今回より調査の精度を上げるため「他の家族が中心」と「該当なし」の選択肢を追加したところ、「無回答」が減少し、本来の実情に合うと考えられる「該当なし」が選択されることが多かった（17頁参照、下記表とグラフでは「夫婦ではない」に読み替えている）。

経年的に見ると、該当する夫婦全体では常に「夫と妻が同程度」の回答割合が最も高く、次に「主に妻」が高く、「主に夫」はほとんどない。

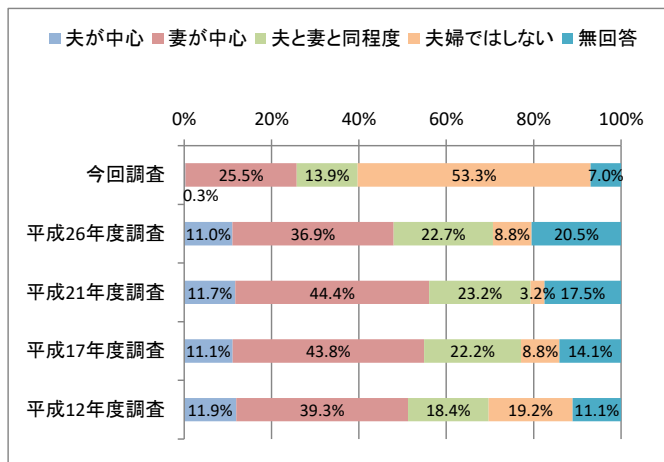


区分		回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答	
今回調査	合計	330	-	20.9%	22.7%	50.6%	5.8%	
	性別	男性	158	-	19.0%	29.1%	48.1%	3.8%
		女性	172	-	22.7%	16.9%	52.9%	7.6%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	-	12.5%	25.0%	62.5%	-
		30歳代	36	-	38.9%	55.6%	2.8%	2.8%
		40歳代	57	-	43.9%	43.9%	12.3%	-
		50歳代	69	-	29.0%	21.7%	43.5%	5.8%
		60歳代	78	-	6.4%	11.5%	79.5%	2.6%
		70歳代	70	-	5.7%	5.7%	75.7%	12.9%
80歳代以上		12	-	-	-	75.0%	25.0%	
平成26年度調査	合計	317	0.9%	32.5%	43.5%	3.8%	19.2%	
	性別	男性	144	2.2%	21.7%	52.7%	2.7%	20.7%
		女性	172	0.9%	30.4%	47.4%	3.0%	18.3%
	年代別	18-20歳代	13	3.0%	6.1%	90.9%	-	-
		30歳代	48	1.5%	31.8%	56.1%	1.5%	9.1%
		40歳代	34	-	30.6%	59.2%	-	8.2%
		50歳代	73	1.2%	36.6%	52.4%	1.2%	8.5%
		60歳代	79	1.1%	28.4%	41.1%	4.2%	1.1%
		70歳代	52	1.6%	18.8%	31.3%	3.1%	45.3%
	80歳以上	18	3.7%	14.8%	29.6%	11.1%	40.7%	
平成21年度調査	合計	315	3.2%	28.3%	52.1%	1.3%	15.2%	
	性別	男性	138	5.1%	22.5%	56.5%	1.4%	14.5%
		女性	176	1.7%	32.4%	48.9%	1.1%	15.9%
	年代別	18-20歳代	12	-	25.0%	58.3%	8.3%	8.3%
		30歳代	51	2.0%	27.5%	62.7%	3.9%	3.9%
		40歳代	44	4.5%	38.6%	50.0%	-	6.8%
		50歳代	76	3.9%	34.2%	55.3%	1.3%	5.3%
		60歳代	77	2.6%	26.0%	51.9%	-	19.5%
		70歳代	55	3.6%	16.4%	38.2%	-	41.8%
	平成17年度調査	合計	306	2.9%	38.2%	44.8%	2.3%	11.8%
性別		男性	136	4.4%	32.4%	48.5%	1.5%	13.2%
		女性	170	1.8%	42.9%	41.8%	2.9%	10.6%
年代別		18-20歳代	10	-	30.0%	50.0%	-	20.0%
		30歳代	40	2.5%	50.0%	42.5%	5.0%	-
		40歳代	66	1.5%	33.3%	60.6%	1.5%	3.0%
		50歳代	63	6.3%	46.0%	38.1%	1.6%	7.9%
		60歳代	64	1.6%	35.9%	48.4%	3.1%	10.9%
		70歳代	62	3.2%	30.6%	32.3%	1.6%	32.3%
平成12年度調査		合計	478	2.1%	36.4%	45.6%	6.1%	9.8%
	性別	男性	212	3.3%	30.7%	47.2%	6.6%	12.3%
		女性	266	1.1%	41.0%	44.4%	5.6%	7.9%
	年代別	18-20歳代	27	-	29.6%	51.9%	18.5%	-
		30歳代	79	-	41.8%	50.6%	5.1%	2.5%
		40歳代	114	1.8%	44.7%	46.5%	2.6%	4.4%
		50歳代	119	1.7%	40.3%	52.1%	2.5%	3.4%
		60歳代	72	2.8%	29.2%	37.5%	12.5%	18.1%
		70歳代	65	6.2%	18.5%	33.8%	7.7%	33.8%

⑦子どもの学校行事への参加

今回より調査の精度を上げるため「他の家族が中心」と「該当なし」の選択肢を追加したところ、「無回答」が減少し、本来の実情に合うと考えられる「該当なし」が選択されることが多かった（18頁参照、下記表とグラフでは「夫婦ではない」に読み替えている）。

経年的に見ると、該当する夫婦全体では常に「主に妻」の回答割合が最も高く、次に「夫と妻と同程度」が高く、「主に夫」はあまりみられない。

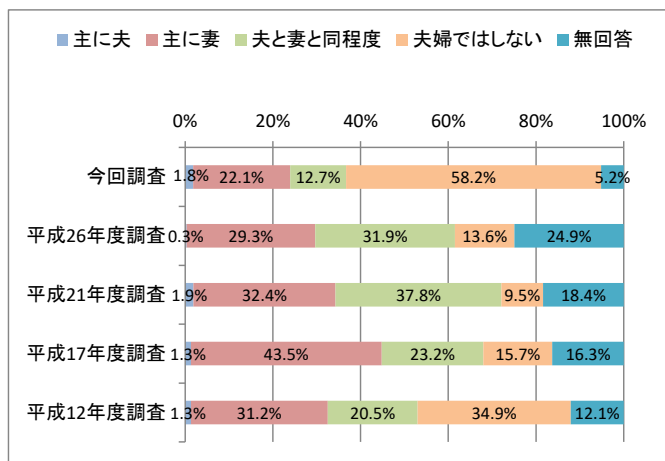


区分	回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答		
今回調査	合計	330	0.3%	25.5%	13.9%	53.3%	7.0%	
	性別	男性	158	0.6%	25.9%	17.1%	51.9%	4.4%
		女性	172	-	25.0%	11.0%	54.7%	9.3%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	-	-	25.0%	75.0%	-
		30歳代	36	-	44.4%	47.2%	5.6%	2.8%
		40歳代	57	-	66.7%	19.3%	14.0%	-
		50歳代	69	1.4%	33.3%	13.0%	46.4%	5.8%
		60歳代	78	-	6.4%	7.7%	82.1%	3.8%
		70歳代	70	-	2.9%	1.4%	78.6%	17.1%
80歳代以上		12	-	-	-	75.0%	25.0%	
平成26年度調査		合計	317	11.0%	36.9%	22.7%	8.8%	20.5%
性別	男性	144	11.4%	26.1%	32.6%	7.6%	22.3%	
	女性	172	8.3%	40.0%	25.2%	7.8%	18.7%	
年代別	18-20歳代	13	6.1%	15.2%	48.5%	30.3%	-	
	30歳代	48	3.0%	36.4%	36.4%	13.6%	10.6%	
	40歳代	34	14.3%	46.9%	30.6%	2.0%	6.1%	
	50歳代	73	9.8%	51.2%	28.0%	2.4%	9.8%	
	60歳代	79	11.6%	29.5%	25.3%	11.6%	27.4%	
	70歳代	52	12.5%	23.4%	15.6%	3.1%	45.3%	
	80歳代以上	18	7.4%	11.1%	25.9%	7.4%	48.1%	
	平成21年度調査	合計	315	11.7%	44.4%	23.2%	3.2%	17.5%
性別	男性	138	17.4%	34.8%	29.0%	2.9%	15.9%	
	女性	176	7.4%	52.3%	18.2%	3.4%	18.8%	
年代別	18-20歳代	12	25.0%	16.7%	25.0%	25.0%	8.3%	
	30歳代	51	-	51.0%	33.3%	7.8%	7.8%	
	40歳代	44	13.6%	59.1%	20.5%	-	6.8%	
	50歳代	76	17.1%	44.7%	28.9%	1.3%	7.9%	
	60歳代	77	11.7%	49.4%	16.9%	1.3%	20.8%	
	70歳代	55	10.9%	25.5%	16.4%	1.8%	45.5%	
	平成17年度調査	合計	306	11.1%	43.8%	22.2%	8.8%	14.1%
	性別	男性	136	13.2%	41.2%	22.8%	8.1%	14.7%
女性		170	9.4%	45.9%	21.8%	9.4%	13.5%	
年代別	18-20歳代	10	20.0%	-	20.0%	30.0%	30.0%	
	30歳代	40	5.0%	30.0%	27.5%	32.5%	5.0%	
	40歳代	66	16.7%	53.0%	24.2%	3.0%	3.0%	
	50歳代	63	11.1%	54.0%	22.2%	4.8%	7.9%	
	60歳代	64	9.4%	46.9%	25.0%	4.7%	14.1%	
	70歳代	62	9.7%	35.5%	14.5%	4.8%	35.5%	
	平成12年度調査	合計	478	11.9%	39.3%	18.4%	19.2%	11.1%
性別	男性	212	16.0%	33.0%	19.8%	18.4%	12.7%	
	女性	266	8.6%	44.4%	17.3%	19.9%	9.8%	
年代別	18-20歳代	27	-	14.8%	-	81.5%	3.7%	
	30歳代	79	10.1%	35.4%	17.7%	34.2%	2.5%	
	40歳代	114	13.2%	47.4%	26.3%	7.9%	5.3%	
	50歳代	119	10.9%	52.9%	22.7%	10.1%	3.4%	
	60歳代	72	13.9%	29.2%	15.3%	20.8%	20.8%	
	70歳代	65	16.9%	26.2%	9.2%	10.8%	36.9%	

⑧親や家族の介護・看護

今回より調査の精度を上げるため「他の家族が中心」と「該当なし」の選択肢を追加したところ、「無回答」が減少し、本来の実情に合うと考えられる「該当なし」が選択されることが多かった（19頁参照、下記表とグラフでは「夫婦ではない」に読み替えている）。

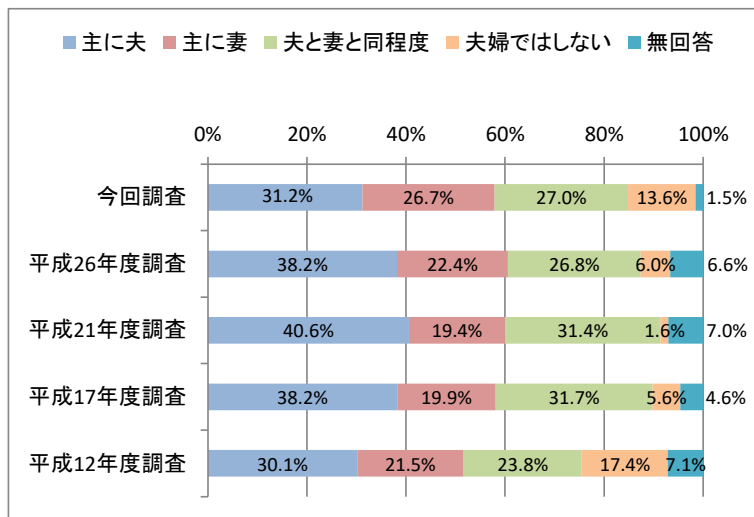
経年的に見ると、該当する夫婦全体では常に「主に妻」と「夫と妻が同程度」の回答割合が高く、「主に夫」はほとんどみられない。



区分		回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答	
今回調査	合計	330	1.8%	22.1%	12.7%	58.2%	5.2%	
	性別	男性	158	3.2%	19.0%	13.3%	60.8%	3.8%
		女性	172	0.6%	25.0%	12.2%	55.8%	6.4%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	-	-	12.5%	87.5%	-
		30歳代	36	-	16.7%	13.9%	66.7%	2.8%
		40歳代	57	-	24.6%	14.0%	59.6%	1.8%
		50歳代	69	-	39.1%	20.3%	39.1%	1.4%
		60歳代	78	3.8%	15.4%	15.4%	62.8%	2.6%
70歳代		70	2.9%	17.1%	2.9%	64.3%	12.9%	
80歳代以上		12	8.3%	16.7%	-	50.0%	25.0%	
平成26年度調査	合計	317	0.3%	29.3%	31.9%	13.6%	24.9%	
	性別	男性	144	1.1%	22.3%	40.8%	10.9%	25.0%
		女性	172	0.4%	28.3%	37.4%	11.3%	22.6%
	年代別	18-20歳代	13	-	-	75.8%	24.2%	-
		30歳代	48	1.5%	19.7%	43.9%	19.7%	15.2%
		40歳代	34	-	24.5%	36.7%	20.4%	18.4%
		50歳代	73	-	31.7%	47.6%	6.1%	14.6%
		60歳代	79	-	34.7%	30.5%	6.3%	28.4%
		70歳代	52	3.1%	28.1%	21.9%	3.1%	43.8%
80歳代以上		18	-	14.8%	29.6%	-	48.1%	
平成21年度調査	合計	315	1.9%	32.4%	37.8%	9.5%	18.4%	
	性別	男性	138	2.9%	31.2%	39.1%	8.7%	18.1%
		女性	176	1.1%	33.5%	36.4%	10.2%	18.8%
	年代別	18-20歳代	12	-	8.3%	41.7%	41.7%	8.3%
		30歳代	51	-	21.6%	39.2%	23.5%	15.7%
		40歳代	44	2.3%	29.5%	40.9%	18.2%	9.1%
		50歳代	76	3.9%	40.8%	40.8%	3.9%	10.5%
		60歳代	77	-	37.7%	39.0%	1.3%	22.1%
		70歳代	55	3.6%	30.9%	27.3%	1.8%	36.4%
平成17年度調査	合計	306	1.3%	43.5%	23.2%	15.7%	16.3%	
	性別	男性	136	1.5%	35.3%	36.5%	19.9%	16.9%
		女性	170	1.2%	50.0%	20.6%	12.4%	15.9%
	年代別	18-20歳代	10	10.0%	10.0%	10.0%	40.0%	30.0%
		30歳代	40	-	32.5%	20.0%	40.0%	7.5%
		40歳代	66	-	36.4%	33.3%	22.7%	7.6%
		50歳代	63	4.8%	52.4%	25.4%	9.5%	7.9%
		60歳代	64	-	48.4%	28.1%	6.3%	17.2%
		70歳代	62	-	48.4%	9.7%	4.8%	37.1%
平成12年度調査	合計	478	1.3%	31.2%	20.5%	34.9%	12.1%	
	性別	男性	212	2.4%	26.4%	23.1%	34.0%	14.2%
		女性	266	0.4%	35.0%	18.4%	35.7%	10.5%
	年代別	18-20歳代	27	-	7.4%	11.1%	77.8%	3.7%
		30歳代	79	1.3%	25.3%	7.6%	60.8%	5.1%
		40歳代	114	-	32.5%	20.2%	38.6%	7.9%
		50歳代	119	2.5%	39.5%	28.6%	25.2%	4.2%
		60歳代	72	1.4%	34.7%	25.0%	18.1%	20.8%
		70歳代	65	-	27.7%	20.0%	16.9%	35.4%

⑨町内会・自治会への参加

前回調査に比べて、「主に妻」の割合が増加し、「主に夫」の割合が減少している。



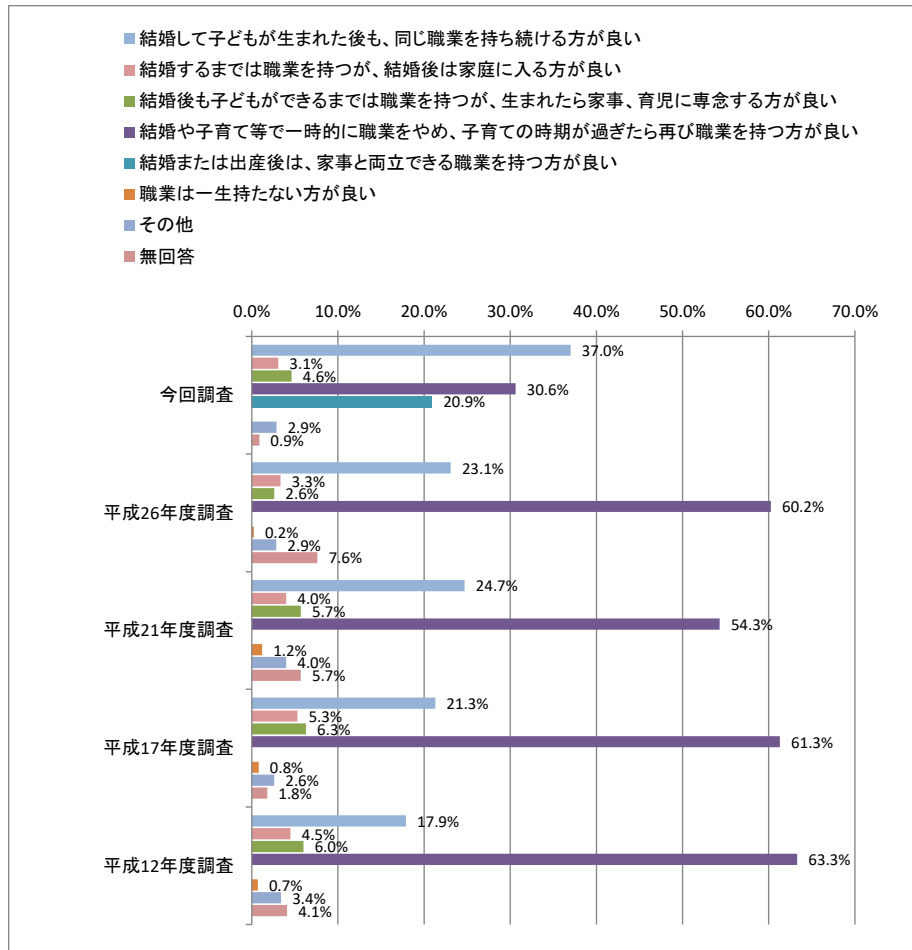
区分		回答者数	主に夫	主に妻	夫と妻と同程度	夫婦ではない	無回答	
今回調査	合計	330	31.2%	26.7%	27.0%	13.6%	1.5%	
	性別	男性	158	34.2%	19.6%	29.7%	15.8%	0.6%
		女性	172	28.5%	33.1%	24.4%	11.6%	2.3%
		その他	-	-	-	-	-	-
	年代別	18-20歳代	8	25.0%	-	-	75.0%	-
		30歳代	36	30.6%	13.9%	25.0%	27.8%	2.8%
		40歳代	57	35.1%	33.3%	22.8%	8.8%	-
		50歳代	69	29.0%	31.9%	27.5%	10.1%	1.4%
		60歳代	78	30.8%	25.6%	33.3%	10.3%	-
		70歳代	70	35.7%	25.7%	28.6%	8.6%	1.4%
80歳代以上		12	8.3%	33.3%	16.7%	25.0%	16.7%	
平成26年度調査	合計	317	38.2%	22.4%	26.8%	6.0%	6.6%	
	性別	男性	144	37.5%	16.3%	33.2%	5.4%	7.6%
		女性	172	32.2%	20.4%	30.9%	5.2%	11.3%
	年代別	18-20歳代	13	21.2%	-	54.5%	24.2%	-
		30歳代	48	37.9%	18.2%	28.8%	9.1%	6.1%
		40歳代	34	26.5%	24.5%	38.8%	4.1%	6.1%
		50歳代	73	25.6%	25.6%	41.5%	25.6%	6.1%
		60歳代	79	43.2%	21.1%	23.2%	3.2%	9.5%
		70歳代	52	39.1%	39.1%	28.1%	1.6%	15.6%
		80歳以上	18	44.4%	7.4%	7.4%	3.7%	37.0%
平成21年度調査	合計	315	40.6%	19.4%	31.4%	1.6%	7.0%	
	性別	男性	138	50.7%	17.4%	27.5%	-	4.3%
		女性	176	32.4%	21.0%	34.7%	2.8%	9.1%
	年代別	18-20歳代	12	25.0%	8.3%	33.3%	25.0%	8.3%
		30歳代	51	31.4%	25.5%	33.3%	3.9%	5.9%
		40歳代	44	31.8%	27.3%	38.6%	-	2.3%
		50歳代	76	43.4%	22.4%	30.3%	-	3.9%
		60歳代	77	50.6%	15.6%	27.3%	-	6.5%
		70歳代	55	41.8%	10.9%	30.9%	-	16.4%
	平成17年度調査	合計	306	38.2%	19.9%	31.7%	5.6%	4.6%
性別		男性	136	44.1%	13.2%	30.1%	7.4%	5.1%
		女性	170	33.5%	25.3%	32.9%	4.1%	4.1%
年代別		18-20歳代	10	40.0%	100%	100%	40.0%	-
		30歳代	40	27.5%	100%	45.0%	17.5%	-
		40歳代	66	40.9%	19.7%	36.4%	3.0%	-
		50歳代	63	42.9%	27.0%	20.6%	4.8%	4.8%
		60歳代	64	32.8%	28.1%	35.9%	-	3.1%
		70歳代	62	43.5%	11.3%	29.0%	1.6%	14.5%
平成12年度調査		合計	478	30.1%	21.5%	23.8%	17.4%	7.1%
	性別	男性	212	35.8%	17.0%	25.5%	14.2%	7.5%
		女性	266	25.6%	25.2%	22.6%	19.9%	6.8%
	年代別	18-20歳代	27	18.5%	14.8%	11.1%	55.6%	-
		30歳代	79	24.1%	16.5%	29.1%	30.4%	-
		40歳代	114	28.9%	25.4%	22.8%	18.4%	4.4%
		50歳代	119	32.8%	32.8%	23.5%	9.2%	1.7%
		60歳代	72	30.6%	18.1%	27.8%	9.7%	13.9%
		70歳代	65	40.0%	7.7%	20.0%	7.7%	24.6%

(5) 女性の仕事

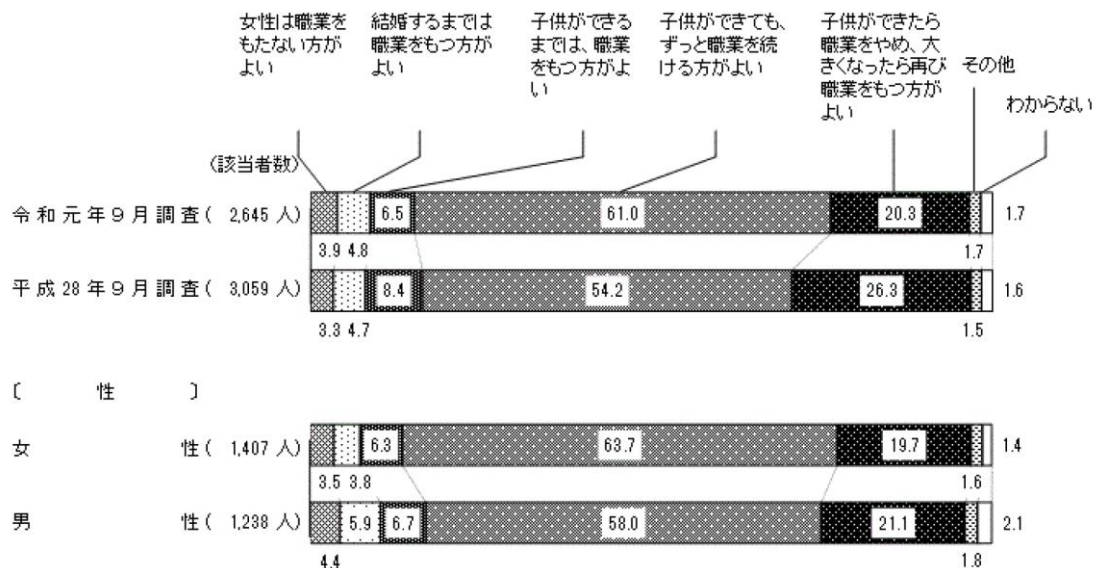
①女性の職業のあり方

今回調査では、「結婚や子育てなどで一時的にやめるが子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」の回答割合が3割と前回調査の半分程度に減少した。逆に「結婚して子供が生まれた後も職業を持ち続ける」の回答割合および経年的に見ても最も多くなっている。

国調査結果（R1）と比べると、全国的にも「子どもが出来ても、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多くなっている。



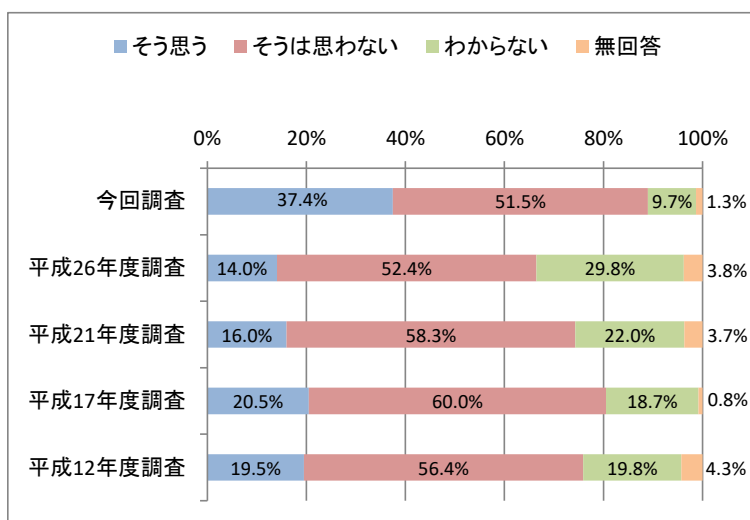
※参考(R1国調査結果より):「女性が職業をもつことに対する意識」



区分		結婚して子どもが生まれた後も、同じ職業を持ち続ける方が良い	結婚するまでは職業を持つが、結婚後は家庭に入る方が良い	結婚後も子どもができるまでは職業を持つが、生まれたら家事、育児に専念する方が良い	結婚や子育て等で一時的に職業をやめ、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ方が良い	結婚または出産後は、家事と両立できる職業を持つ方が良い	職業は一生持たない方が良い	その他	無回答	
今回調査	合計	37.0%	3.1%	4.6%	30.6%	20.9%	-	2.9%	0.9%	
	性別	男性	37.8%	2.5%	7.5%	29.9%	17.9%	-	4.0%	0.5%
		女性	36.5%	3.6%	2.4%	31.3%	23.0%	-	2.0%	1.2%
		その他	-	-	-	-	100.0%	-	-	-
	年代別	18-20歳代	50.0%	2.4%	4.8%	14.3%	21.4%	-	7.1%	-
		30歳代	41.7%	6.3%	-	33.3%	16.7%	-	2.1%	-
		40歳代	45.8%	2.8%	5.6%	18.1%	23.6%	-	4.2%	-
		50歳代	38.1%	3.6%	4.8%	33.3%	15.5%	-	4.8%	-
60歳代		35.6%	-	1.1%	41.1%	20.0%	-	1.1%	1.1%	
70歳代		26.1%	4.3%	8.7%	35.9%	22.8%	-	-	2.2%	
80歳代以上	23.1%	3.8%	7.7%	23.1%	34.6%	-	3.8%	3.8%		
平成26年度調査	合計	23.1%	3.3%	2.6%	60.2%	-	0.2%	2.9%	7.6%	
	性別	男性	26.6%	3.8%	2.7%	57.1%	-	-	3.3%	6.5%
		女性	20.0%	3.0%	2.6%	63.0%	-	0.4%	2.6%	8.3%
	年代別	18-20歳代	33.3%	3.0%	3.0%	57.6%	-	3.0%	-	-
		30歳代	36.4%	1.5%	1.5%	50.0%	-	-	6.1%	4.5%
		40歳代	22.4%	4.1%	6.1%	65.3%	-	-	2.0%	-
		50歳代	24.4%	4.9%	1.2%	61.0%	-	-	2.4%	6.1%
		60歳代	12.6%	1.1%	3.2%	73.7%	-	-	2.1%	7.4%
70歳代		17.2%	4.7%	3.1%	53.1%	-	-	3.1%	18.8%	
80歳以上	29.6%	7.4%	-	44.4%	-	-	3.7%	14.8%		
平成21年度調査	合計	24.7%	4.0%	5.7%	54.3%	-	1.2%	4.0%	5.7%	
	性別	男性	22.7%	5.2%	6.4%	52.3%	-	1.7%	5.8%	5.8%
		女性	26.3%	3.0%	5.2%	55.6%	-	0.9%	2.6%	5.6%
	年代別	18-20歳代	37.5%	2.5%	7.5%	50.0%	-	-	2.5%	-
		30歳代	28.6%	1.4%	-	50.0%	-	2.9%	10.0%	5.7%
		40歳代	26.3%	5.3%	1.8%	59.6%	-	1.8%	3.5%	1.8%
		50歳代	20.2%	4.8%	6.0%	64.3%	-	-	2.4%	2.4%
60歳代		13.6%	2.3%	9.1%	63.6%	-	-	3.4%	8.0%	
70歳代	31.8%	7.6%	9.1%	31.8%	-	3.0%	1.5%	13.6%		
平成17年度調査	合計	21.3%	5.3%	6.3%	61.3%	-	0.8%	2.6%	1.8%	
	性別	男性	19.6%	7.7%	7.7%	58.3%	-	1.2%	2.4%	2.4%
		女性	22.6%	3.3%	5.2%	63.7%	-	0.5%	2.8%	1.4%
	年代別	18-20歳代	31.1%	2.2%	11.1%	51.1%	-	-	2.2%	-
		30歳代	24.5%	3.8%	1.9%	62.3%	-	-	7.5%	-
		40歳代	15.3%	-	2.8%	76.4%	-	1.4%	2.8%	-
		50歳代	22.2%	2.8%	4.2%	63.9%	-	1.4%	2.8%	2.8%
60歳代		19.7%	8.5%	8.5%	60.6%	-	1.4%	-	1.4%	
70歳代	19.7%	13.6%	10.6%	48.5%	-	-	1.5%	6.1%		
平成12年度調査	合計	17.9%	4.5%	6.0%	63.3%	-	0.7%	3.4%	4.1%	
	性別	男性	17.9%	5.3%	9.2%	59.2%	-	1.1%	3.1%	4.2%
		女性	18.0%	3.8%	3.5%	66.5%	-	0.3%	3.8%	4.1%
	年代別	18-20歳代	23.5%	4.9%	8.6%	56.8%	-	1.2%	4.9%	-
		30歳代	22.8%	2.0%	4.0%	63.4%	-	1.0%	5.9%	1.0%
		40歳代	22.0%	6.5%	3.3%	63.4%	-	-	3.3%	1.6%
		50歳代	15.5%	3.9%	4.7%	71.3%	-	-	2.3%	2.3%
60歳代		8.2%	6.8%	11.0%	60.3%	-	1.4%	-	12.3%	
70歳代	13.0%	2.9%	8.7%	56.5%	-	1.4%	4.3%	13.0%		

②現在の女性は働きやすい状況にあるか

今回調査では、「そう思う」の回答割合が大きく増加している。女性が働きやすい状況が高まりつつあることがうかがえる。

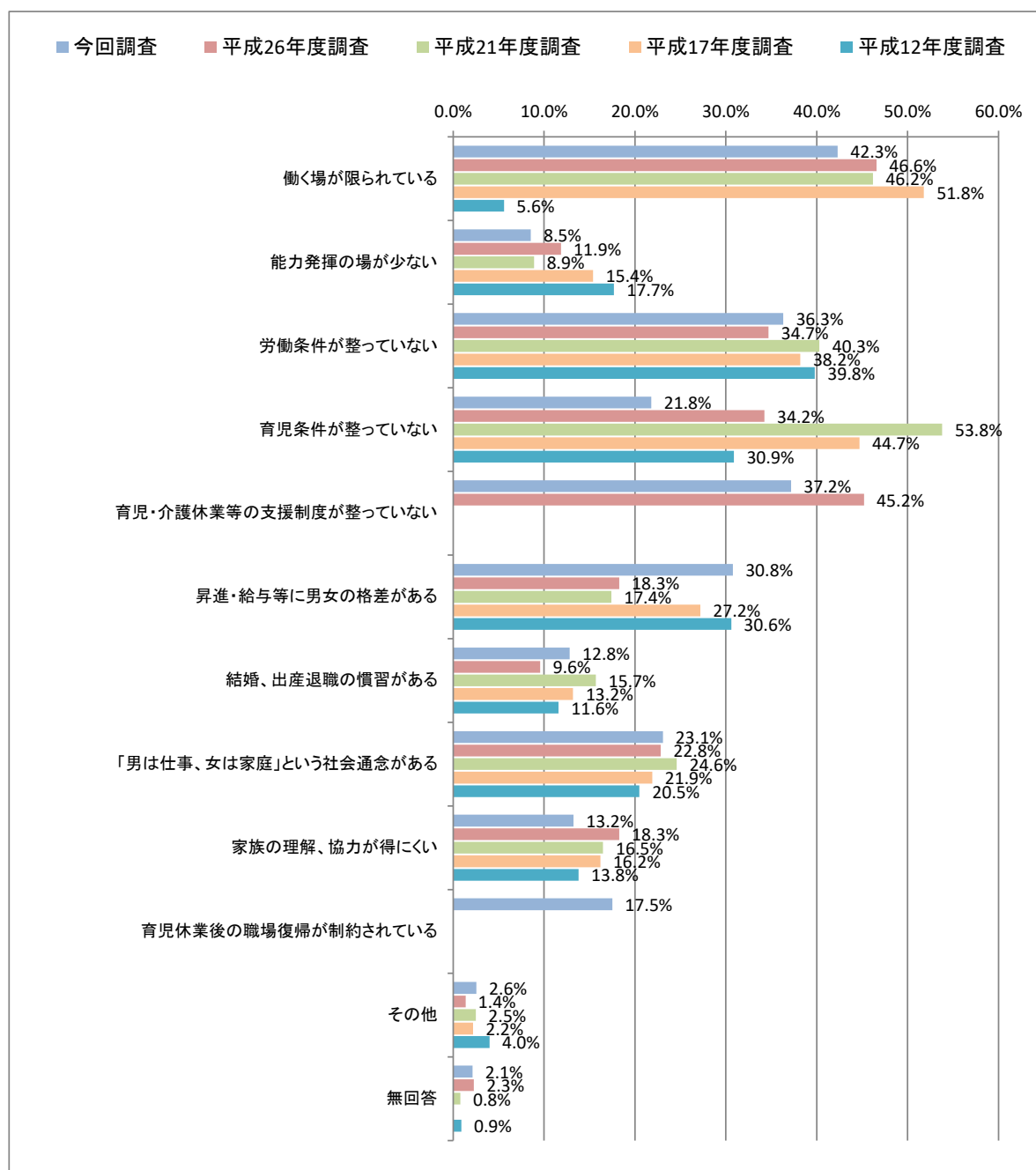


区分	回答者数	そう思う	そうは思わない	わからない	無回答		
今回調査	合計	454	37.4%	51.5%	9.7%	1.3%	
	性別	男性	201	39.8%	50.7%	8.0%	1.5%
		女性	252	35.7%	52.0%	11.1%	1.2%
		その他	1	-	100.0%	-	-
		年齢別	18-20歳代	42	50.0%	42.9%	7.1%
	30歳代	48	25.0%	66.7%	8.3%	-	
	40歳代	72	36.1%	54.2%	9.7%	-	
	50歳代	84	39.3%	51.2%	9.5%	-	
	60歳代	90	40.0%	53.3%	6.7%	-	
	70歳代	92	31.5%	52.2%	13.0%	3.3%	
80歳代以上	26	50.0%	23.1%	15.4%	11.5%		
平成26年度調査	合計	420	14.0%	52.4%	29.8%	3.8%	
	性別	男性	184	19.0%	47.8%	29.9%	3.3%
		女性	231	10.0%	57.0%	29.6%	3.5%
	年齢別	18-20歳代	33	15.2%	48.5%	33.3%	3.0%
		30歳代	66	18.2%	57.6%	22.7%	1.5%
		40歳代	49	12.2%	63.3%	24.5%	-
		50歳代	82	13.4%	61.0%	23.2%	2.4%
		60歳代	95	11.6%	51.6%	33.7%	3.2%
		70歳代	64	12.5%	37.5%	39.1%	10.9%
	80歳以上	27	22.2%	40.7%	37.0%	-	
平成21年度調査	合計	405	16.0%	58.3%	22.0%	3.7%	
	性別	男性	172	22.7%	55.2%	18.0%	4.1%
		女性	232	11.2%	60.3%	25.0%	3.4%
	年齢別	18-20歳代	40	12.5%	62.5%	25.0%	-
		30歳代	70	10.0%	71.4%	17.1%	1.4%
		40歳代	57	10.5%	64.9%	22.8%	1.8%
		50歳代	84	16.7%	61.9%	20.2%	1.2%
		60歳代	88	21.6%	55.7%	17.0%	5.7%
	70歳代	66	21.2%	34.8%	33.3%	10.6%	
	平成17年度調査	合計	380	20.5%	60.0%	18.7%	0.8%
性別		男性	168	26.2%	56.0%	16.7%	1.2%
		女性	212	16.0%	63.2%	20.3%	0.5%
年齢別		18-20歳代	45	13.3%	64.4%	22.2%	-
		30歳代	53	9.4%	75.5%	15.1%	-
		40歳代	72	15.3%	58.3%	26.4%	-
		50歳代	72	22.2%	62.5%	12.5%	2.8%
		60歳代	71	25.4%	52.1%	22.5%	-
70歳代		66	33.3%	51.5%	13.6%	1.5%	
平成12年度調査		合計	580	19.5%	56.4%	19.8%	4.3%
	性別	男性	262	24.8%	51.5%	21.0%	2.7%
		女性	316	14.9%	60.8%	18.7%	5.7%
	年齢別	18-20歳代	81	16.0%	53.1%	25.9%	4.9%
		30歳代	101	9.9%	68.3%	15.8%	5.9%
		40歳代	123	18.7%	61.8%	15.4%	4.1%
		50歳代	129	22.5%	63.6%	13.2%	0.8%
		60歳代	73	23.3%	43.8%	27.4%	5.5%
	70歳代	69	26.1%	36.2%	30.4%	7.2%	

③女性が働きやすいと思わない理由

前回調査に比べて、最も減少したのは「育児条件が整っていない」であり、ピークであった平成21年度調査と比較しても半数以下の2割台まで減少している。

「働く場が限られている」と「育児・介護休業等の支援制度が整っていない」は経年的に見れば減少しているが、依然として回答割合が多くなっている。



※「育児休業後の職場復帰が制約されている」は、今回調査で新たな選択肢として設定された。

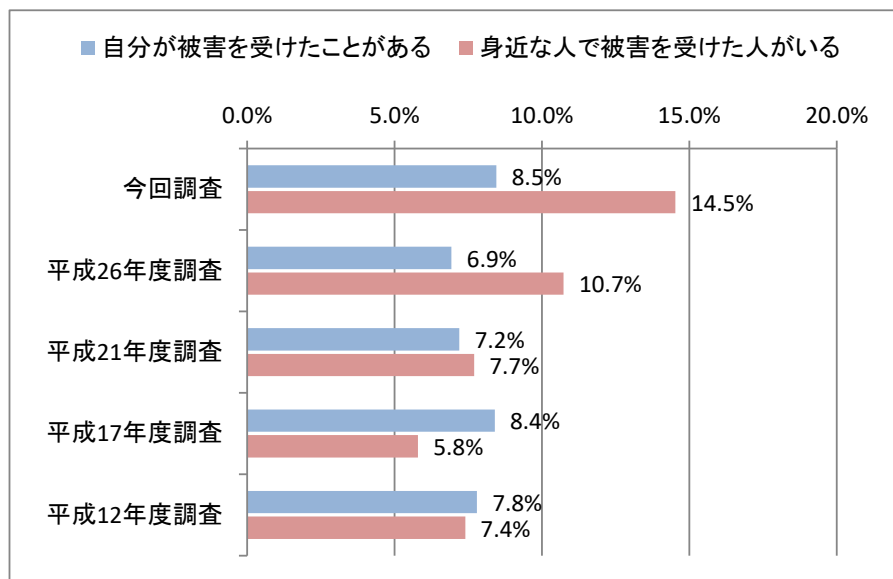
区分	回答者数	働く場が限られている	能力発揮の場が少ない	労働条件が整っていない	育児・介護休業等の支障制度が整っていない	昇進・給与に男女の格差がある	結婚、出産退職の意思がある	「男は仕事、女は家庭」という社会通念がある	「家族の理窟、協力が得にくい」	育児休業後の就業態勢が制約されている	その他	無回答
今回調査												
合計	234	42.3%	8.5%	36.3%	21.8%	30.8%	12.8%	23.1%	13.2%	17.5%	2.6%	2.1%
性別												
男性	102	49.0%	13.7%	35.3%	23.5%	32.4%	14.7%	17.6%	2.9%	17.5%	4.9%	2.0%
女性	131	37.4%	4.6%	37.4%	19.8%	29.0%	11.5%	27.5%	21.4%	13.7%	0.8%	2.3%
その他	1	-	-	-	100.0%	100.0%	-	-	-	100.0%	-	-
年代別												
18-20歳代	18	27.8%	5.6%	11.1%	27.8%	38.9%	22.2%	22.2%	5.6%	33.3%	11.1%	-
30歳代	32	34.4%	6.3%	34.4%	31.3%	31.3%	12.5%	21.9%	15.6%	28.1%	2.6%	-
40歳代	39	46.2%	7.7%	38.5%	41.0%	30.8%	10.3%	30.8%	20.5%	10.3%	2.6%	-
50歳代	43	34.9%	9.3%	41.9%	37.2%	18.6%	4.7%	25.6%	18.6%	16.3%	4.7%	2.3%
60歳代	48	52.1%	8.3%	37.5%	31.3%	27.1%	12.5%	14.6%	10.4%	16.7%	2.1%	2.1%
70歳代	4	52.1%	10.4%	39.6%	6.3%	41.7%	18.8%	25.0%	8.3%	10.4%	-	4.2%
80歳代以上	6	-	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	16.7%	16.7%	-	33.3%	-	16.7%
合計	219	46.6%	11.9%	34.7%	34.2%	18.3%	9.6%	22.8%	18.3%	-	1.4%	2.3%
性別												
男性	88	45.5%	15.9%	34.1%	39.8%	17.0%	15.9%	20.5%	9.1%	-	1.1%	3.4%
女性	131	46.6%	9.2%	34.4%	30.5%	19.1%	5.3%	24.4%	23.7%	-	1.5%	1.5%
年代別												
18-20歳代	16	50.0%	12.5%	43.8%	25.0%	12.5%	31.3%	31.3%	12.5%	-	-	-
30歳代	38	36.8%	10.5%	39.5%	39.5%	23.7%	10.5%	18.4%	23.7%	-	5.3%	2.6%
40歳代	31	45.2%	12.9%	38.7%	41.9%	19.4%	3.2%	32.3%	29.0%	-	-	-
50歳代	50	56.0%	10.0%	32.0%	26.0%	14.0%	14.0%	16.0%	22.0%	-	2.0%	2.0%
60歳代	49	44.9%	18.4%	34.7%	34.7%	20.4%	6.1%	26.5%	6.1%	-	-	2.0%
70歳代	24	54.2%	4.2%	41.7%	29.2%	12.5%	4.2%	12.5%	12.5%	-	-	4.2%
80歳以上	11	18.2%	9.1%	27.3%	27.3%	27.3%	-	36.4%	18.2%	-	-	9.1%
合計	236	46.2%	8.9%	40.3%	53.8%	17.4%	15.7%	24.6%	16.5%	-	2.5%	0.8%
性別												
男性	95	45.3%	7.4%	40.0%	54.7%	20.0%	22.1%	23.2%	9.5%	-	4.2%	2.1%
女性	140	46.4%	10.0%	40.7%	53.6%	15.7%	11.4%	25.7%	21.4%	-	1.4%	-
年代別												
18-20歳代	25	32.0%	12.0%	32.0%	48.0%	40.0%	28.0%	28.0%	20.0%	-	-	-
30歳代	50	54.0%	4.0%	48.0%	58.0%	16.0%	12.0%	24.0%	14.0%	-	2.0%	-
40歳代	37	37.8%	8.1%	35.1%	67.6%	16.2%	21.6%	21.6%	16.2%	-	5.4%	-
50歳代	52	53.8%	7.7%	44.2%	48.1%	15.4%	15.4%	17.3%	19.2%	-	1.9%	1.9%
60歳代	49	42.9%	12.2%	34.7%	57.1%	12.2%	10.2%	30.6%	16.3%	-	4.1%	-
70歳代	23	47.8%	13.0%	43.5%	34.8%	13.0%	13.0%	30.4%	13.0%	-	-	4.3%
合計	228	51.8%	15.4%	38.2%	44.7%	17.2%	13.2%	21.9%	16.2%	-	2.2%	-
性別												
男性	94	58.5%	21.3%	37.2%	40.4%	34.0%	19.1%	18.1%	9.6%	-	1.1%	-
女性	134	47.0%	11.2%	38.8%	47.8%	22.4%	9.0%	24.6%	20.9%	-	3.0%	-
年代別												
18-20歳代	29	41.4%	13.8%	31.0%	48.3%	37.9%	17.2%	24.1%	10.3%	-	3.4%	-
30歳代	40	42.5%	12.5%	30.0%	57.5%	25.0%	15.0%	30.0%	30.0%	-	2.5%	-
40歳代	42	47.6%	14.3%	45.2%	42.9%	26.2%	14.3%	21.4%	21.4%	-	2.4%	-
50歳代	45	55.6%	11.1%	46.7%	40.0%	33.3%	13.3%	22.2%	15.6%	-	4.4%	-
60歳代	37	62.2%	21.6%	45.9%	48.6%	18.9%	8.1%	13.5%	10.8%	-	-	-
70歳代	34	58.8%	20.6%	26.5%	32.4%	26.5%	11.8%	20.6%	5.9%	-	-	-
合計	327	56.0%	17.7%	39.8%	30.9%	30.6%	11.6%	20.5%	13.8%	-	4.0%	0.9%
性別												
男性	135	62.2%	17.0%	43.0%	29.6%	27.4%	14.1%	18.5%	11.1%	-	2.2%	0.7%
女性	192	51.6%	18.2%	37.5%	31.8%	32.8%	9.9%	21.9%	15.6%	-	5.2%	1.0%
年代別												
18-20歳代	43	39.5%	11.6%	53.5%	46.5%	20.9%	20.9%	16.3%	11.6%	-	4.7%	-
30歳代	69	53.6%	26.1%	34.8%	49.3%	39.1%	11.6%	23.2%	10.1%	-	2.9%	-
40歳代	76	55.3%	15.8%	34.2%	28.9%	25.0%	11.8%	23.7%	22.4%	-	5.3%	-
50歳代	82	62.2%	22.0%	43.9%	18.3%	35.4%	9.8%	18.3%	12.2%	-	4.9%	1.2%
60歳代	32	65.6%	9.4%	37.5%	25.0%	25.0%	9.4%	9.4%	15.6%	-	-	3.1%
70歳代	25	60.0%	8.0%	36.0%	8.0%	20.0%	4.0%	32.0%	4.0%	-	4.0%	4.0%

(6) 男女間の暴力的行為

①セクシュアル・ハラスメント

「身近な人で被害を受けた人がいる」が増加している一方で「自分が被害を受けたことがある」について大きな変動がない。

被害は抑制されている一方で、各用語に関する社会的認知度や意識が高まっているものと考えられる。

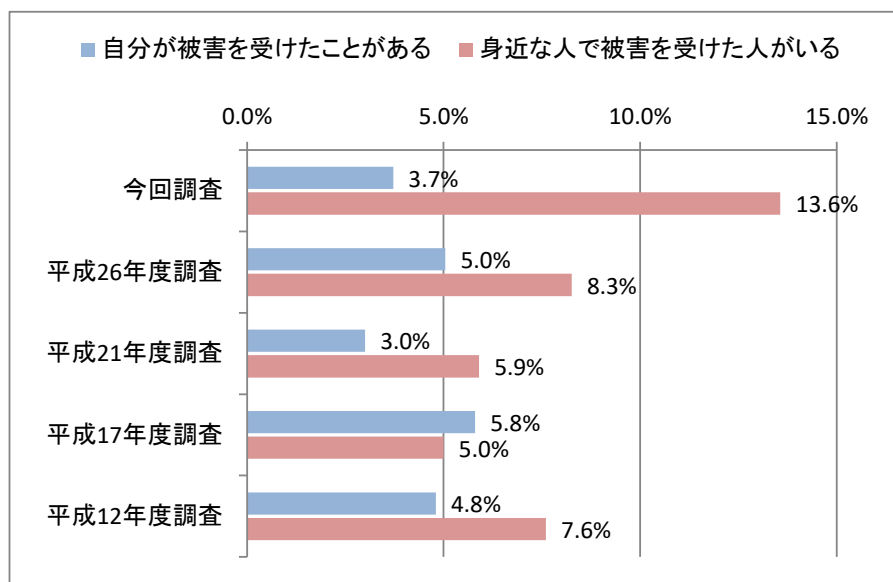


※前回調査の選択肢「自分が経験したことがある」を「自分が被害を受けたことがある」に、「友人や同僚で経験した人がいる」を「身近な人で被害を受けた人がいる」に読み替えている。

②DV（ドメスティック・バイオレンス）

「身近な人で被害を受けた人がいる」が増加している一方で「自分が被害を受けたことがある」について大きな変動がない。

被害は抑制されている一方で、各用語に関する社会的認知度や意識が高まっているものと考えられる。

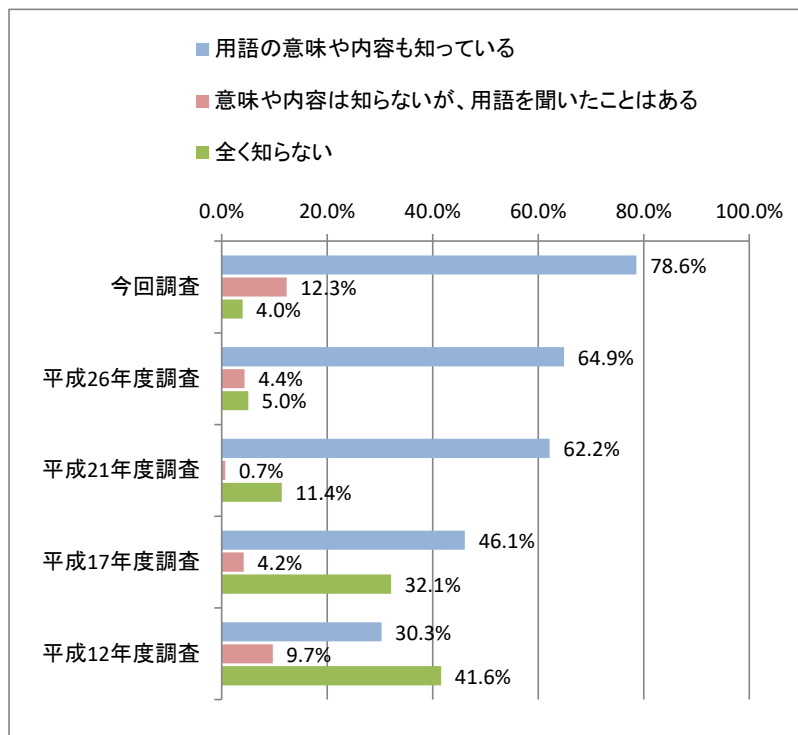


※前回調査の選択肢「自分が経験したことがある」を「自分が被害を受けたことがある」に、「友人や同僚で経験した人がいる」を「身近な人で被害を受けた人がいる」に読み替えている。

(7) 男女共同参画に関する用語の周知度

①DV（ドメスティック・バイオレンス）

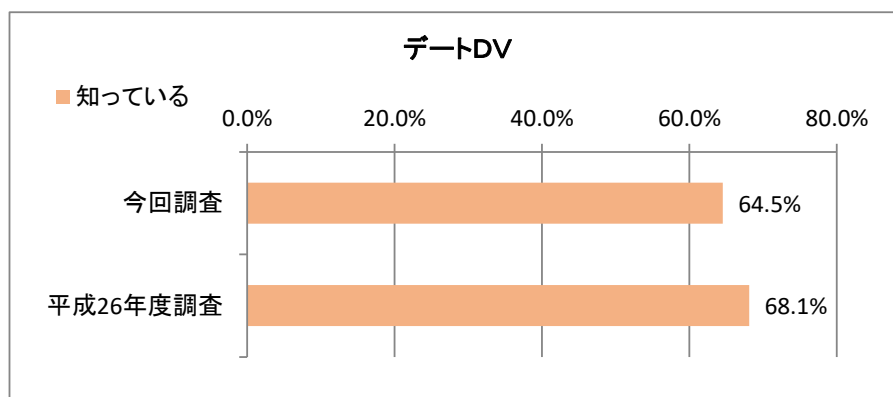
「用語の意味や内容も知っている」の回答割合は、毎回上昇している。



※前回調査の選択肢「一般常識として知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」、「聞いたことがないし、知らない」を、今回調査の選択肢「用語の意味や内容も知っている」、「意味や内容は知らないが、用語は聞いたことはある」、「全く知らない」に、それぞれ読み替えている。

②デートDV

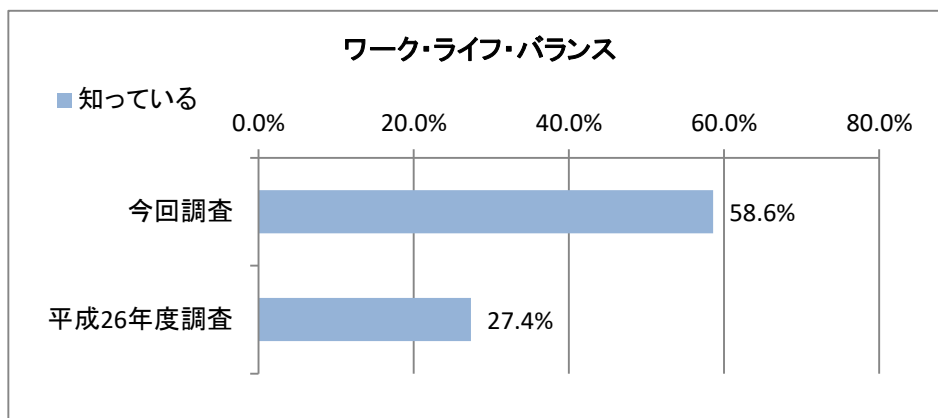
前回調査に対して『知っている』の回答割合は、若干減少している。



※前回調査の選択肢「一般常識として知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」を、今回調査の「用語の意味や内容も知っている」、「意味や内容は知らないが、用語は聞いたことはある」にそれぞれ読み替え、『知っている』として示している。

③ワーク・ライフ・バランス

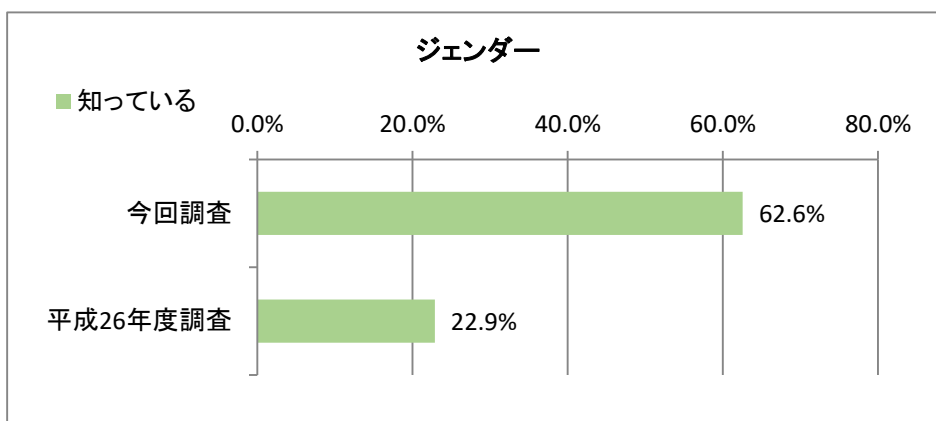
前回調査に対して『知っている』の回答割合は、大きく上昇している。



※前回調査の「あなたが見たり聞いたりしたことがあるもの」に○を付けた割合と、今回調査の「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語は聞いたことはある」を合算した割合を、『知っている』として示している。

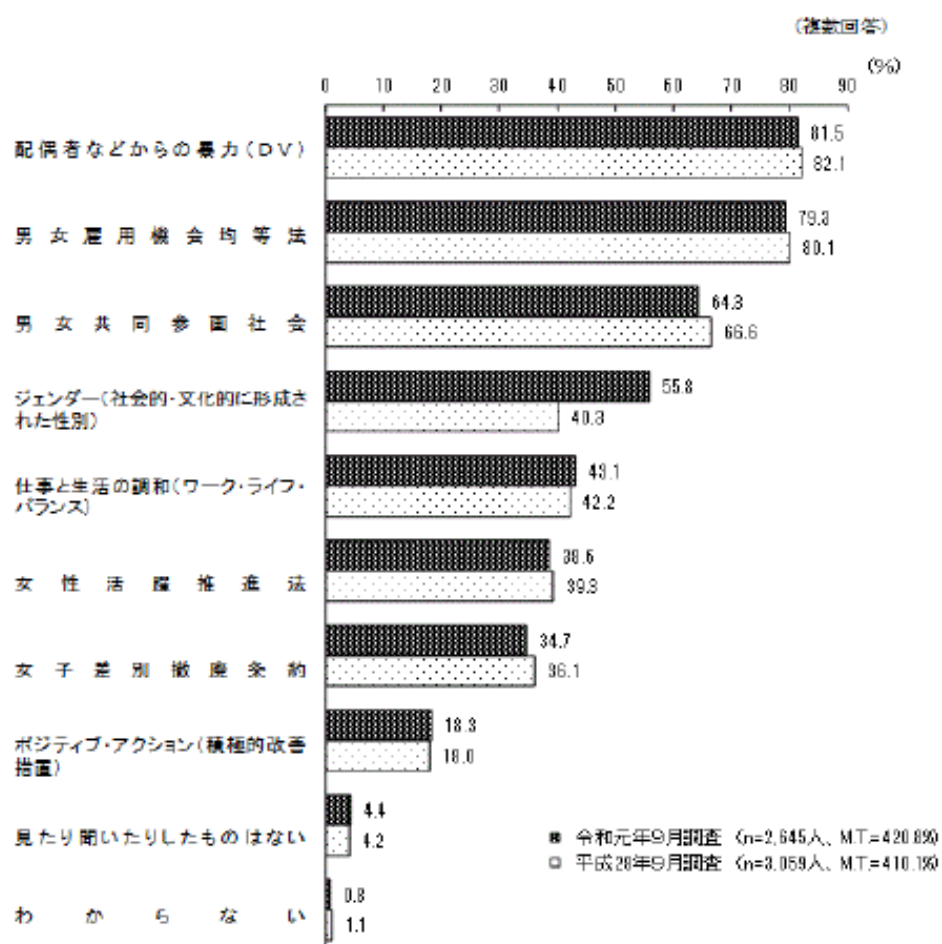
④ジェンダー

前回調査に対して『知っている』の回答割合は、大きく上昇している。



※前回調査の「あなたが見たり聞いたりしたことがあるもの」に○を付けた割合と、今回調査の「用語の意味や内容も知っている」と「意味や内容は知らないが、用語は聞いたことはある」を合算した割合を、『知っている』として示している。

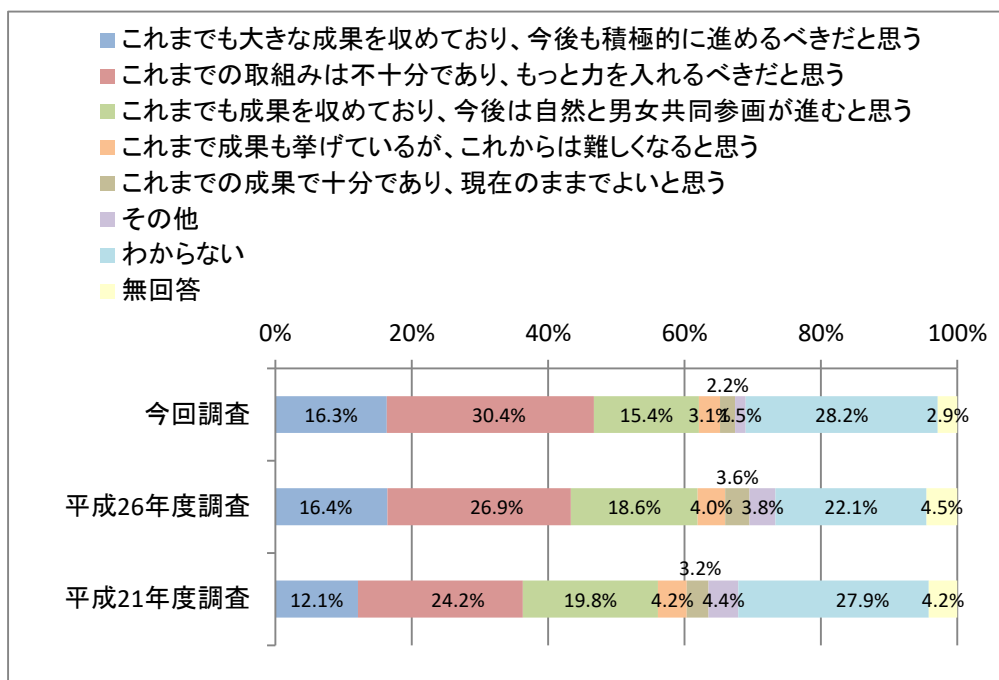
※参考(R1国調査結果より):「男女共同参画に関する用語の周知度」



(8) 男女共同参画社会の推進

前回調査に比べて、各項目、若干の増減はあるが大きな変動はない。

「積極的に進めるべき」、「もっと力を入れるべき」との意見が多く、今後も男女共同参画社会の推進への取り組みが必要であることがうかがえる。



【参考】

※平成17年以前は
選択肢が異なる

- 積極的に進めるべきだと思う
- 次第にそういう社会になっていく
- 日本の場合、なかなかそうはならないのではないかと思う
- 現在のままでよいと思う
- わからない
- 無回答

